Ⅱ．評定尺度調査の分析結果

【評定尺度調査の分析にあたって】

今回用いた評定尺度は、「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」による 4 段階評価である。

本報告書においては、データの理解や分析のしやすさを考慮し、便宜的に 4 段階のカテゴリーに 4～1 の点数を振り、その平均値を算出することによって、データの代表値とした。

ただし評定尺度の各カテゴリーに振られた「数字」を「数値」として加減乗除の演算をすることは、厳密に言えば統計処理として適切でない。

3 が 2 よりもあてはまる程度が大きいことは言えても、4 と 3 の間と 3 と 2 の間が等距離だという保証はどこにもないからである。

しかし、4 つのカテゴリーごとの相対度数（パーセント）から何らかの傾向を掴み取ることは容易ではないため、平均値を回答の傾向を推察する目安の 1 つとして用いたい。

また、ここでの平均値は何らかの単位を持つものではないので、データ同士の相対比較でのみ、その傾向を読み取ることになる。仮にある項目の平均値が、他の項目より低かったとしても、大部分の回答者がその項目に対して肯定的な評価をしていれば、その項目の評価は低いと簡単に断言できるものではないからである。つまり絶対的な評価が把握しにくいと言える。そこで、「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答した対象者の割合を合計して提示した。

これによって、その評価項目に対し肯定的評価をしている学生がいかほどの割合で存在するかを推測する目安とする。

さらに回答者の属性ごとの回答者数について、本来ならば、グラフ等のデータごとに回答者数を示すべきであるが、全てのデータに回答者数を掲載すると極めて煩雑になるため、ここに一括して掲載することにした（次頁表２－１）。

以下、本章においては、常に次頁の回答者数に基づいてデータを見る必要がある。特に回答者数の少ない層ほど誤差が大きくなり、%表記がそぐわないため、いずれも参考値としてグラフに記載しているが、コメントを割愛する事にする。

例えば、大学院では職業別の「看護師等」（2 人）、「他大学生等の学生」（1 人）、「農業等」（0 人）で、年齢階層別では、「20～29 歳」（1 人）、「19 歳以下」（0 人）が挙げられる。

表２－１回答者数一覧

【学部】

全体	4881	（単位：人）	
メディア		年齢階層	
テレビ科目（ＴＶ）	3446	19 歳以下	59
ラジオ科目（Ｒ）	1435	20～29 歳	398
職業		30～39 歳	436
公務員等	372	40～49 歳	919
教員	249	50～59 歳	1440
会社員	1148	60～69 歳	1069
個人営業・自営業	357	70 歳以上	560
農業等	19	コース	
看護師等	444	基盤科目(一般科目)	931
家事専業	311	基盤科目(外国語)	171
パート・アルバイト	706	生活と福祉	1290
他大学等の学生	35	心理と教育	816
無職	912	社会と産業	518
その他	328	人間と文化	633
		情報	233
		自然と環境	175
		夏季集中科目	114

【大学院】

全体	90	（単位：人）	
メディア		年齢階層	
テレビ科目（ＴＶ）	0	19 歳以下	0
ラジオ科目（Ｒ）	90	20～29 歳	1
職業		30～39 歳	7
公務員等	15	40～49 歳	21
教員	12	50～59 歳	30
会社員	17	60～69 歳	29
個人営業・自営業	5	70 歳以上	2
農業等	0	プログラム	
看護師等	2	臨床心理学	72
家事専業	3	情報学	18
パート・アルバイト	15		
他大学等の学生	1		
無職	11		
その他	9		

Ⅱ－ 1．学部の分析結果

Ⅱ－1－1．項目平均から見た全体的傾向

ここからは、B-1～B-21 の評価項目（14～15 頁の提供資料サンプルを参照）ごとに、平均値と肯定的評価のグラフを基に、そのデータから目立つ点や、特徴的傾向を記述していくことにする。

平均値は、評価項目の選択肢である「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」に対して順に 4 点、3 点、2 点、1 点の得点を与え、その得点合計を回答者数で割った値である。全員が「あてはまる」とした場合、平均値は 4.00 で最も高くなり、全員が「あてはまらない」とすると最低の 1.00 となる。

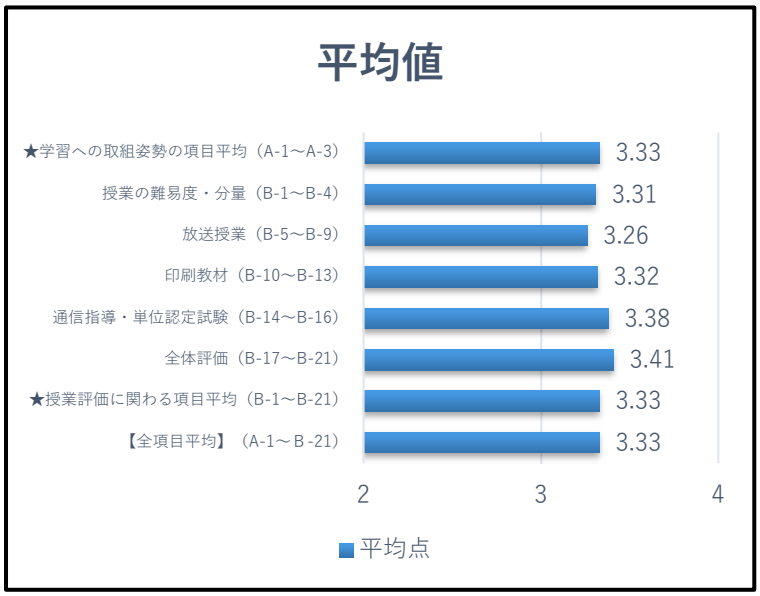
また、肯定的評価は文字通り「あてはまる」と「ややあてはまる」の比率の合計である。平均値より肯定的な評価の方が（例えば回答者の 80%と）イメージしやすく、平均値と肯定的評価に齟齬が出た場合、どちらを採るか合理的な判断ができないので、記述については肯定的評価を用いて、平均値は参考値として扱っていきたい。

また、過去 2 年間との年度間の比較（24 頁等）の箇所は、比率の差の検定結果から、全体の回答者数(2023 年度:4,881 人、2022 年度:6,275 人、2021 年度:7,783 人)が多いため、各比率の差が概ね 2 ポイントで有意となり、2 ポイント以上で差があることとした。

テレビ科目とラジオ科目のメディア間の比較では、同検定結果から概ね 2 ポイントで有意差が見られるため、年度間比較と同様 2 ポイント以上で差があることとした。

図２－１の肯定的評価では各項目とも 80%台で、『通信指導・単位認定試験』『全体評価（B-17～B-21）』が 89%と最も高く、逆に『放送授業』（83%）が最も低い評価であった。

図２－１【学部】項目平均による全体的傾向



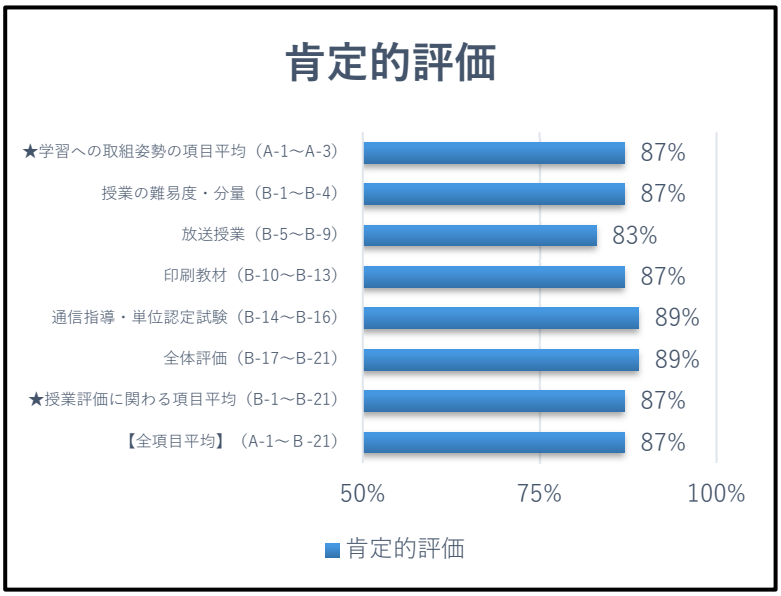
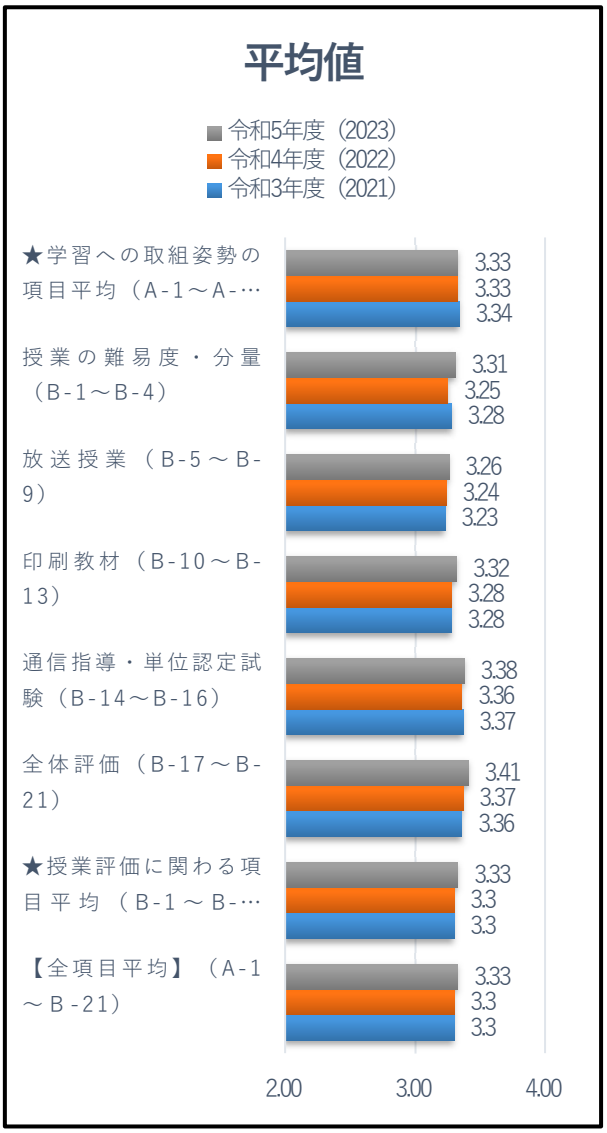
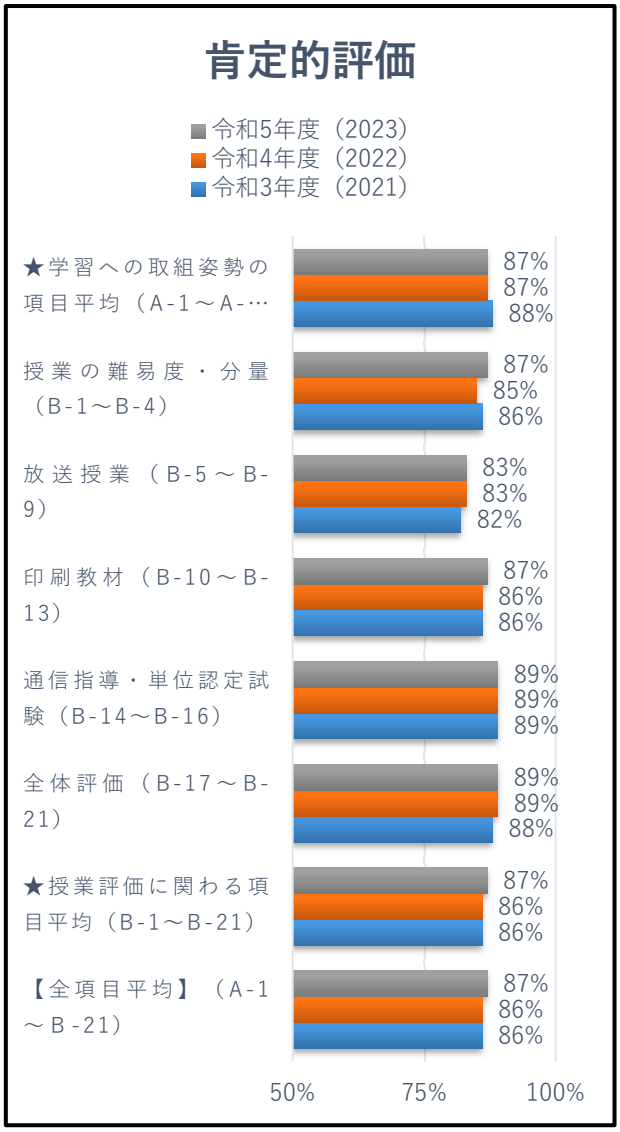


図２−２の項目平均による全体的傾向では、肯定的評価が本年度は、昨年度より全項目で横ばいか、1〜2 ポイント増となっていた。

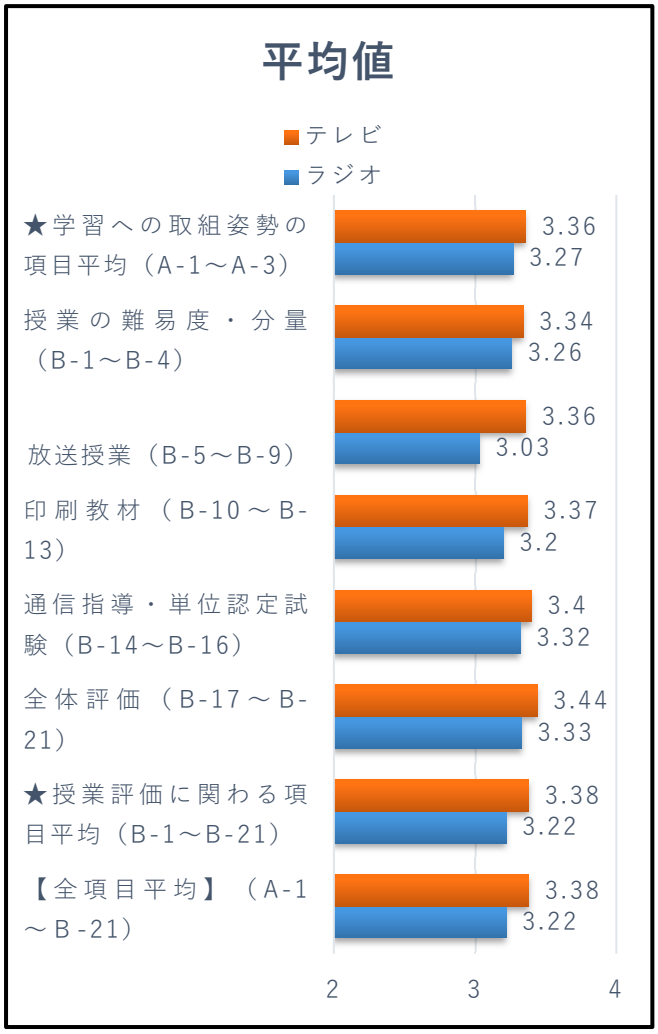
図２－２【学部】項目平均による全体的傾向（開設年度比較）

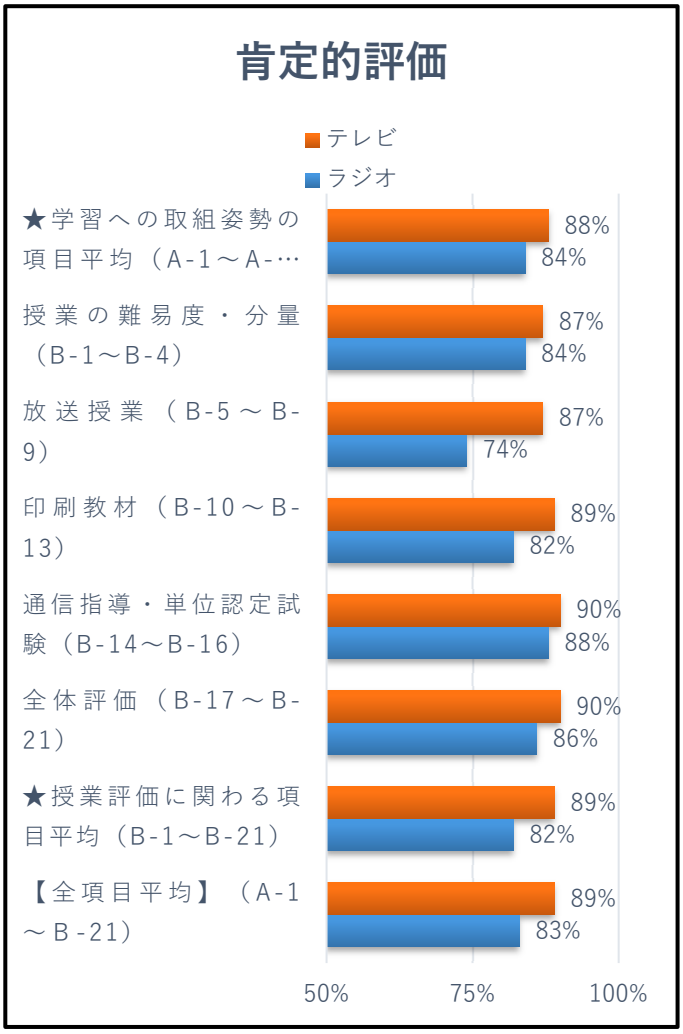




メディア別では（図２−３）、テレビ科目とラジオ科目のメディア間では、いずれの項目もテレビの方が 2〜13 ポイント高くなっていた。（特に『放送授業』の差が大きい）

図２－３【学部】項目平均によるメディア別全体的傾向

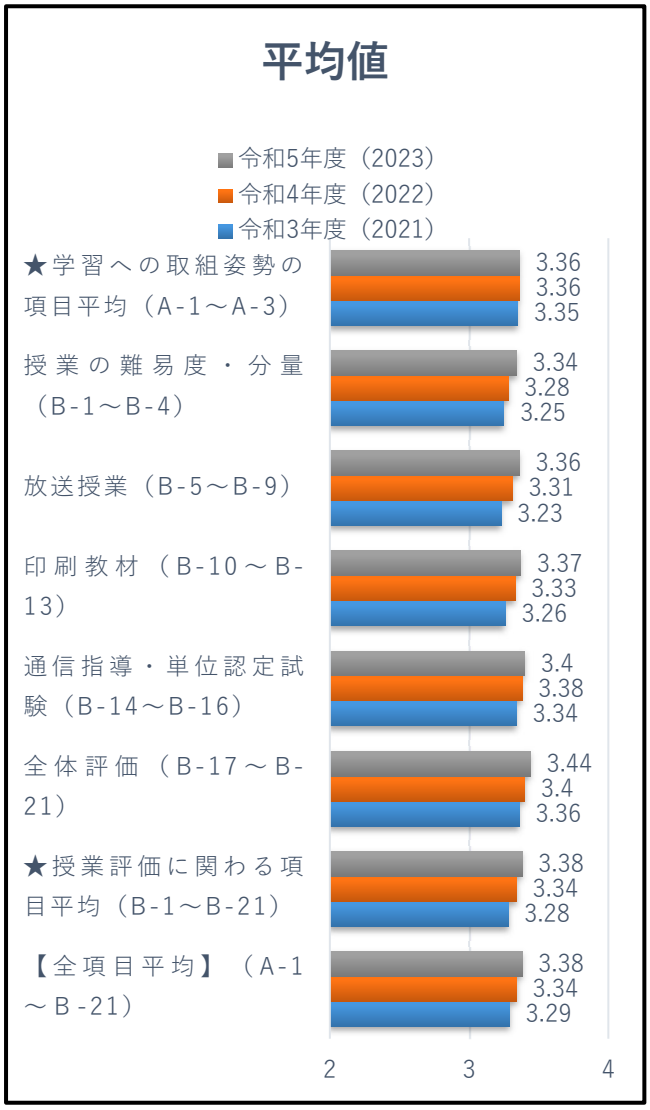


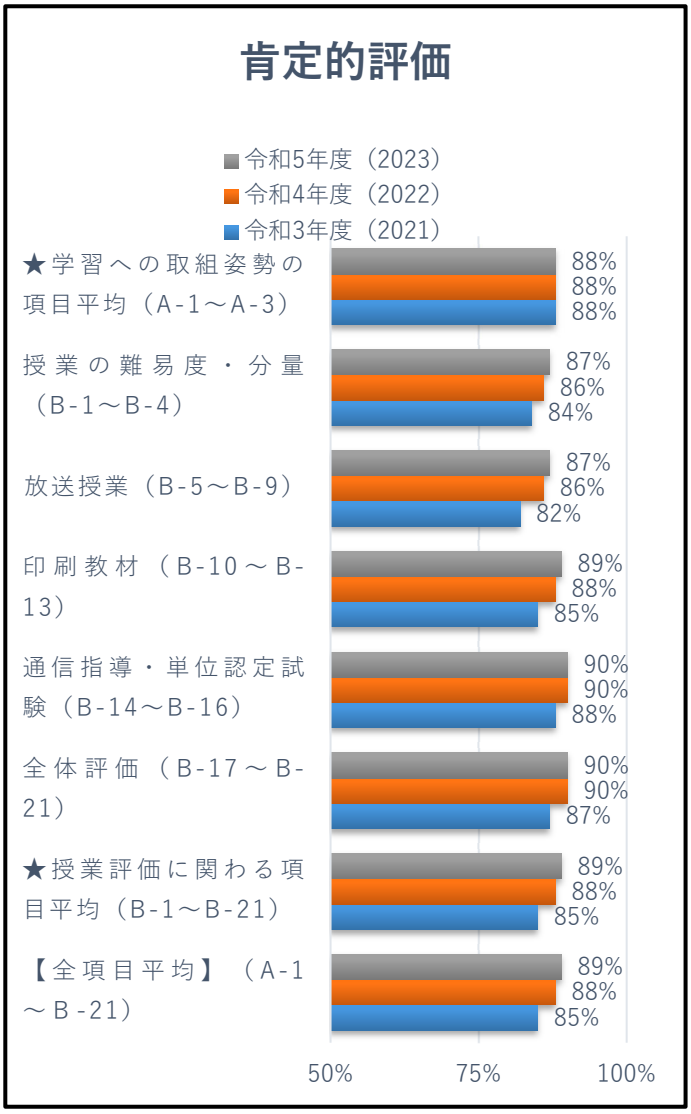


メディア別の項目平均を時系列で比較して見ると（図２－４）、テレビ科目では、本年度は昨年度より、「学習への取組姿勢の項目平均」「通信指導・単位認定試験」「全体評価」は、横ばいであったが、その他の項目では評価が上昇していた。

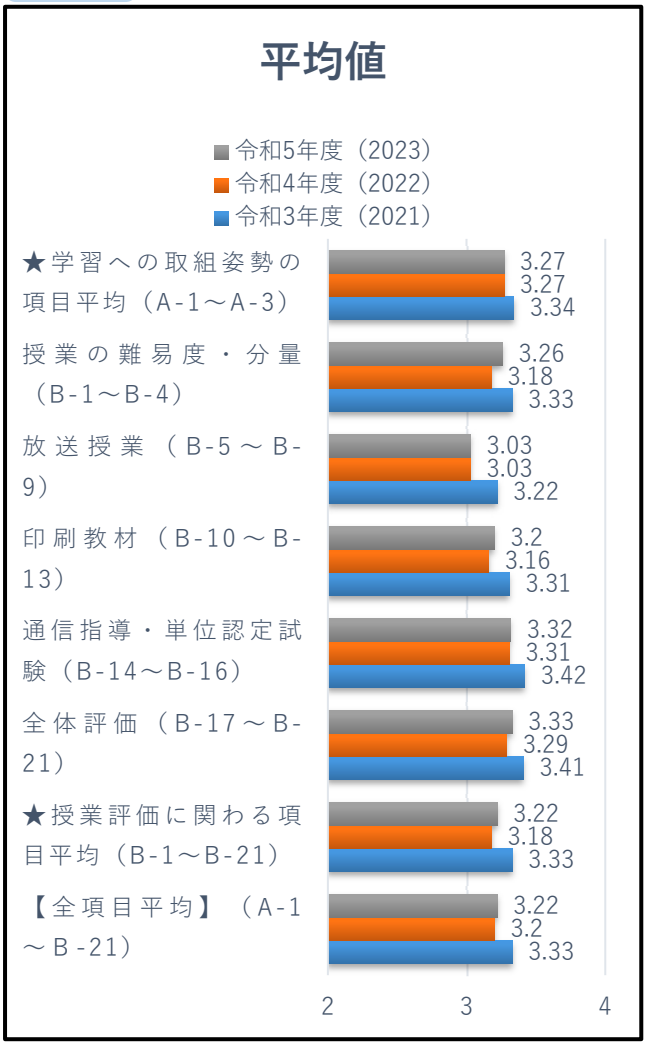
一方、ラジオ科目では、「学習への取組姿勢の項目平均」「全体評価」「授業評価に関わる項目平均」は横ばいで、「授業の難易度・分量」「印刷教材」「通信指導・単位認定試験」は評価が上昇した。

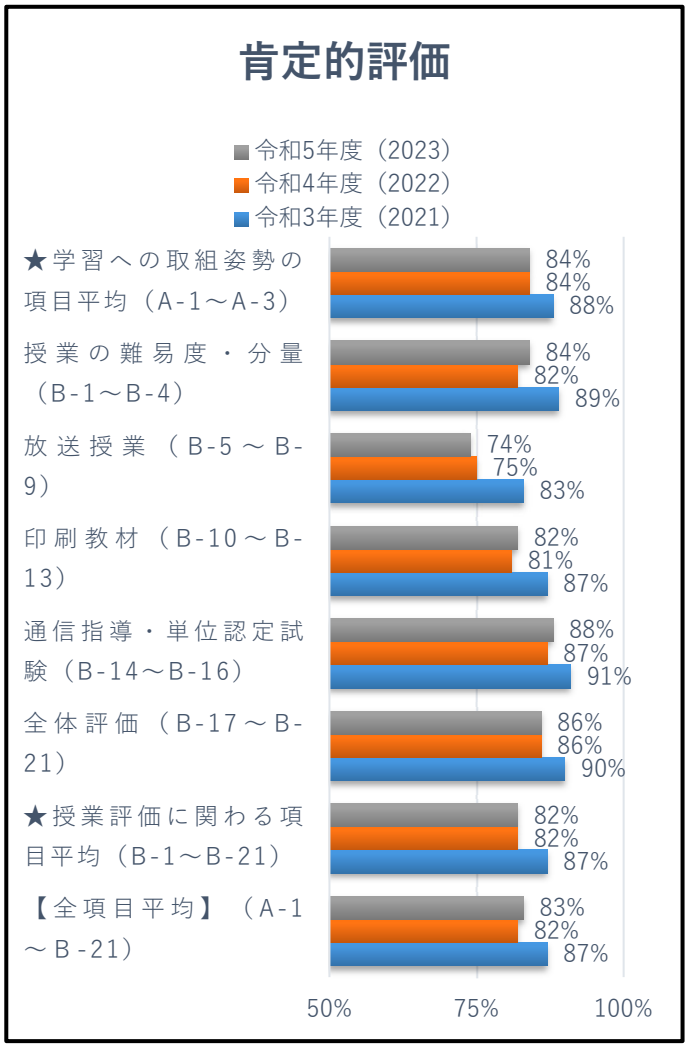
テレビ　図２－４





ラジオ

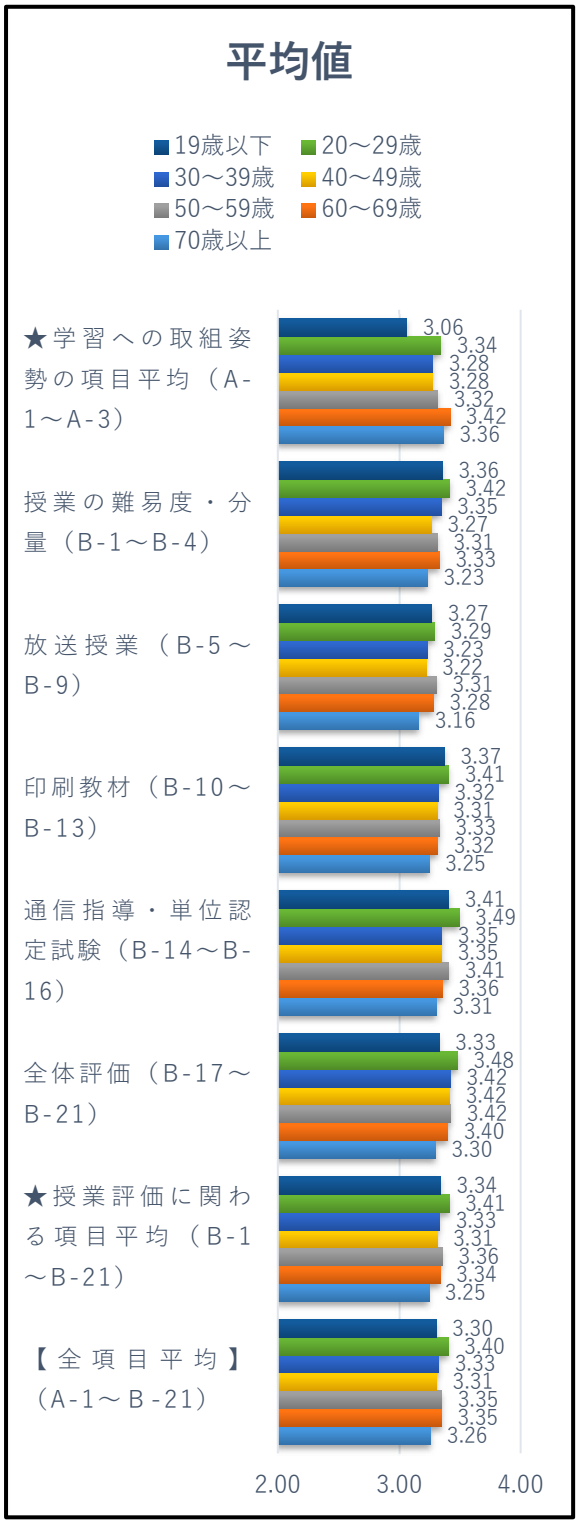

平均値
令和5年度（2023）
令和4年度（2022）
令和3年度（2021）
★学習への取組姿勢の項目平均（A-1～A-3）
3.27
3.27
3.34
授業の難易度・分量（B-1～B-4）
3.26
3.18
3.33
放送授業（B-5～B-9）
3.03
3.03
3.22
印刷教材（B-10～B-13）
3.2
3.16
3.31
通信指導・単位認定試験（B-14～B-16）
3.32
3.31
3.42
全体評価（B-17～B-21）
3.33
3.29
3.41
★授業評価に関わる項目平均（B-1～B-21）
3.22
3.18
3.33
【全項目平均】（A-1～B-21）
3.22
3.2
3.33
2
3
4

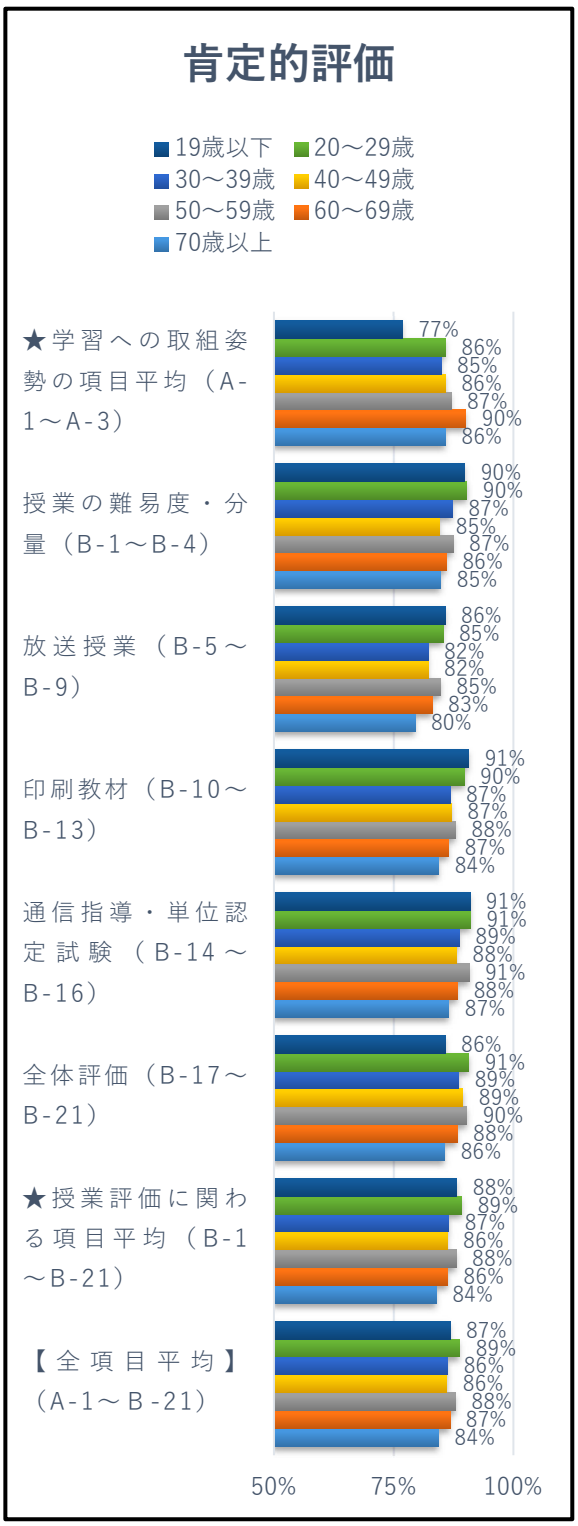

肯定的評価
令和5年度（2023）
令和4年度（2022）
令和3年度（2021）
★学習への取組姿勢の項目平均（A-1～A-3）
84%
84%
88%
授業の難易度・分量（B-1～B-4）
84%
82%
89%
放送授業（B-5～B-9）
74%
75%
83%
印刷教材（B-10～B-13）
82%
81%
87%
通信指導・単位認定試験（B-14～B-16）
88%
87%
91%
全体評価（B-17～B-21）
86%
86%
90%
★授業評価に関わる項目平均（B-1～B-21）
82%
82%
87%
【全項目平均】（A-1～B-21）
83%
82%
87%
50%
75%
100%

年齢階層別（図２－５）では、全般的に評価が低かったのは 70 歳代で、特に『放送授業』の評価が 80%と低かった。

一方、19 歳以下は、『学習への取組姿勢の項目平均』を除き、他の項目の肯定評価が高くなっていた。『授業の難度・分量』『通信指導・単位認定試験』は 20 歳代も評価が高かった。

図２－５【学部】項目平均による年齢階層別全体的傾向



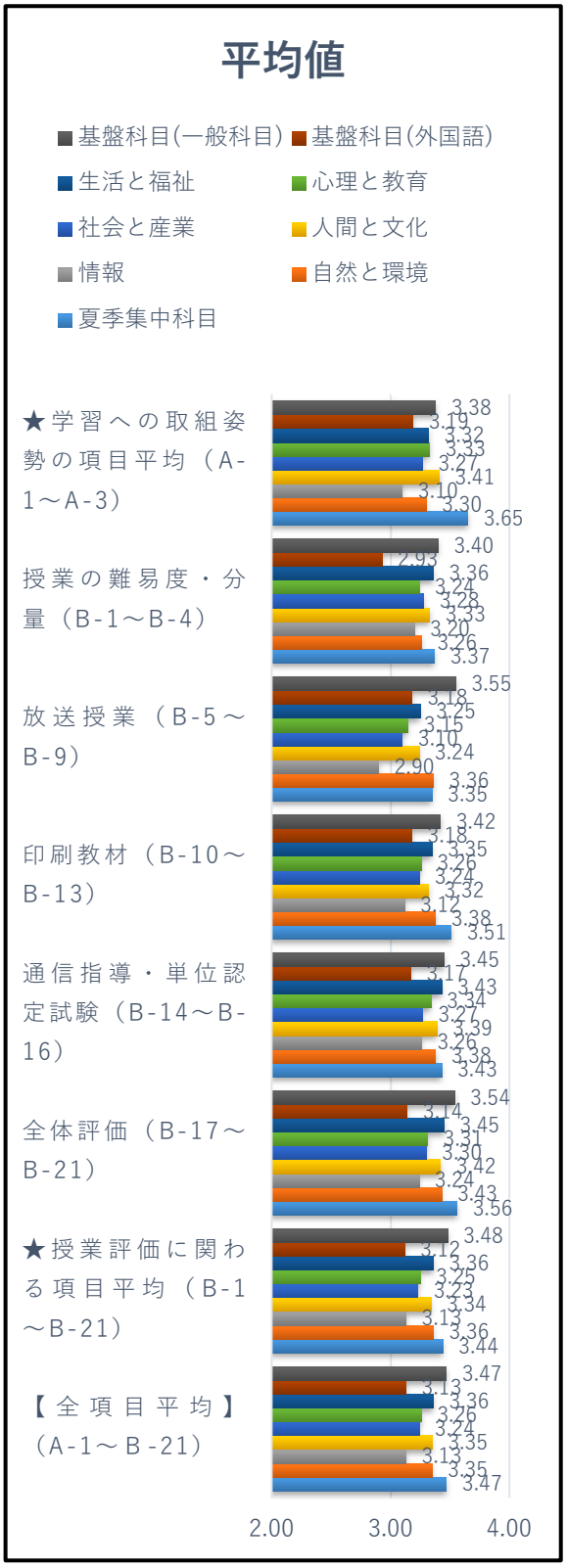


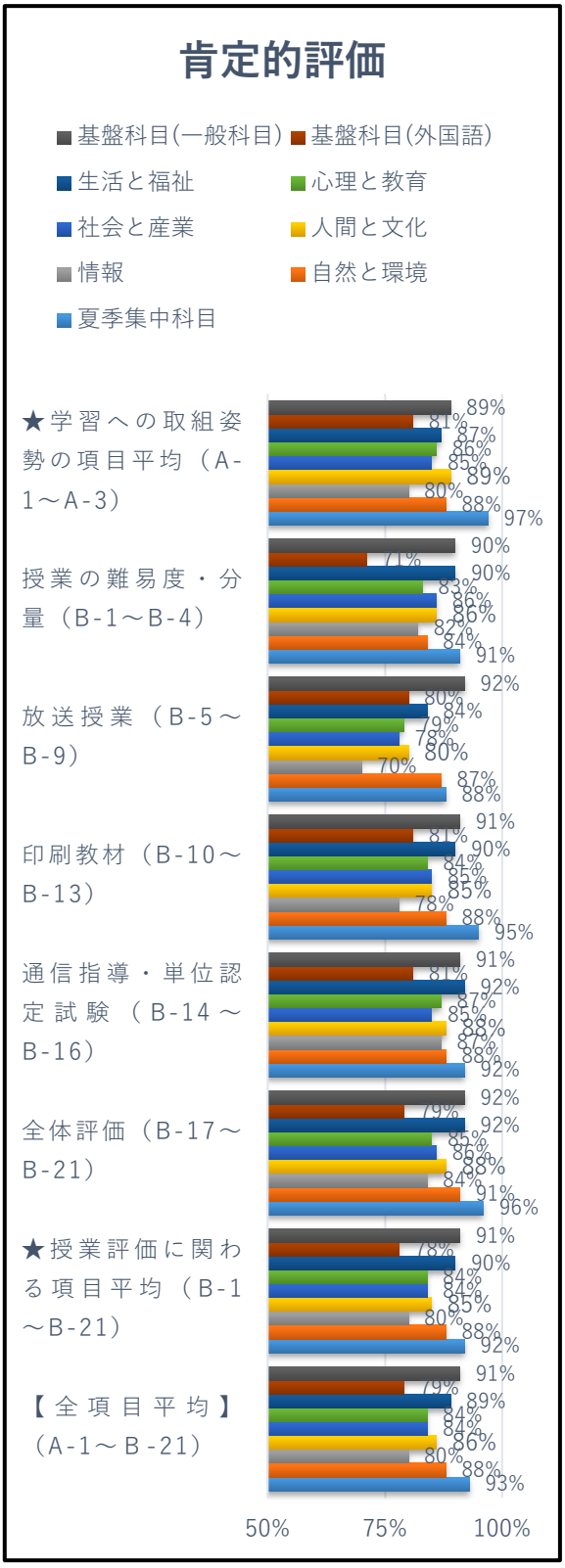
所属コース別に項目平均を見ると（図２−６）、『放送授業』以外の項目で「夏季集中科目」の肯定評価が最も高かった。

逆に「基盤科目（外国語）」については、他の所属コースより肯定的評価が低く、最も評価の低い『授業の難易度・分量』は 71%と他の所属コースに比べ大きな差が見られた。

その結果、『授業評価に関わる項目平均』と『全項目平均』において、「夏季集中科目」の肯定的評価が最も高く、「基盤科目（外国語）」が最も低かった。

図２－６【学部】項目平均による所属コース別全体的傾向



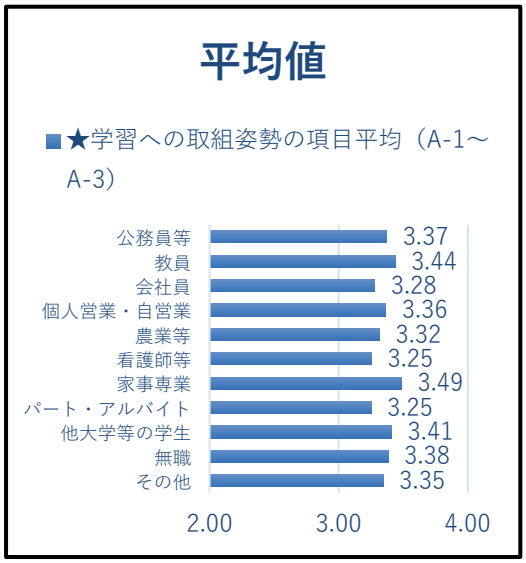


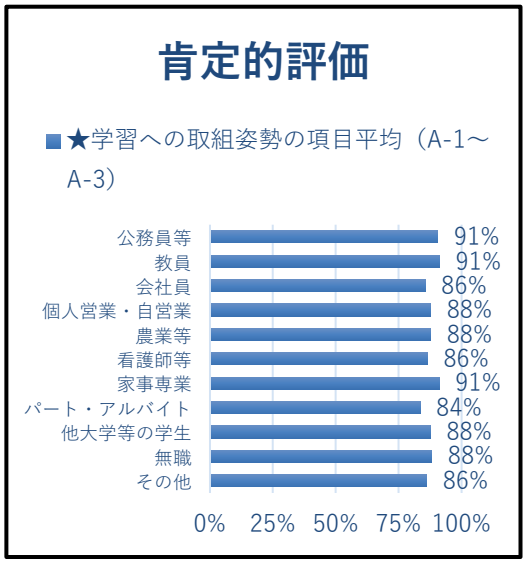
職業別の（図２－７）肯定的評価は「教員」と「家事専業」において、全ての項目で上位 1～2 位の高評価であった。

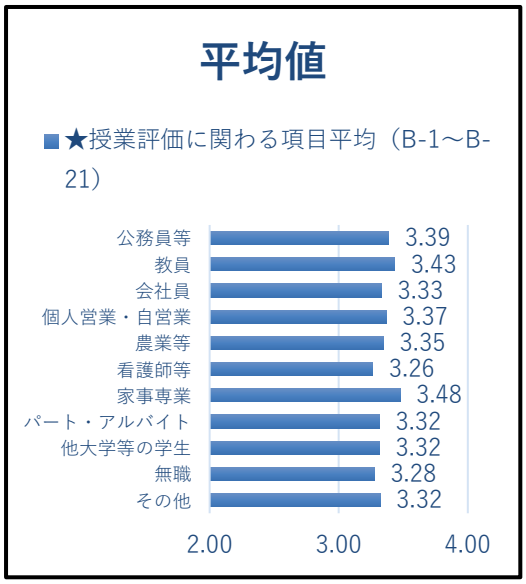
反対に、『授業評価に関わる項目平均』では、「無職」が、『全項目平均』では、「無職」「その他」が最も低い評価であった。

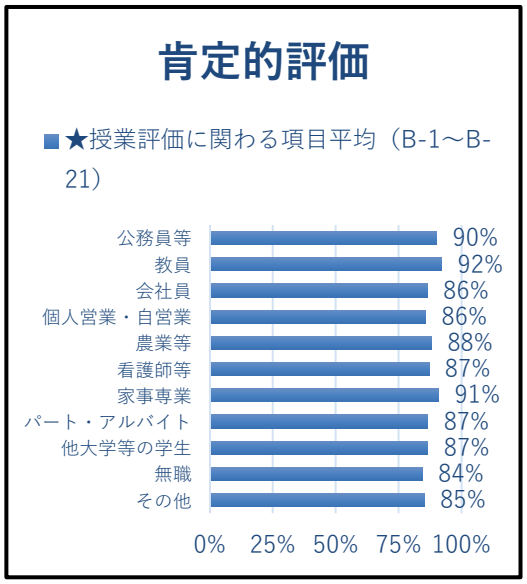
他に『学習への取組姿勢の項目平均』では「パート・アルバイト」が、84％と低くなっていた。

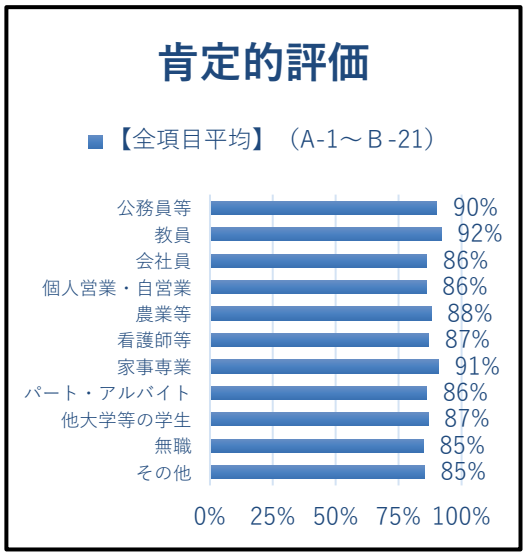
図２－７【学部】項目平均による職業別全体的傾向











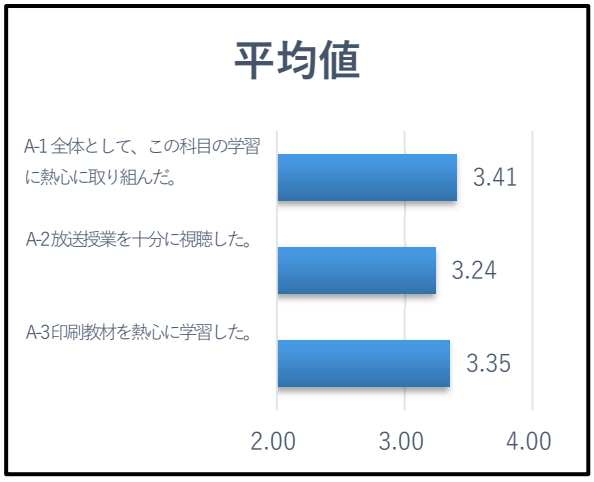
Ⅱ－1－2．学習への取組み姿勢

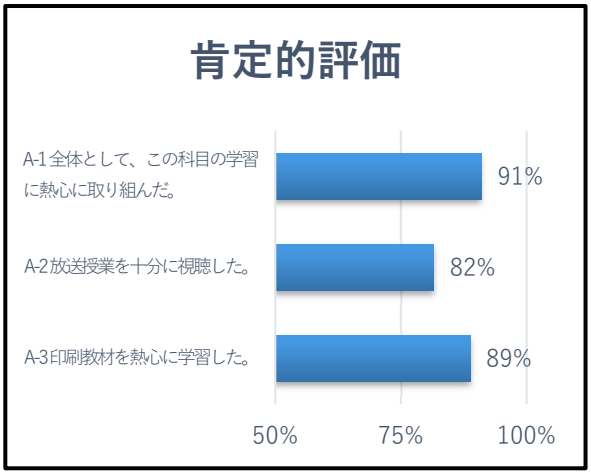
ここからはそれぞれの評価項目ごとに調査結果を見ていく。

全回答者の学習への取組み姿勢（図２－８）は、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」が 91%と、その熱心度は高かった。

（A-2）「放送授業を十分に視聴した」は 82%と、他の 2 項目に比べ低く、印刷教材での学習のウエイトの方が高かった。

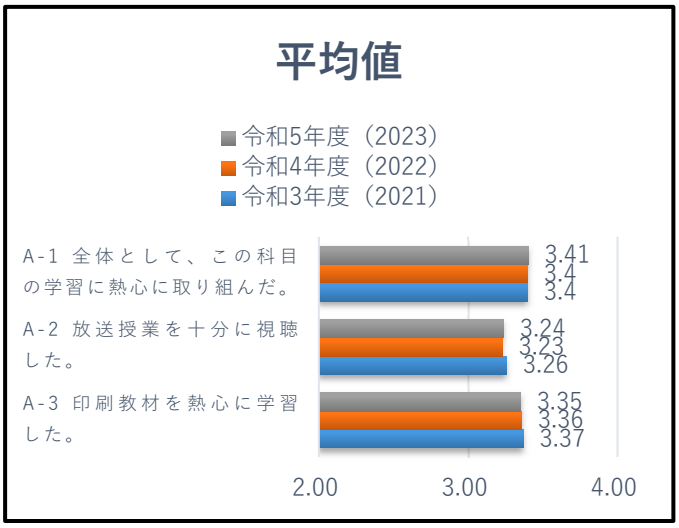
図２－８【学部】回答者全体の取組姿勢

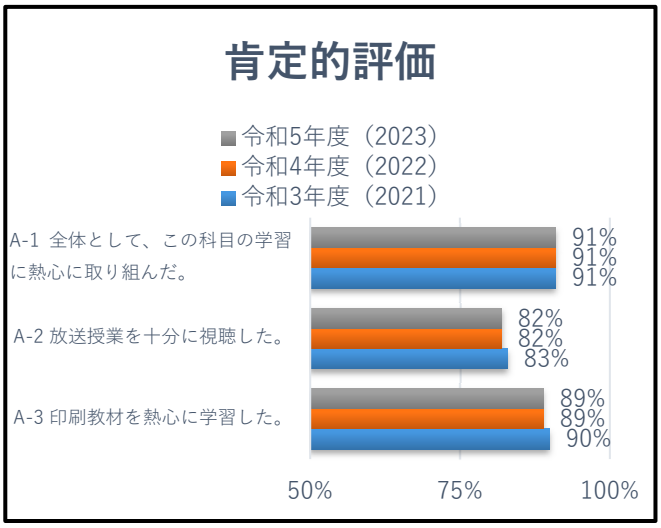




取組姿勢を時系列で見ると（図２－９）、全ての項目で本年度の結果が、大きな差ではないものの、昨年度、一昨年度と同水準か下回っていた。

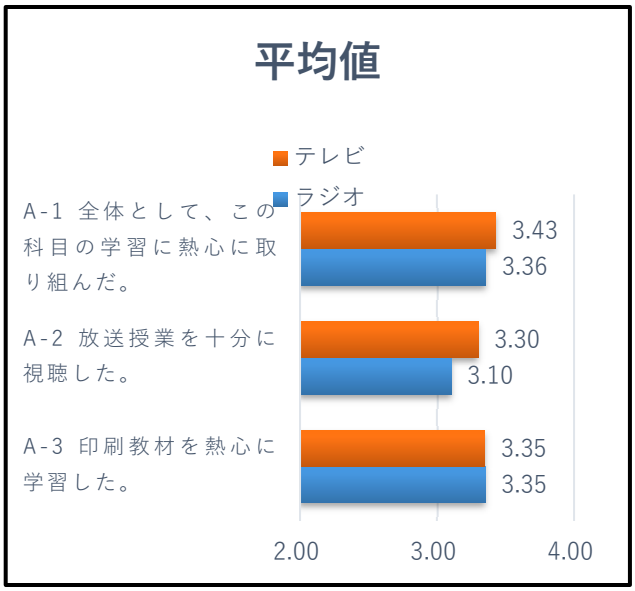
図２－９【学部】回答者全体の取組姿勢（時系列）

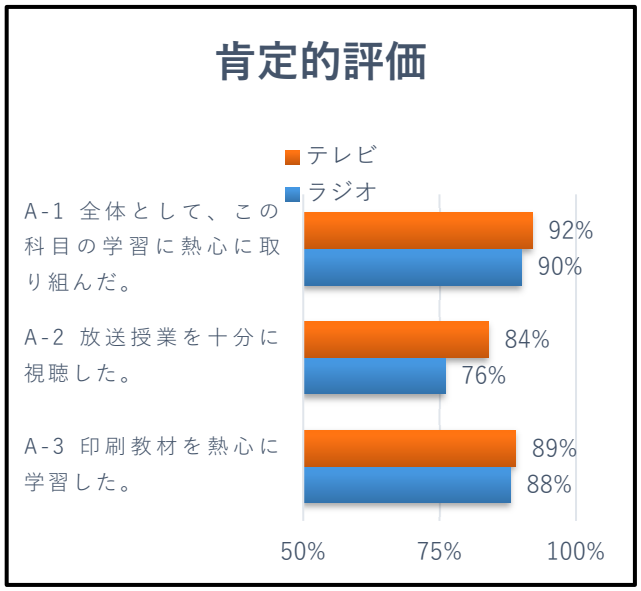




次にメディア別の取組姿勢では（図２−１０）、テレビ科目とラジオ科目を比べると各項目ともにテレビ科目の評価が高かった。

図２－１０【学部】メディア別の取組姿勢



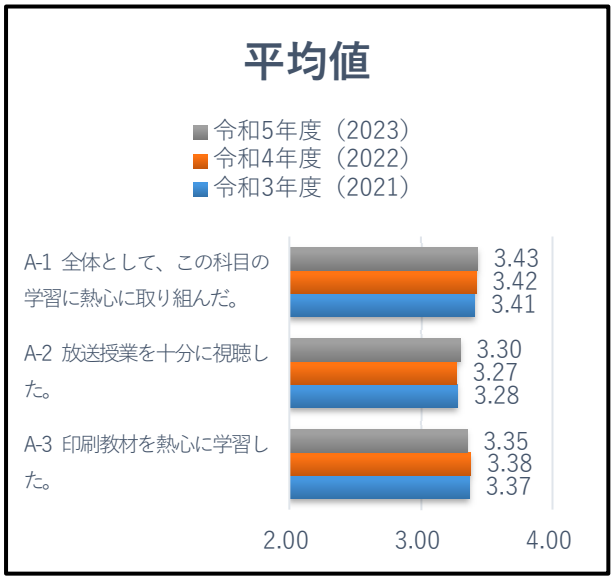


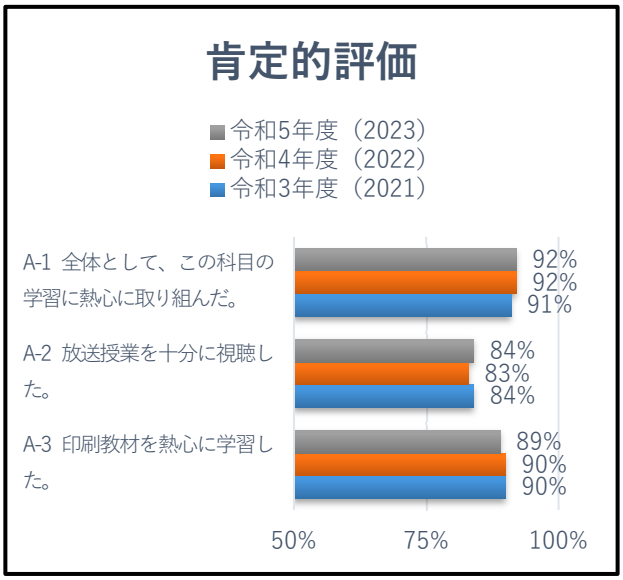
メディア別の取組姿勢を時系列で見ると（図２−１１）、テレビ科目は、昨年度と比べ３項目とも１ポイント前後の増減となっており、大きな変化は見られなかった。

ラジオ科目については、昨年度と比べ３項目とも評価が同水準となっており、テレビ科目と同様に大きな変化は見られなかった。

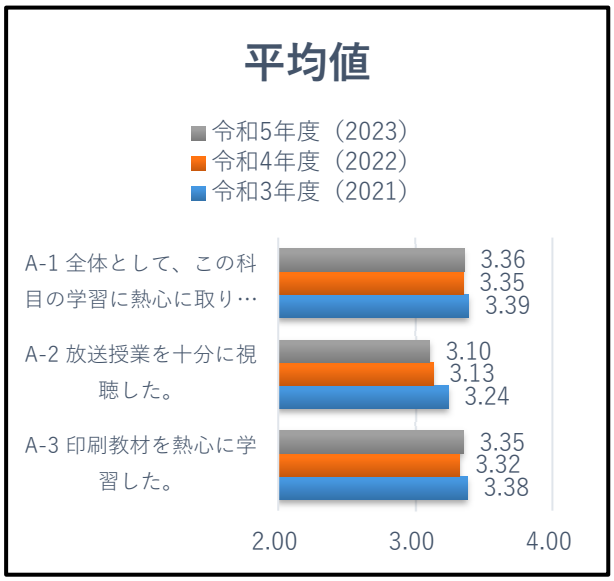
図２－１１【学部】メディア別の取組姿勢（時系列）

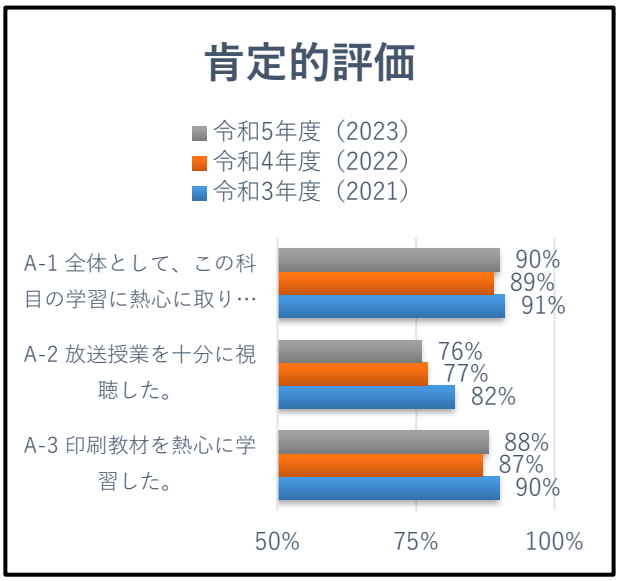
テレビ





ラジオ



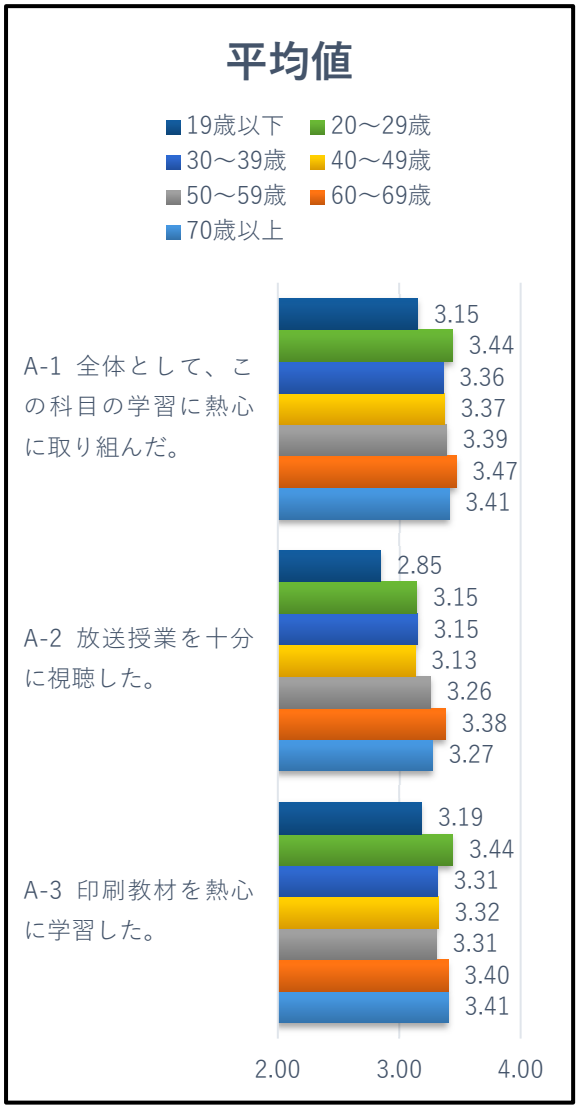


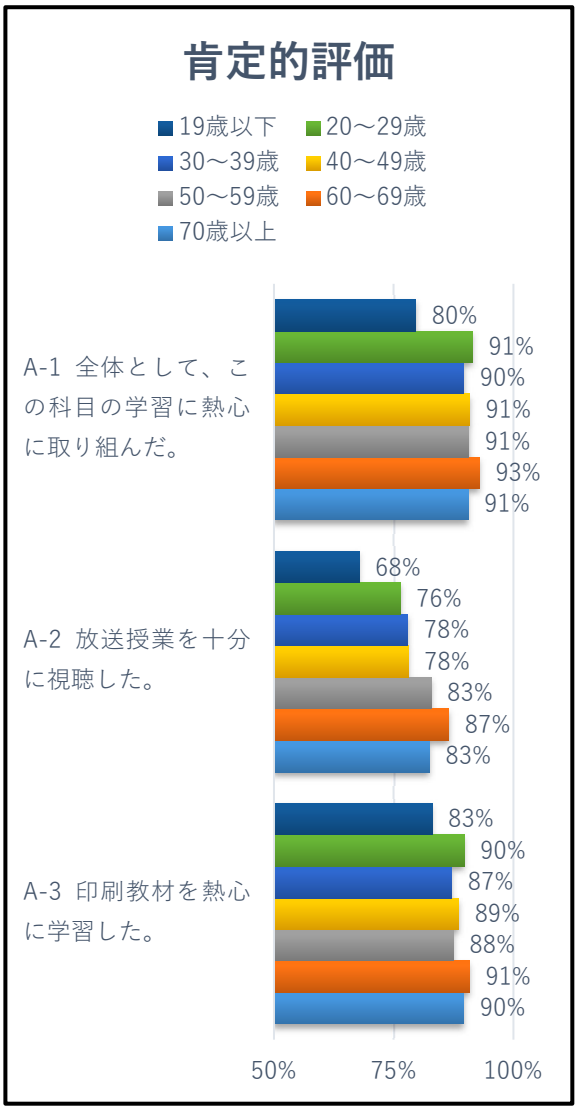
年齢階層別に取組姿勢を見ると（図２－１２）、(A-1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ」は、20 歳代～70 歳以上では 90～93%で、19 歳以下が 80%と突出して低かった。

(A-2)「放送授業を十分に視聴した」については 60 歳代が 87%と高い一方、19 歳以下が 7 割を下回っていた。

(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」についても、19 歳以下が 83%と最も低かった。

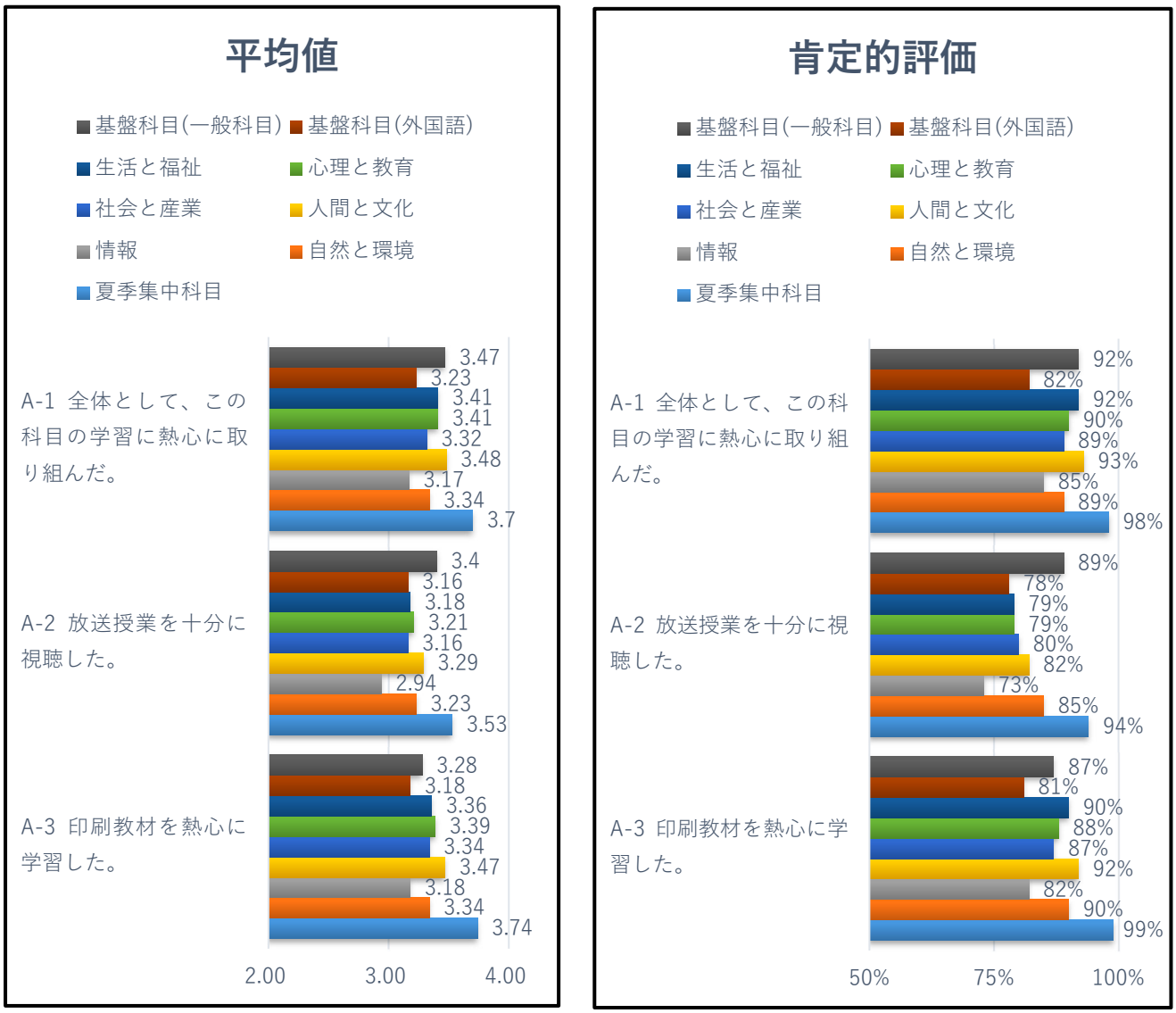
図２－１２【学部】年齢階層別の取組姿勢





所属コース別に取組姿勢を見ると（図２－１３）、全ての項目で「夏季集中科目」が最も高く、特に（A-1）「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ」は 98%、（A-3）「印刷教材を熱心に学習した」は、その受講生の 99%以上が積極的に取り組んでいた。

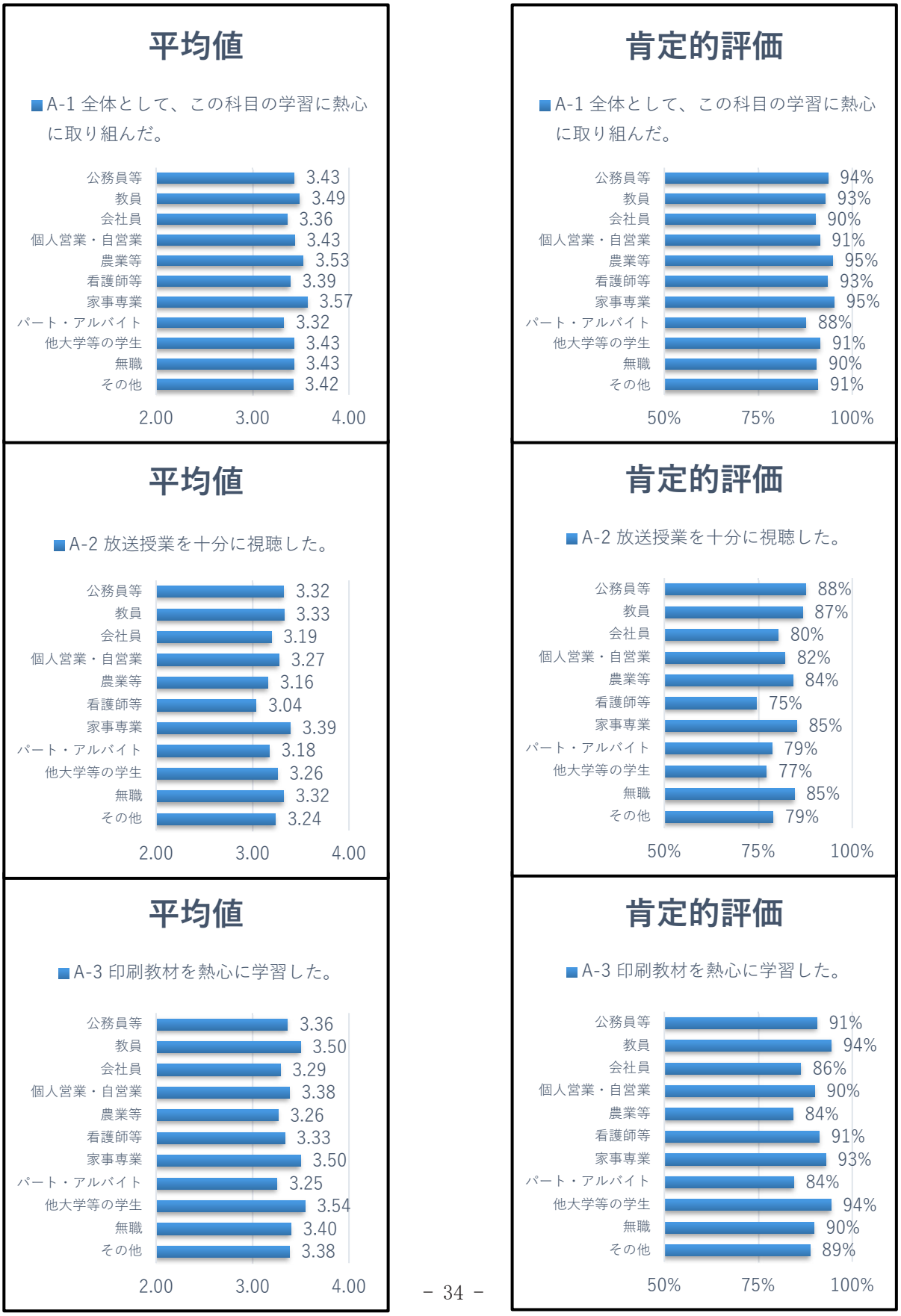
図２－１３【学部】所属コース別の取組姿勢



職業別に取組姿勢を見ると（図２－１４）、(A-1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ」は「農業等」「家事専業」（95%）が他の職業と比べ、その度合いが高かった。

（A-2)「放送授業を十分に視聴した」については「看護師等」は 75%と低かったが、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」では「教員」「他大学等の学生」（94%）は最も高かった。

図２－１４【学部】職業別の取組姿勢



単位認定のための学習方法（次頁図２－１５）では、全体は『放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ』が 69%と多く、『ほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ』が 23%、『ほとんど放送教材の学習だけで臨んだ』は 8%にしか過ぎず、「印刷教材の学習」で見ると、その利用は 92%であった。

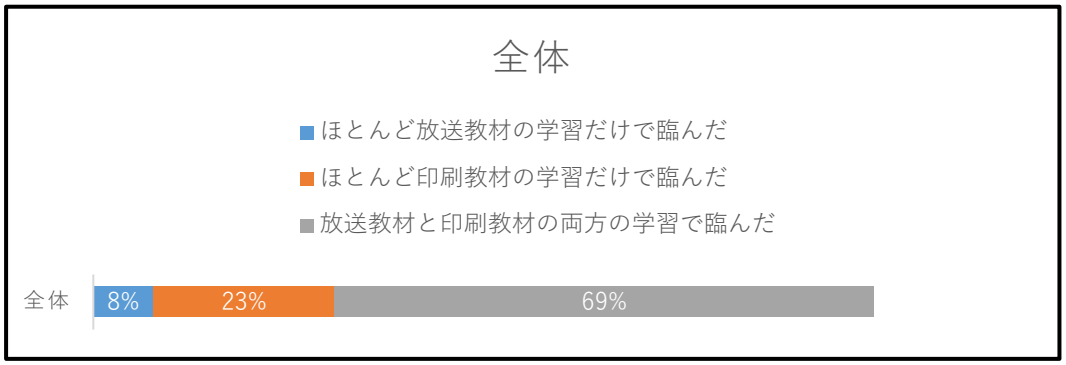
メディア別では「テレビ科目」は『放送教材と印刷教材の両方』が「ラジオ科目」より多く、「ラジオ科目」は『ほとんど印刷教材の学習だけ』が「テレビ科目」より多かった。

年齢階層別では、『ほとんど印刷教材の学習だけ』は、20 歳代が 35%で、19 歳以下が 29%、60 歳代が 14%と最も少なかった。

所属コース別では「夏季集中科目」は、『放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ』が他の所属コースと比べ特に高く、85%であった。

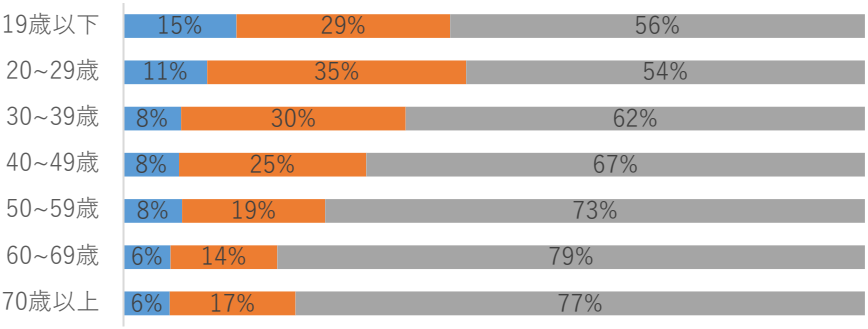
職業別では、「他大学等の学生」については、『ほとんど印刷教材の学習だけ』が 31%で高かった。

図２－１５【学部】単位認定のための学習方法

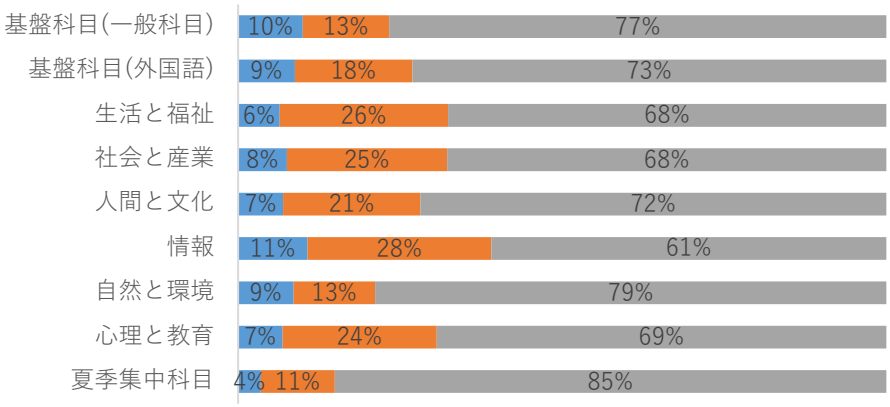


メディア

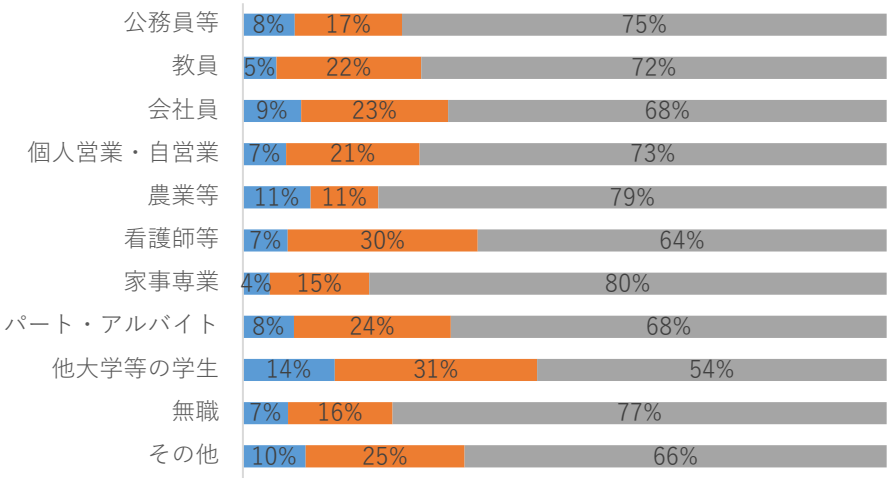
年齢



コース



職業



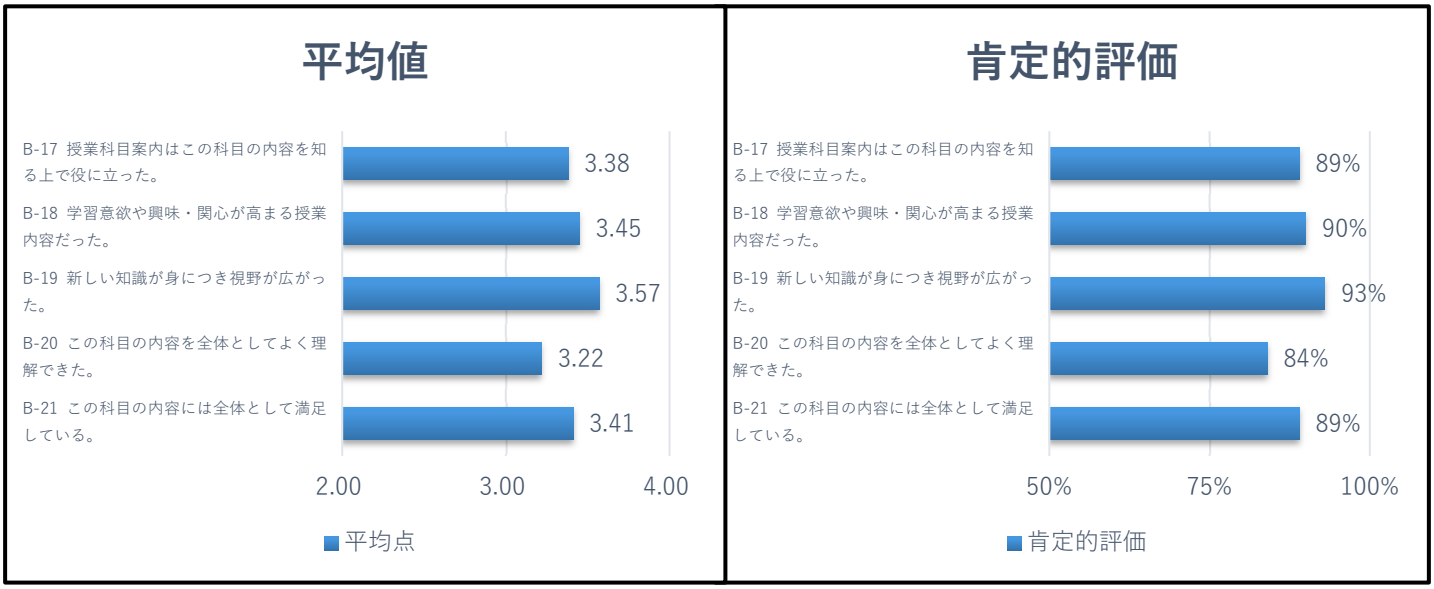
Ⅱ－1－3．学部の授業評価

（1）全体評価

次に学部の授業評価について、評価項目ごとに見ていく。

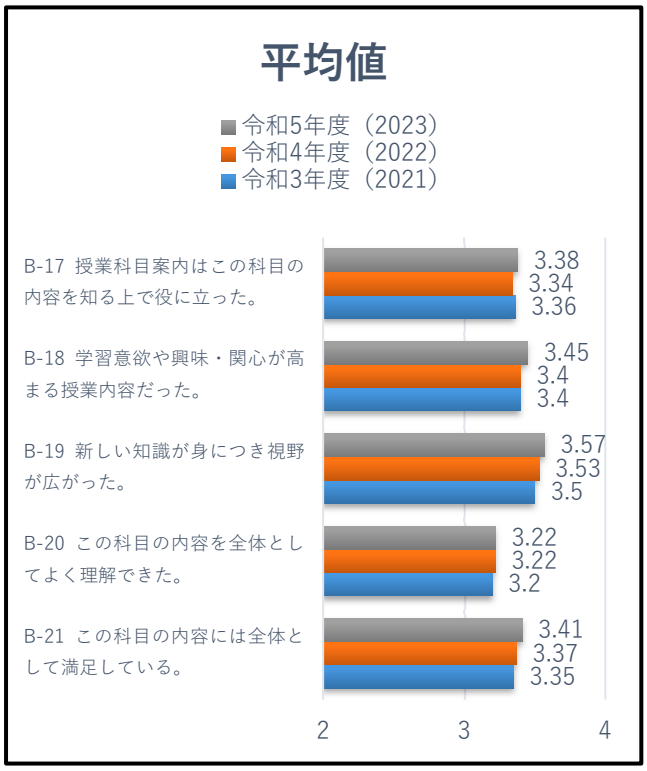
全体評価の各項目（図２－１６）については、(B-19)「新しい知識が身につき視野が広がった」が 93%と最も高かった。

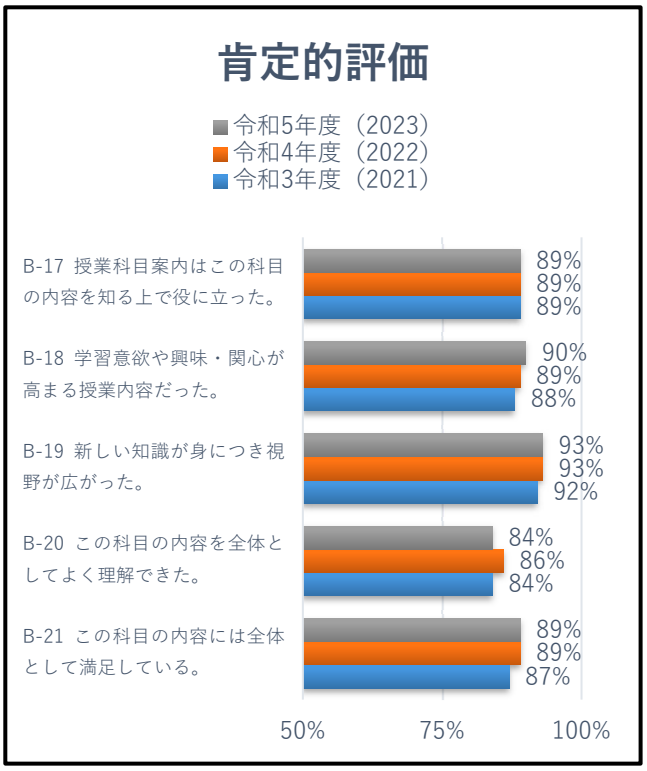
図２－１６【学部】回答者全体の全体評価



全体評価を時系列で見ると（図２－１７）、本年度は(B-20)以外の項目で、昨年度より横ばいないし評価が上昇しており、中でも(B-19)「新しい知識が身につき視野が広がった」は最も高く 93%に達していた。

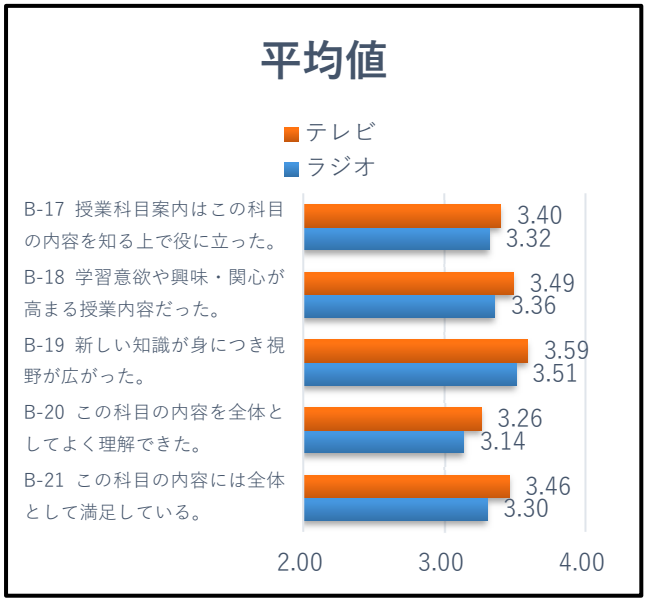
図２－１７【学部】回答者全体の全体評価（時系列）

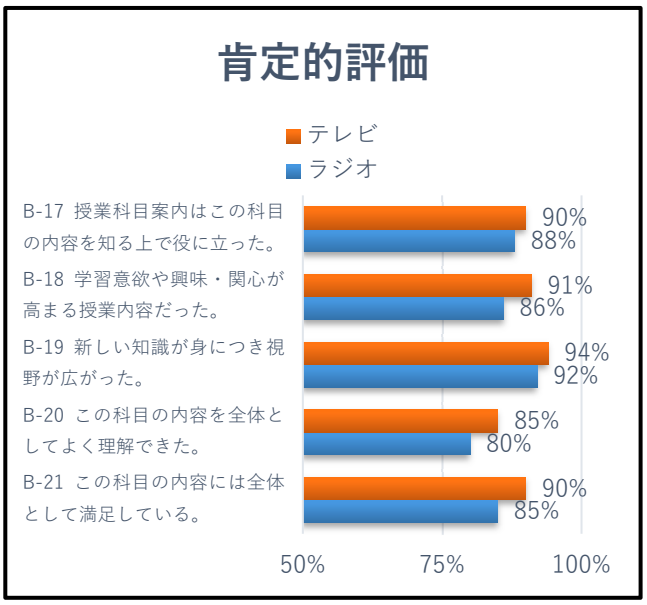




メディア別に全体評価を見ると（図２−１８）、下記全項目でテレビ科目の評価の方が高かった。

図２－１８【学部】メディア別の全体評価



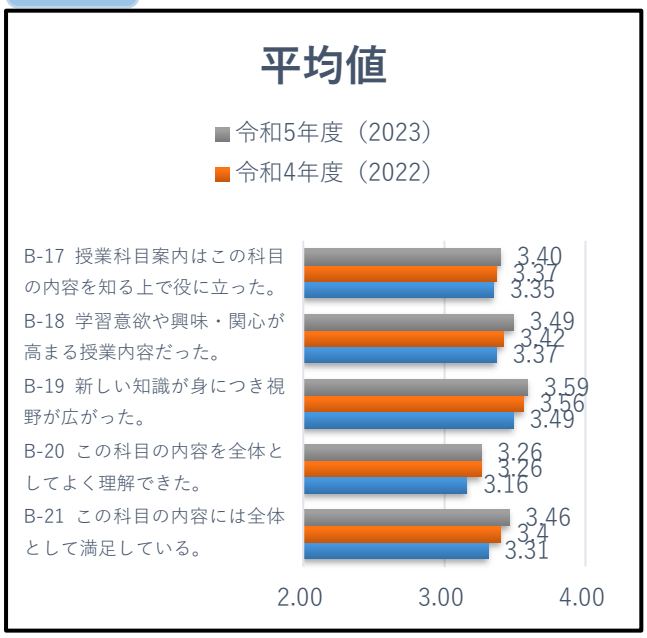


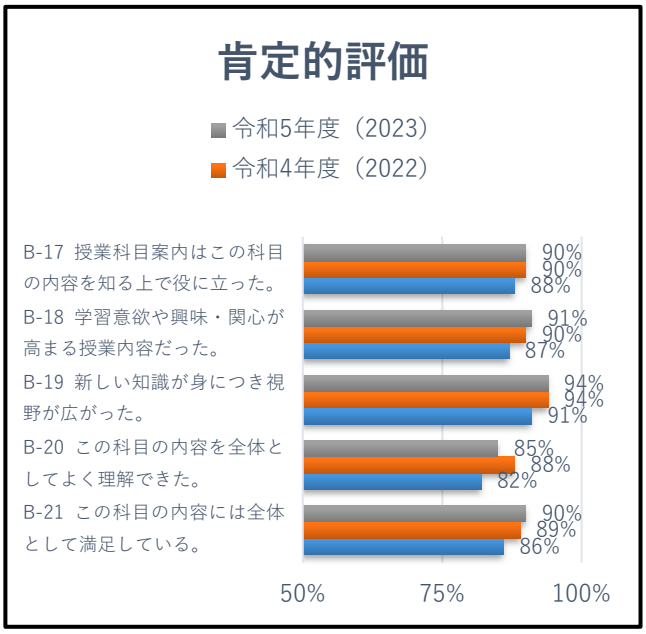
メディア別の全体評価を時系列で見ると（図２－１９）、テレビ科目の評価は、(B-18)、(B-21) は、昨年度から１ポイント上昇しているが、(B-17) と (B-19) は横ばい、(B-20) は３ポイント下降した。

一方、ラジオ科目の評価については、(B-20) (B-21) が連続して低下していた。

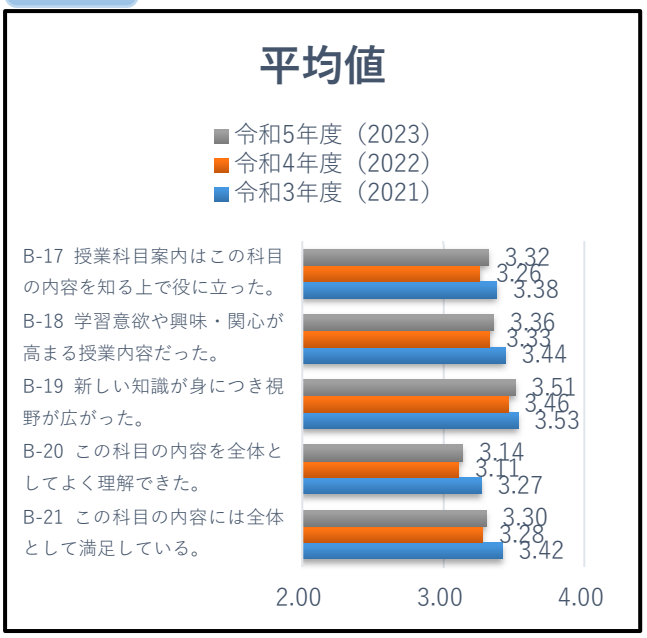
図２－１９【学部】メディア別の全体評価

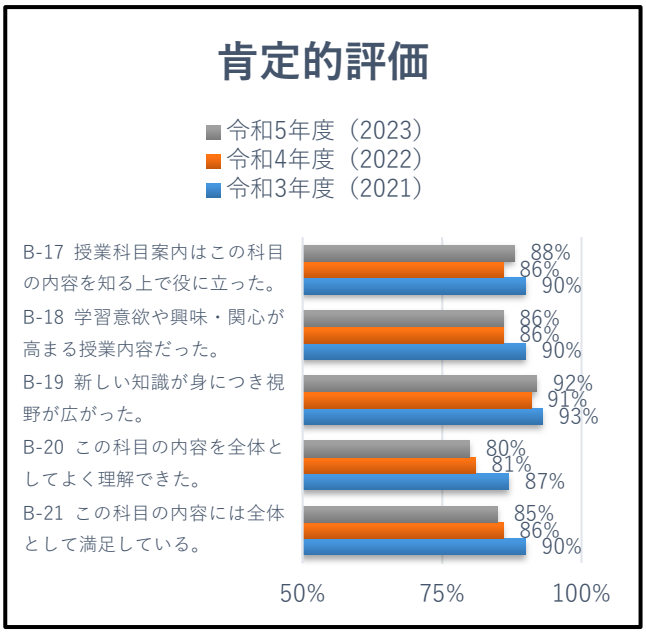
テレビ





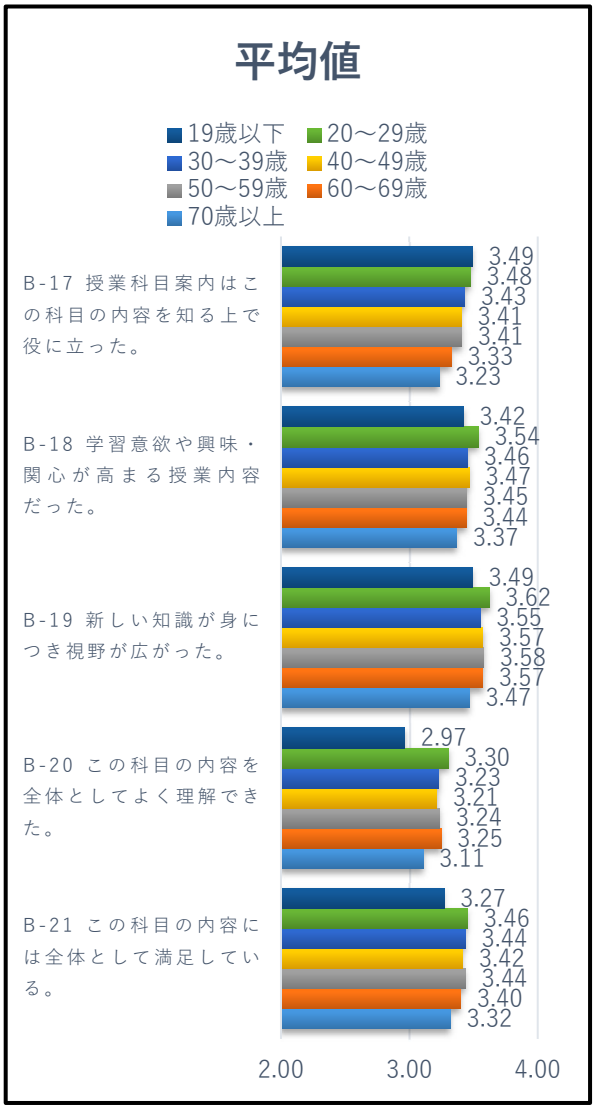
ラジオ

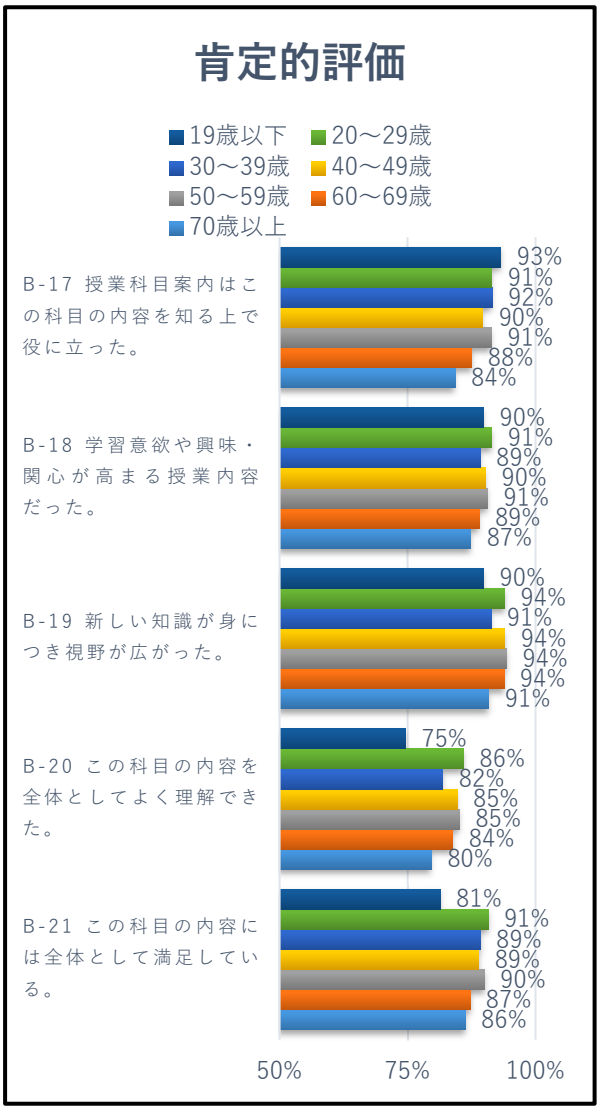




年齢階層別に全体評価（図２−２０）を見ると、(B-17)「授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った」以外の各項目で 20 歳代の評価が最も高くなっていた。反対に他の年代と比べ評価が全般的に低かったのは、70 歳以上であった。

図２－２０【学部】年齢階層別の全体評価

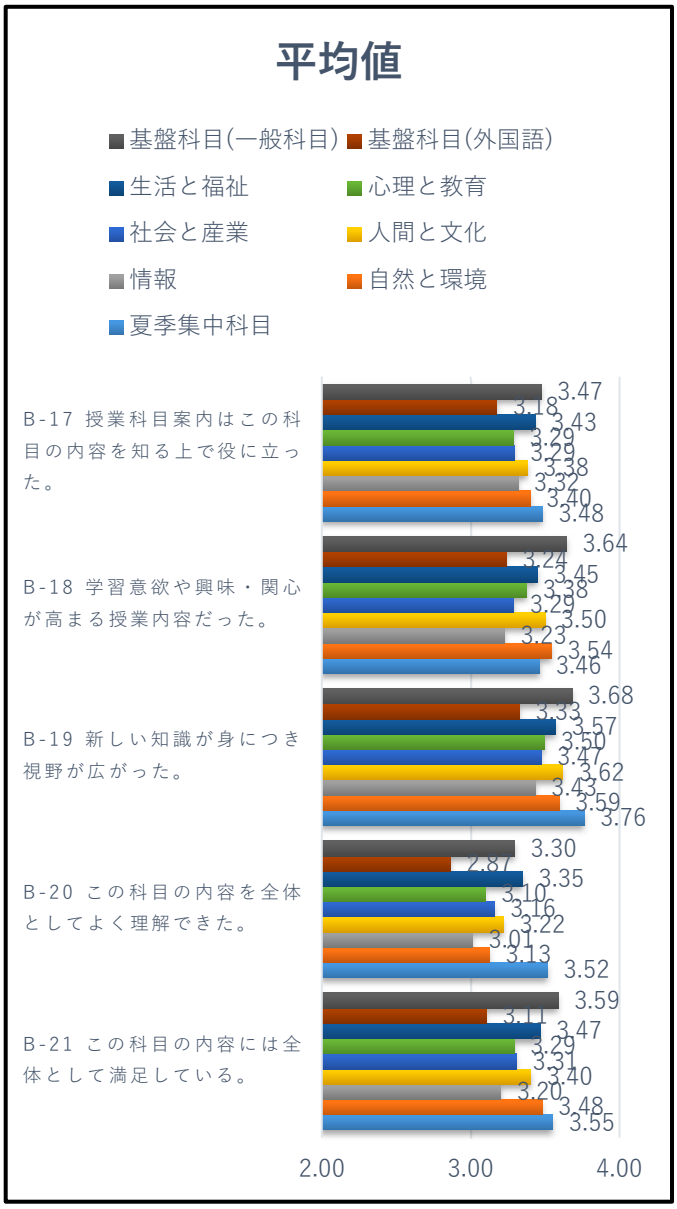


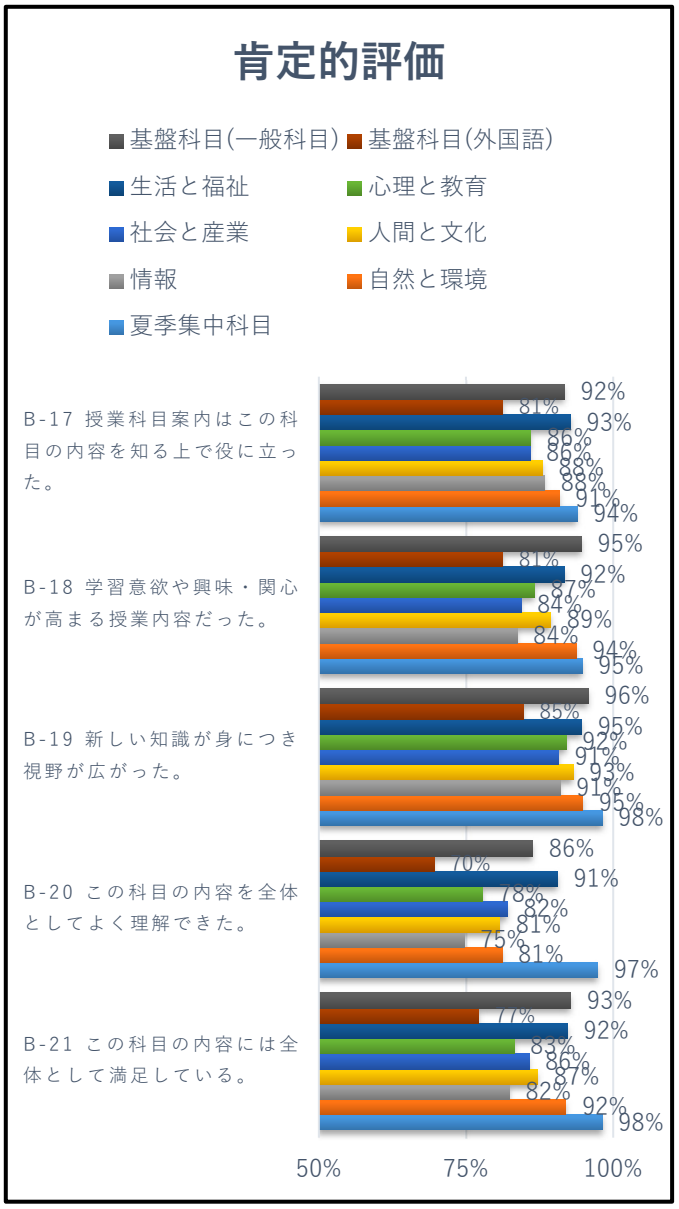


所属コース別の全体評価では（図２－２１）、下記各項目いずれも「夏季集中科目」の評価が高かった。

「基盤科目（外国語）」については、いずれの項目でも最も評価が低く、特に（B-20）「この科目の内容を全体としてよく理解できた」では、70%と低かった。

図２－２１【学部】所属コース別の全体評価

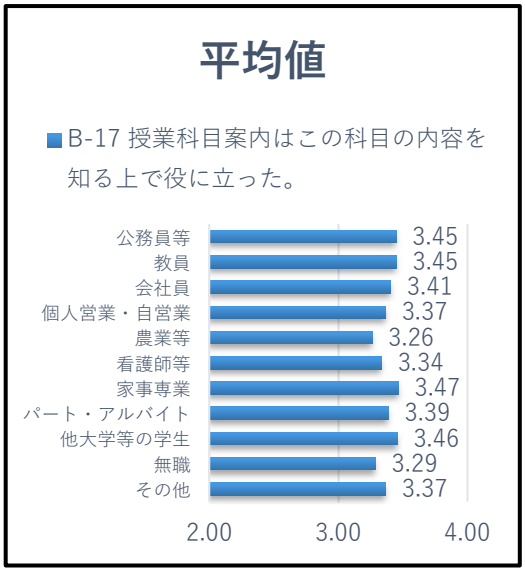


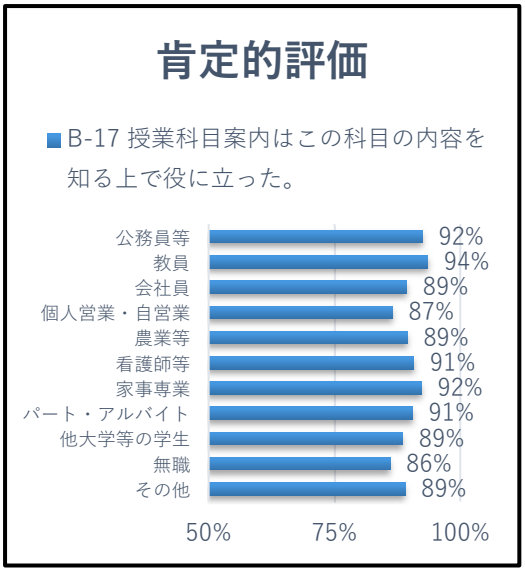


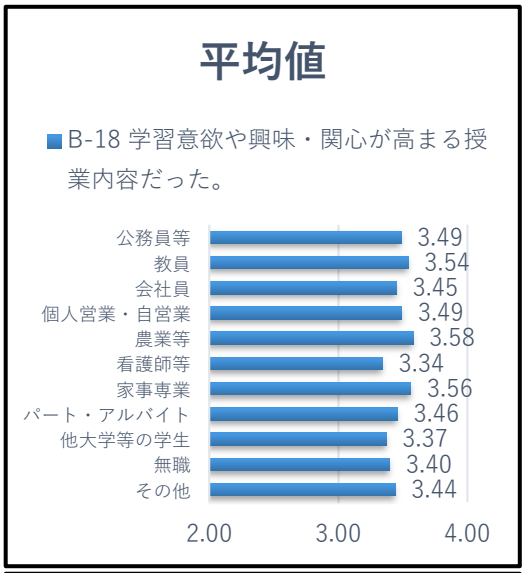
職業別の全体評価（次頁図２－２２）では、(B-17)「授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った」、(B-19)「新しい知識が身につき視野が広がった」、(B-20)「この科目の内容を全体としてよく理解できた」で評価が高かったのは「教員」で、91～96%であった。

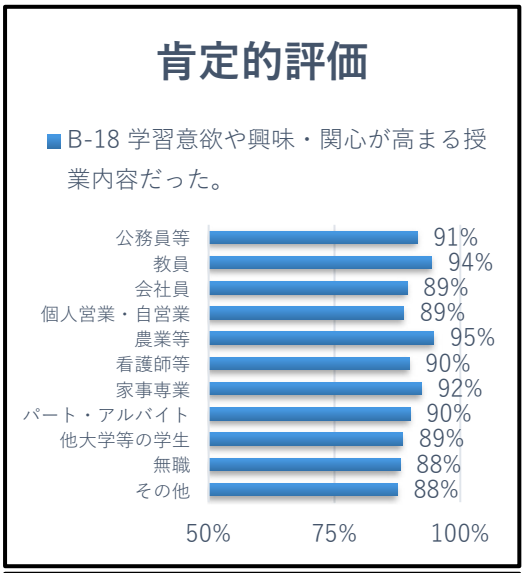
反対に評価が低かったのは、(B-17)「授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った」では「無職」(86%)、(B-18)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」では「無職」「その他」(88%)、(B-19)「新しい知識が身につき視野が広がった」で最も評価が低かったのは、「他大学生等の学生」(89%) であった。(B-21)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」では「無職」「その他」「他大学生等の学生」(86%) であった。

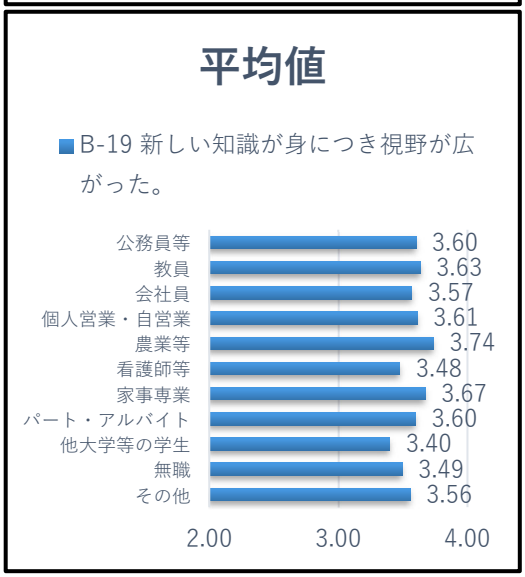
図２－２２【学部】職業別の全体評価

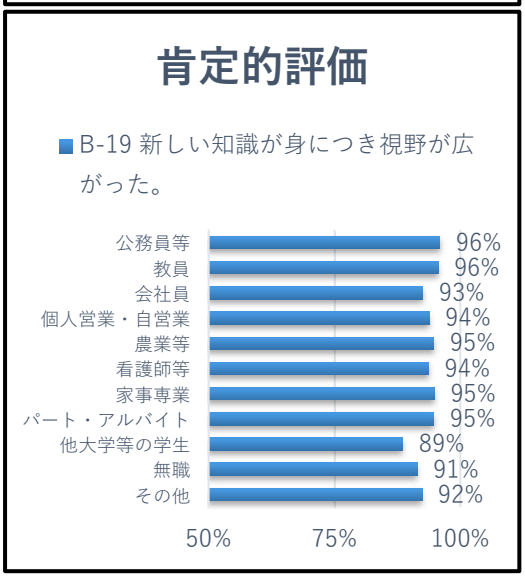


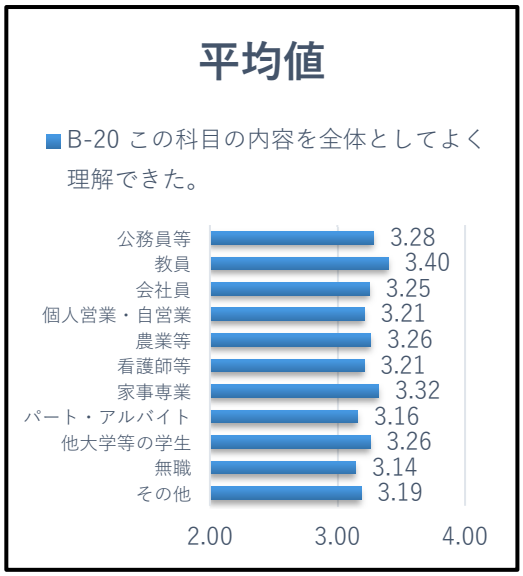


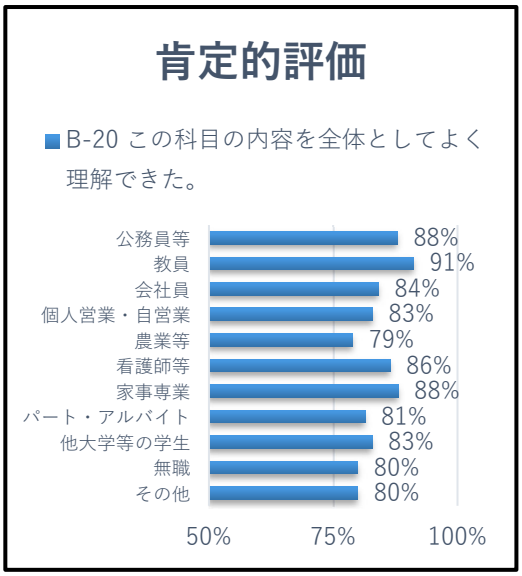


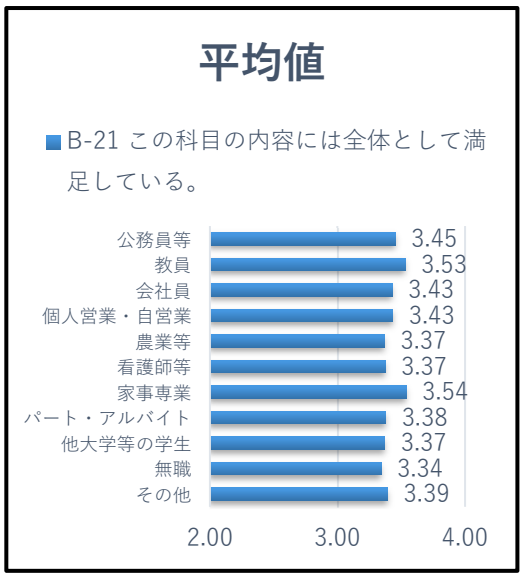


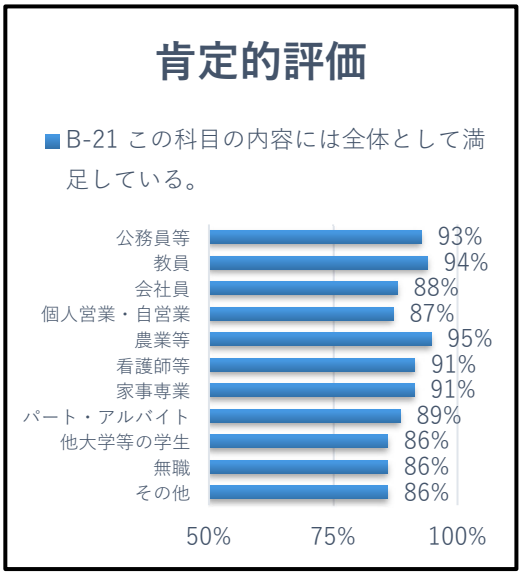





平均値
B-20 この科目の内容を全体としてよく理解できた。
公務員等 3.28
教員 3.40
会社員 3.25
個人営業・自営業 3.21
農業等 3.26
看護師等 3.21
家事専業 3.32
パート・アルバイト 3.16
他大学等の学生 3.26
無職 3.14
その他 3.19
2.00
3.00
4.00


肯定的評価
B-20 この科目の内容を全体としてよく理解できた。
公務員等 88%
教員 91%
会社員 84%
個人営業・自営業 83%
農業等 79%
看護師等 86%
家事専業 88%
パート・アルバイト 81%
他大学等の学生 83%
無職 80%
その他 80%
50%
75%
100%


平均値
B-21 この科目の内容には全体として満足している。
公務員等 3.45
教員 3.53
会社員 3.43
個人営業・自営業 3.43
農業等 3.37
看護師等 3.37
家事専業 3.54
パート・アルバイト 3.38
他大学等の学生 3.37
無職 3.34
その他 3.39
2.00
3.00
4.00

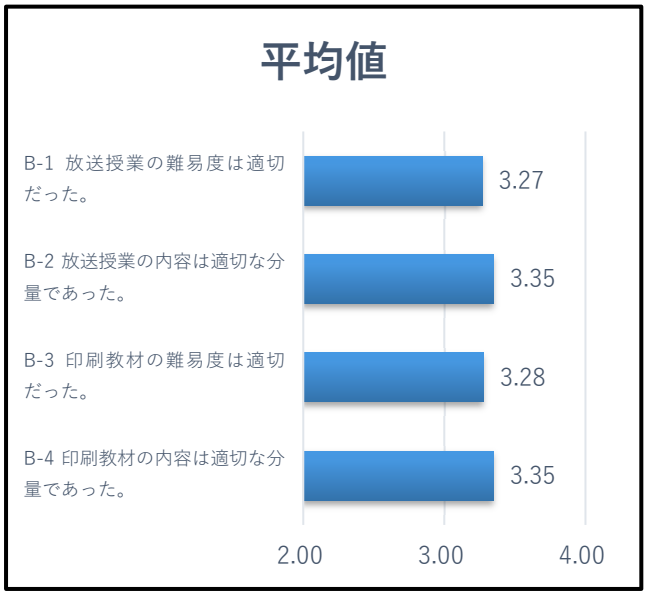

肯定的評価
B-21 この科目の内容には全体として満足している。
公務員等 93%
教員 94%
会社員 88%
個人営業・自営業 87%
農業等 95%
看護師等 91%
家事専業 91%
パート・アルバイト 89%
他大学等の学生 86%
無職 86%
その他 86%
50%
75%
100%

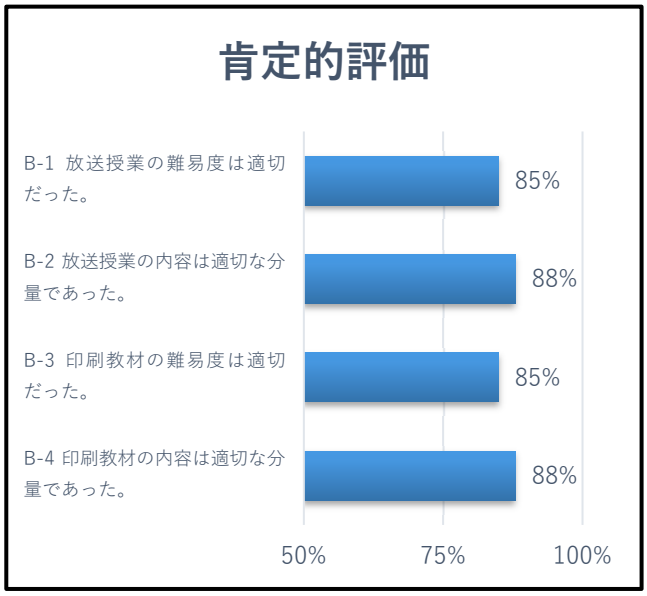
（２）授業の難易度・分量

次に授業の難易度・分量（図２−２３）について、評価項目ごとに見ていくことにする。

肯定的評価は、(B-1)「放送授業の難易度は適切だった」と(B-3)「印刷教材の難易度は適切だった」については、両項目とも 85%、(B-2)「放送授業の内容は適切な分量であった」と(B-4)「印刷教材の内容は適切な分量であった」の分量については、88%でそれぞれの「分量」についての評価の方が高かった。

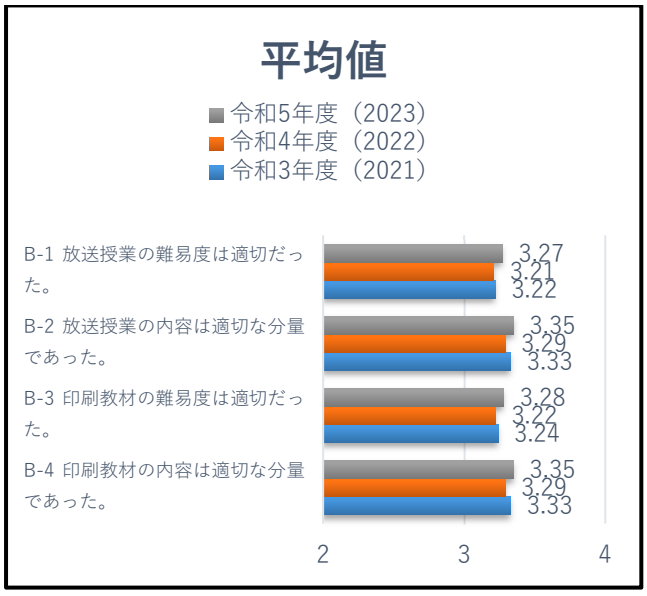
図２－２３【学部】回答者全体の授業難易度・分量の評価

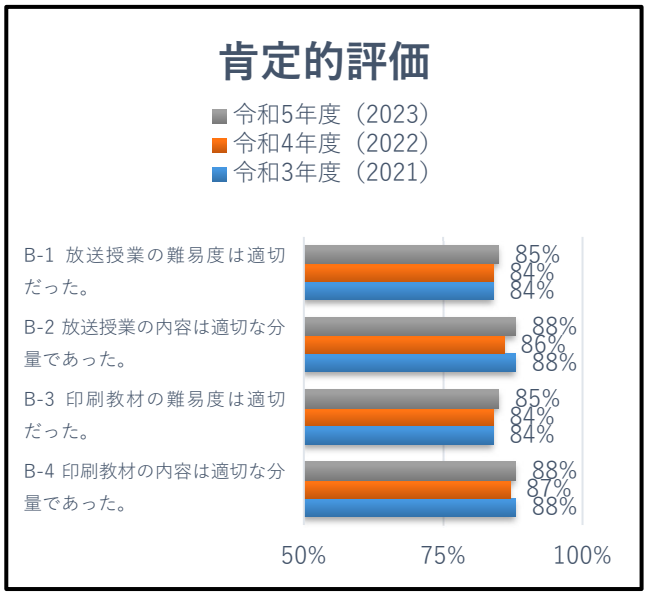




開設年度で比較すると（図２−２４）、本年度は、下記 4 項目全てで、過去 2 年度から横ばいないし、上昇傾向であった。

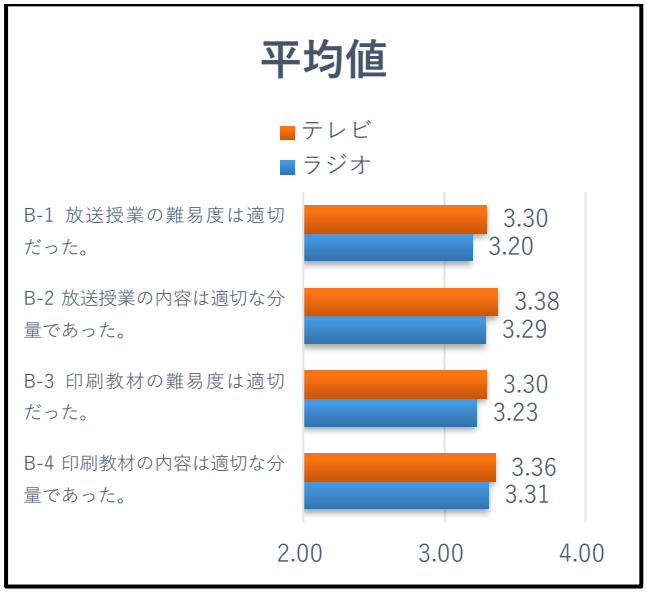
図２－２４【学部】回答者全体の授業難易度・分量の評価（開設年度比較）

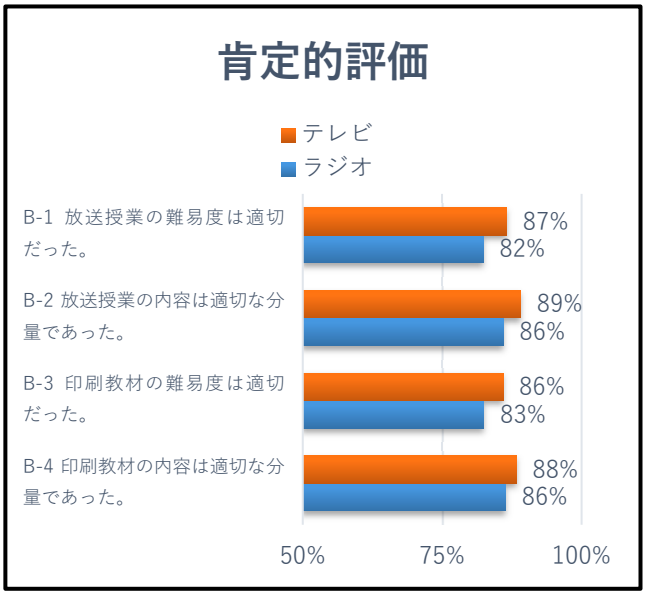




メディア別に授業の難易度・分量を見ると（図２−２５）、メディア間に差があり、いずれもテレビ科目の方が、評価が高く、特に(B-1)「放送授業の難易度は適切だった」では、テレビ科目がプラス 5 ポイントと大きな差であった。

図２－２５【学部】メディア別の授業難易度・分量の評価

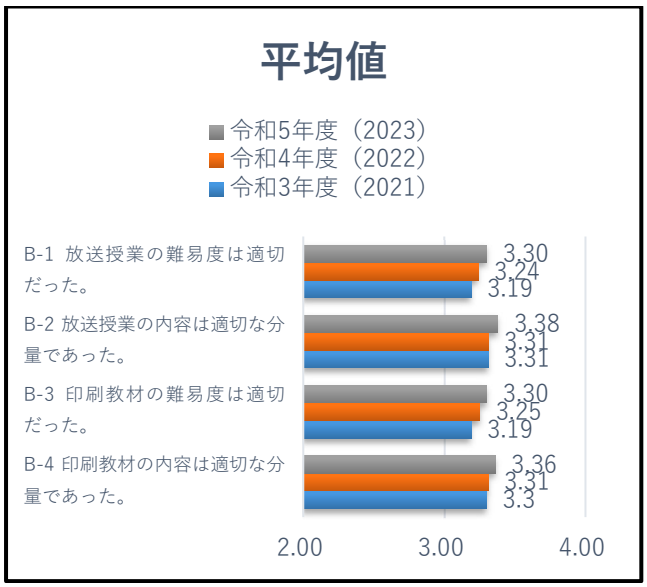


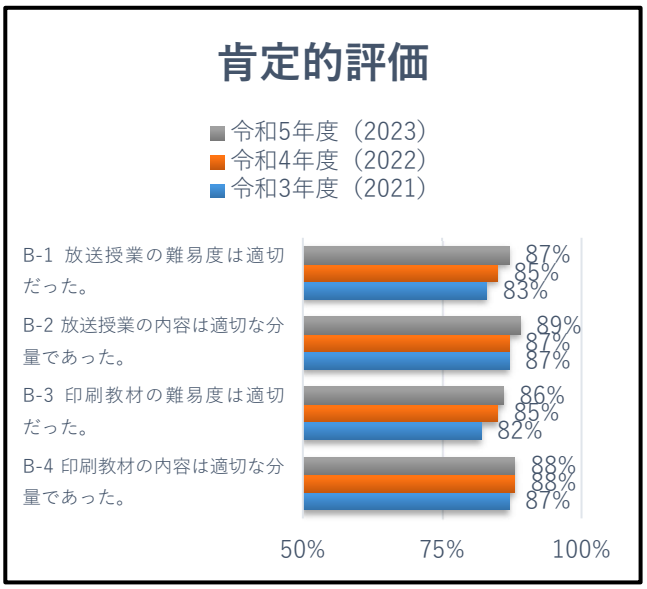


メディア別の授業の難易度・分量を開設年度で比較すると（図２−２６）、テレビ科目、ラジオ科目の肯定的評価は、全ての項目で昨年度を横ばいないし上回っていた。

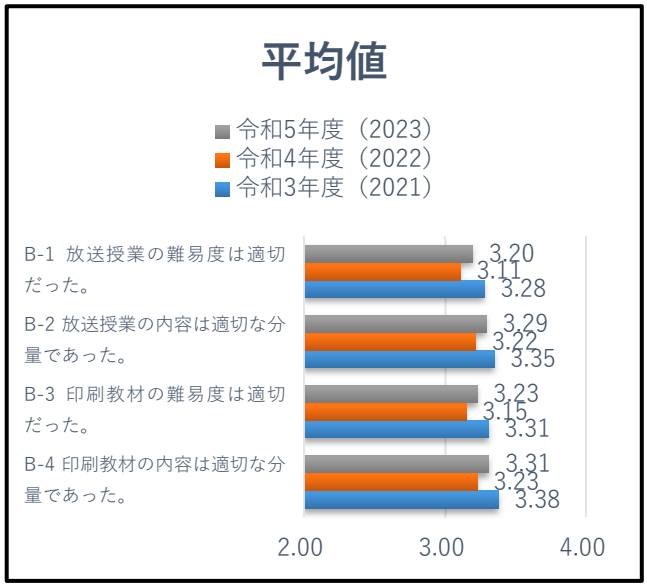
図２－２６【学部】メディア別の授業難易度・分量の評価（開設年度比較）

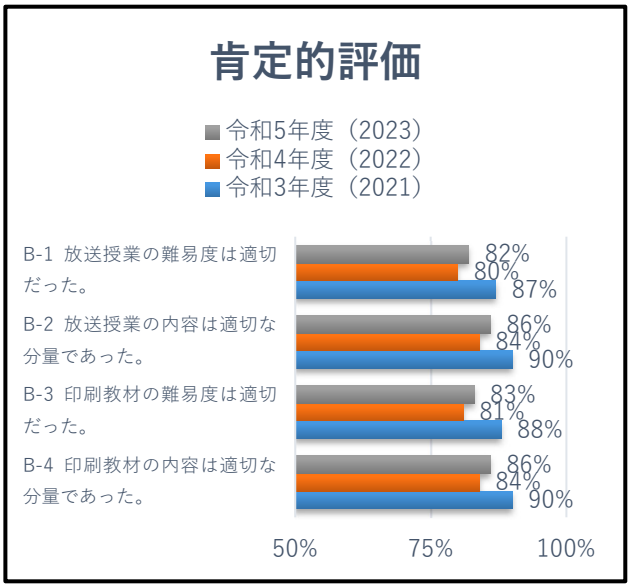
テレビ





ラジオ

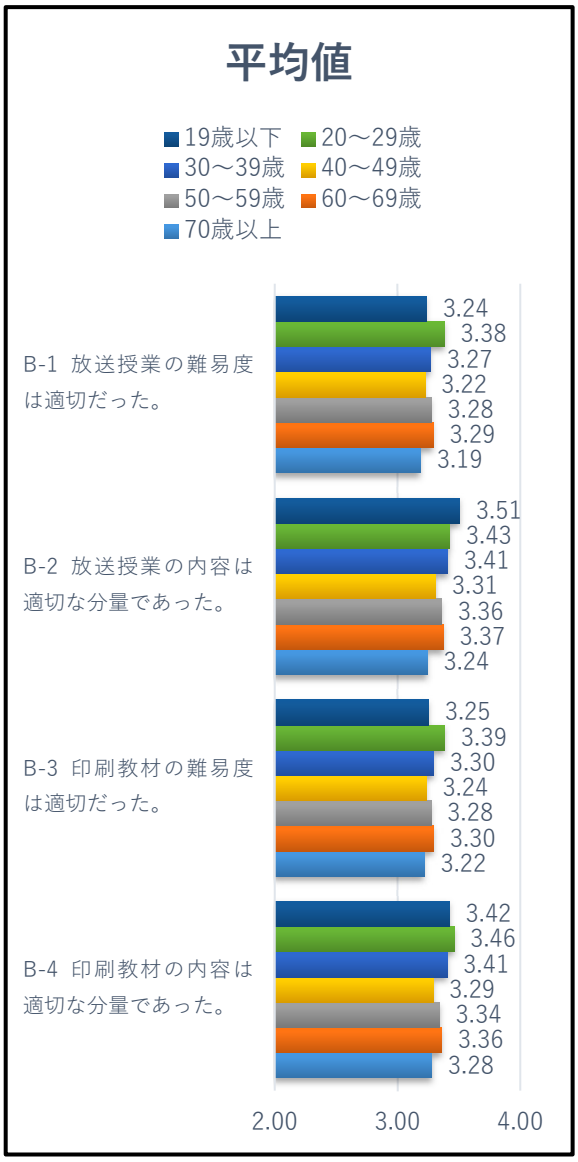


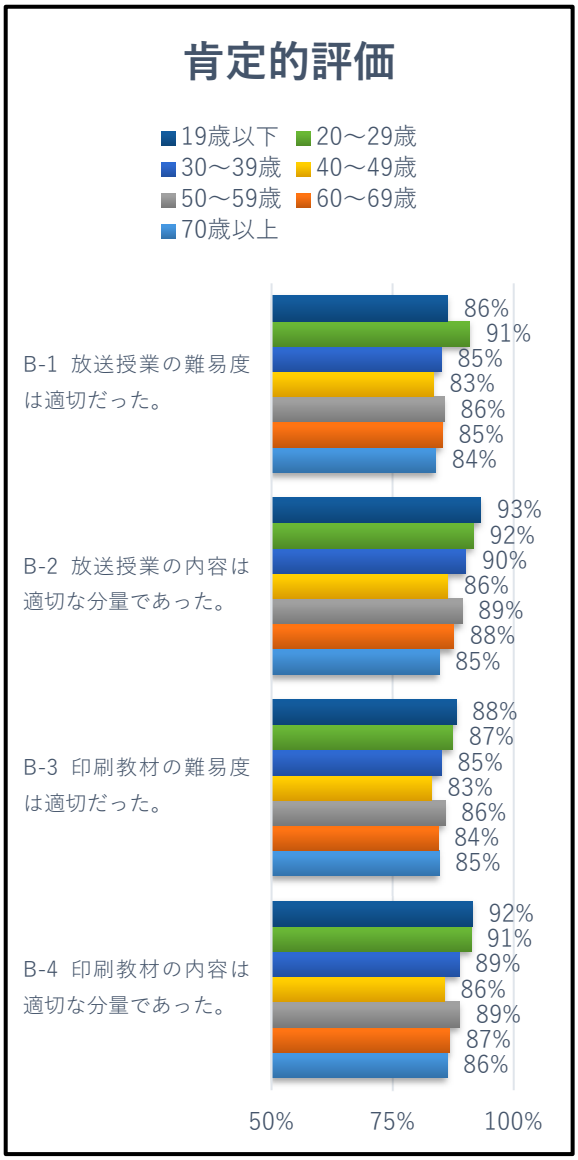


年齢階層別に授業の難易度・分量を見ると（図２－２７）、(B-2)「放送授業の内容は適切な分量だった」において、全体的に 19 歳以下と 20 歳代の評価が高かった。

反対に 40 歳代では、一部の項目において評価が 83%以下と最も低かった。

図２－２７【学部】年齢階層別の授業難易度・分量の評価



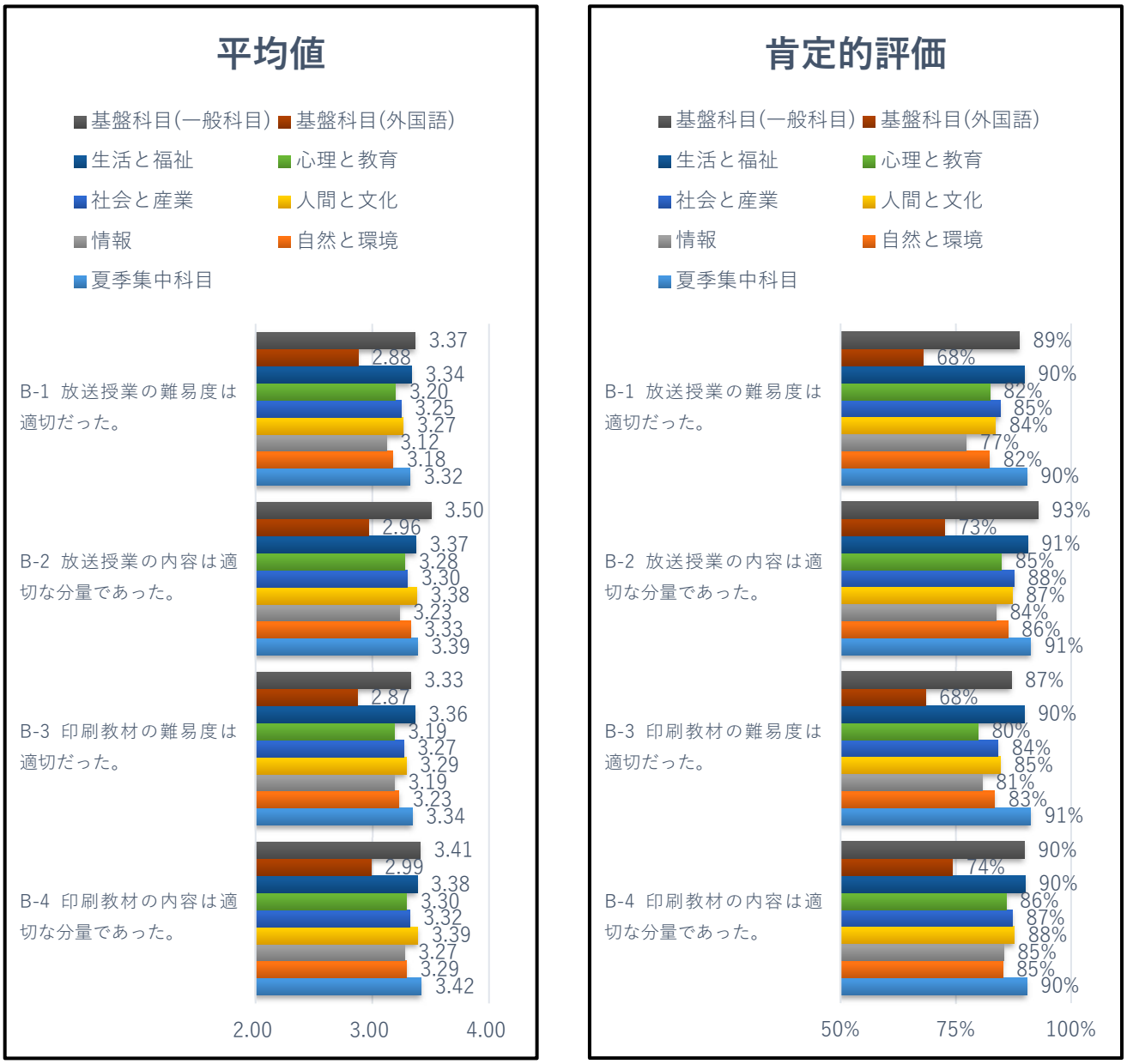


所属コース別に授業の難易度・分量を見ると（図２−２８）、下記全ての項目で特徴的であったのは、「夏季集中科目」が上位 1、2 位を占めていた。

また、(B-2)「放送授業の内容は適切な量だった」では「基盤科目（一般科目）」の評価が高く、93%であった。

反対に全ての項目で最も評価が低かったのは「基盤科目（外国語）」で、(B-1)「放送授業の難易度は適切だった」では、他の所属コースから 10 ポイント近く開きがあり、それぞれの項目に対する評価は低かった。

図２－２８【学部】所属コース別の授業難易度・分量の評価



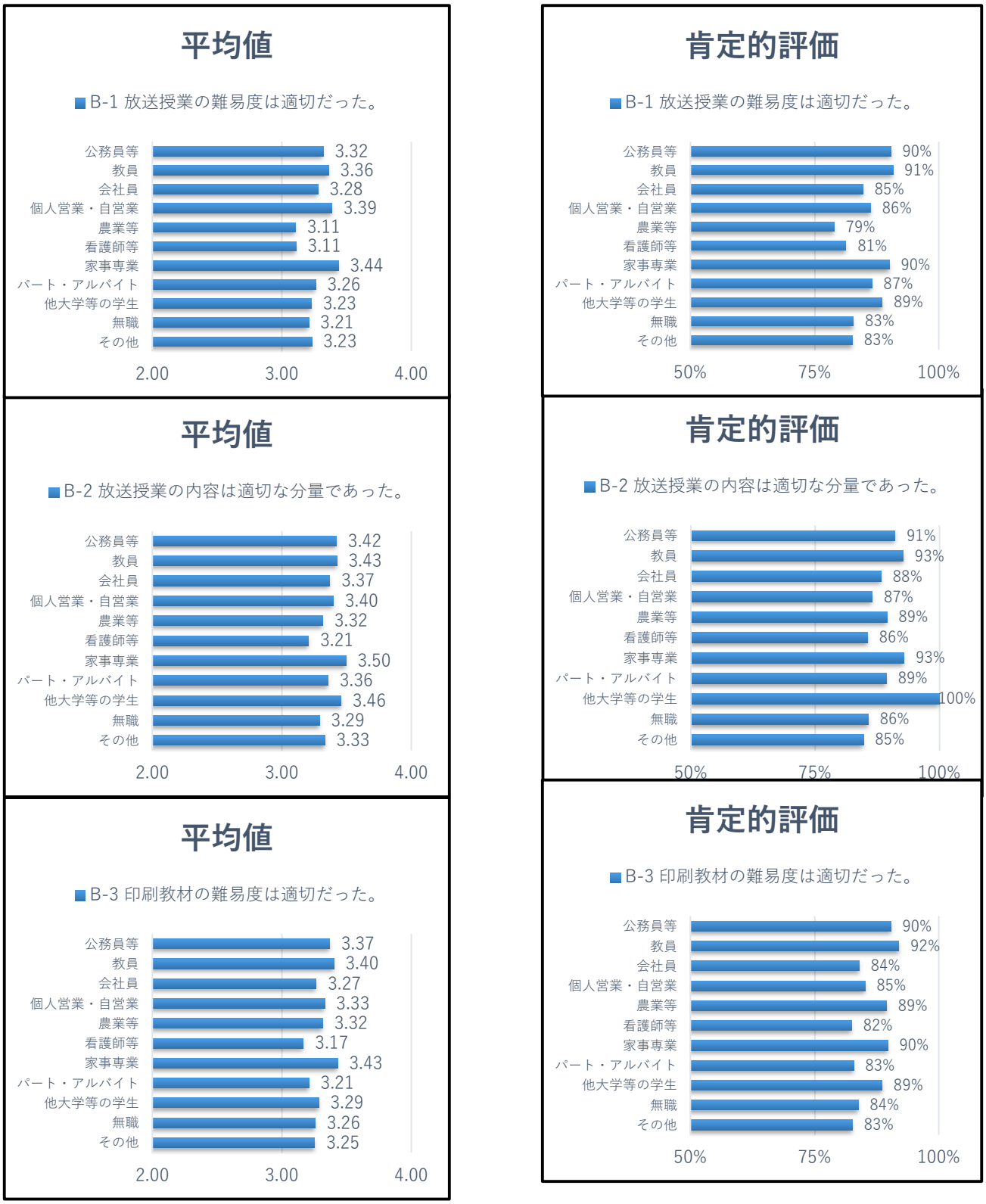
職業別に授業の難易度を見ると（図２－２９）、(B-1)「放送授業の難易度は適切だった」では、「公務員等」「教員」「家事専業」が、90%～91%と高かった。

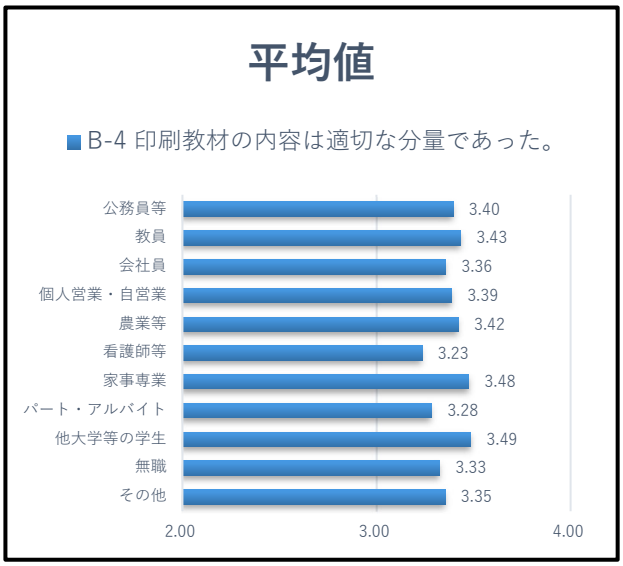
(B-2)「放送授業の内容は適切な分量であった」では、「他大学等の学生」が、100%と高かった。

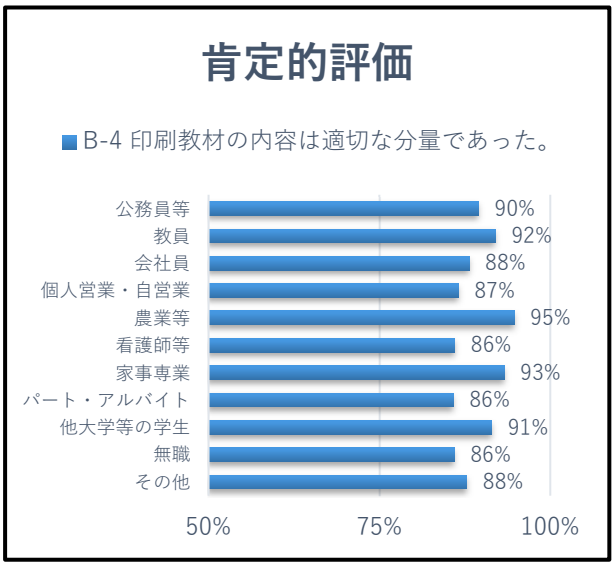
(B-3)「印刷教材の難易度は適切だった」については、それぞれ「公務員等」「教員」「家事専業」が上位を占めている。

(B-4)「印刷教材の内容は適切な分量であった」については、「農業等」(95%)、「家事専業」(93%)が高かった。

図２－２９【学部】職業別の授業難易度の評価





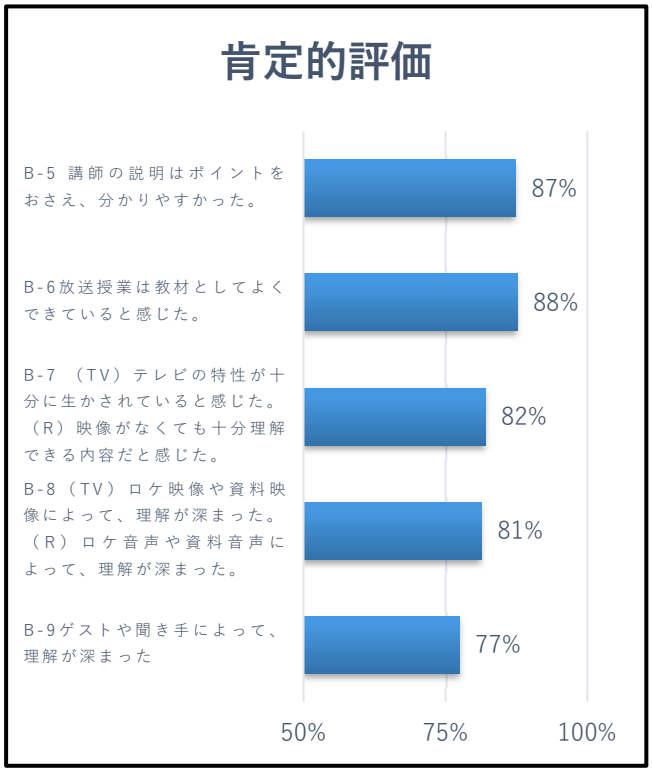


(3)放送授業

ここからは放送授業について、評価項目ごとに見ていくことにする。

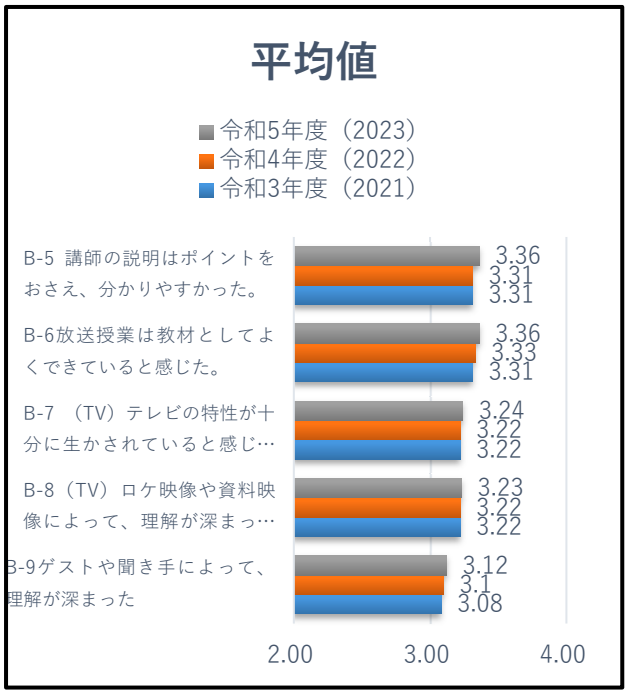
放送授業に関する評価項目（図２－３０）では、(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」が 87%と(B-6)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」が 88%と高く、(B-9)「ゲストや聞き手によって、理解が深まった」は 77%と、他の項目に比べると評価が低かった。

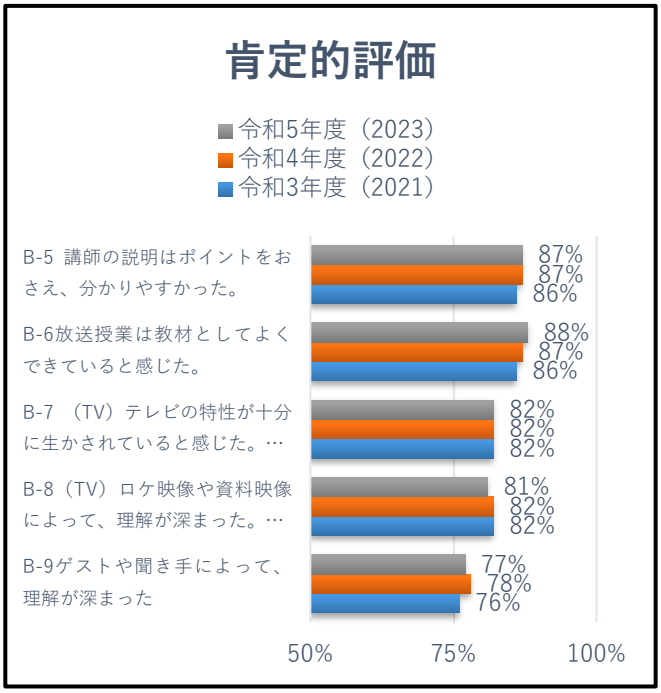
図２－３０【学部】回答者全体の放送授業の評価



放送授業の評価を時系列で見ると（図２－３１）本年度は、昨年度と比べると、(B-5) (B-7) は横ばいで、(B-8)(B-9) は下回った。

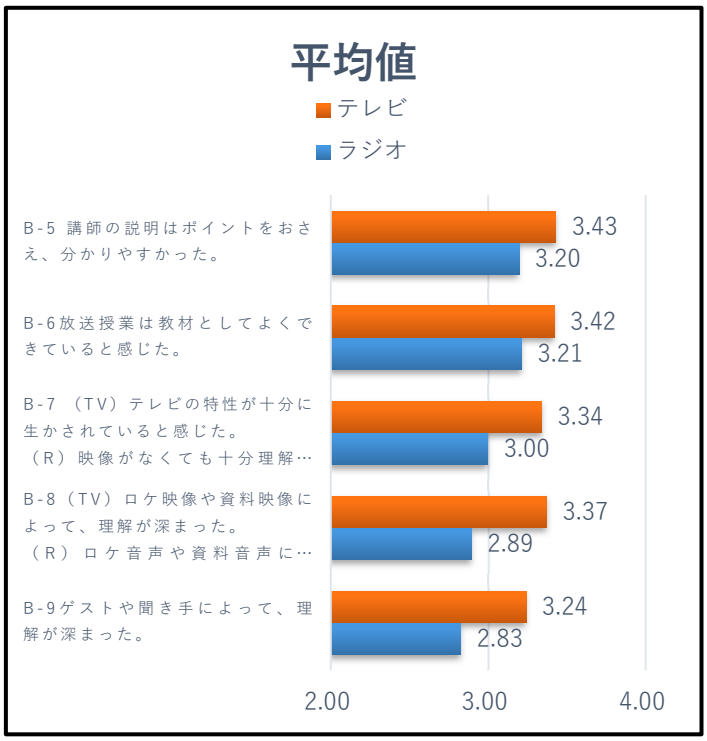
図２－３１【学部】回答者全体の放送授業の評価（時系列）

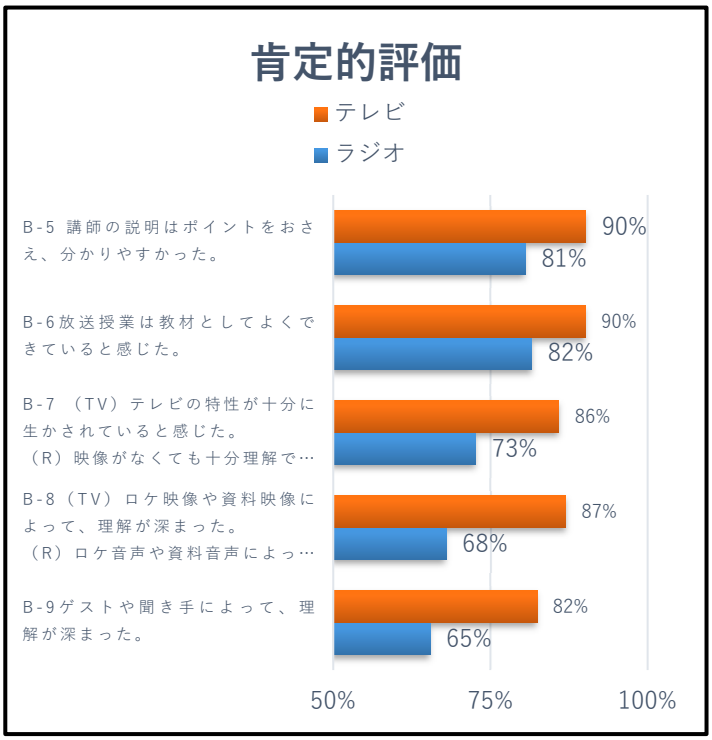




メディア別に放送授業の肯定的評価を見ると（図２−３２）、全ての項目でテレビ科目の評価が高かった。(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」と（B-6）「放送授業は教材としてよくできていると感じた」が 90%と高かった。

図２－３２【学部】メディア別の放送授業の評価



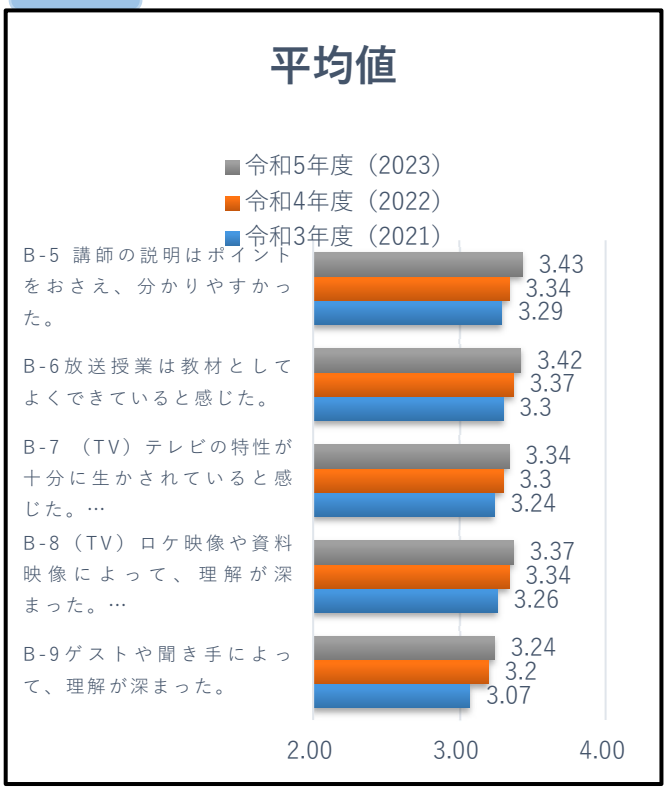


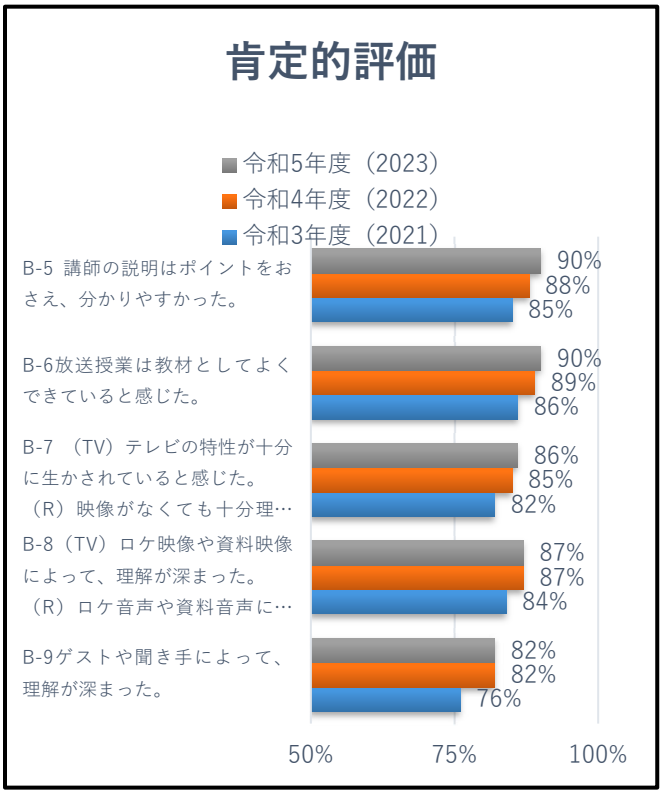
また、メディア別に放送授業の評価を時系列で見ると（図２−３３）、テレビ科目については、全項目で、昨年度との比較で、同じ水準か評価を上げていた。

一方、ラジオ科目では、（B-9）を除くその他の項目で昨年度よりも評価が低下している。

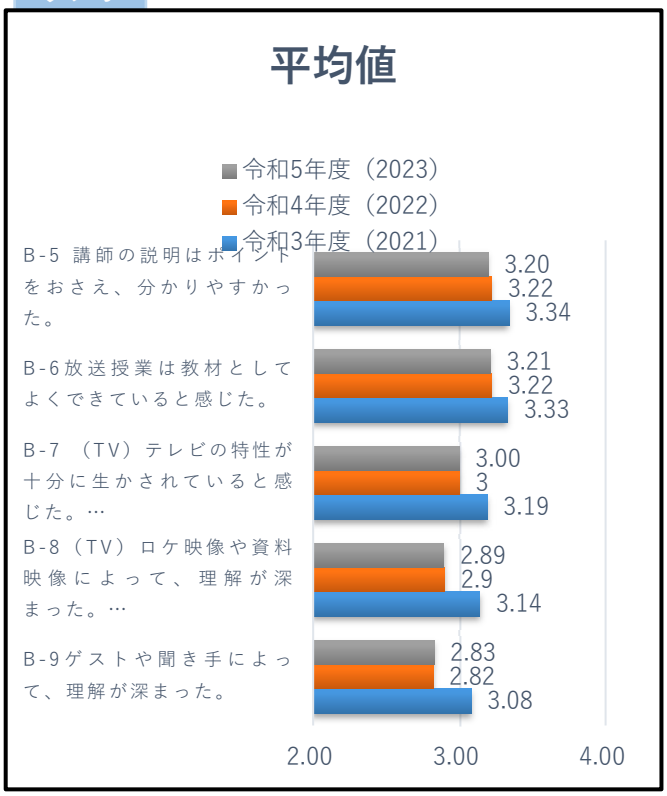
図２－３３【学部】メディア別の放送授業の評価（時系列）

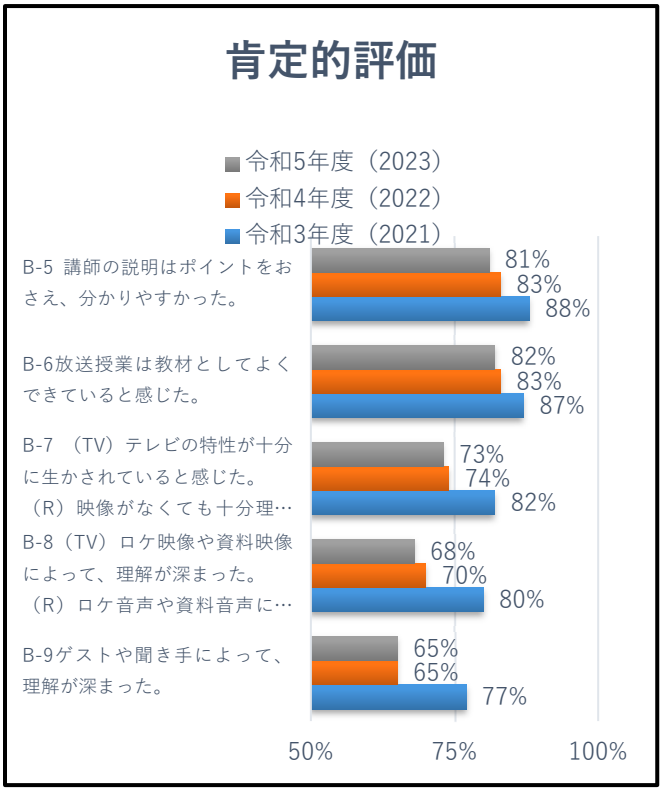
テレビ





ラジオ

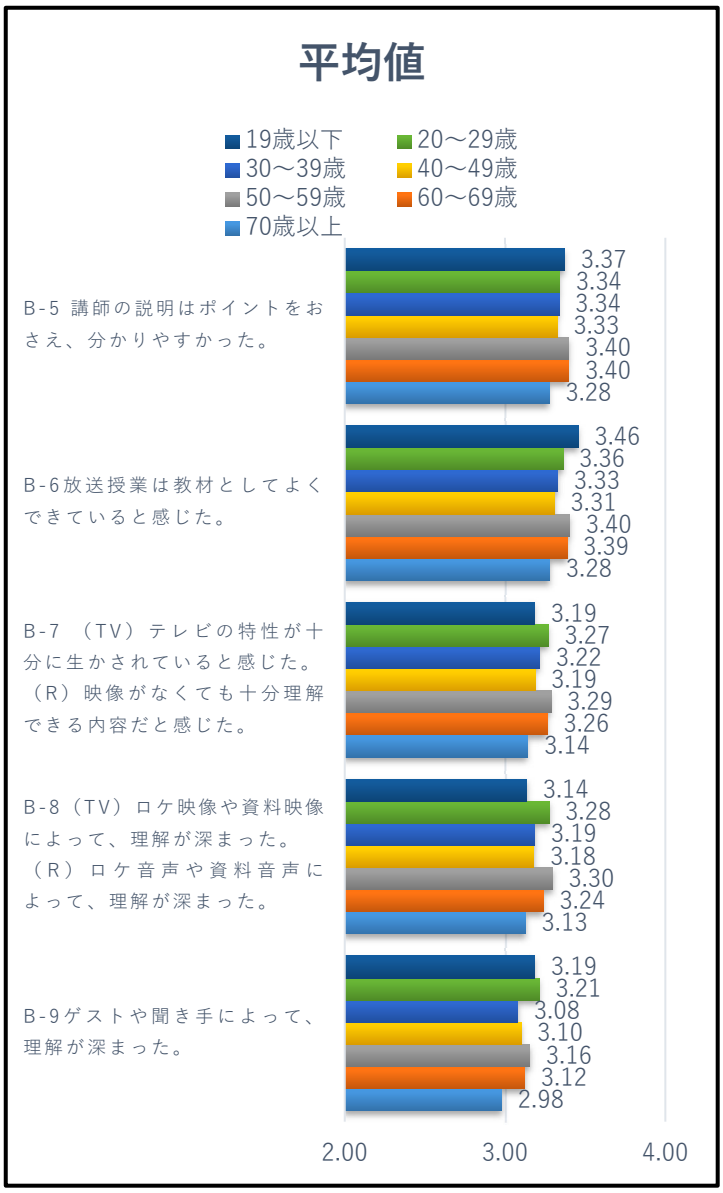


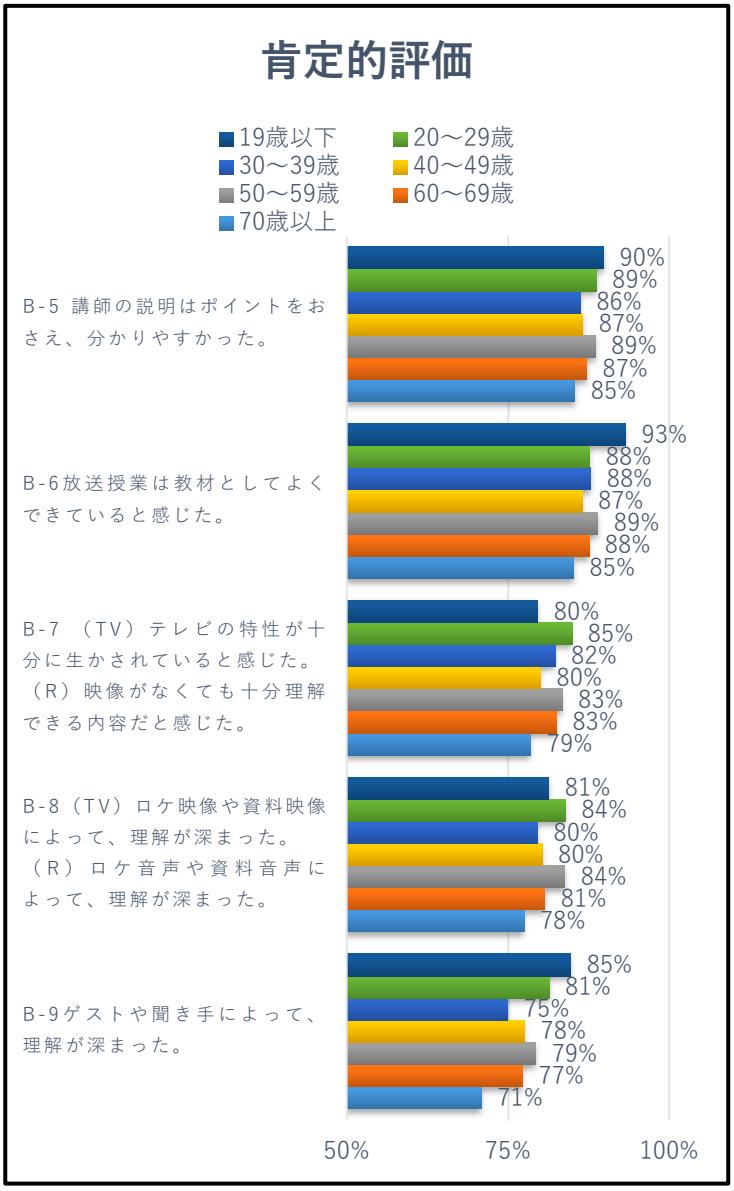


年齢階層別の放送授業の評価で（図２－３４）、(B-6)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」では、19 歳以下の評価が最も高くでは 93%に達していた。

反対に全ての項目で評価が最も低かったのは 70 歳代で 71～85%に留まっていた。

図２－３４【学部】年齢階層別の放送授業の評価



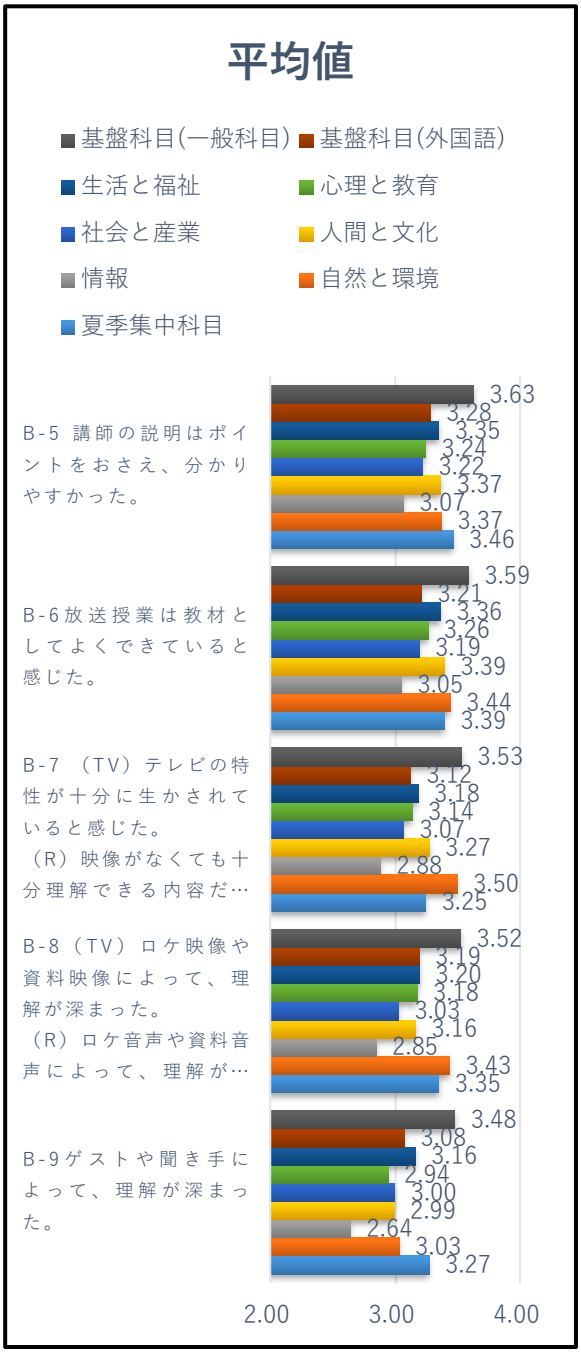


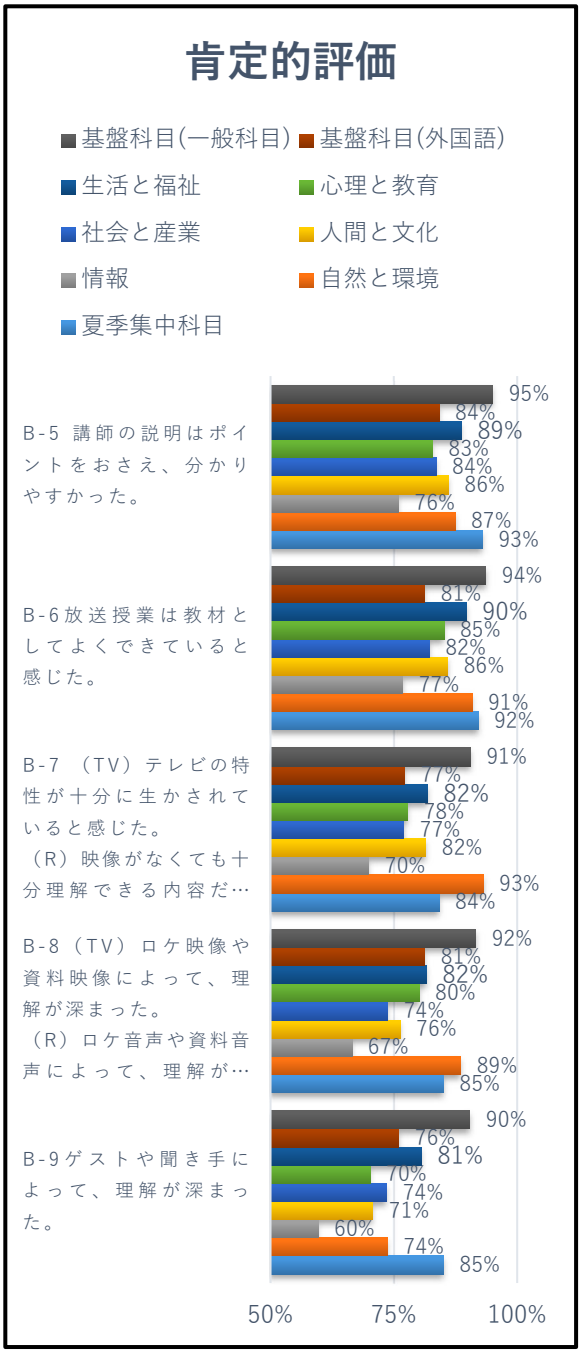
所属コース別に放送授業の評価を見ると（図２−３５）、「基盤科目（一般科目）」は、すべての項目で上位を占め高評価であった。

(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」は「基盤科目（一般科目）」（95%）で評価も高かった。

反対に低い評価であったのは、「情報」で、全ての項目で下位１位であった。

図２－３５【学部】所属コース別の放送授業の評価



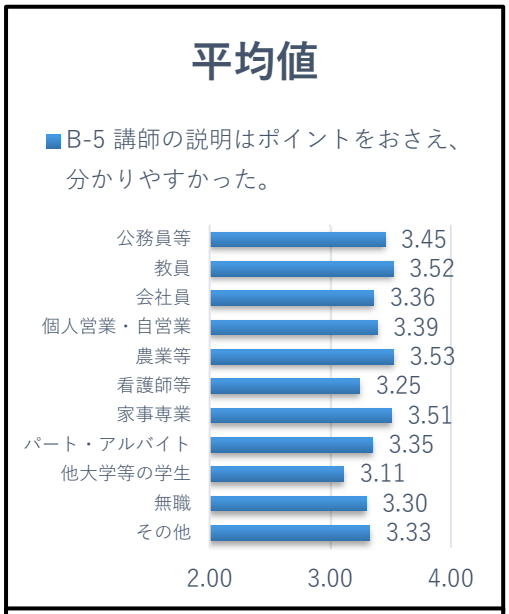


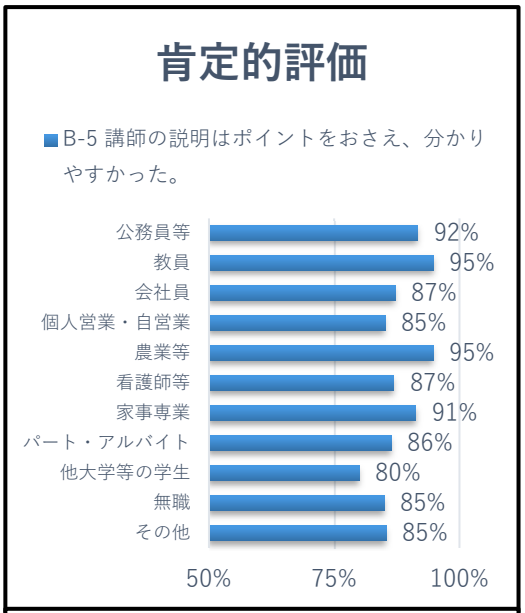
職業別の放送授業の評価（次頁図２－３６）では、(B-7) を除く全ての項目で「教員」が、上位１位または２位と高い評価であった。

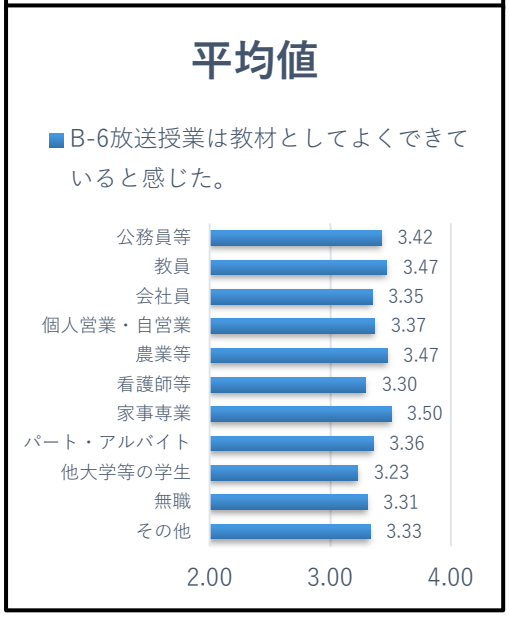
(B-6)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」は「農業等」(95%)、(B-7)「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた/【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」は、「公務員等」、「家事専業」が 87%と最も高い評価であった。

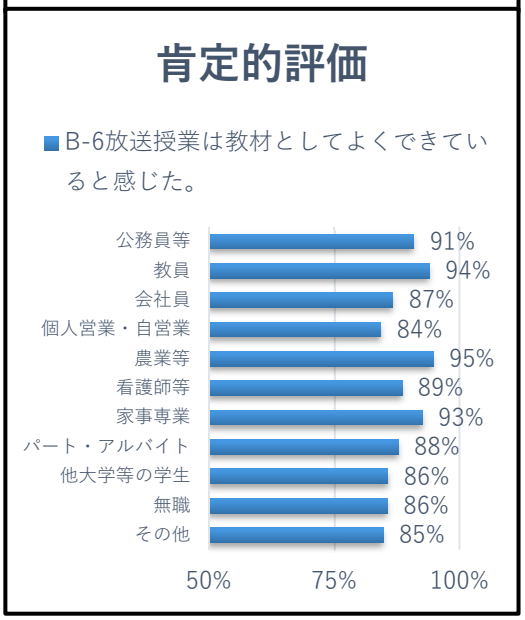
(B-7)の評価が最も低かったのは、「他大学生等の学生」で 69%であった。

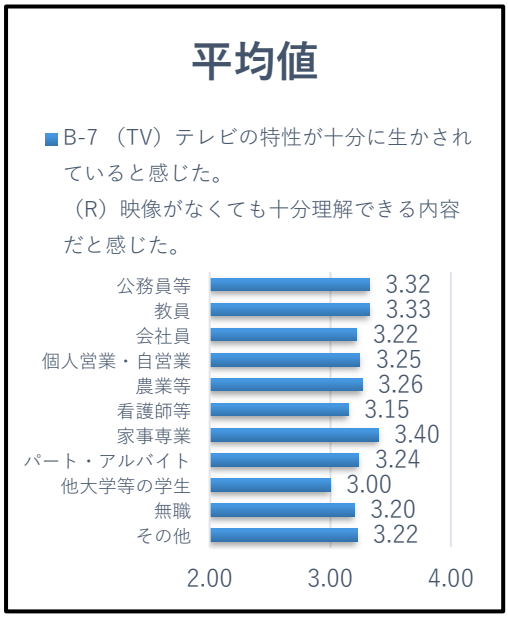
図２－３６【学部】職業別の放送授業の評価

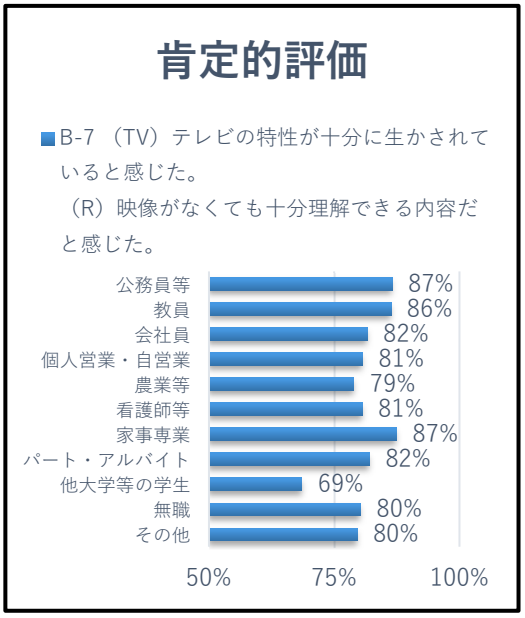


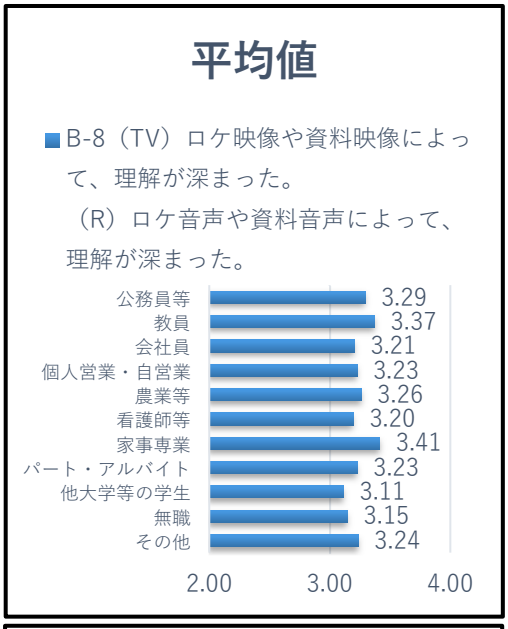


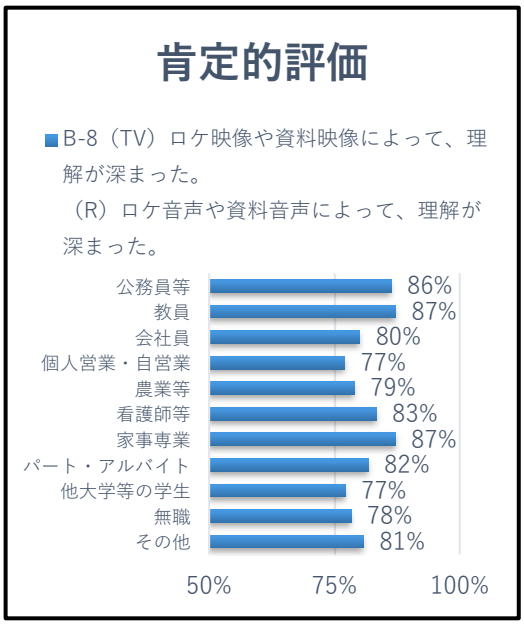


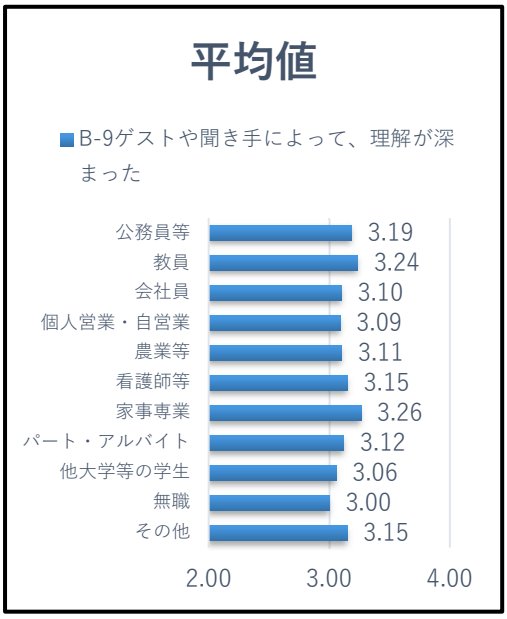


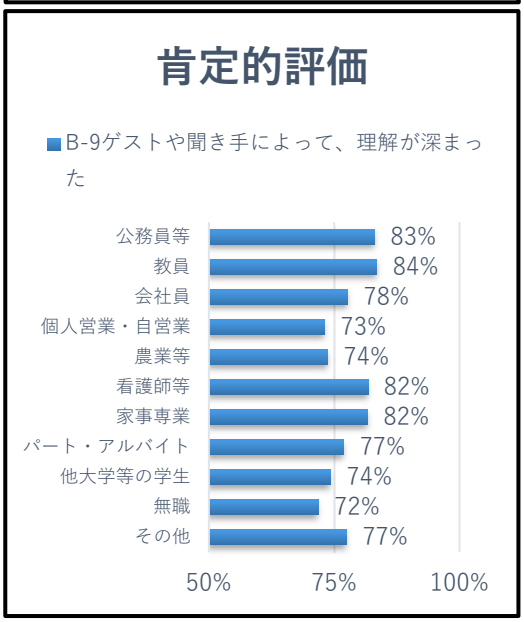





平均値
B-8（TV）ロケ映像や資料映像によって、理解が深まった。
（R）ロケ音声や資料音声によって、理解が深まった。
公務員等 3.29
教員 3.37
会社員 3.21
個人営業・自営業 3.23
農業等 3.26
看護師等 3.20
家事専業 3.41
パート・アルバイト 3.23
他大学等の学生 3.11
無職 3.15
その他 3.24
2.00
3.00
4.00


肯定的評価
B-8（TV）ロケ映像や資料映像によって、理解が深まった。
（R）ロケ音声や資料音声によって、理解が深まった。
公務員等 86%
教員 87%
会社員 80%
個人営業・自営業 77%
農業等 79%
看護師等 83%
家事専業 87%
パート・アルバイト 82%
他大学等の学生 77%
無職 78%
その他 81%
50%
75%
100%


平均値
B-9ゲストや聞き手によって、理解が深まった
公務員等 3.19
教員 3.24
会社員 3.10
個人営業・自営業 3.09
農業等 3.11
看護師等 3.15
家事専業 3.26
パート・アルバイト 3.12
他大学等の学生 3.06
無職 3.00
その他 3.15
2.00
3.00
4.00

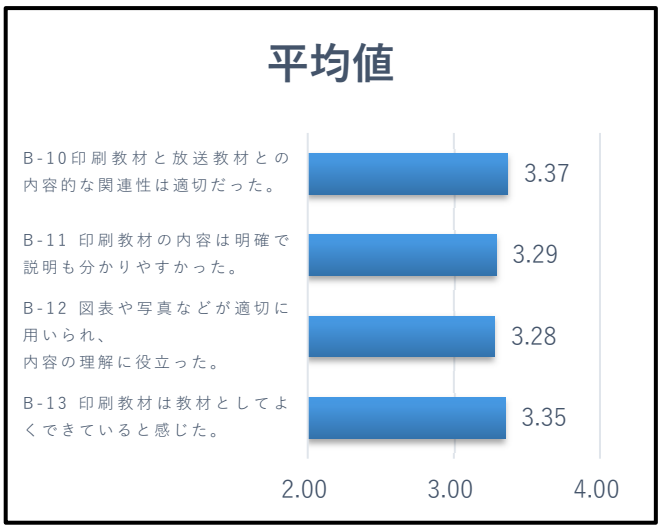

肯定的評価
B-9ゲストや聞き手によって、理解が深まった
公務員等 83%
教員 84%
会社員 78%
個人営業・自営業 73%
農業等 74%
看護師等 82%
家事専業 82%
パート・アルバイト 77%
他大学等の学生 74%
無職 72%
その他 77%
50%
75%
100%

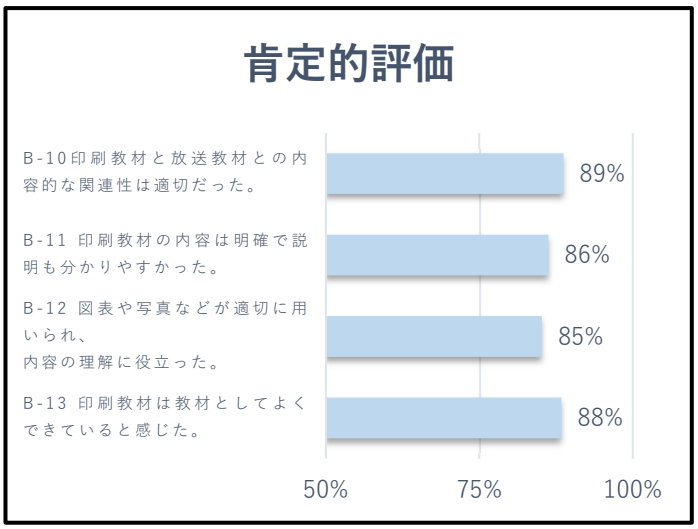
（4）印刷教材

ここからは印刷教材について、評価項目ごとに見ていくことにする。

印刷教材の評価項目では（図２－３７）、(B-10)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」が 89%と最も高く、(B-12)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」が 85%と最も低かった。

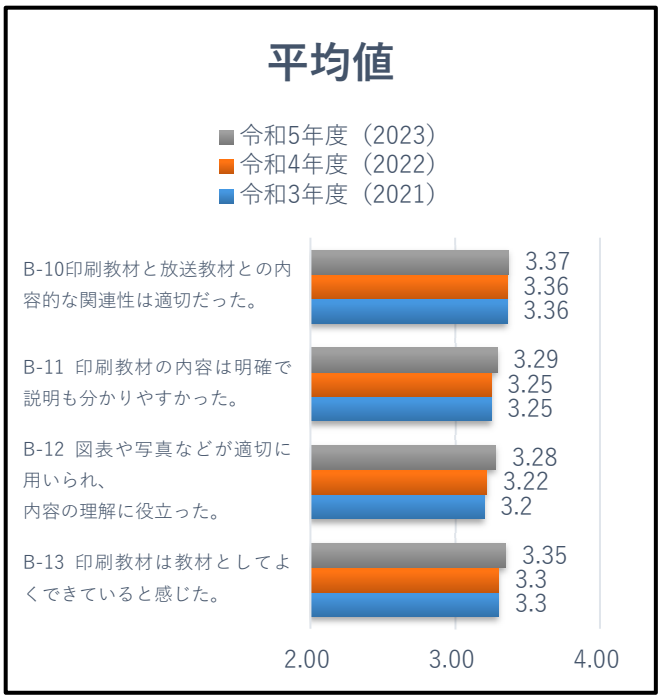
図２－３７【学部】回答者全体の印刷教材の評価

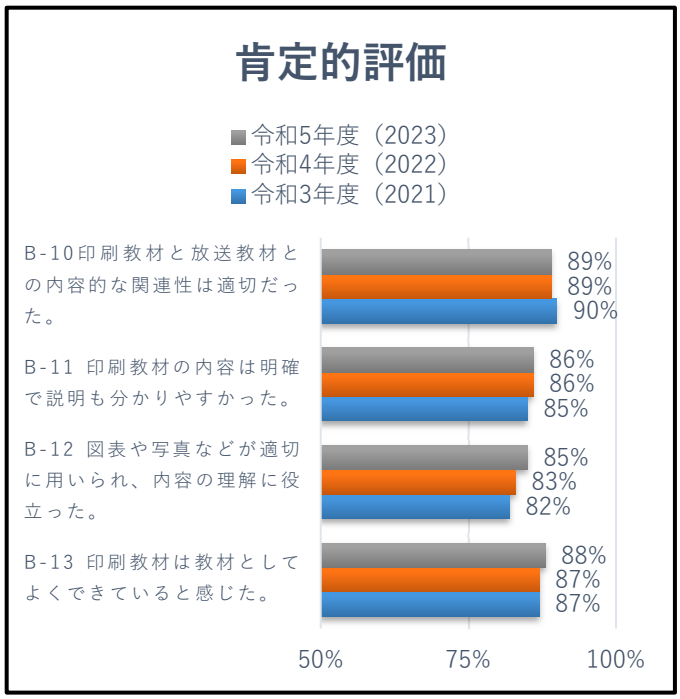




印刷教材の評価を時系列で見ると（図２－３８）、本年度は（B-10）「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」（B-11）「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」は昨年度と同じ水準で、それ以外の項目では、評価が上向いていた。

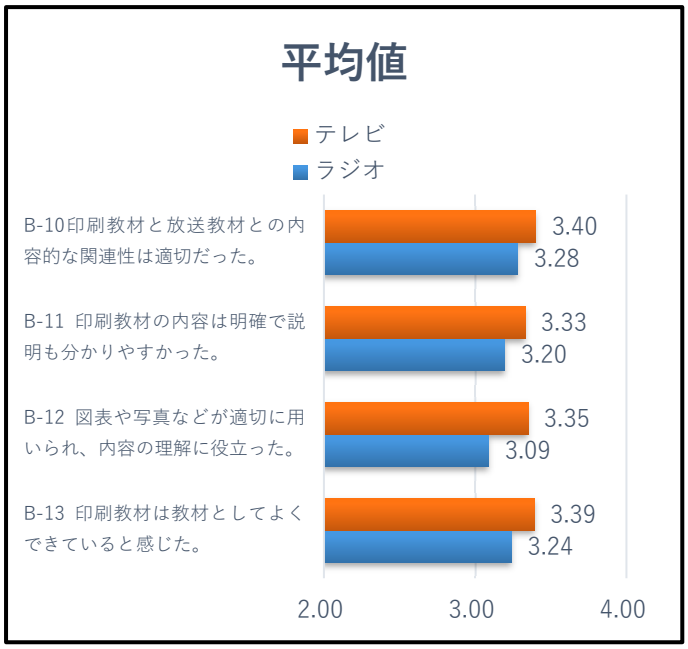
図２－３８【学部】回答者全体の印刷教材の評価（時系列）

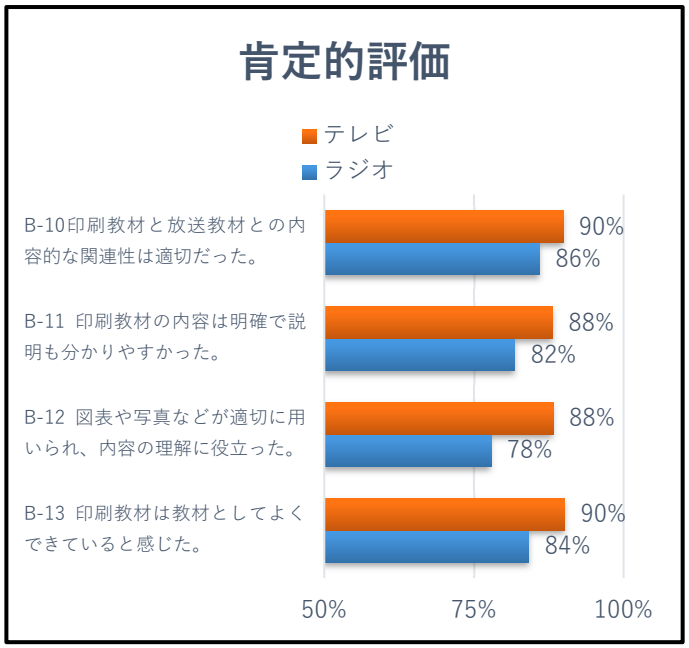




メディア別に印刷教材の評価を見ると（図２−３９）、すべての項目で 88%～90%で、テレビ科目の評価の方が高かった。

図２－３９【学部】メディア別の印刷教材の評価



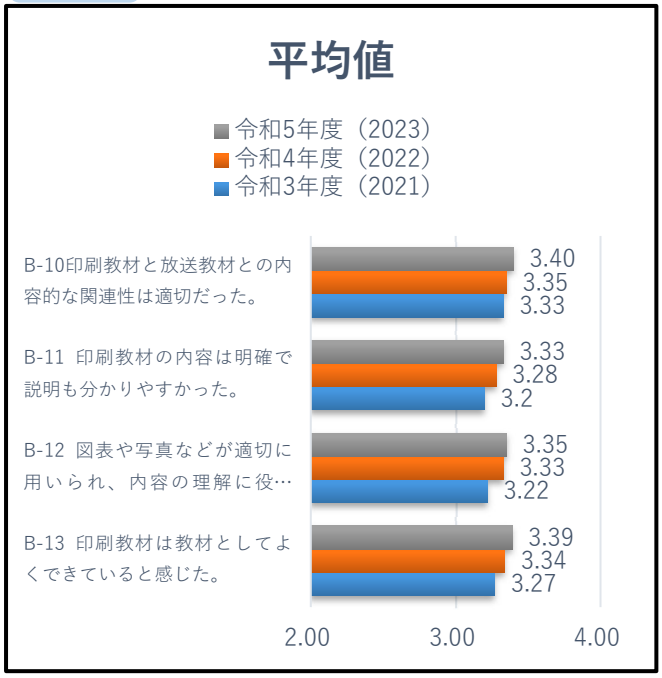


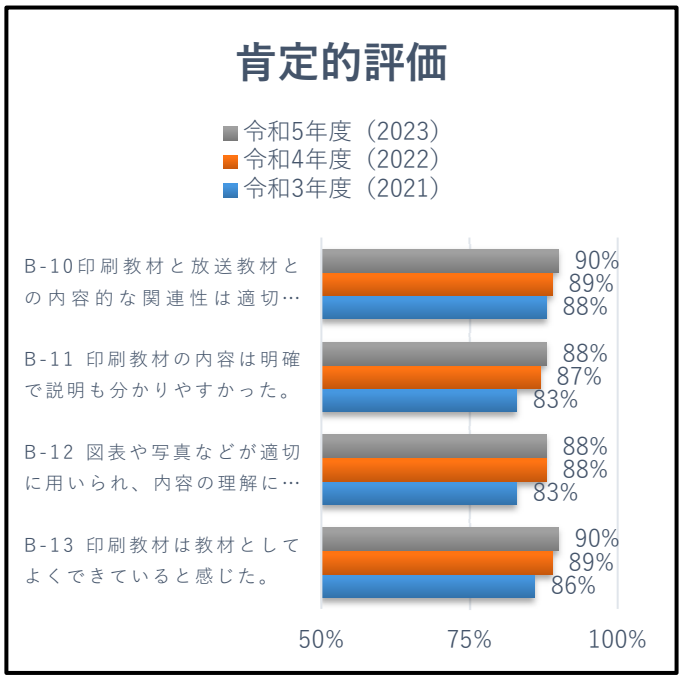
メディア別の印刷教材の結果を時系列で見ると（図２－４０）、テレビ科目では、本年度は、(B-12) を除いて昨年度より評価が上がっていた。

一方、ラジオ科目については、(B-10)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」においては、86％と昨年より３ポイント下がった。その他の項目は上昇か横ばい傾向であった。

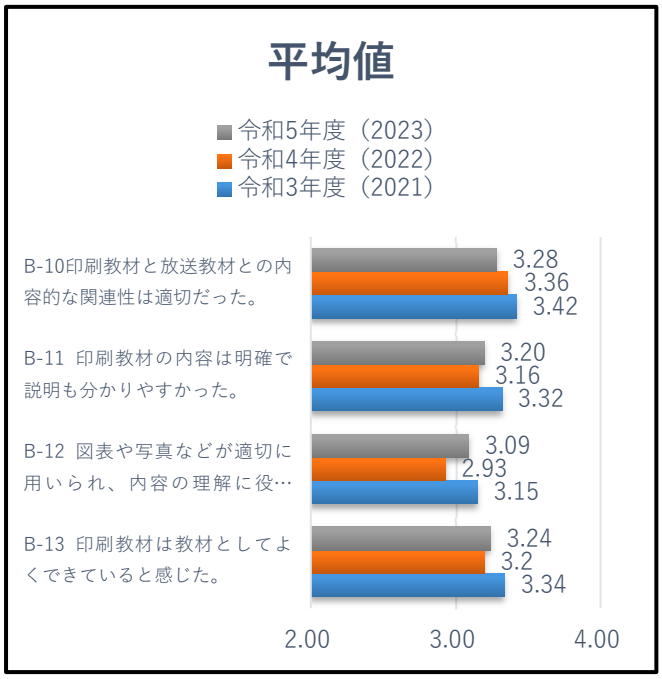
図２－４０【学部】メディア別の印刷教材の評価（時系列）

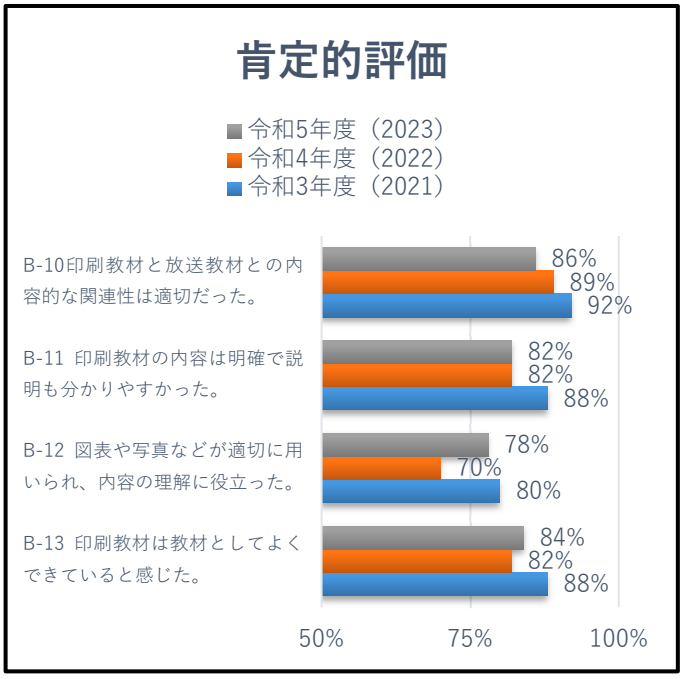
テレビ





ラジオ

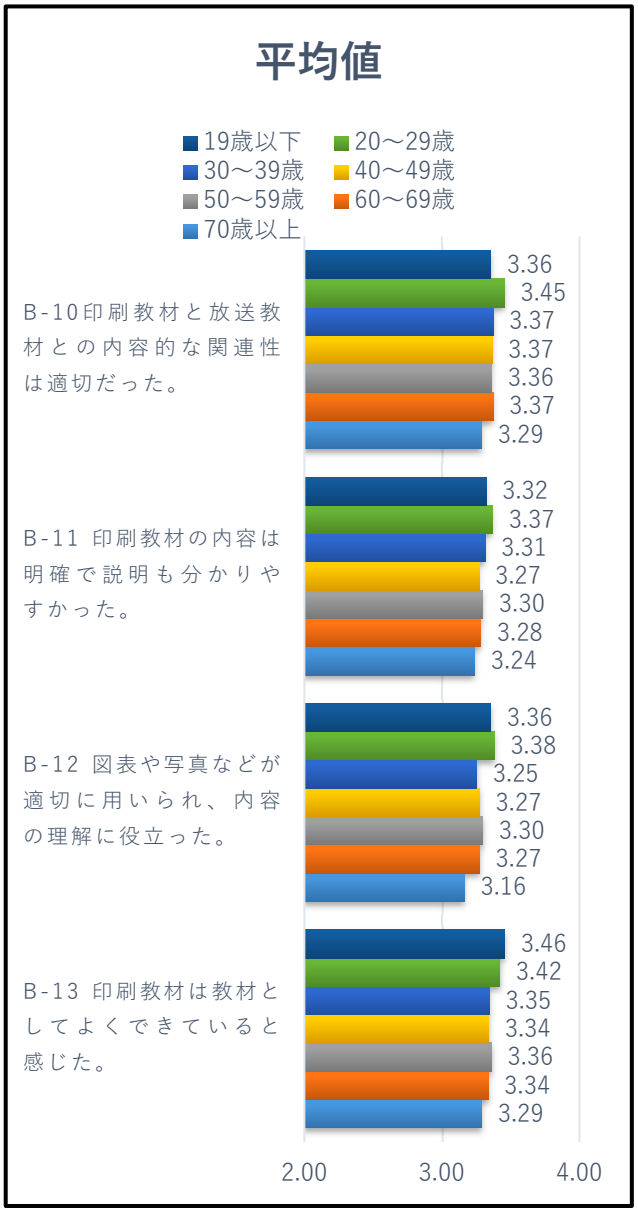


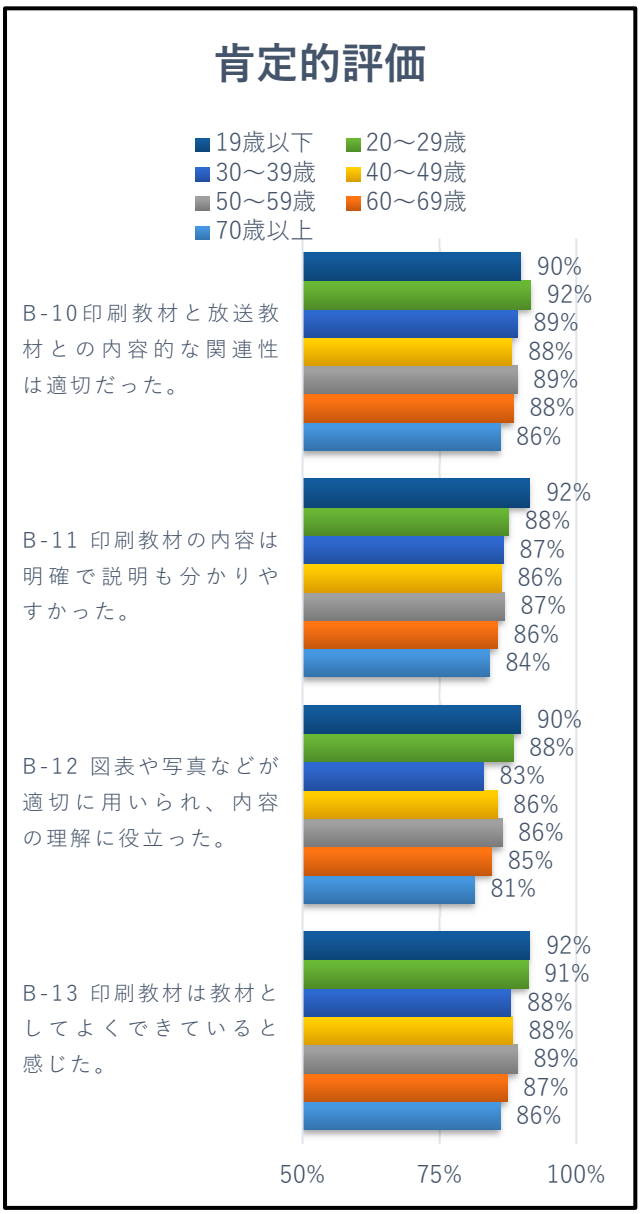


年齢階層別に印刷教材の評価を見ると（図２－４１）、(B-10)以外で 19 歳以下が全体に高評価であった。

反対に評価が低かったのは 70 歳以上で、(B-12)の項目において、81％で最も評価が低かった。

図２－４１【学部】年齢階層別の印刷教材の評価

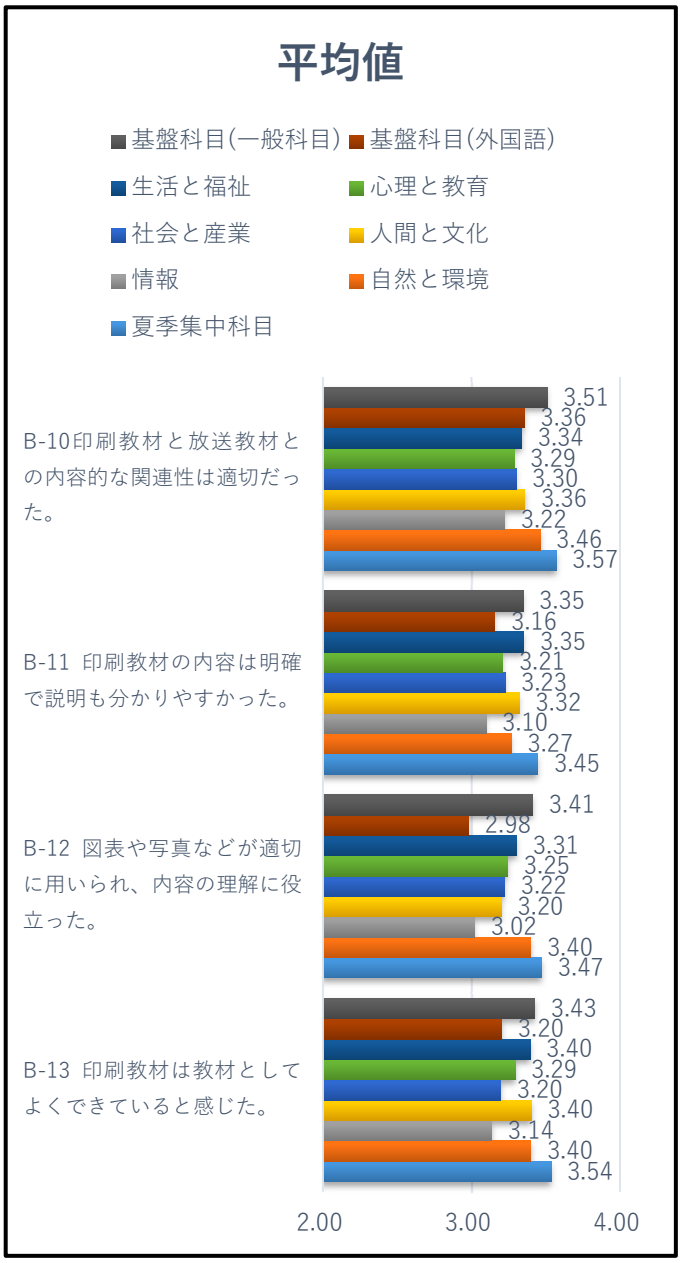


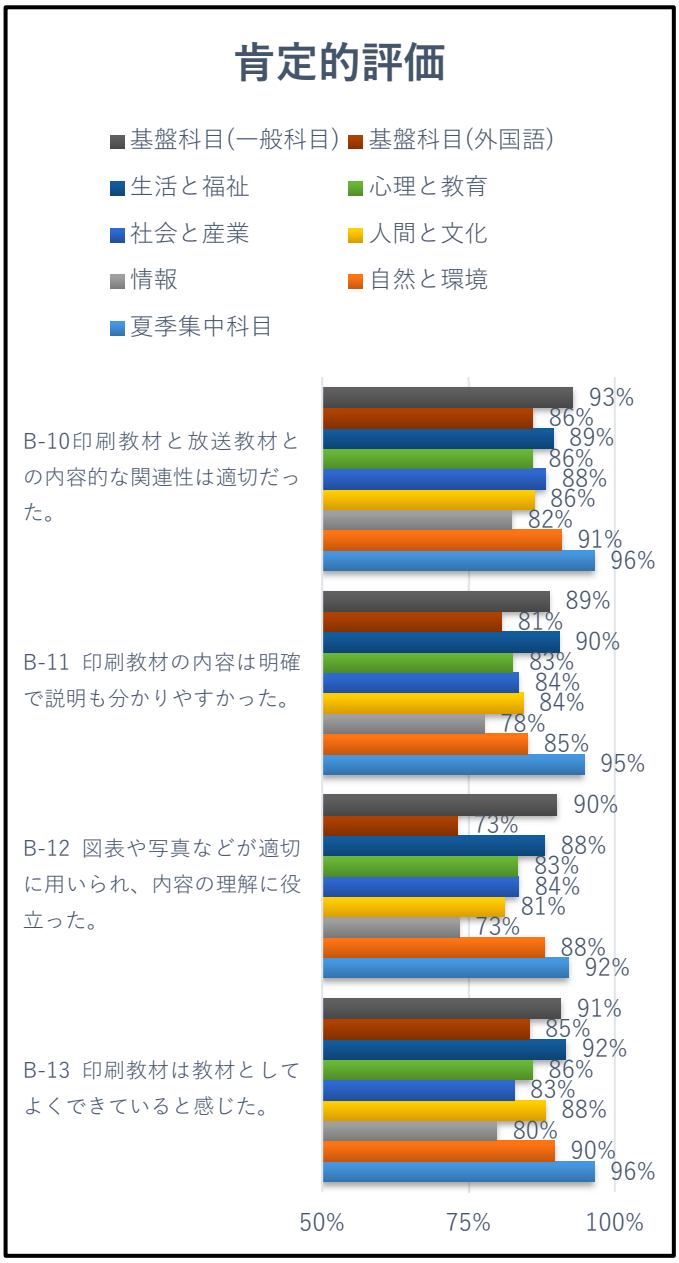


所属コース別に印刷教材の評価を見ると（図２−４２）、「夏季集中科目」が、全ての項目で 90%以上の評価であった。全ての項目で「基盤科目（一般科目）」の評価も高かった。

反対に評価が低かったのは、(B-12) の「情報」「基盤科目（外国語）」で 73%であった。

図２－４２【学部】所属コース別の印刷教材の評価



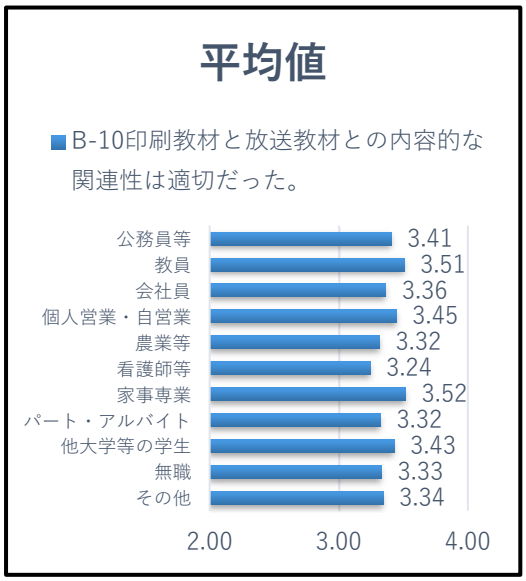


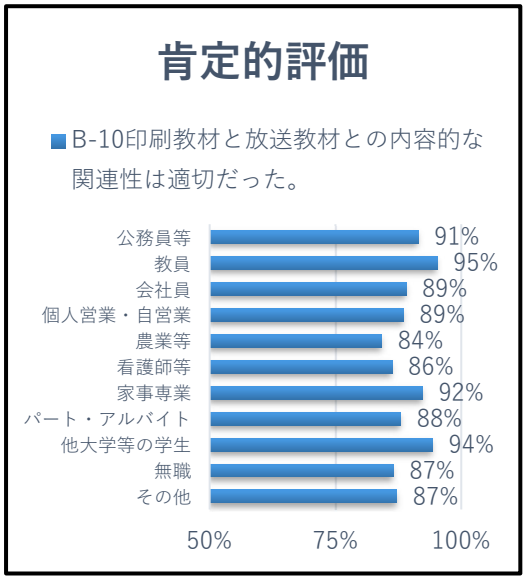
職業別の印刷教材の評価（次頁図２－４３）で、特徴的であったのは、「教員」の評価が高く、全ての項目で、1,2 位の評価であった。

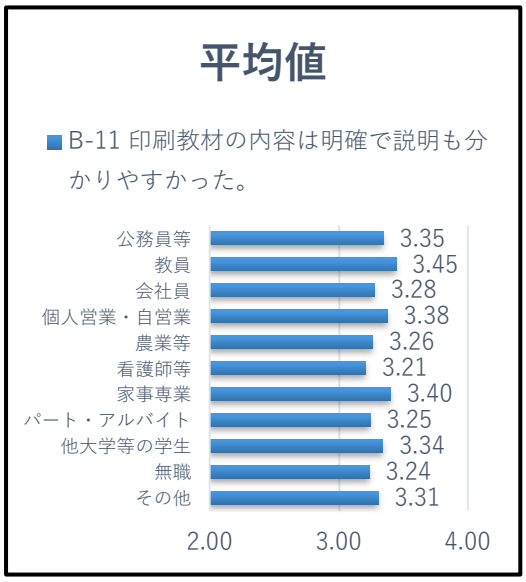
(B-10)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」では「他大学生等の学生」の評価も高かった。

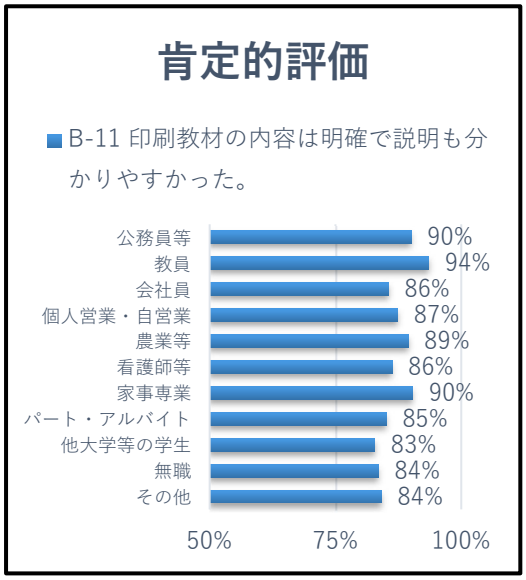
反対に、(B-12)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」では、「無職」が 82%と最も評価が低かった。

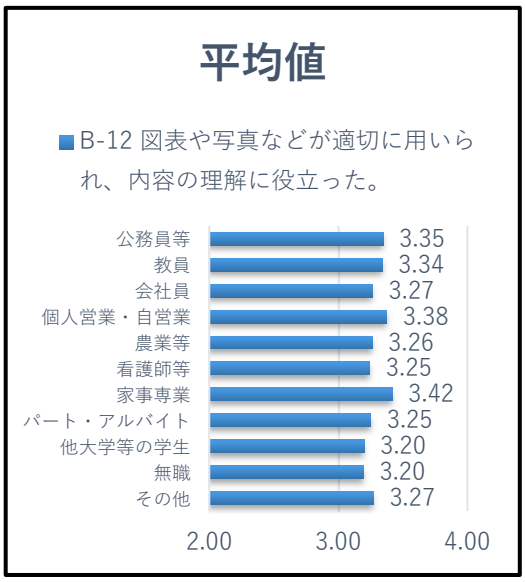
図２－４３【学部】職業別の印刷教材の評価

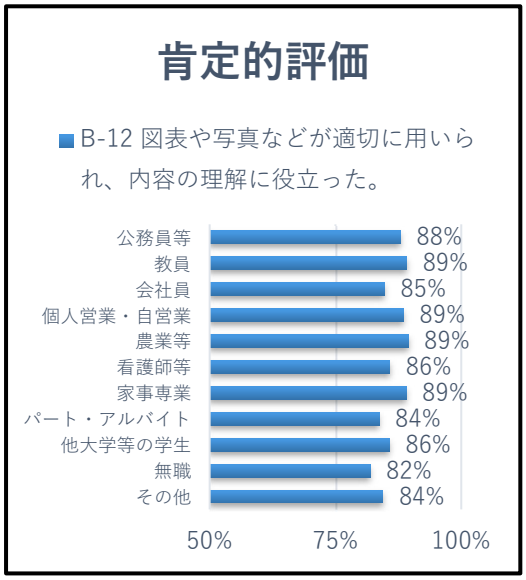


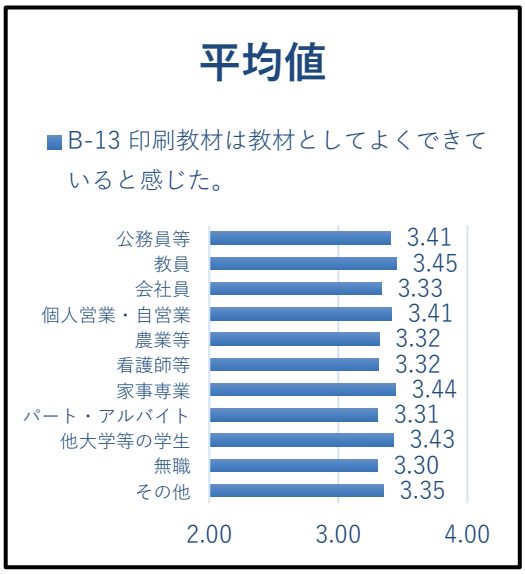


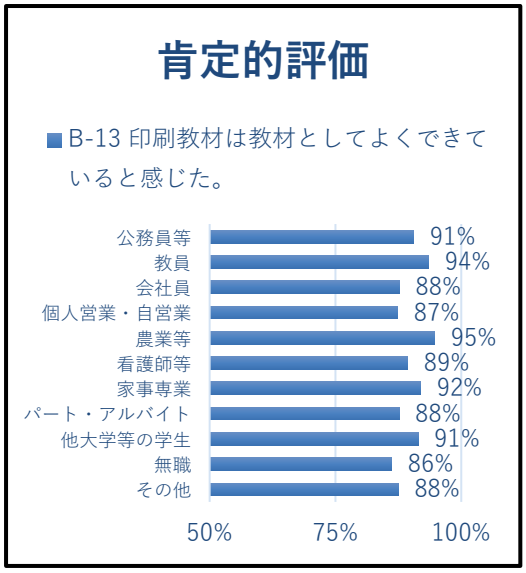









平均値
B-13 印刷教材は教材としてよくできていると感じた。
公務員等 3.41
教員 3.45
会社員 3.33
個人営業・自営業 3.41
農業等 3.32
看護師等 3.32
家事専業 3.44
パート・アルバイト 3.31
他大学等の学生 3.43
無職 3.30
その他 3.35
2.00
3.00
4.00

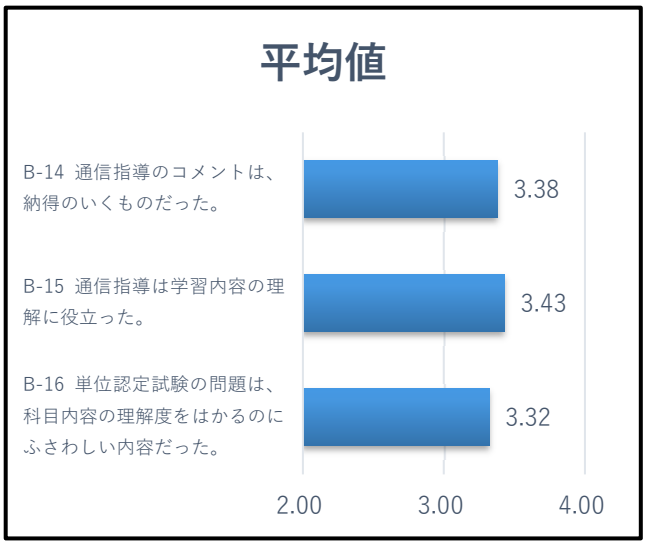

肯定的評価
B-13 印刷教材は教材としてよくできていると感じた。
公務員等 91%
教員 94%
会社員 88%
個人営業・自営業 87%
農業等 95%
看護師等 89%
家事専業 92%
パート・アルバイト 88%
他大学等の学生 91%
無職 86%
その他 88%
50%
75%
100%

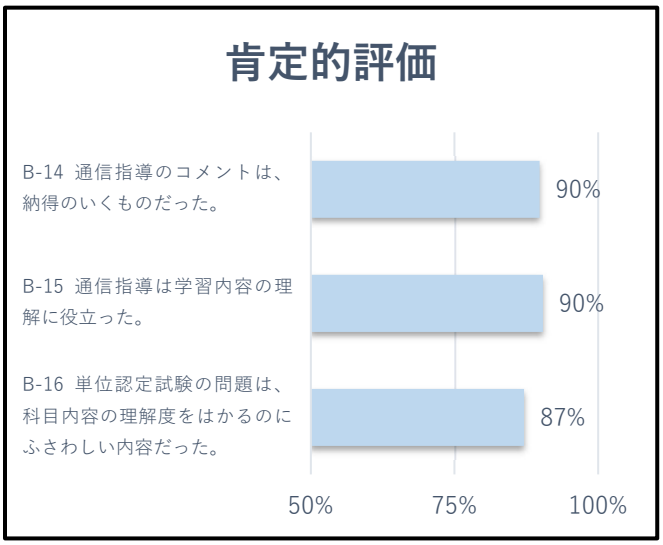
（５）通信指導・単位認定試験

最後に通信指導・単位認定試験の評価について項目ごとに見ていくことにする。

通信指導・単位認定試験については（図２−４４）、全ての項目で 87〜90%と同水準であった。

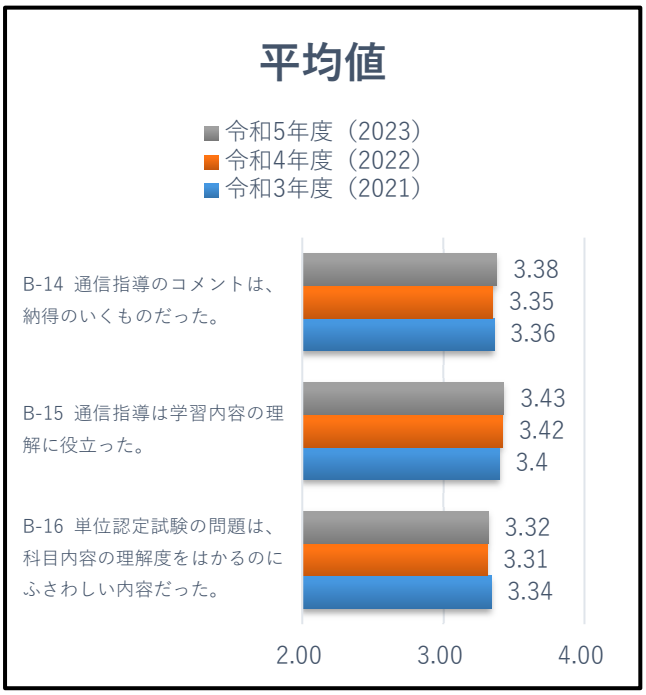
図２－４４【学部】回答者全体の通信指導・単位認定試験の評価

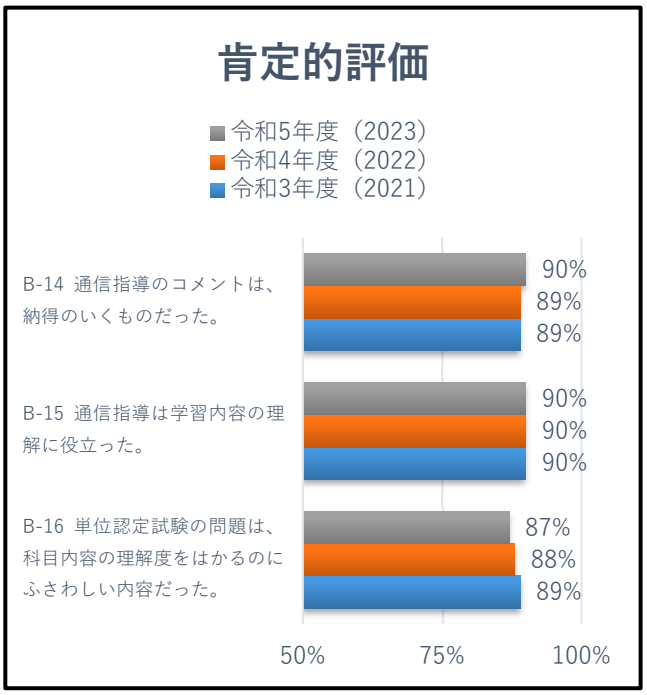




通信指導・単位認定試験の評価を時系列で見ると（図２−４５）、本年度は、下記の３項目全てで、昨年度とほぼ同水準であった。

図２－４５【学部】回答者全体の通信指導・単位認定試験の評価（時系列）

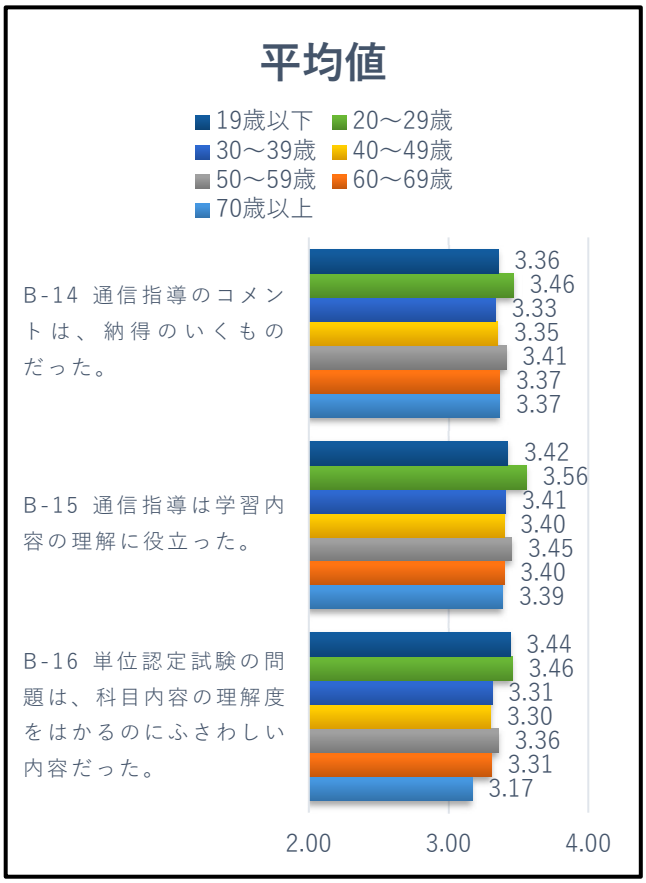


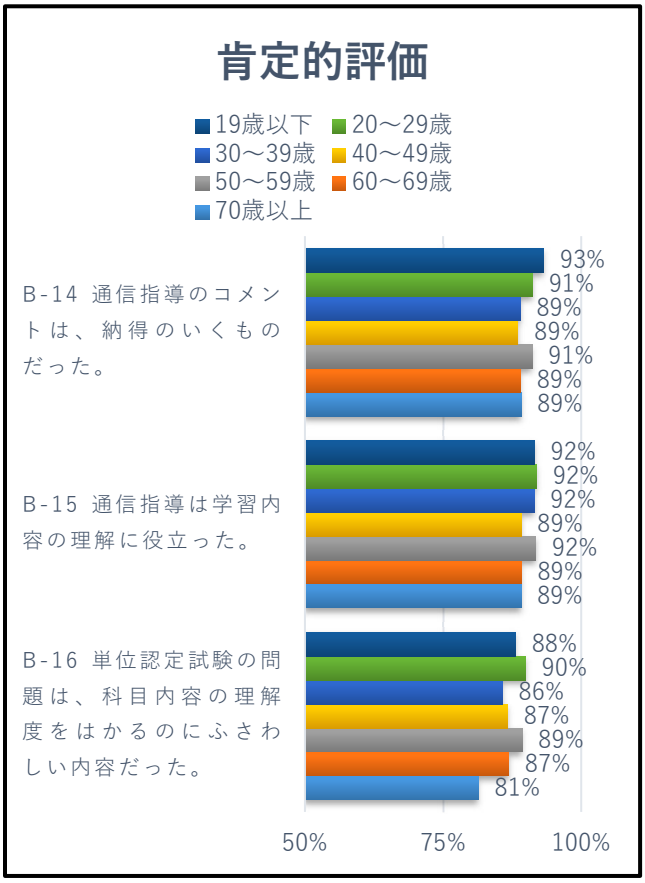


年齢階層別に通信指導・単位認定試験の評価を見ると（図２－４６）、全ての項目で 19 歳以下と 20 歳代、50 歳代の評価が高かった。

反対に全般的に評価が低かったのは 70 歳以上で、中でも項目(B-16)では 81%と最も低い評価であった。

図２－４６【学部】年齢階層別の通信指導・単位認定試験の評価

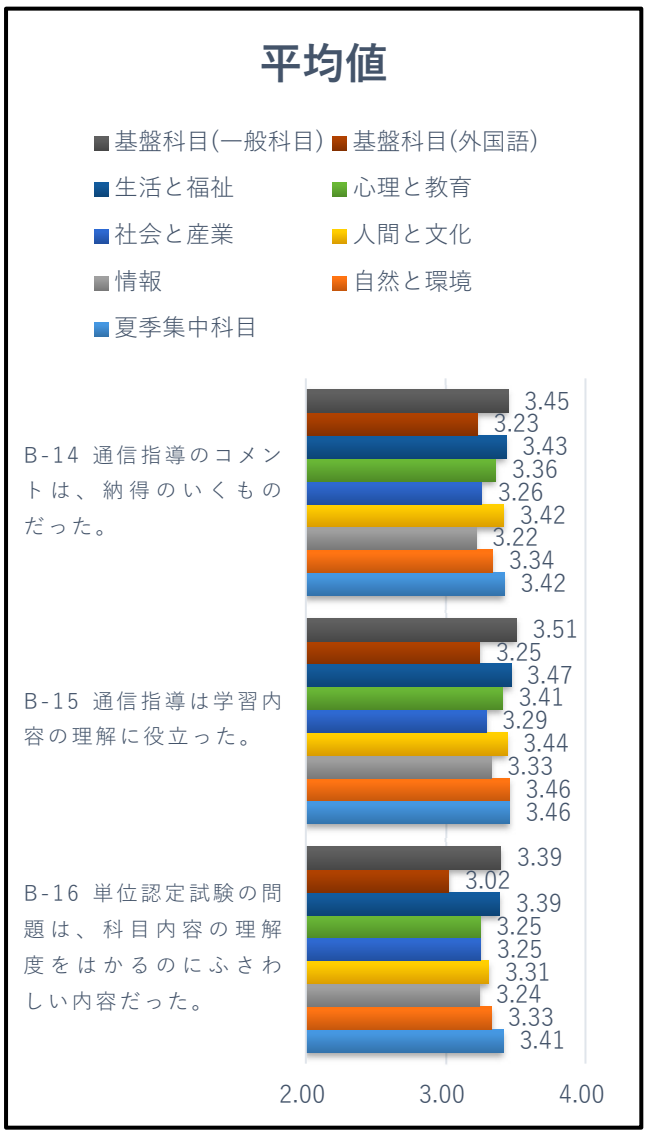


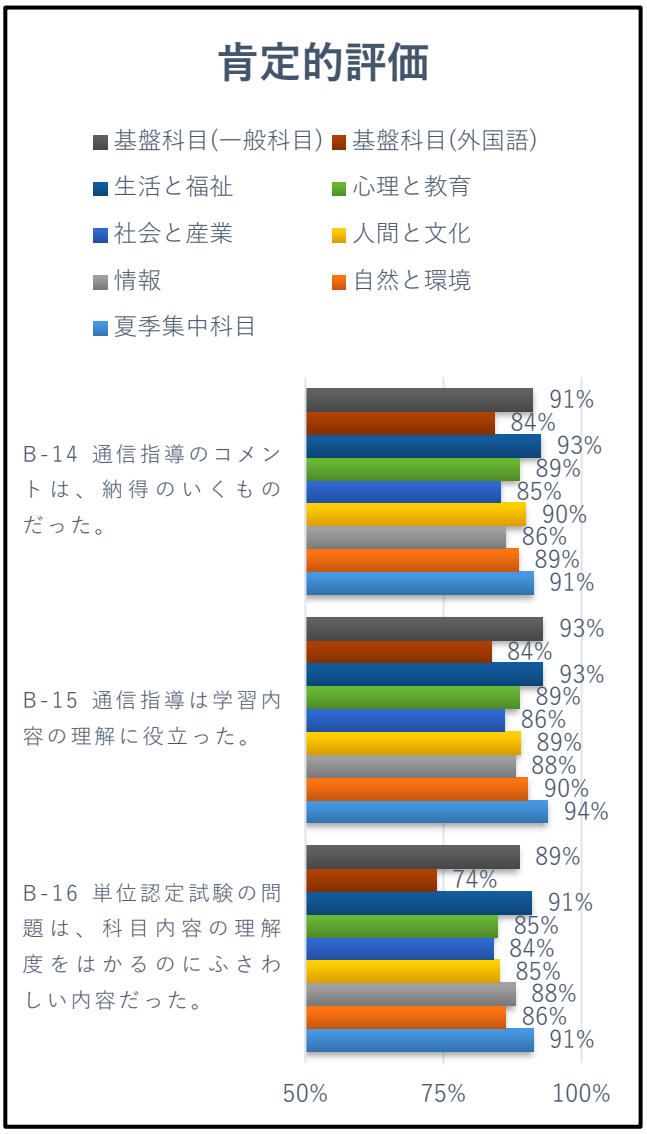


所属コース別に通信指導・単位認定試験の評価を見ると（図２－４７）、「生活と福祉」「夏季集中科目」の評価が高い傾向が見られた。

反対に評価が低いのは、(B-16)「単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった」では「基盤科目（外国語）」が 74%と目立って低かった。

図２－４７【学部】所属コース別の通信指導・単位認定試験の評価



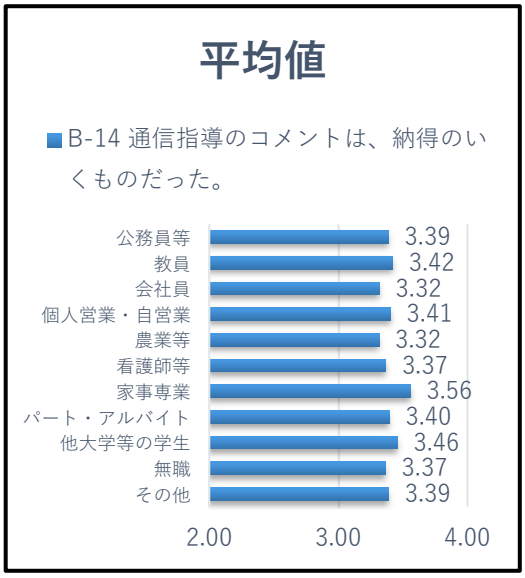


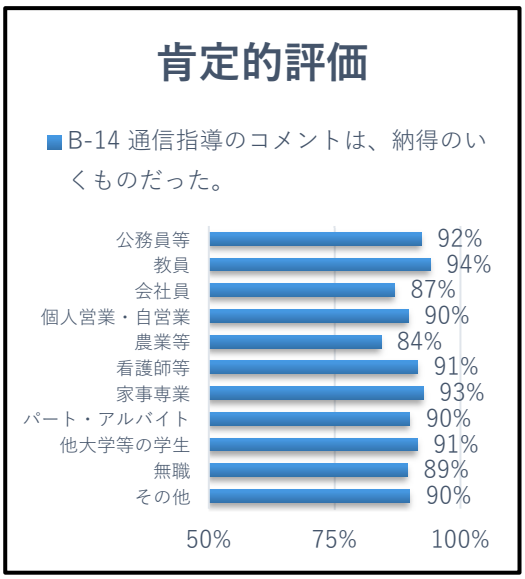
職業別に通信指導・単位認定試験の評価を見ると（次頁図２－４８）、(B-14)「通信指導のコメントは、納得のいくものだった」では、「教員」（94%）「家事専業」（93%）「公務員等」（92%）と評価が高く、反対に「農業等」が 84%と低かった。

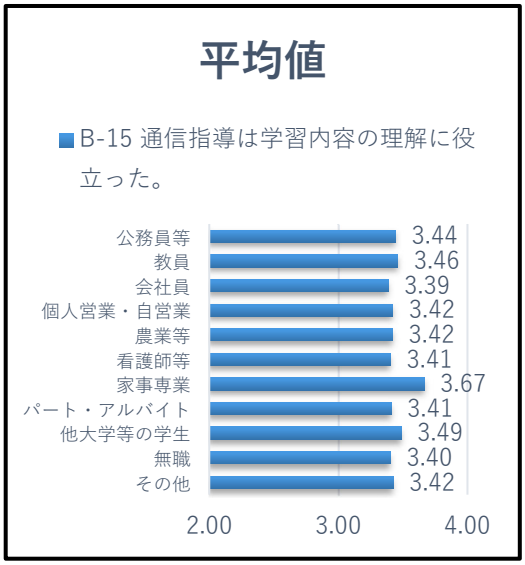
(B-15)「通信指導は学習内容の理解に役立った」では、「家事専業」（95%）「教員」（94%）の評価も高かった。一方、最も評価が低かったのは「農業等」（84%）であった。

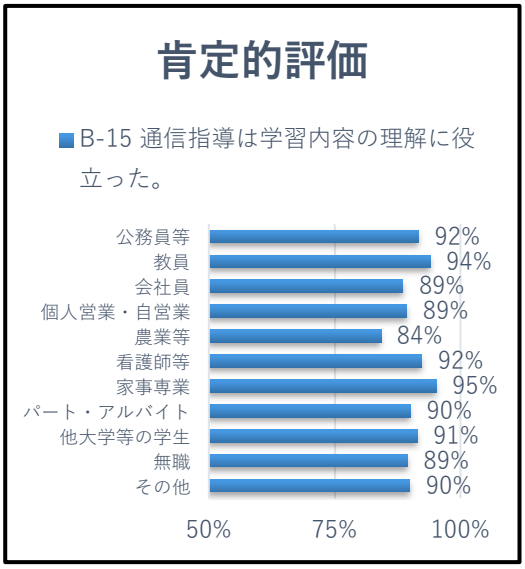
(B-16)「単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった」は「農業等」が 95%と最も高かった。

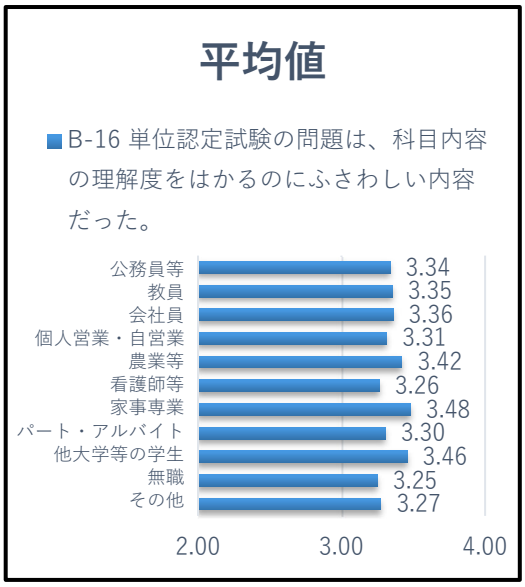
図２－４８【学部】職業別の通信指導・単位認定試験の評価

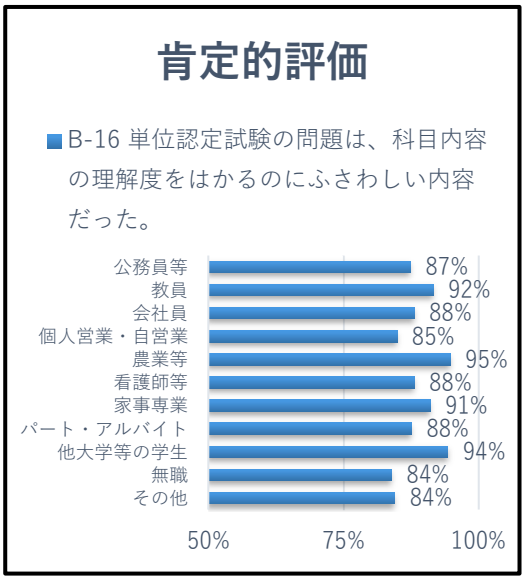












Ⅱ－1－4. 学部の重回帰分析

重回帰分析とは、数量データである目的変数と説明変数の関係を調べ、重回帰式（モデル式）を導き出す解析手法である。

今回も、全体の満足度（B-21）「この科目の内容には全体として満足している」を目的変数とし、調査票Ⅰ.A「授業への取り組み姿勢」を除く B-1～B-20 の各項目を説明変数として分析を試みる。

本調査の選択肢はカテゴリーデータであるが、平均値の算出と同様『あてはまる→4』のように数値をポイント化する事で数量として扱い、重回帰分析を適用する。

最終的には「全体の満足度」に寄与する項目を明らかにすると共に、その影響力の強さ知る事を目的としている。

項目名	変数	対象
目的変数	y	全体の満足度：B-21
説明変数	x1x2、・・・	各項目B-1～B-20：全20問（項目）
係数	a1a2、・・・	重回帰分析によって得られる偏回帰係数

重回帰式 y =a0＋a1x1＋a2x2＋・・・＋a20x20（説明変数が全20問の場合）

サンプルサイズが十分でない場合や説明変数が多すぎると、全体の満足度を表すのに適した重回帰式を得られない事が経験的に分かっているため、重回帰分析の中で、説明変数間で強い相関関係がある場合、その一方の項目を自動的に削除する「変数減少法」を用いて解析を行った。

使用したデータは質問項目Ⅰ.B の全設問を全て回答した 4881 人のローデータを使用した。

その結果は以下の通りとなった。

■　分析精度

自由度修正済み決定係数とは、得られた重回帰式が目的変数に対してどれだけ説明力(寄与度)があるかを示す指標で、「1」に近いほど良い結果で、この分析では 0.755 となった。

ダーヴィンワトソン比とは、残差同士の系列相関（自己相関）を示す指標で 0～4 までの値を示し、1 以下や 3 以上だと残差（誤差）に規則性があり、解析自体あるいはデータ自体に問題があり、「2」近辺の値ならよいとされるもので、その値は 2.015 となった。以上の結果から、問題のない結果が得られた事が示されている。

◆分析精度

決定係数	0.755
自由度修正済み決定係数	0.755
ダーヴィンワトソン比	2.015
誤差の標準偏差	0.377

今回の重回帰分析は、分散分析表が示すとおり、有意水準 0.01 の判定で、かなりの精度で式の当てはまりの良さが確認できた。（有意水準とは危険率と同義で 0.01 の場合、判定を誤る確率が 1%である事を表している）

◆分散分析表

変動	偏差平方和	自由度	不偏分散	分散比	p値	判定
全体変動	2824.632	4880				
回帰による変動	2133.899	11	193.991	1367.446	0.000	[**]
回帰からの残差変動	690.734	4869	0.142			

凡例	有意水準	凡例	有意水準
[**]	0.01	[*]	0.05

下表にある標準偏回帰係数とは説明変数の相互比較を可能にするためのもので、各説明変数の目的変数に対する影響力の度合いがこれで分かる。

その結果から「全体の満足度(B-21)」に寄与する項目で、その寄与度が最も高かったのは、B-18「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」で 0.28、次いで B-19「新しい知識が身につき視野が広がった（0.13)、他に B-13「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」（0.12）と続いていた。

説明変数の影響力の度合いを比較するために、表中の標準偏回帰係数の中で最も小さい B-15（0.02）を基準に、他の項目がその何倍となるか算出してみた。（表中の右端の数値）その結果、高い順に B-18：14.0 倍、B-19：6.5 倍、B-13：6.0 倍となった。

この結果を踏まえ、今後、「全体の満足度」（本年度の肯定的評価 89%）を上げるためには、上位 3 項目、「B-18 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」、「B-19 新しい知識が身につき視野が広がった」、「B-13 印刷教材は教材としてよくできていると感じた」この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）が突出しており、この 3 項目の肯定的評価を上げる事が、効果的であると考えられる。

この 3 項目の肯定的評価について見ると、B-18：90%、B-19：93%、B-13：88%で、それぞれの肯定的評価を上げる余地は、まだ残っていると思われる。

目的変数	標準偏回帰係数	説明変数	判定	B-7 との対比
B-21全体の満足度	0.280	B-18学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった	[**]	14.00
	0.130	B-19新しい知識が身につき視野が広がった	[**]	6.50
	0.120	B-13印刷教材は教材としてよくできていると感じた	[**]	6.00
	0.088	B-5講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった	[**]	4.40
	0.068	B-16単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった	[**]	3.40
	0.051	B-17授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った	[**]	2.55
	0.040	B-3印刷教材の難易度は適切だった	[**]	2.00
	0.031	B-2放送授業の内容は適切な分量であった	[**]	1.55
	0.022	B-7テレビの特性が十分に生かされていると感じた。（ラジオ科目の場合）　映像がなくても十分理解できる内容だと感じた	[**]	1.10
	0.020	B-15通信指導は学習内容の理解に役立った	[**]	1.00
		定数項	[**]	

Ⅱ－2．大学院の分析結果

Ⅱ－2－1．項目平均から見た全体的傾向

評価項目の内容ごとに回答者全体の平均値と肯定的評価を A-1～A-3 等の複数の項目の平均を算出しグラフ化（図２－４９）した。

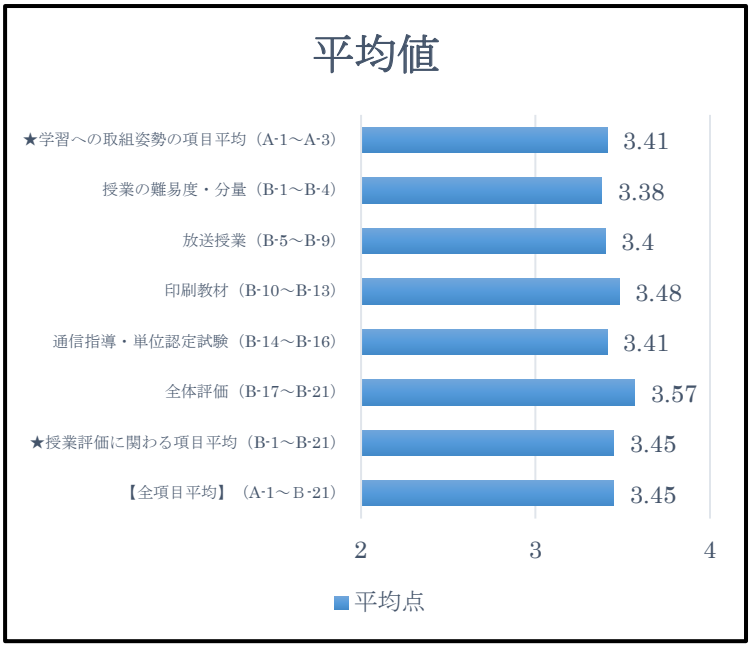
学部同様、肯定的な評価（「あてはまる」＋「ややあてはまる」）の方が（例えば回答者の 80%）イメージしやすく、下図左側の平均値と肯定的評価に齟齬が生じた場合、どちらを採用するか合理的に判断出来ないため、コメントについては肯定的評価を用いて、平均値は参考値として扱っていきたい。

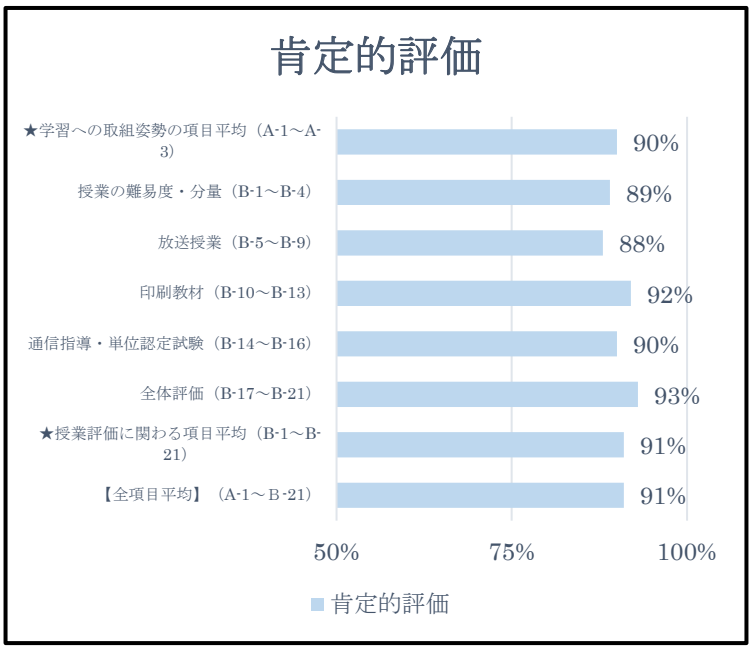
また、新規開設科目の年度比較は、比率の差の検定結果から、大学院は、学部ほど回答者数が多くないため(2023 年度:90 人、2022 年度:332 人、2021 年度:412 人である)、本年度と昨年度の比較では大幅に減少傾向となった。

更に、回答者数が小サンプルの場合、%表記にすると、誤差が大きくなるため、いずれも参考値としてグラフに記載しているが、コメントを割愛する事にする。年齢階層別の「19 歳以下」（0 人）、「20～29 歳」（1 人）、職業別の「他大学等の学生」（1 人）、「看護師等」（2 人）が挙げられる。（「農業等」は一人もいなかった。）

項目平均による全体的傾向をみてみると（図２－４９）、『放送授業』が 88%と他の項目と比べ低かったが、『全体評価』としては 93%と高かった。

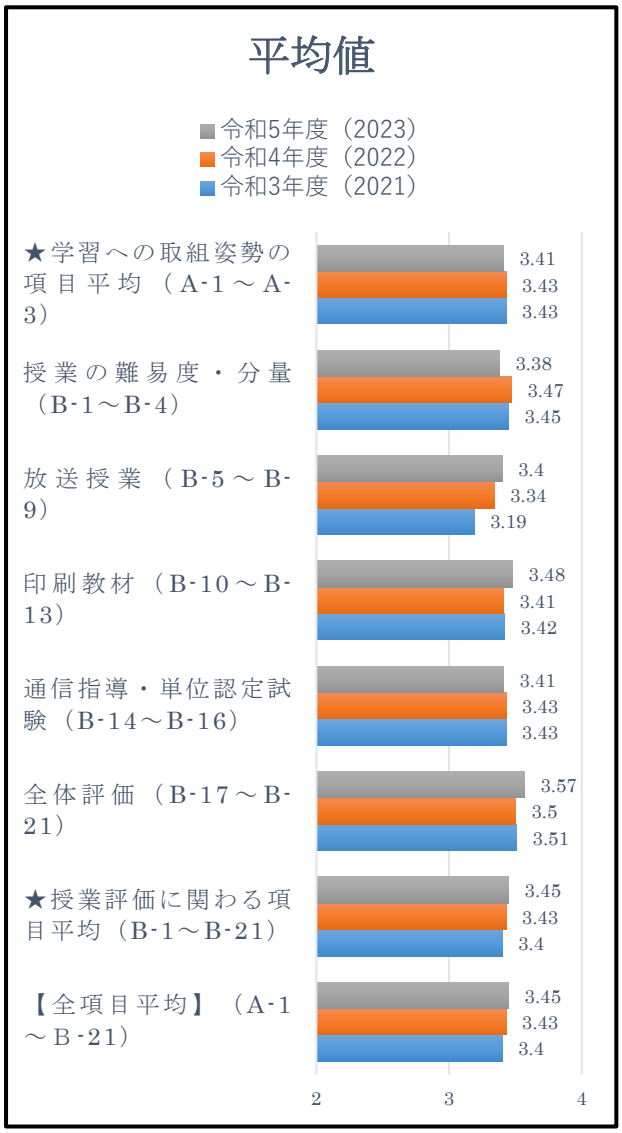
図２－４９【大学院】項目平均による全体的傾向

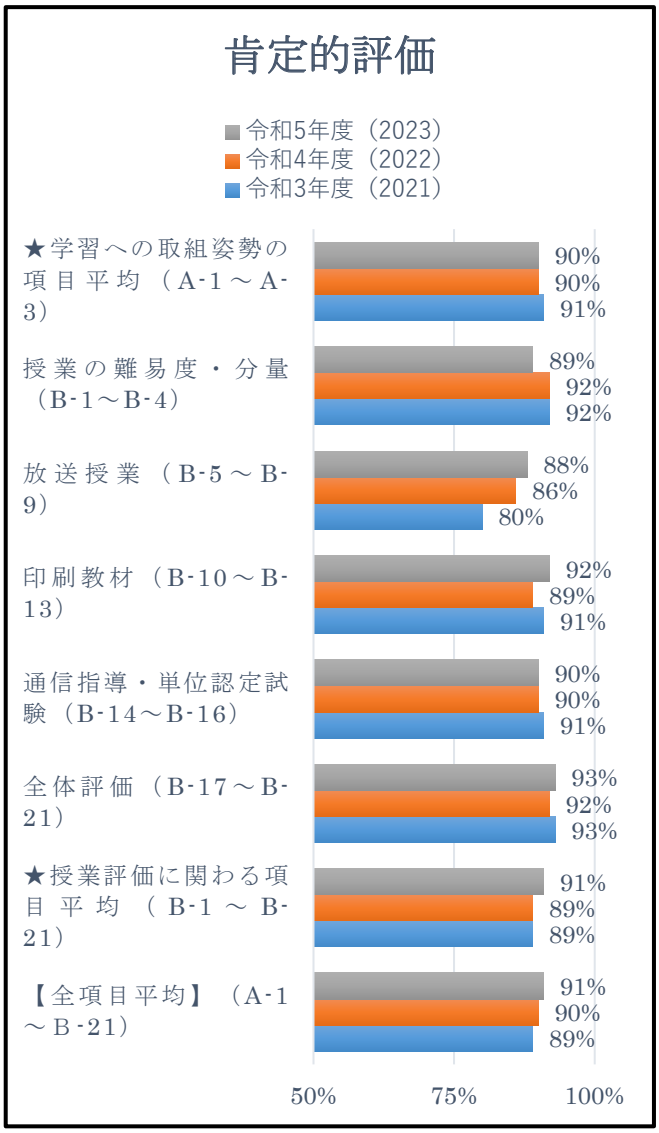




項目平均を科目の開設年度で比較して見ると（図２−５０）、本年度は昨年度と比べ『印刷教材』がプラス３ポイントと上昇したほか、『放送授業』『授業評価に関わる項目平均』もプラス２ポイントであった。『全体の評価』は、ほぼ横ばいであった。

図２－５０【大学院】項目平均による全体的傾向（開設年度比較）

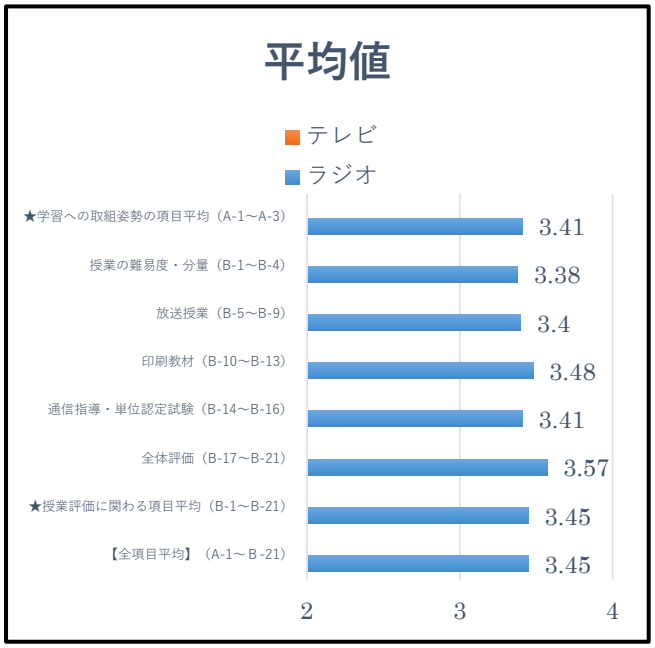


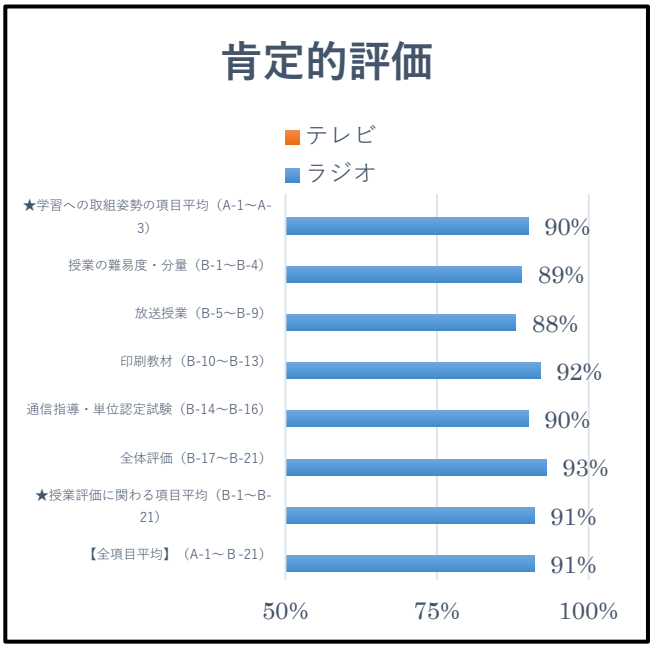


ラジオ科目の（図２−５１）、『印刷教材』『全体評価』の評価が高くなっていた。

図２－５１【大学院】項目平均によるメディア別全体的傾向

※本年度の今回調査対象科目には、大学院のテレビ科目は含まれないため、ラジオ科目のグラフのみを記載している。またこれ以降のページについても同様とする。

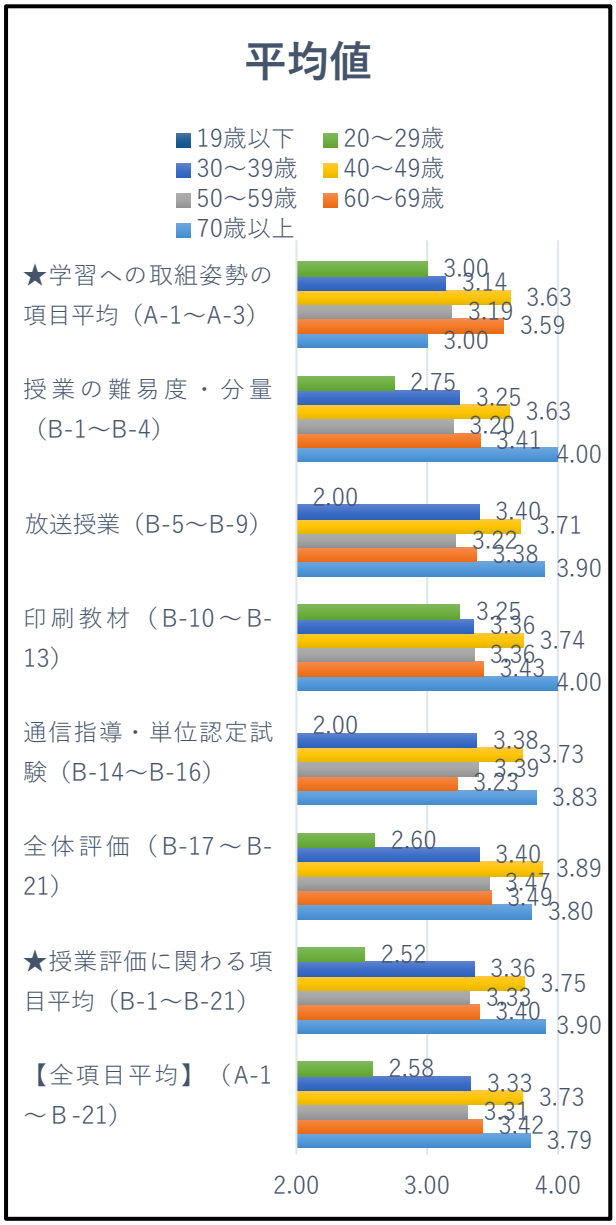


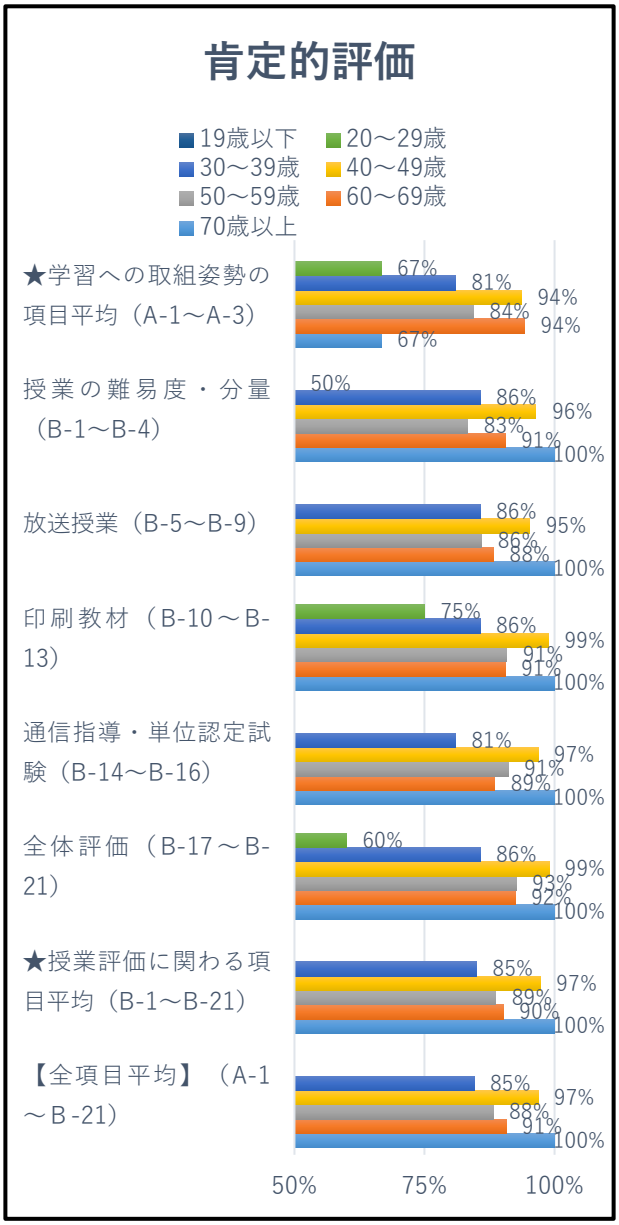


年齢階層別では（図２－５２）、『★学習への取組姿勢の項目平均（A-1～A-3）』を除く項目では、70 歳以上が 100％と評価が高かった。

※「19 歳以下」は回答者数が 0 人「20～29 歳」は回答者数が 1 人で誤差が大きく極端な値を取る場合がある為、コメントを割愛した。また、これ以降のページも同様とする。

図２－５２【大学院】項目平均による年齢階層別全体的傾向

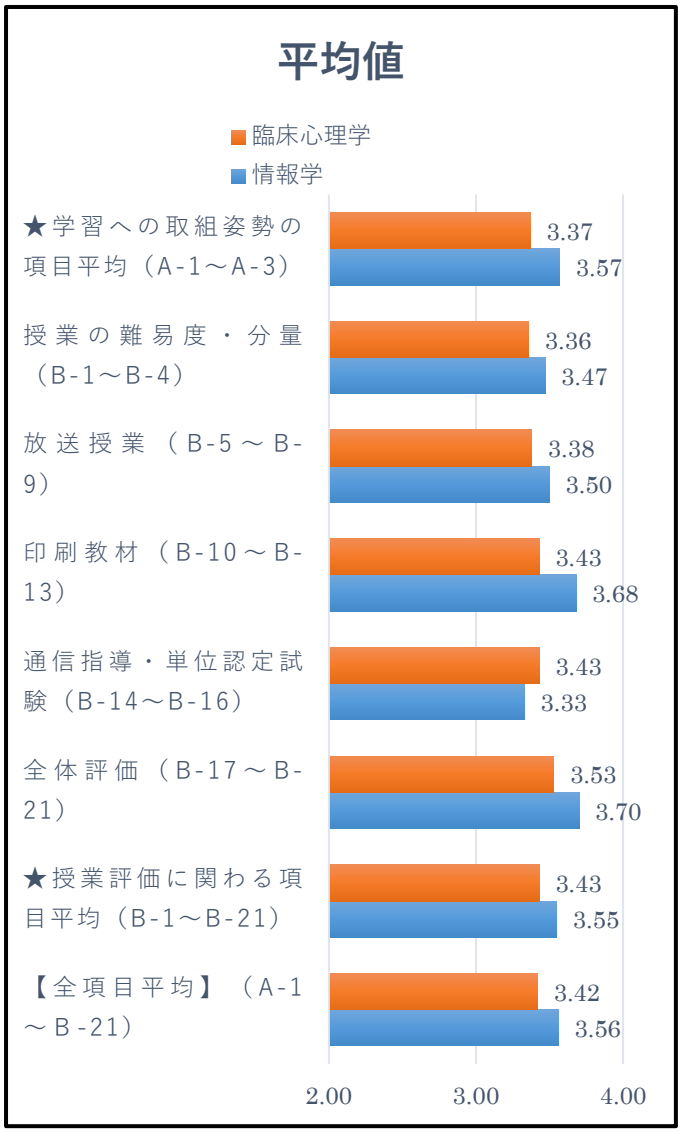


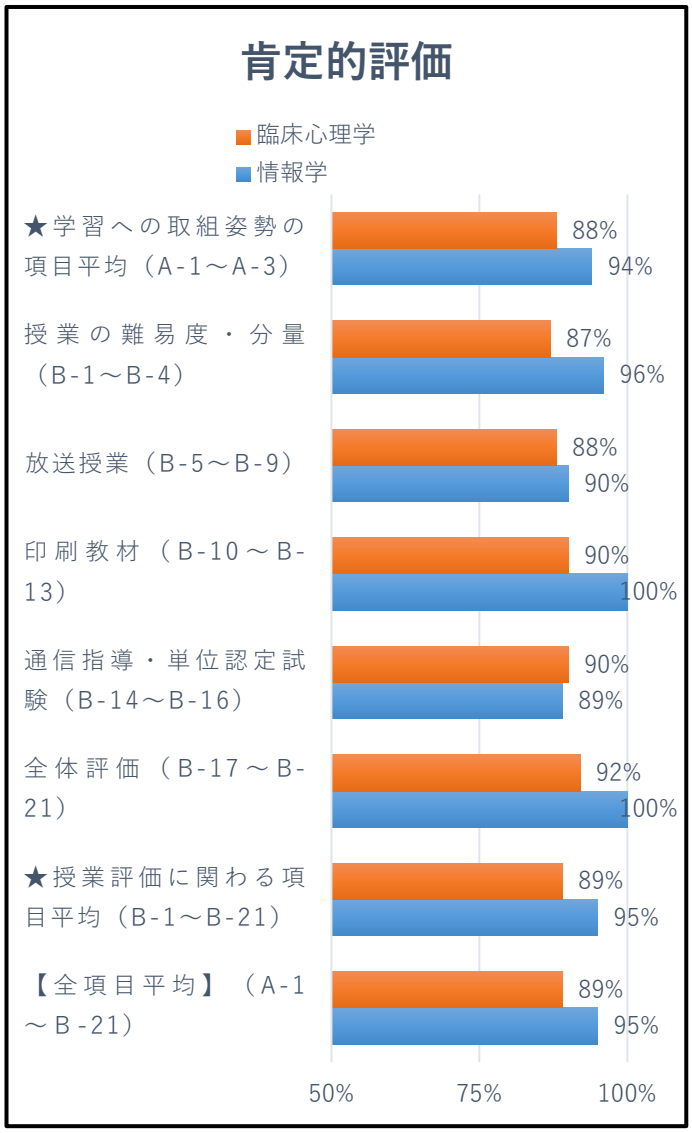


所属プログラム別に項目平均を見ると（図２－５３）、全ての項目で「情報学」の評価が高く、特に『印刷教材』『全体評価』で 100%と高い評価となっていた。

『授業の難易度・分量』は「臨床心理学」の評価が最も低かった。

図２－５３【大学院】項目平均による所属プログラム別全体的傾向

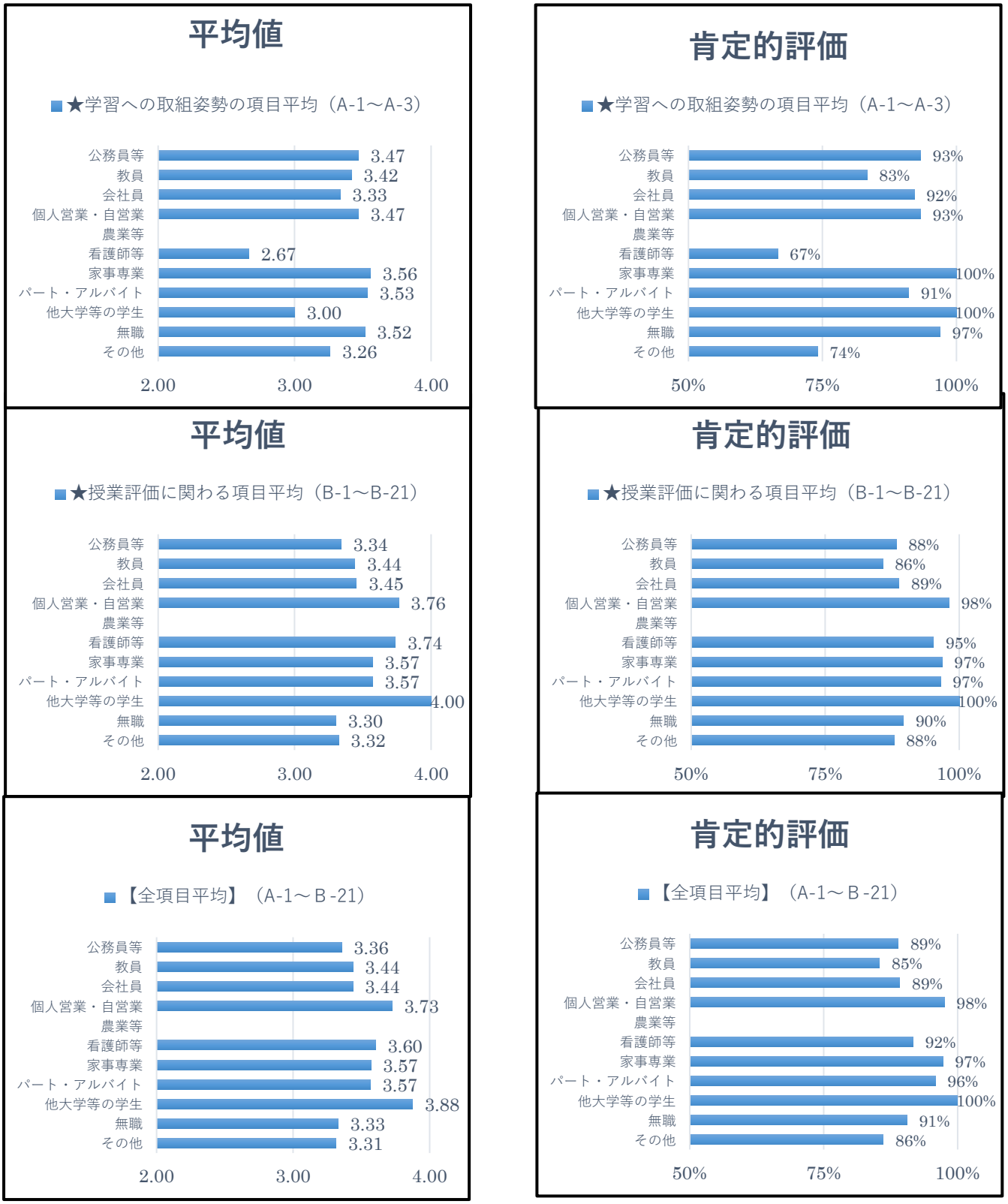




職業別では（図２−５４）、『学習への取組姿勢』は「家事専業」、「他大学生等の学生」が 100%で評価が高く、「看護師等」が 67%と評価が低かった。

※「農業等」は一人もおらずコメントを割愛した。また、これ以降のページも同様とする。

図２－５４【大学院】項目平均による職業別全体的傾向

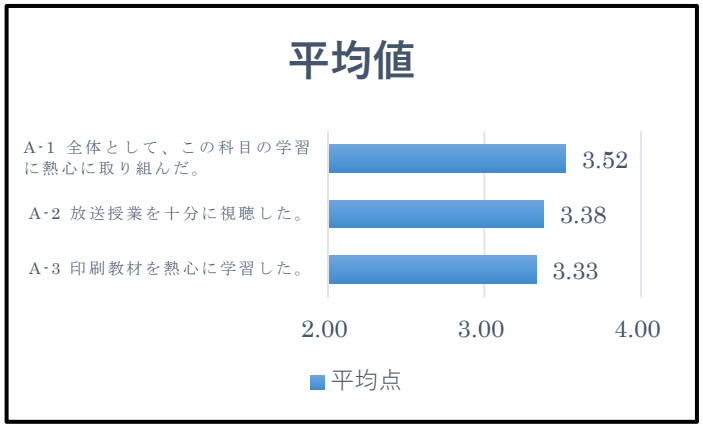


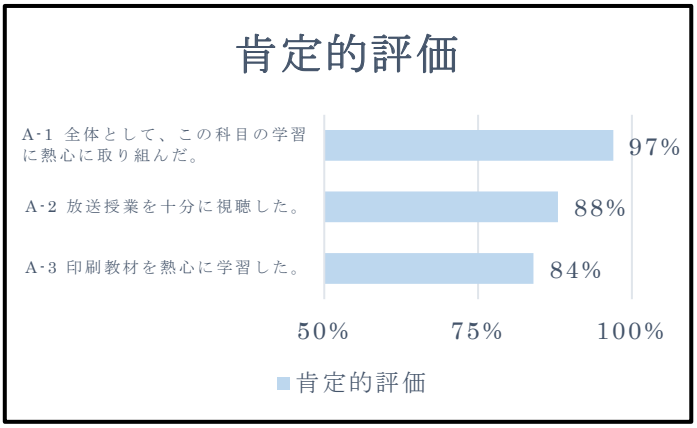
Ⅱ－2－2．学習への取組み姿勢

ここからはそれぞれ評価項目ごとに調査結果を見ていく。

『学習への取組姿勢』(図２－５５）では、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度)」は 97%に達していたが、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は 88%、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」は 84%で、前述の（A-1）に比べると取組姿勢が低かった。

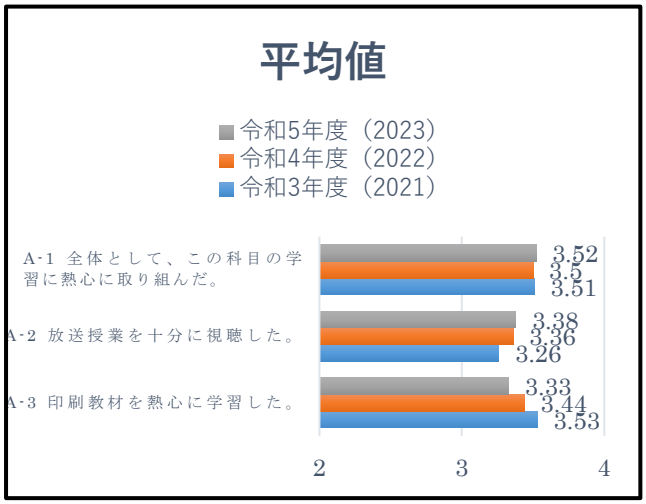
図２－５５【大学院】回答者全体の取組姿勢

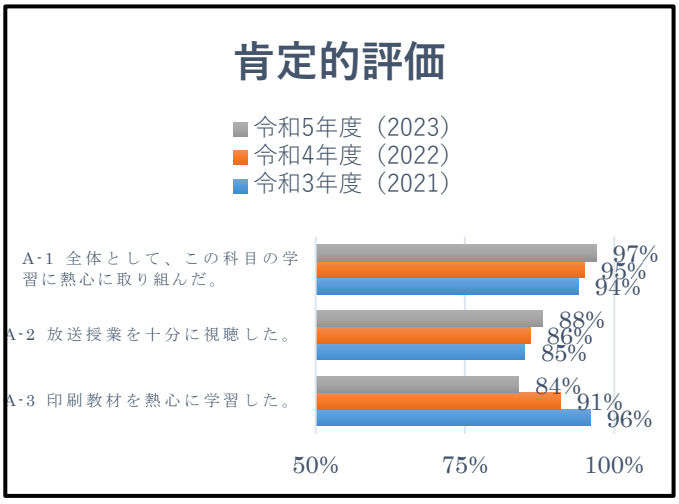




『学習への取組姿勢』を時系列で見ると（図２－５６)、(A-1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ」、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」はわずかな上昇であったが、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」は昨年度より 7 ポイントマイナスであった。

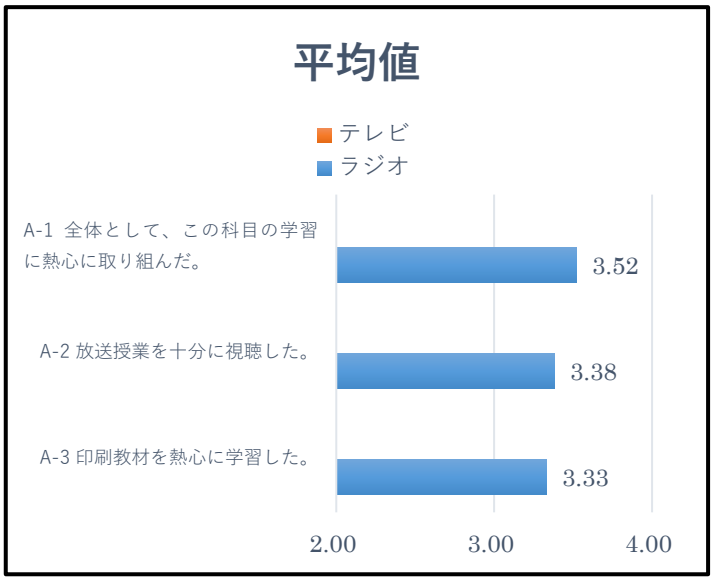
図２－５６【大学院】回答者全体の取組姿勢（時系列）

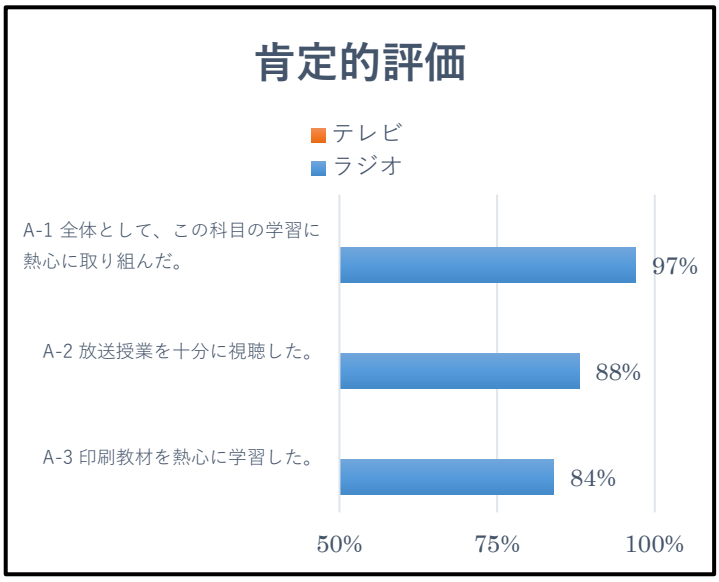




次にメディア別の取組姿勢では（図２－５７）、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」は、97%となっていた。(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」は、84%で低かった。

図２－５７【大学院】メディア別の取組姿勢





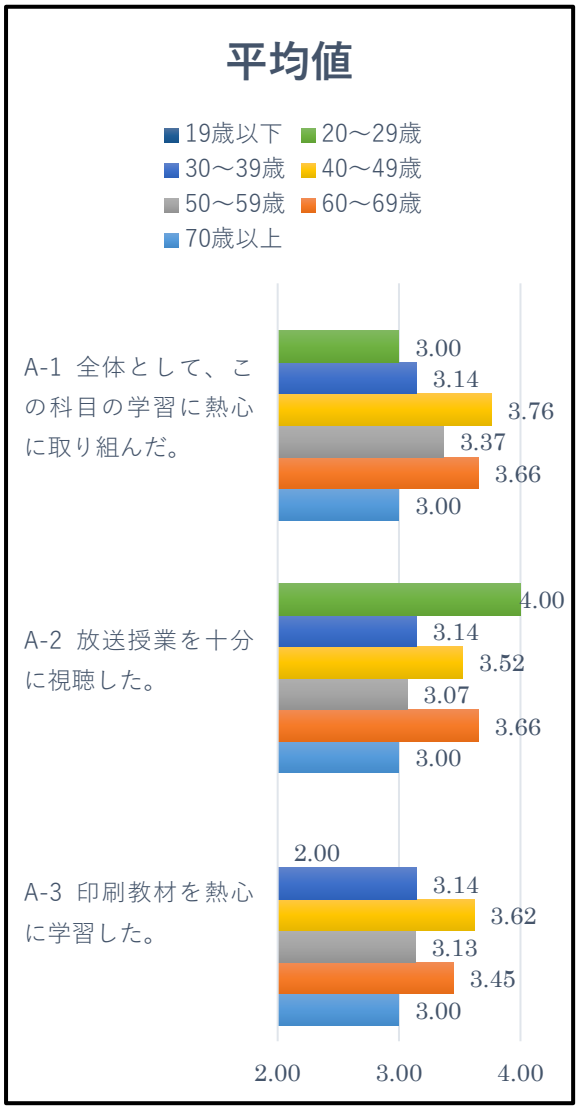
年齢階層別では（図２－５８）、(A-1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度)」は、40 歳代、と 70 歳以上が 100%で評価が高かった。反対に熱心度が低かったのは、30 歳代で、86%であった

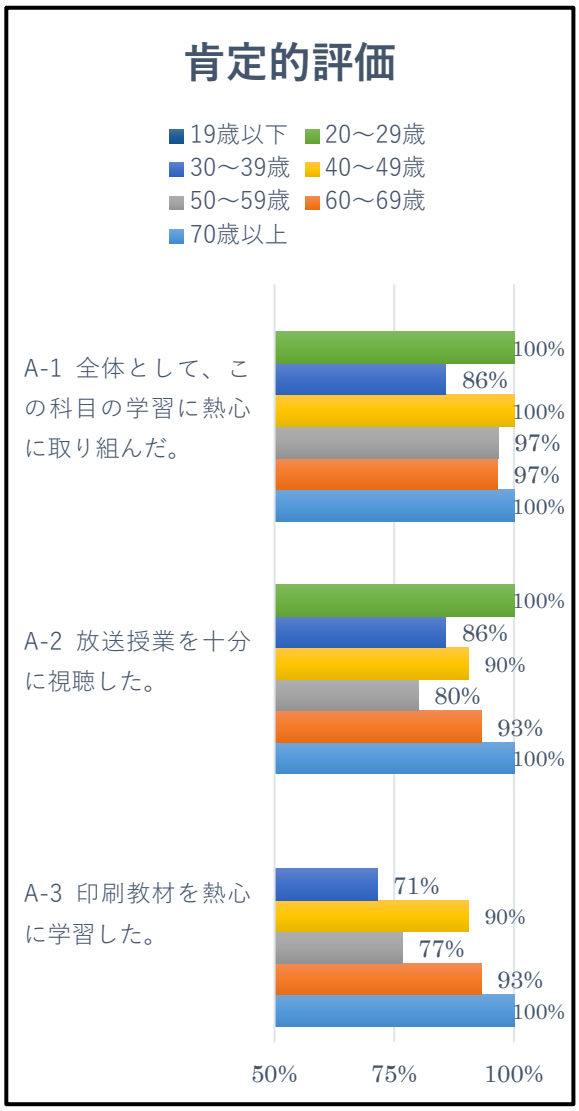
(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は、70 歳以上が 100%と高く、反対に 50 歳代は 80%と低くなっていた。

(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」については、70 歳以上の評価が高かった。

※「19 歳以下」は 0 人で、「20～29 歳」は回答者数が少人数である為、コメントを割愛した。また、これ以降のページも同様とする。

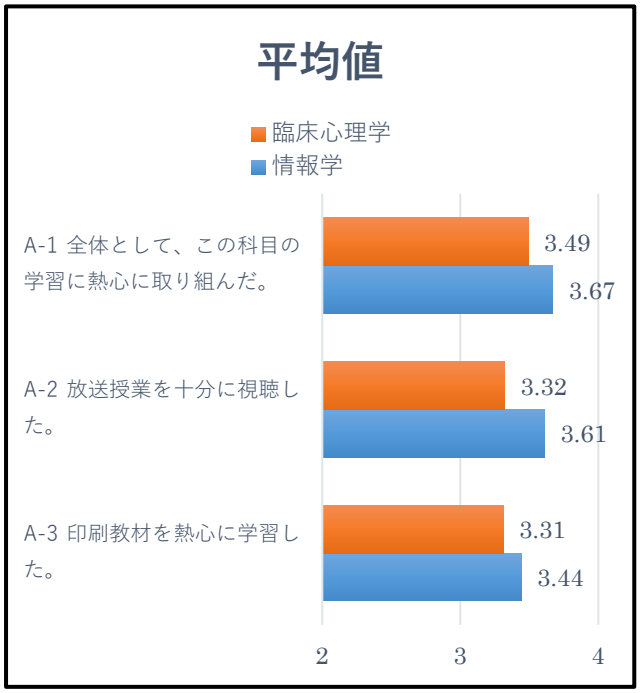
図２－５８【大学院】年齢階層別の取組姿勢

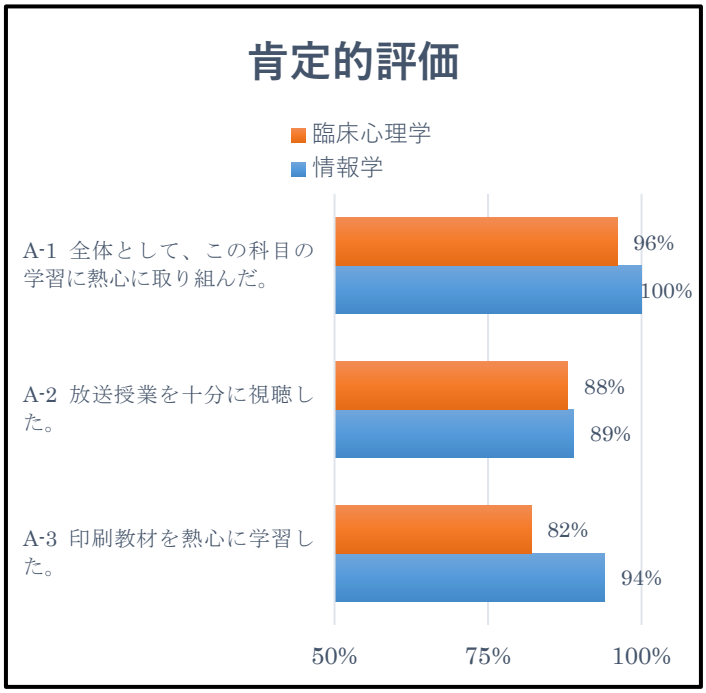




所属プログラム別の取組姿勢（図２－５９）では、全ての項目で「情報学」が高くなっていた。
反対に、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」は、「臨床心理学」の評価が 82%と低かった。

図２－５９【大学院】所属プログラム別の取組姿勢



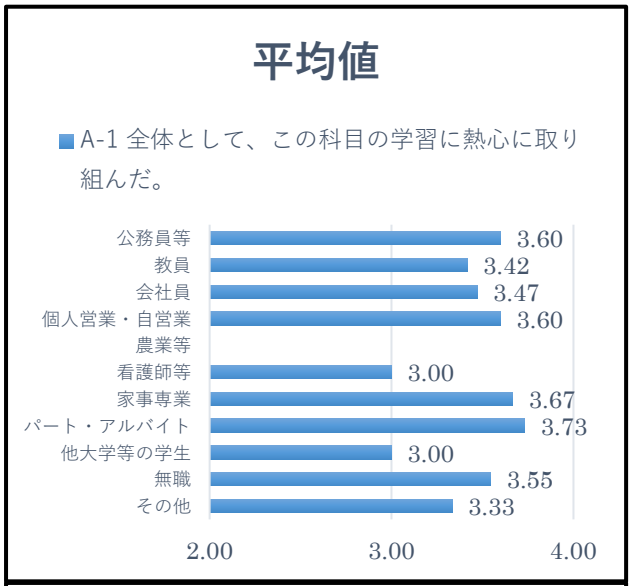


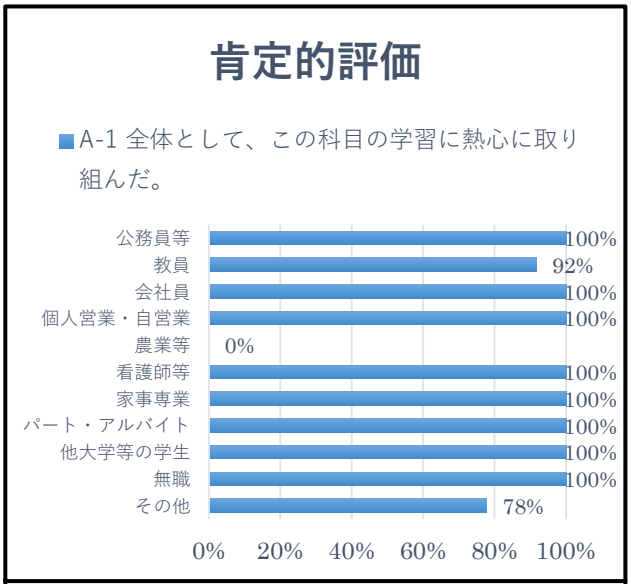
職業別の取組姿勢は（次頁図２－６０）、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度)」では、「教員」、「その他」以外は 100%と高かった。

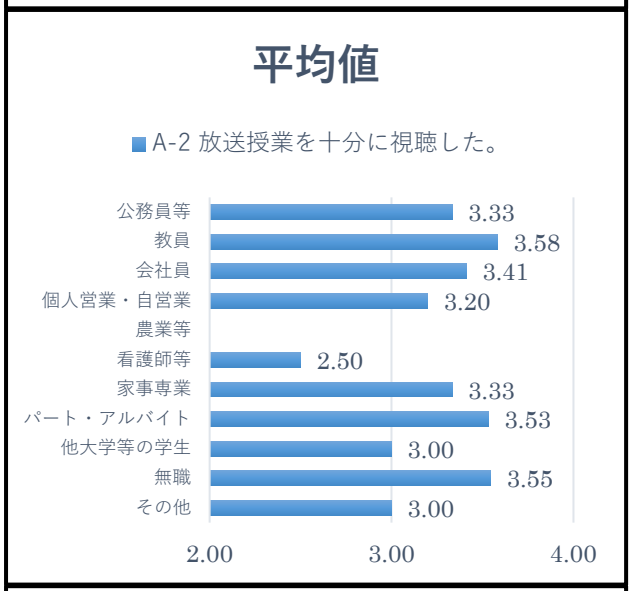
(A-2)「放送授業を十分に視聴した」も「家事専業」と「他大学生等の学生」が 100%と最も高く、次いで「会社員」が 94%で続いていた。

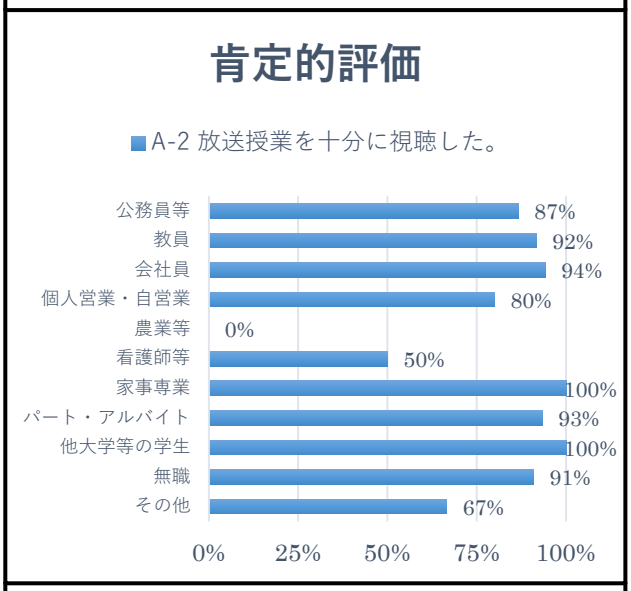
(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」については、「個人営業・自営業」、「家事専業」、「他大学生等の学生」、「無職」が 100%と高く、反対に「看護師等」は、50%と低かった。

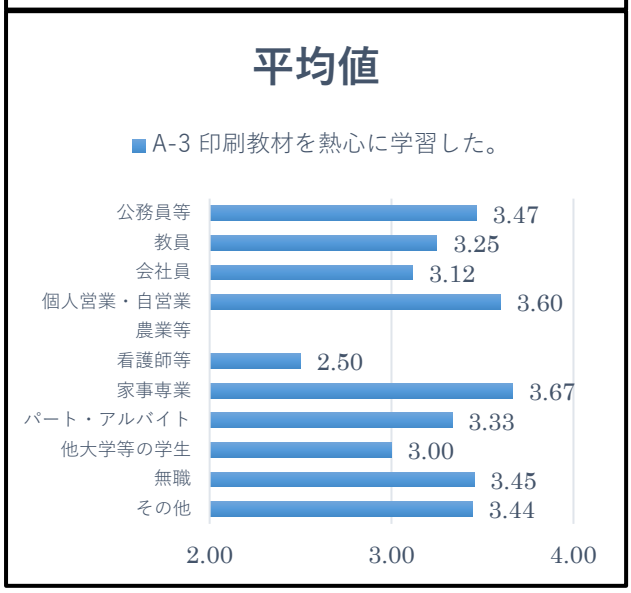
図２－６０【大学院】職業別の取組姿勢

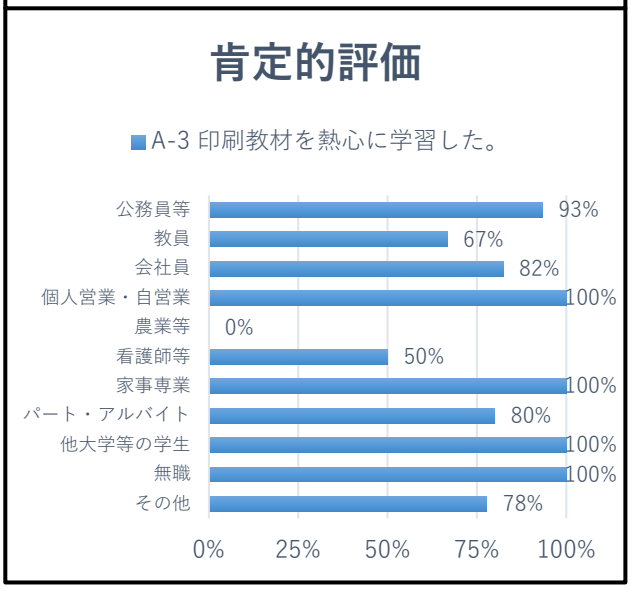












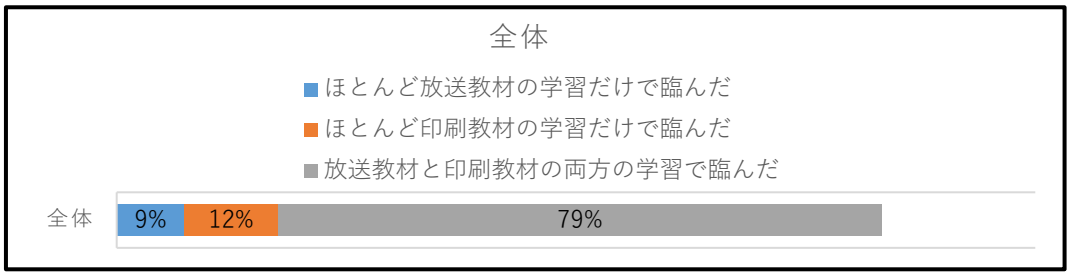
単位認定のための学習方法（図２－６１）、全体では、「放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ」が79%と、大半を占め、「ほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ」が 12%で、「ほとんど放送教材の学習だけで臨んだ」は 9%と、少なかった。

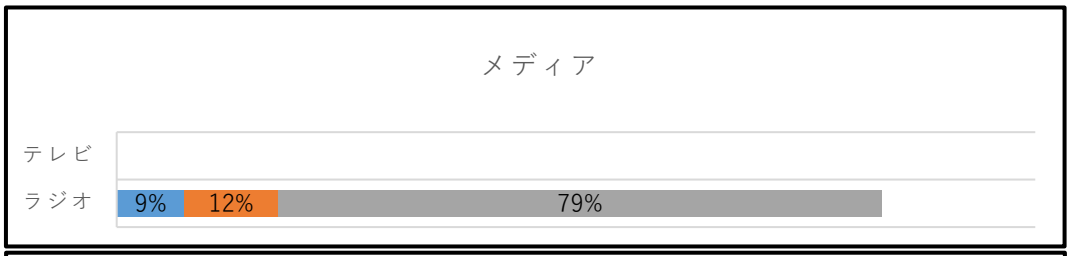
年齢階層別では、70 歳代は、「放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ」が 100%と、他の年代に比べ比率が高かった。

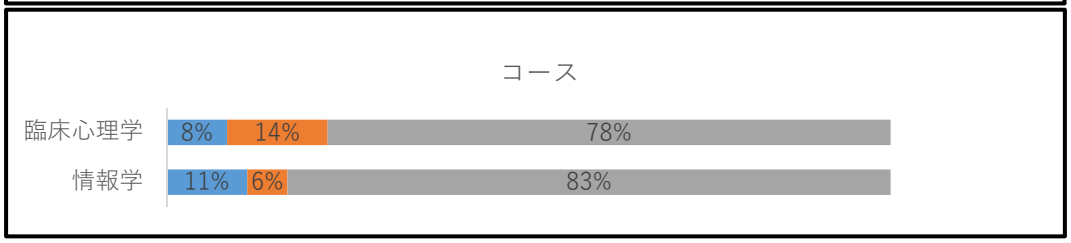
所属プログラム別では、「情報学」は「両方の学習で臨んだ」（83%）と高かった。

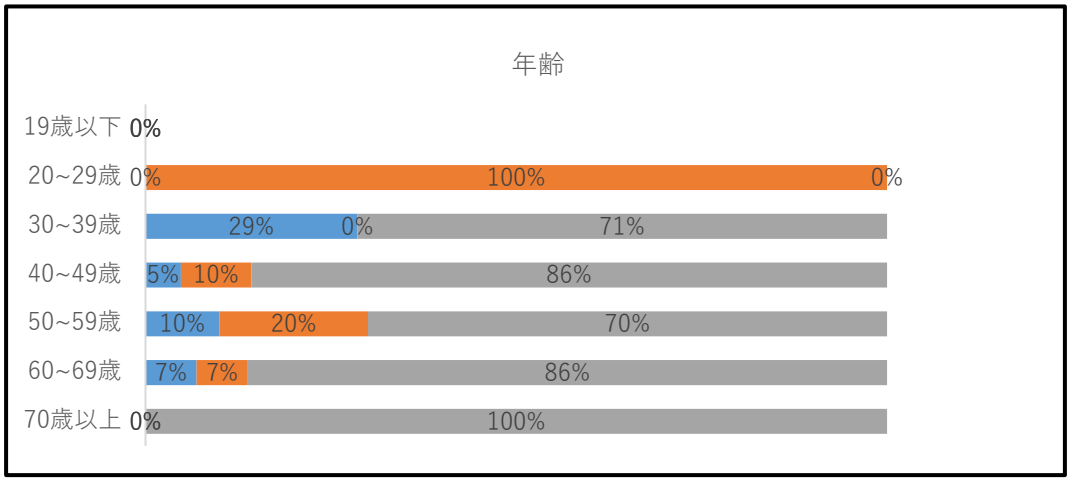
職業別では、「公務員等」と「他大学生等の学生」は、「両方の学習で臨んだ」が 100%であった。

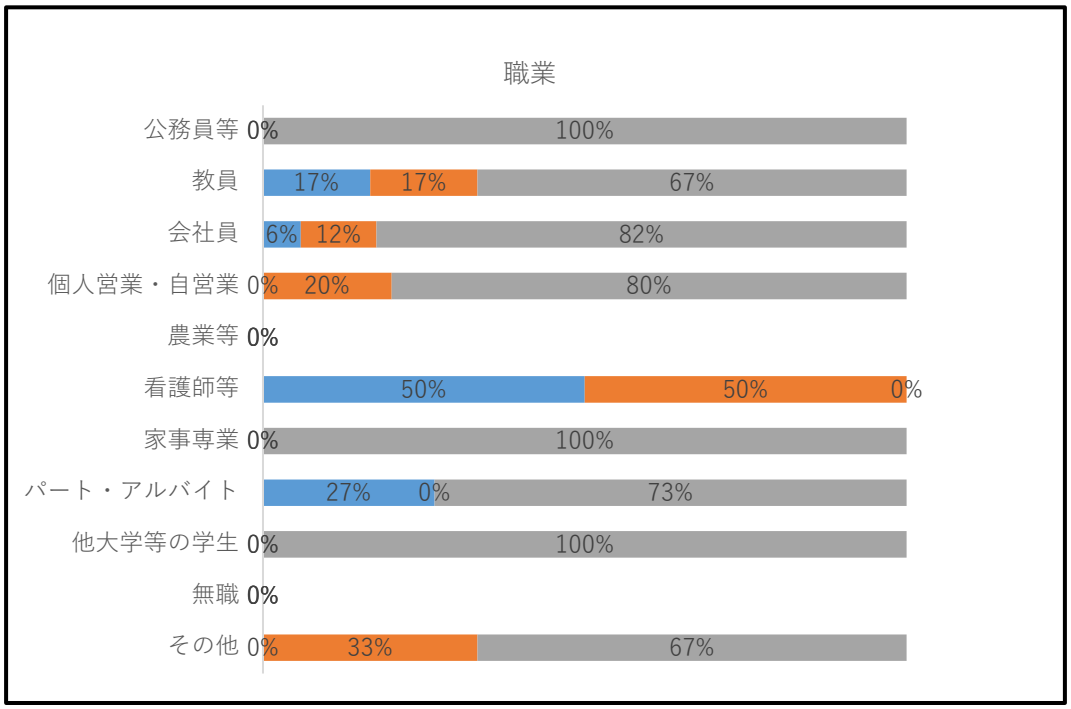
図２－６１【大学院】単位認定のための学習方法




メディア
テレビ
ラジオ
9%
12%
79%


コース
臨床心理学
8%
14%
78%
情報学
11%
6%
83%


年齢
19歳以下 0%
20~29歳 0%
100%
0%
30~39歳
29%
0%
71%
40~49歳
5%
10%
86%
50~59歳
10%
20%
70%
60~69歳
7%
7%
86%
70歳以上 0%
100%

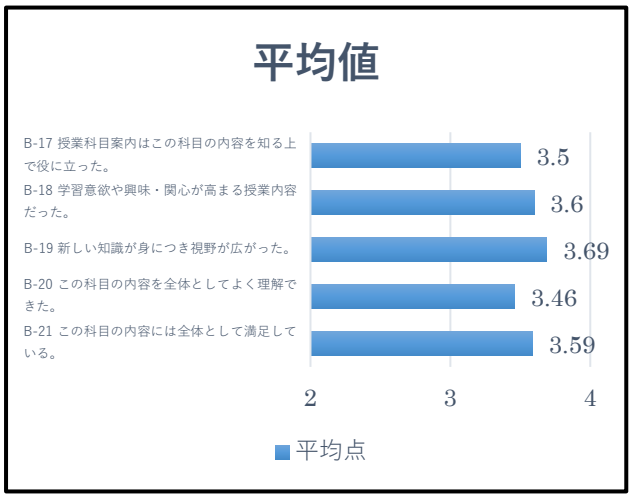

職業
公務員等 0%
100%
教員
17%
17%
67%
会社員
6%
12%
82%
個人営業・自営業 0%
20%
80%
農業等 0%
看護師等
50%
50%
0%
家事専業 0%
100%
パート・アルバイト
27%
0%
73%
他大学等の学生 0%
100%
無職 0%
その他 0%
33%
67%

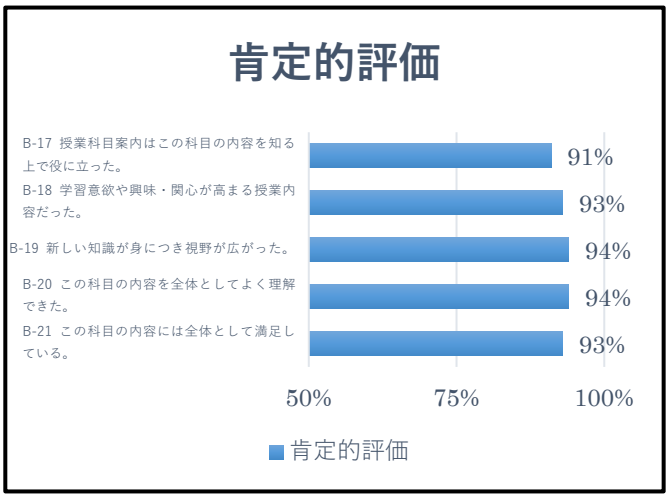
Ⅱ－2－3．大学院の授業評価

ここからは大学院の授業評価について、評価項目ごとに見ていくことにする。

全体評価の項目では（図２－６２）、(B-19) (B-20)（94%）を含め全体的に高く評価されていた。

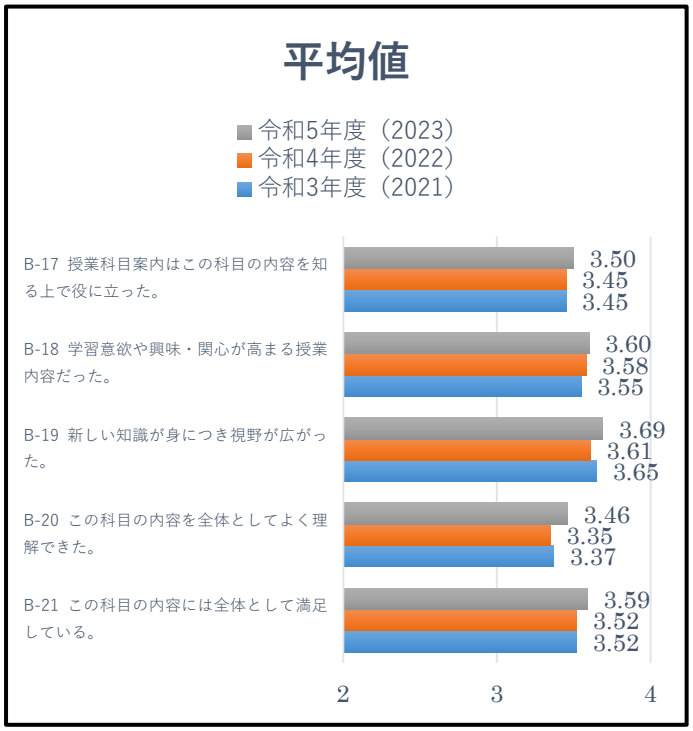
図２－６２【大学院】回答者全体の全体評価

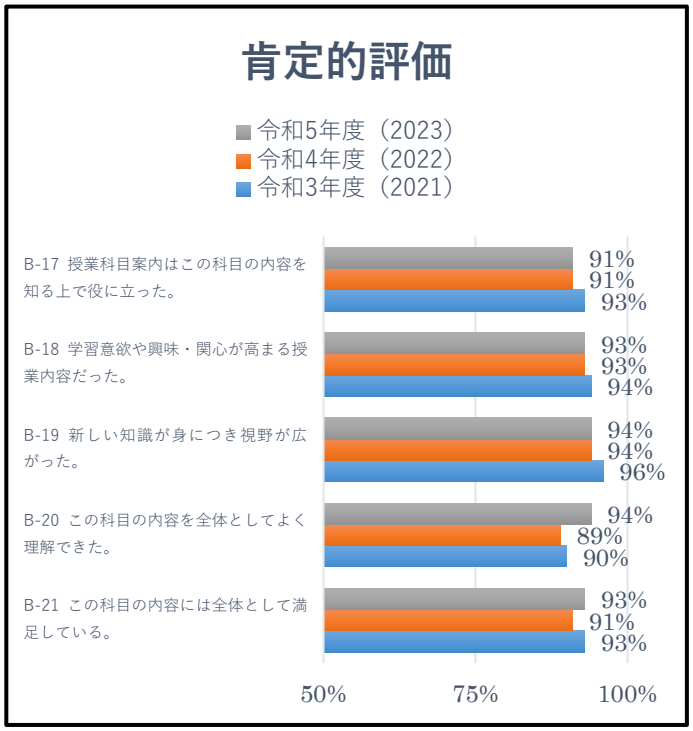




全体評価を時系列で見ると（図２－６３）昨年度と比べ、(B-20)「この科目の内容を全体としてよく理解できた」が 5pt 上回った。

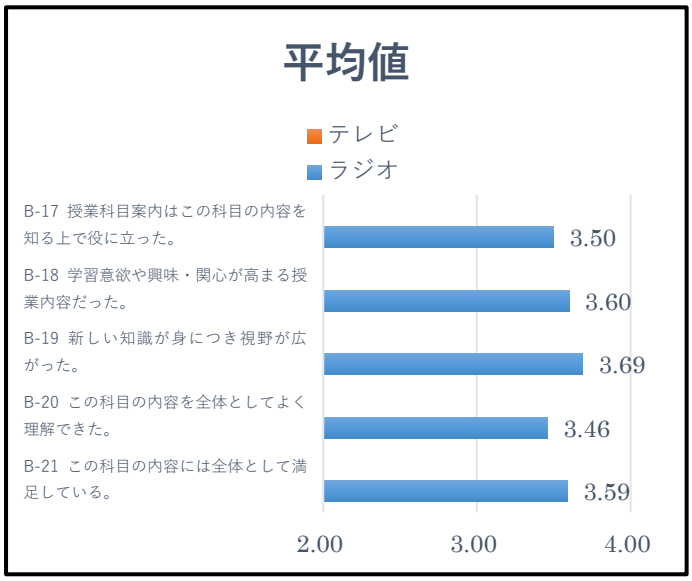
図２－６３【大学院】回答者全体の全体評価（時系列）

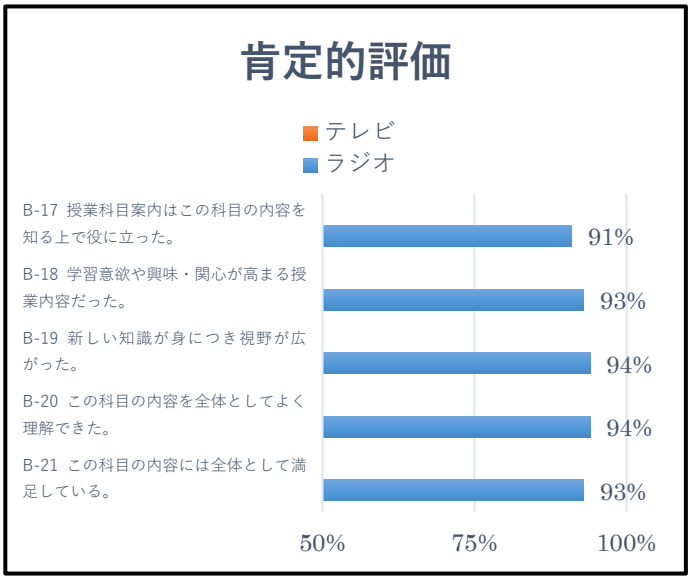




ラジオ科目では、全体評価を見ると（図２−６４）、全ての項目で概ね高い評価であった。

図２－６４【大学院】メディア別の全体評価

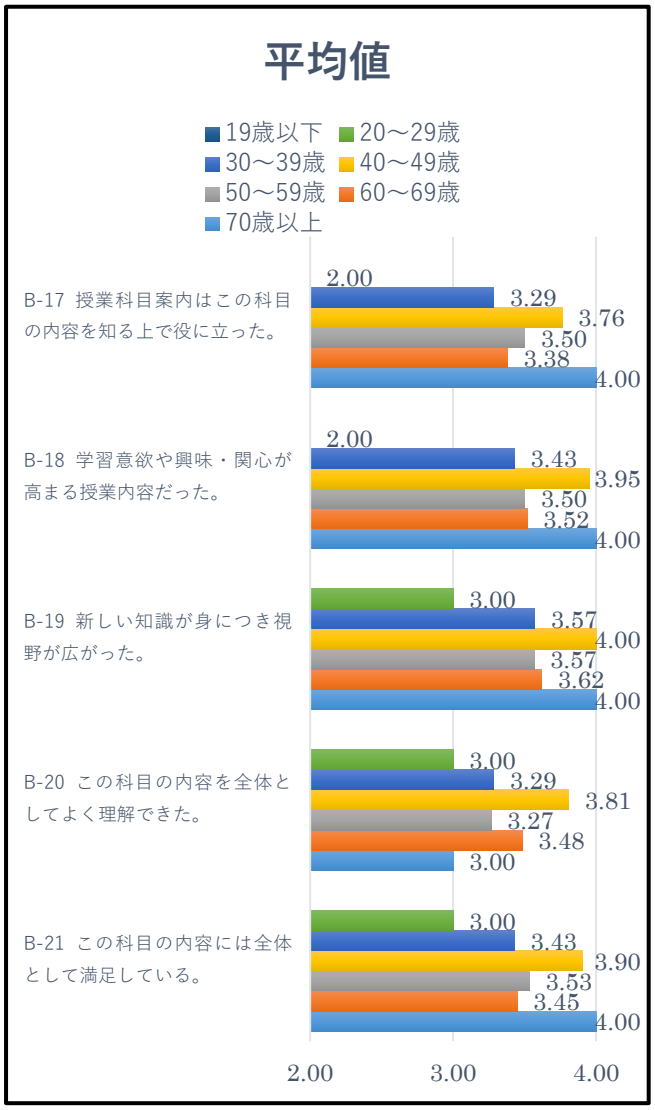


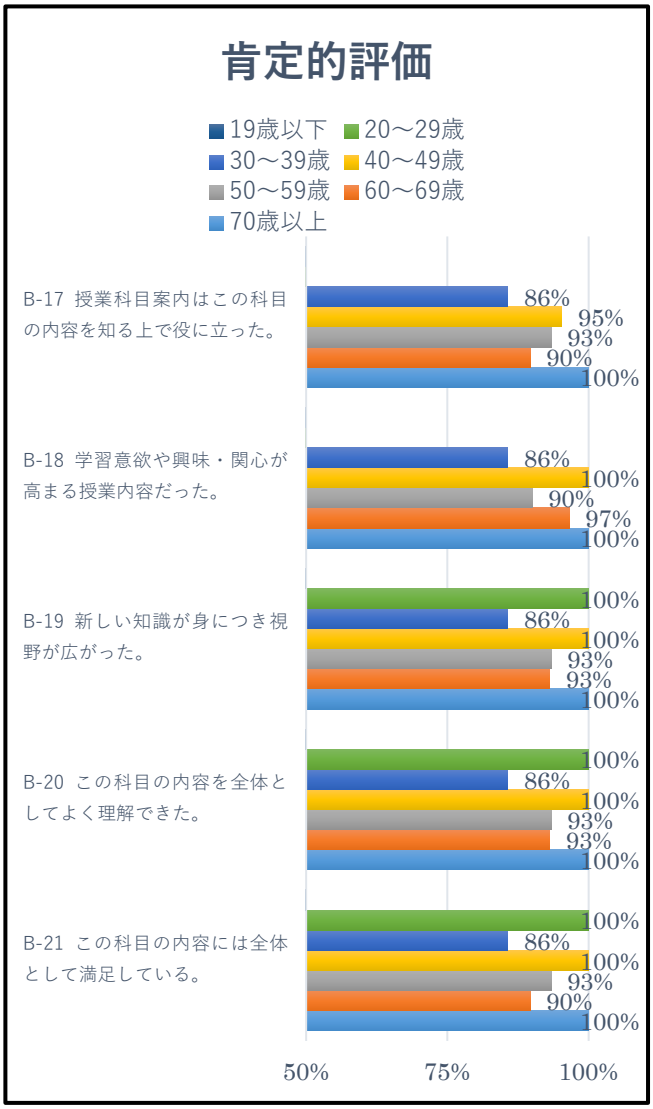


年齢階層別では（図２－６５）、(B-17)「授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った」については、70 歳以上が 100%と最も高く、(B-18)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」では、40 歳代、70 歳以上が最も高かった。

(B-19)「新しい知識が身につき視野が広がった」、(B-20)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」と(B-21)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」では、20 歳代、40 歳代、70 歳以上が 100%で、他の年代より高かった。

図２－６５【大学院】年齢階層別の全体評価

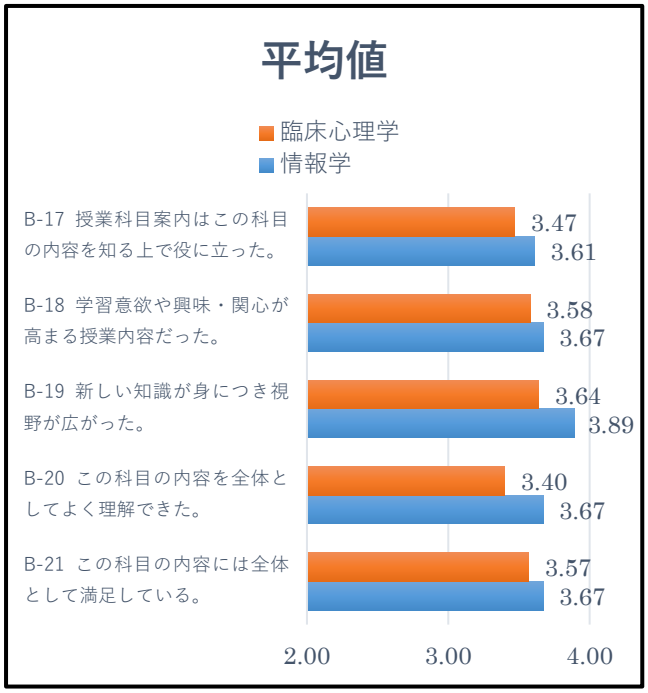


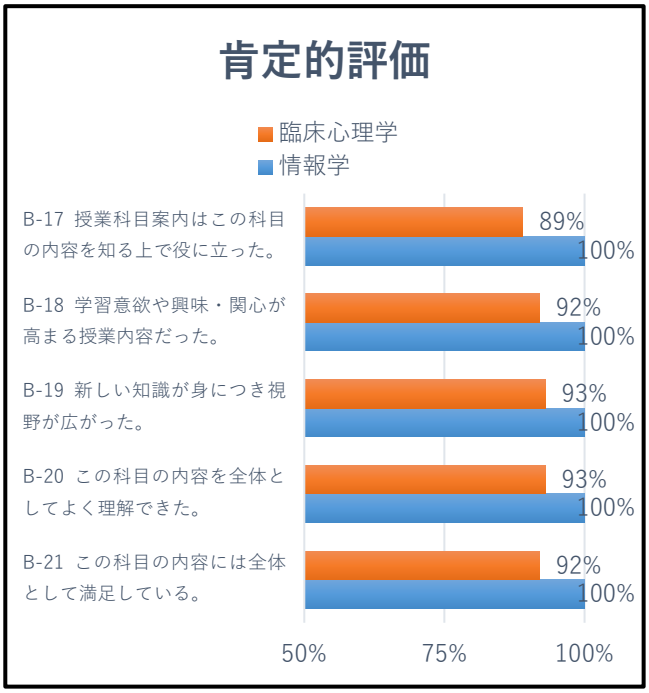


所属プログラム別に全体評価を見ると（図２−６６）、すべての項目で「情報学」の評価がそれぞれ100%と高い評価であった。

反対にすべての項目で、「臨床心理学」が 89%〜93%にとどまった。

図２－６６【大学院】所属プログラム別の全体評価

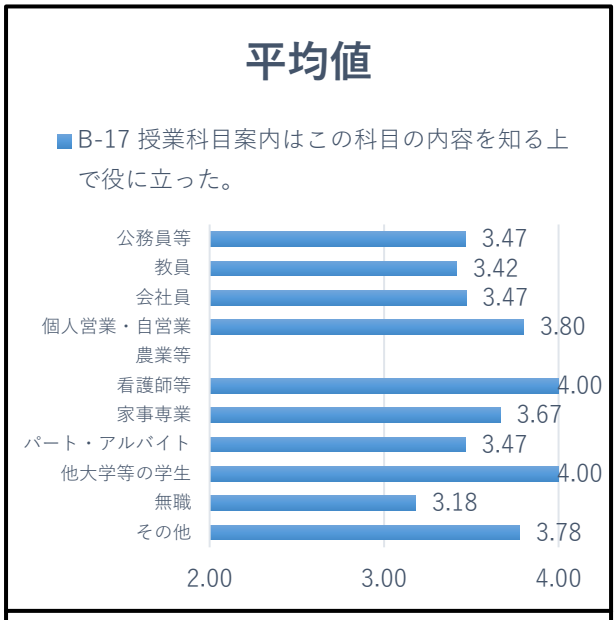


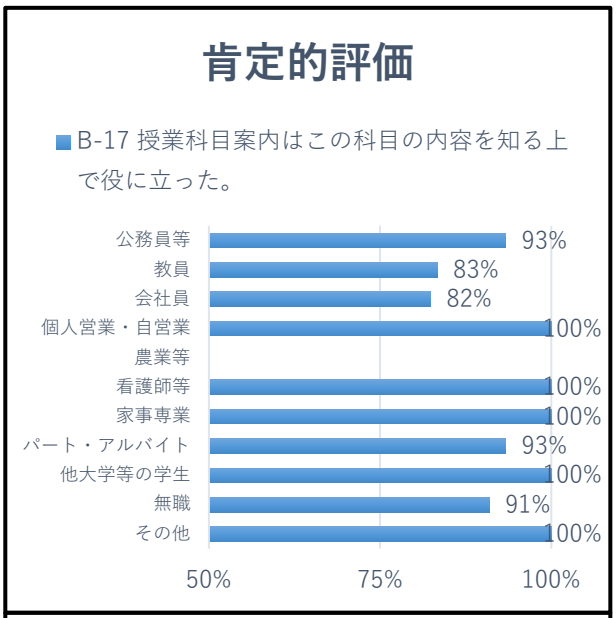


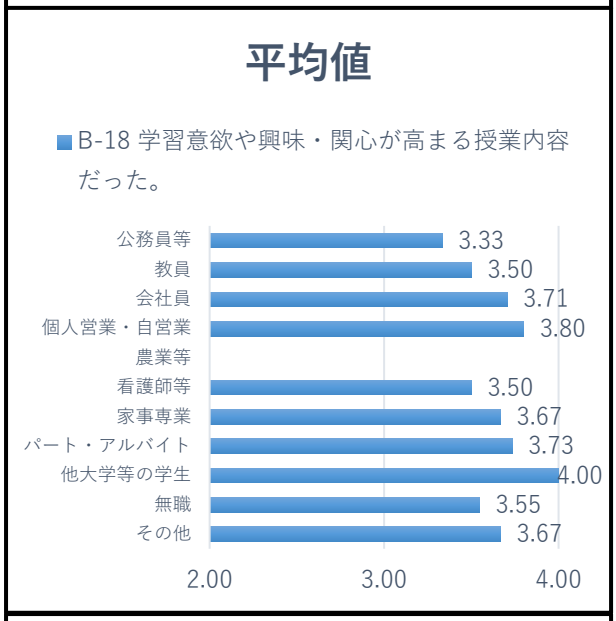
職業別（次頁図２－６７）では、ほぼ全体で「看護師等」「家事専業」「他大学生等の学生」「その他」の評価が 100%と高かった。

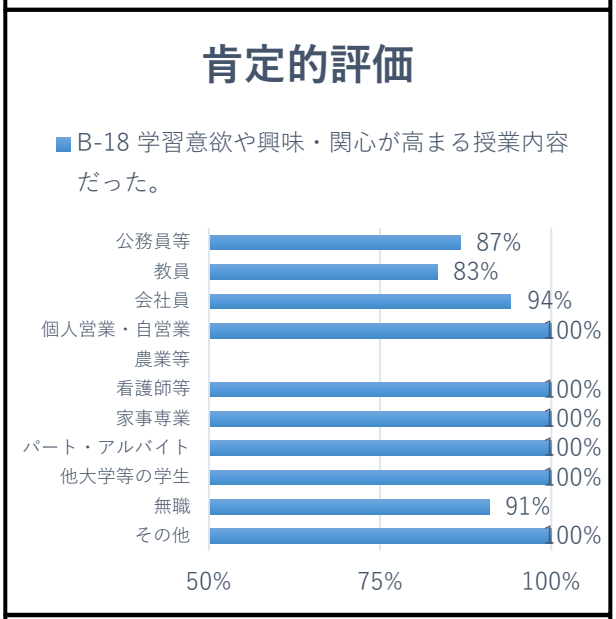
(B-21)でも「個人営業・自営業」「看護師等」「家事専業」「パート・アルバイト」「他大学生等の学生」が 100%と、最も高く、「公務員等」「教員」「会社員」「無色」「その他」が 88～93%であった。

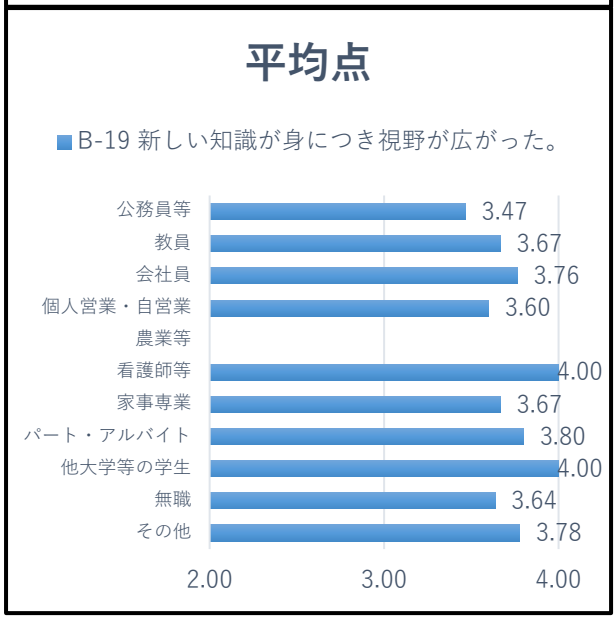
図２－６７【大学院】職業別の全体評価

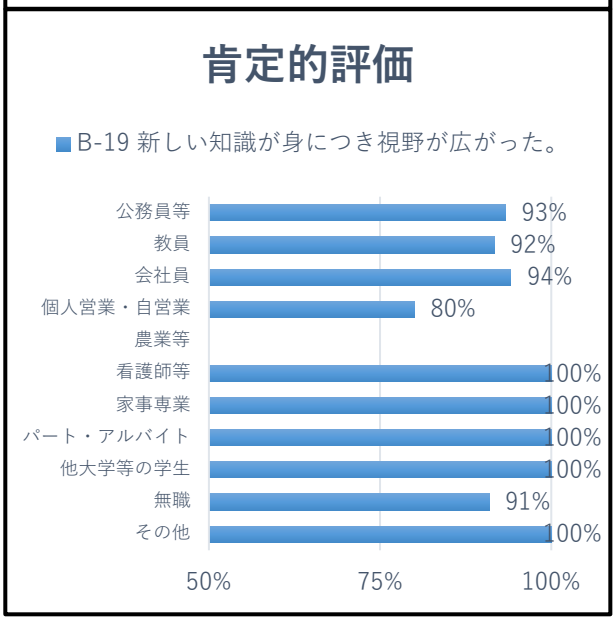


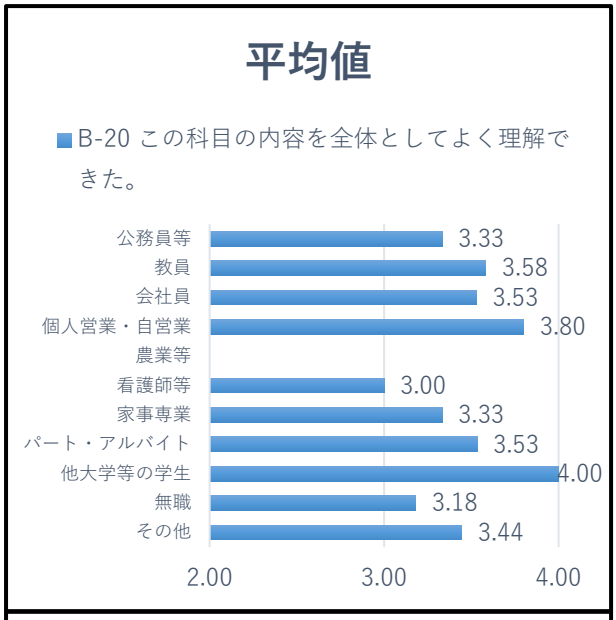


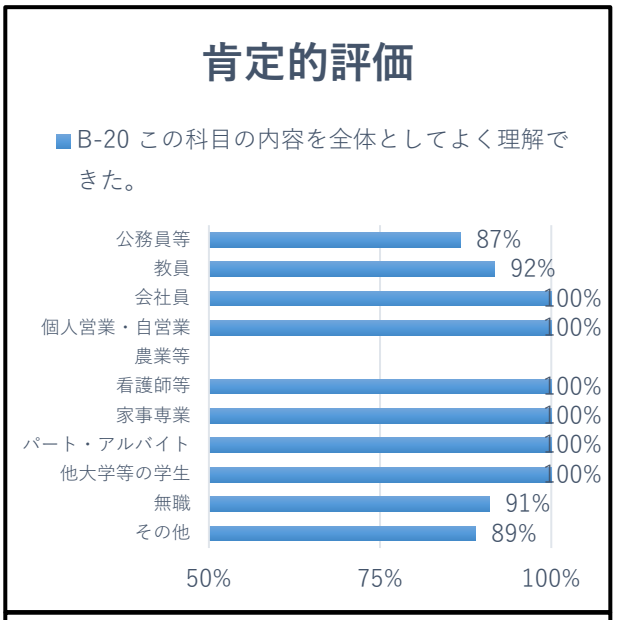


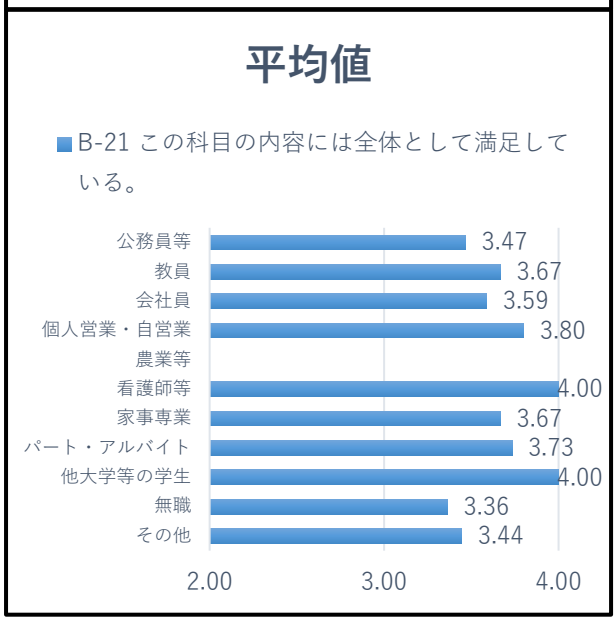


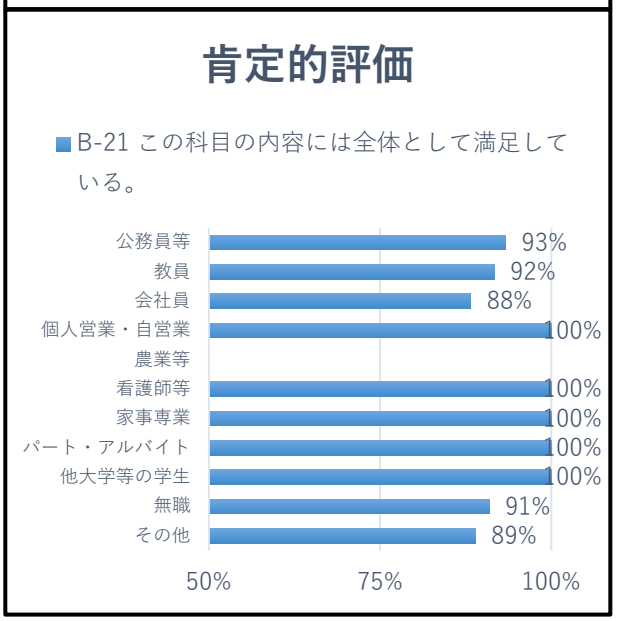





平均値
B-20 この科目の内容を全体としてよく理解できた。
公務員等 3.33
教員 3.58
会社員 3.53
個人営業・自営業 3.80
農業等
看護師等 3.00
家事専業 3.33
パート・アルバイト 3.53
他大学等の学生 4.00
無職 3.18
その他 3.44
2.00
3.00
4.00


肯定的評価
B-20 この科目の内容を全体としてよく理解できた。
公務員等 87%
教員 92%
会社員 100%
個人営業・自営業 100%
農業等
看護師等 100%
家事専業 100%
パート・アルバイト 100%
他大学等の学生 100%
無職 91%
その他 89%
50%
75%
100%


平均値
B-21 この科目の内容には全体として満足している。
公務員等 3.47
教員 3.67
会社員 3.59
個人営業・自営業 3.80
農業等
看護師等 4.00
家事専業 3.67
パート・アルバイト 3.73
他大学等の学生 4.00
無職 3.36
その他 3.44
2.00
3.00
4.00

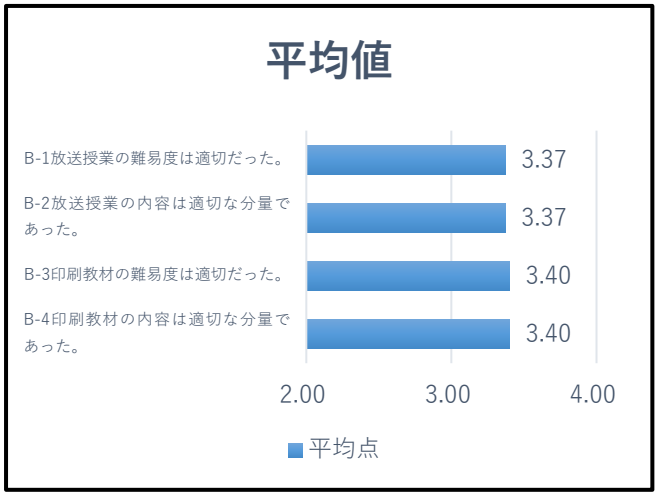

肯定的評価
B-21 この科目の内容には全体として満足している。
公務員等 93%
教員 92%
会社員 88%
個人営業・自営業 100%
農業等
看護師等 100%
家事専業 100%
パート・アルバイト 100%
他大学等の学生 100%
無職 91%
その他 89%
50%
75%
100%

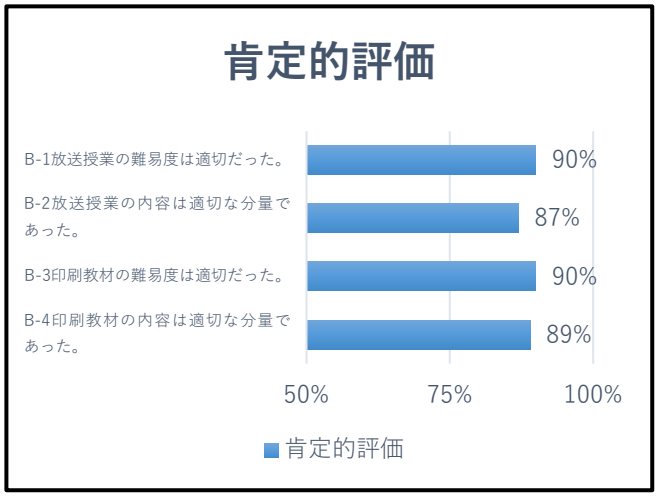
（２）授業の難易度・分量

次に授業の難易度・分量について評価項目ごとに見ていく。

授業の難易度・分量の評価は（図２−６８）は、全ての項目で 87〜90%の評価であった。

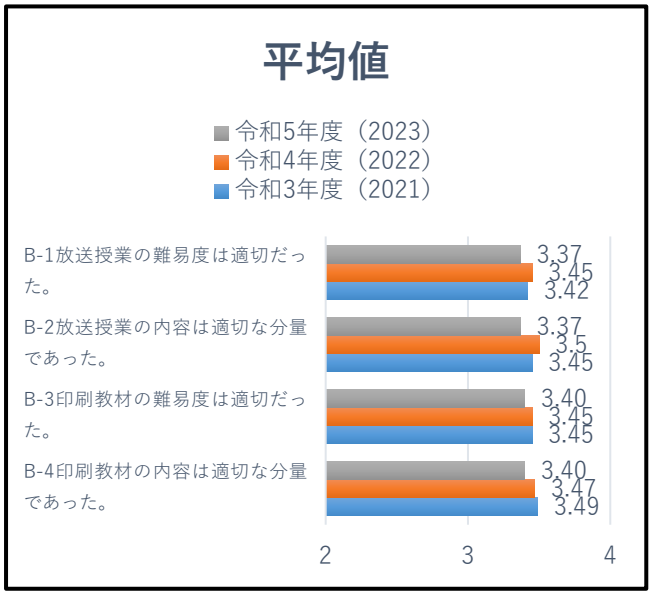
図２－６８【大学院】回答者全体の授業難易度・分量の評価

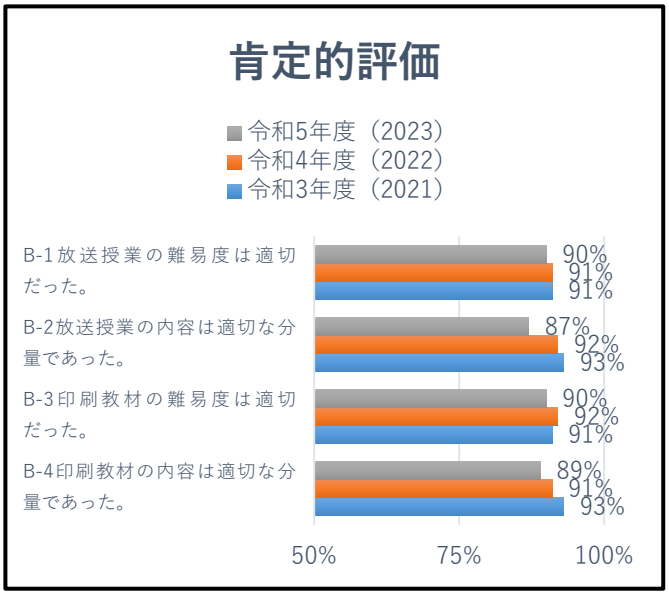




開設年度別では（図２−６９）、本年度と昨年度を比較すると、全体に下降傾向、特に（B-2）「放送授業の内容は適切な分量であった」の下降幅が大きく５pt 下がった。

図２－６９【大学院】回答者全体の授業難易度・分量の評価（開設年度比較）

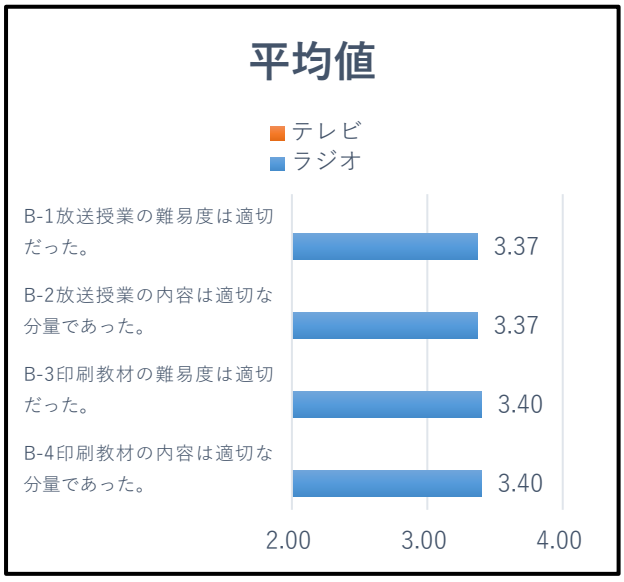


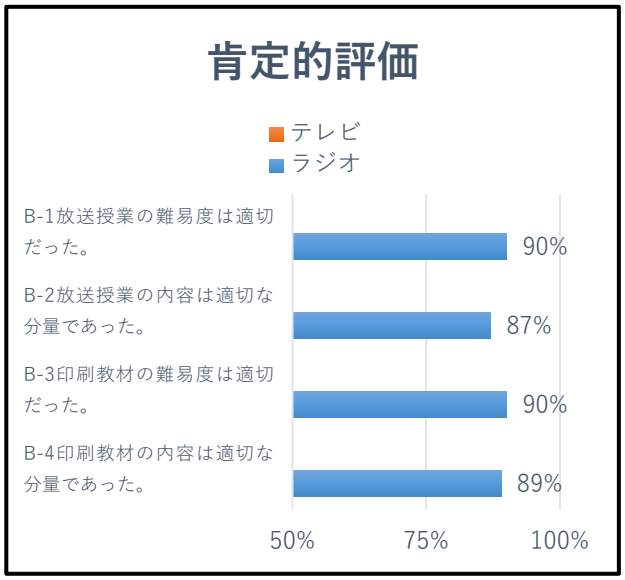


ラジオ科目では、授業の難易度・分量を見ると（図２－７０）、(B-2)「放送授業の内容は適切な分量であった」以外の項目では概ね評価が高かった。

図２－７０【大学院】メディア別の授業難易度・分量の評価

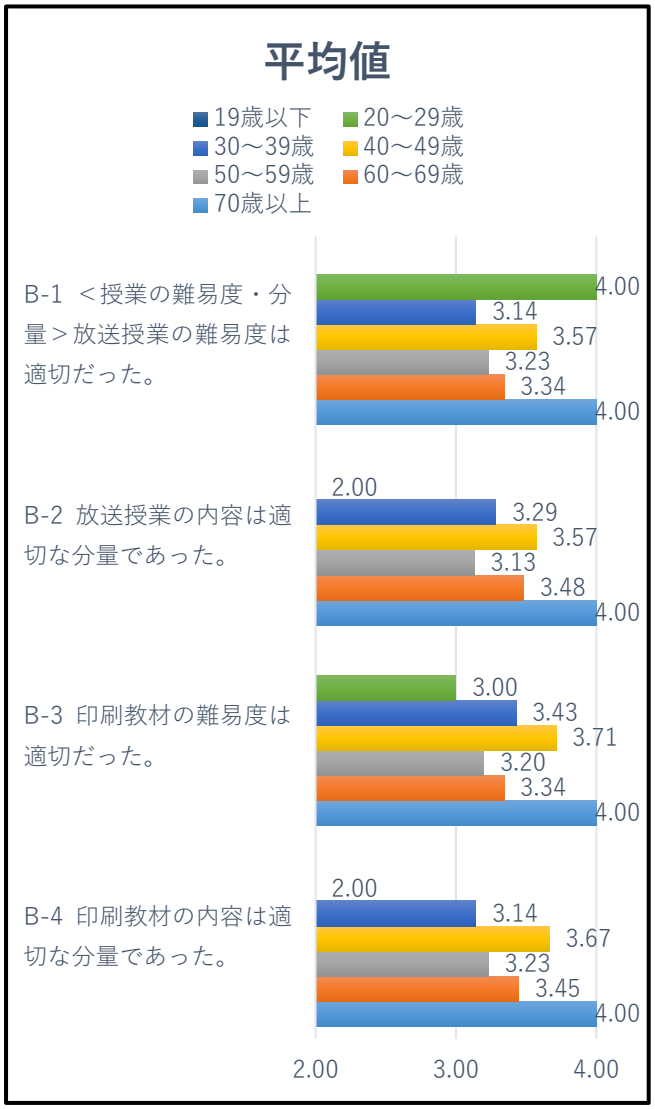
※本年度のメディア授業は、ラジオ授業のみとなっています。

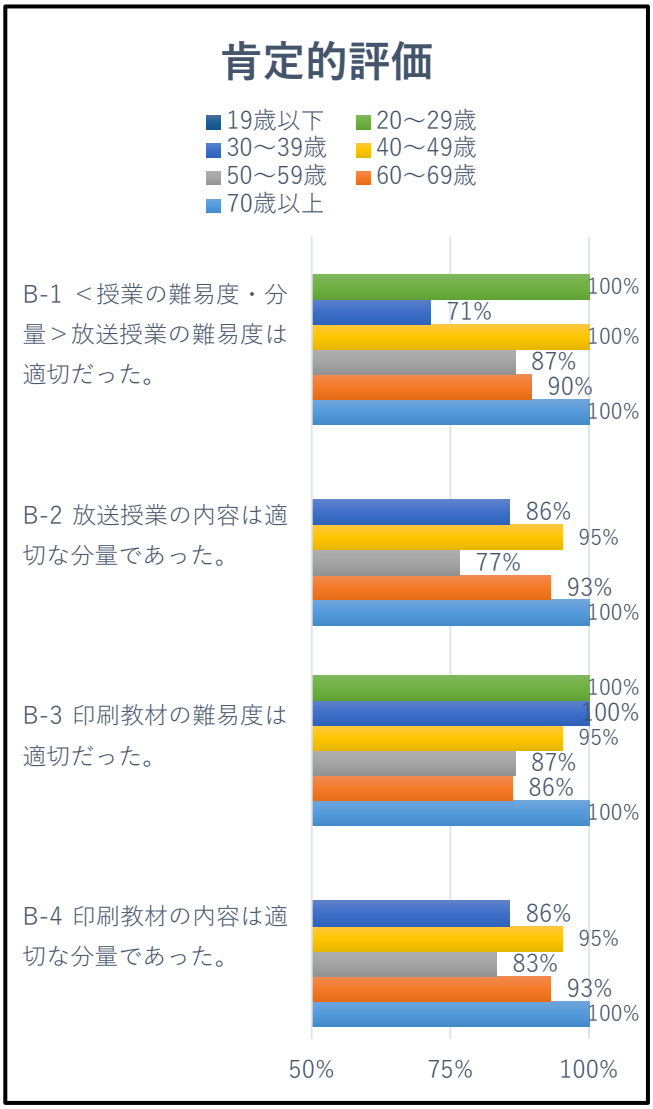




年齢階層別に授業の難易度・分量を見ると（図２－７１）、(B-1)「放送授業の難易度は適切だった」は 20 歳代、40 歳代、70 歳以上の評価が 100%と最も高かったが、それ以外の 3 項目では 50 歳代の評価が低く、77%～87%であった。

図２－７１【大学院】年齢階層別の授業難易度・分量の評価

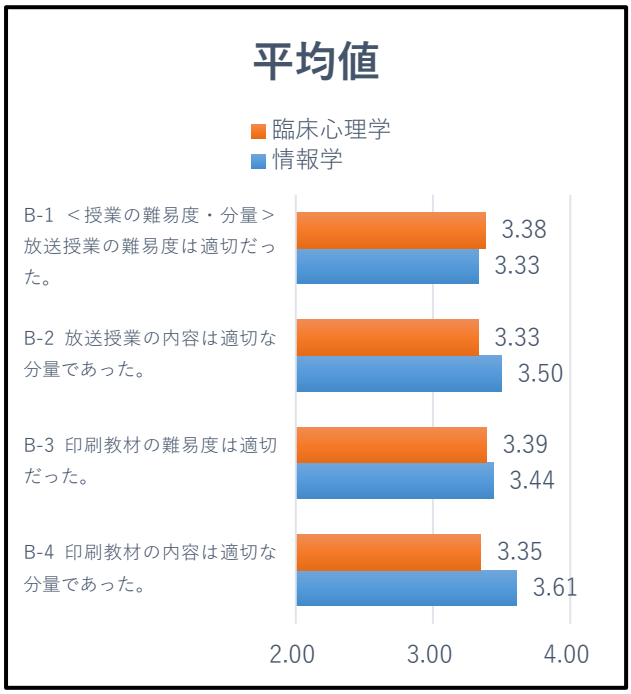


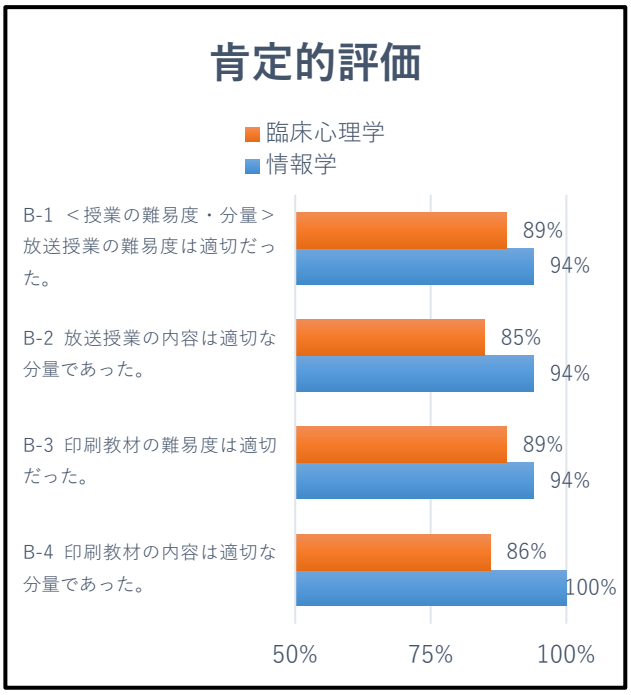


所属プログラム別に授業の難易度・分量を見ると（図２−７２）、全体的に情報学の評価が高く、臨床心理学との差は５pt 以上であった

とりわけ(B-4)「印刷教材の内容は適切な分量であった」では、14pt 差にのぼった。

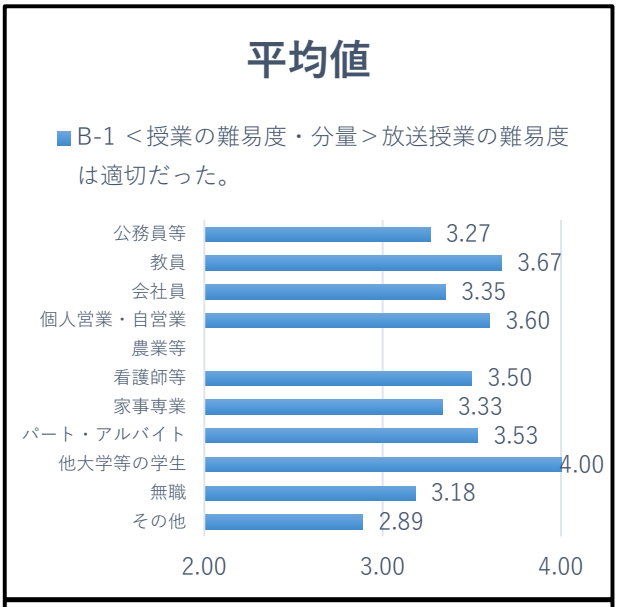
図２－７２【大学院】所属プログラム別の授業難易度・分量の評価

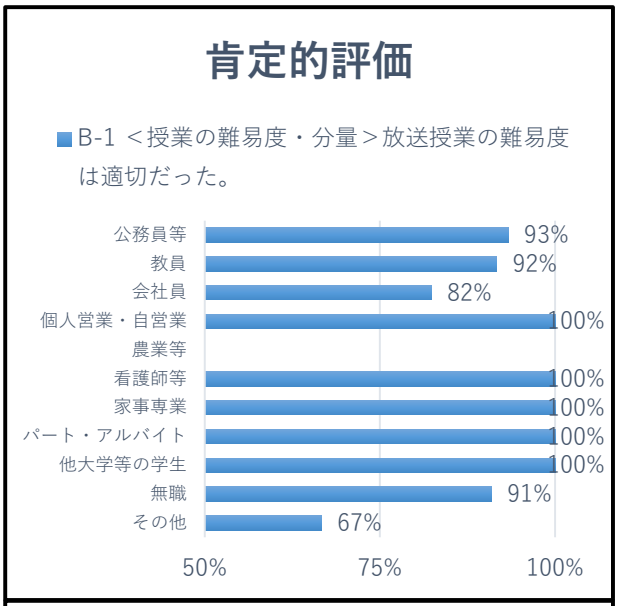


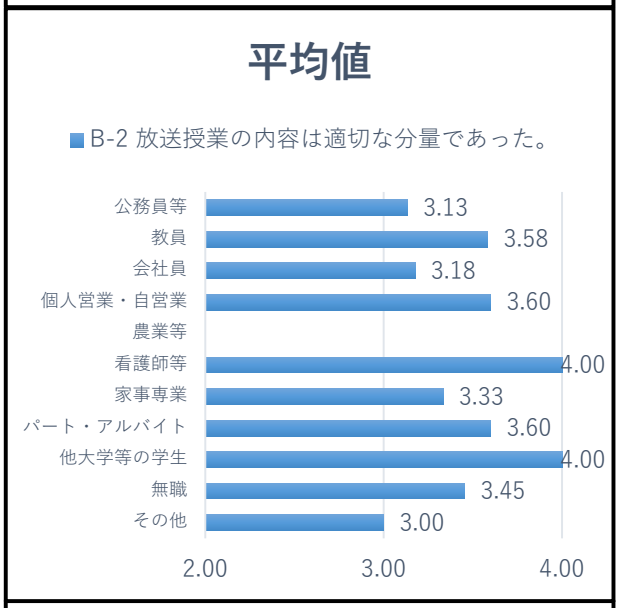


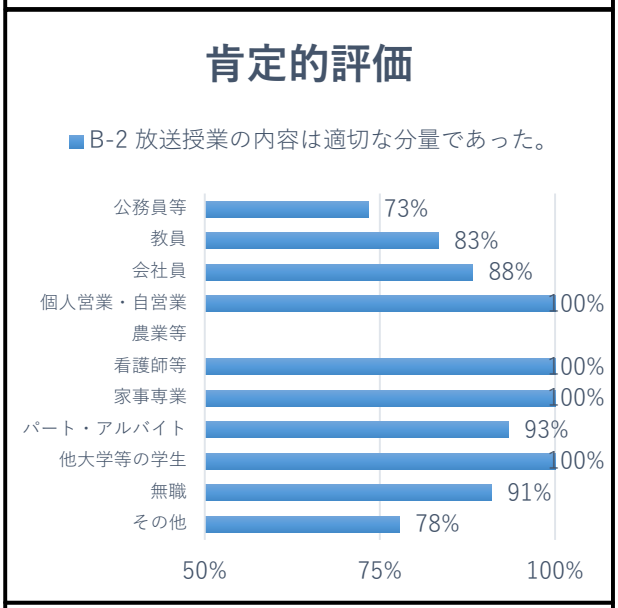
職業別に授業の難易度を見ると（図２−７３）、では、全体として、「個人営業・自営業」「パート・アルバイト」（回答者数が少ない「看護師等」「他大学生等の学生」を除く）の評価が高かった。

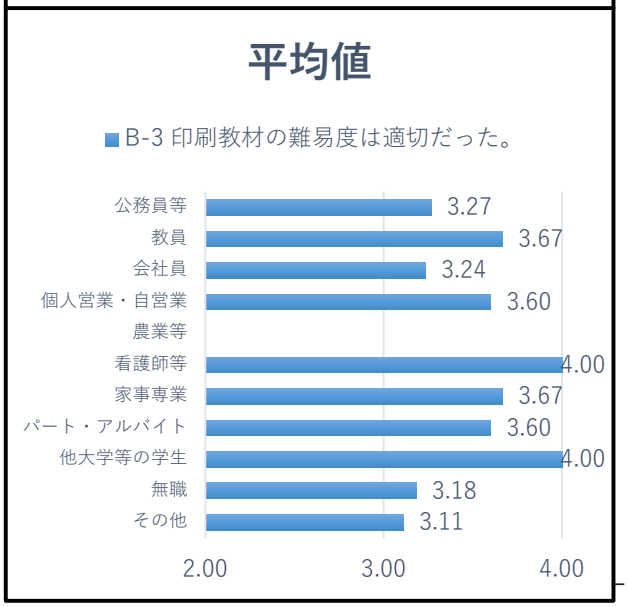
図２－７３【大学院】職業別の授業難易度の評価

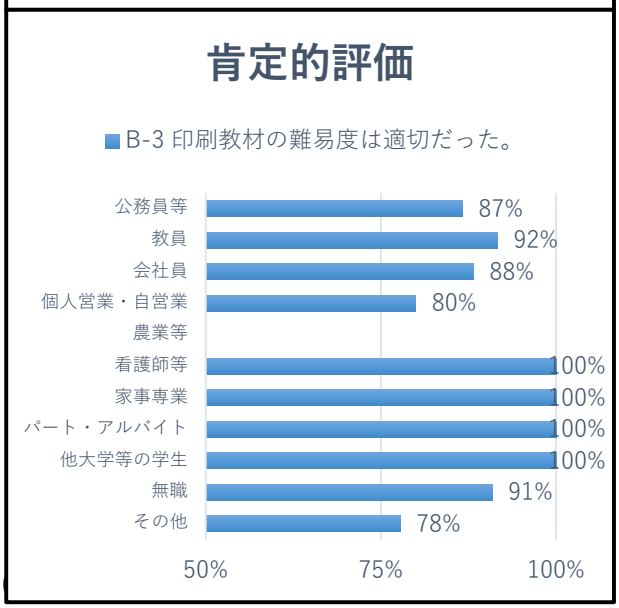


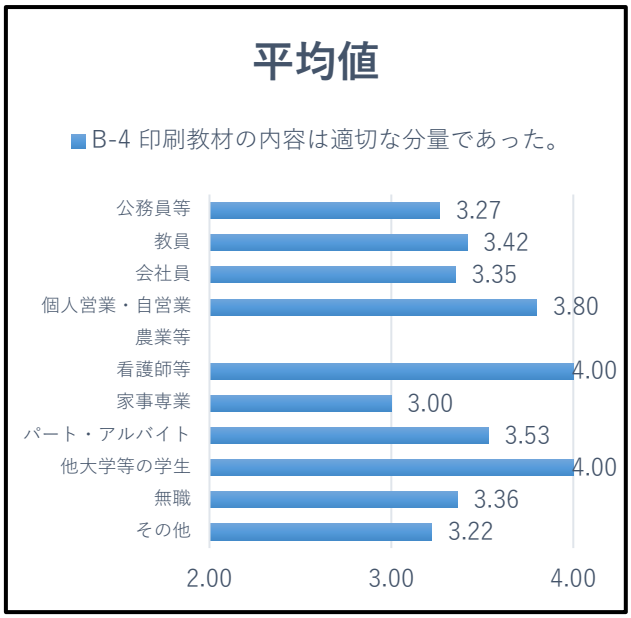


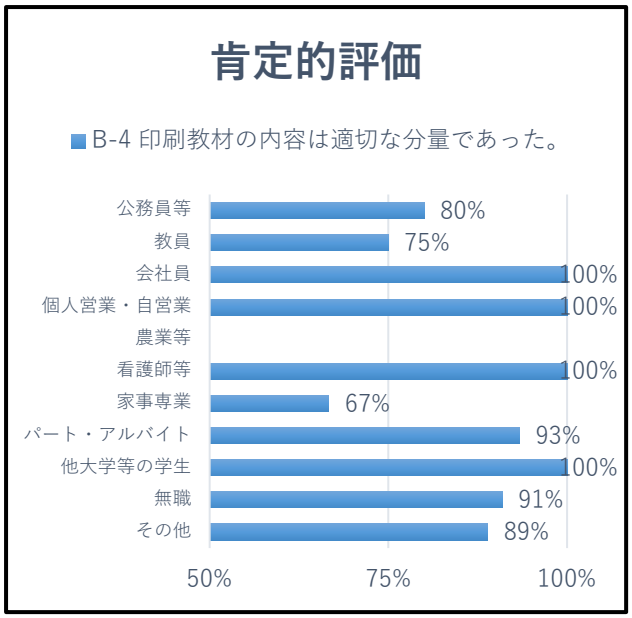









平均値
B-4 印刷教材の内容は適切な分量であった。
公務員等
教員
会社員
個人営業・自営業
農業等
看護師等
家事専業
パート・アルバイト
他大学等の学生
無職
その他
3.27
3.42
3.35
3.80
4.00
3.00
3.53
4.00
3.36
3.22
2.00
3.00
4.00


肯定的評価
B-4 印刷教材の内容は適切な分量であった。
公務員等
教員
会社員
個人営業・自営業
農業等
看護師等
家事専業
パート・アルバイト
他大学等の学生
無職
その他
80%
75%
100%
100%
100%
67%
93%
100%
91%
89%
50%
75%
100%

（３）放送授業

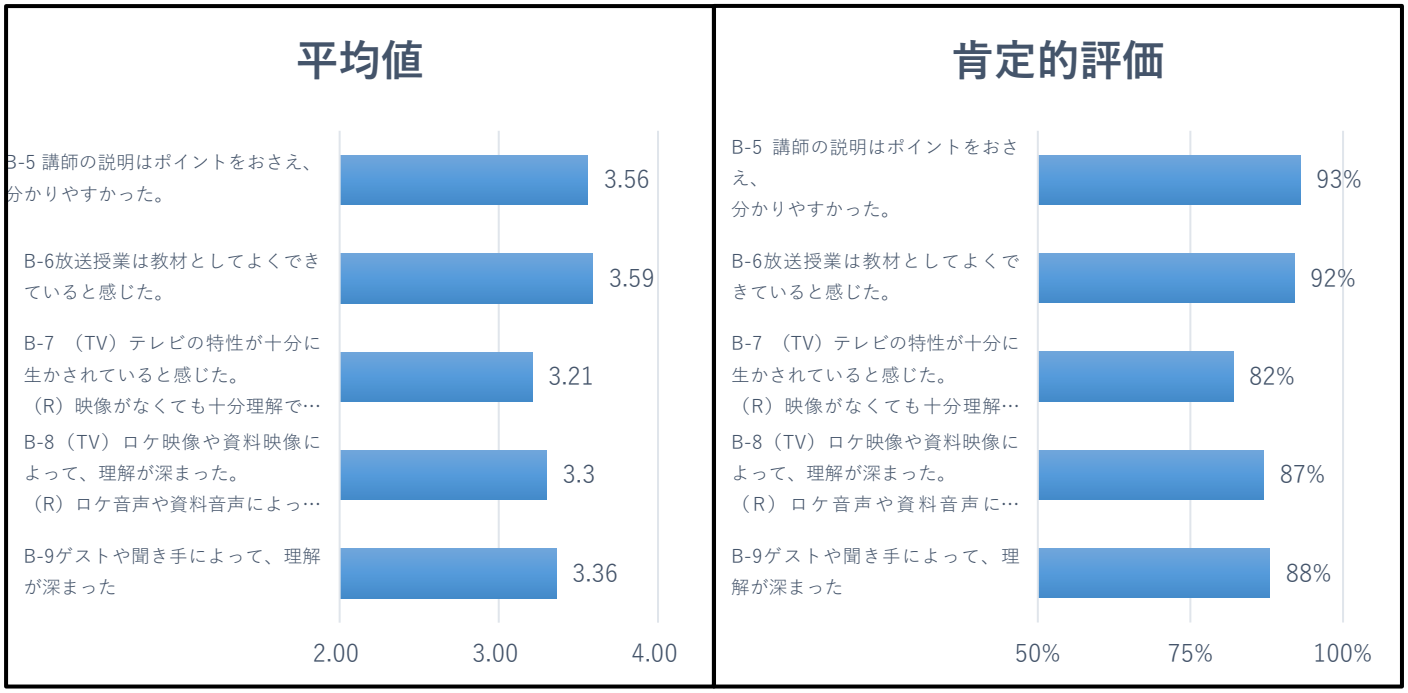
ここからは放送授業について評価項目ごとに見ていく。

放送授業に関する評価項目を見ると（図２－７４）、(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、(B-6)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」はそれぞれ 92%～93%で、他の項目より高かった。

(B-7)「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた/【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」は、82%と前 2 項目と比べかなり評価が低かった。

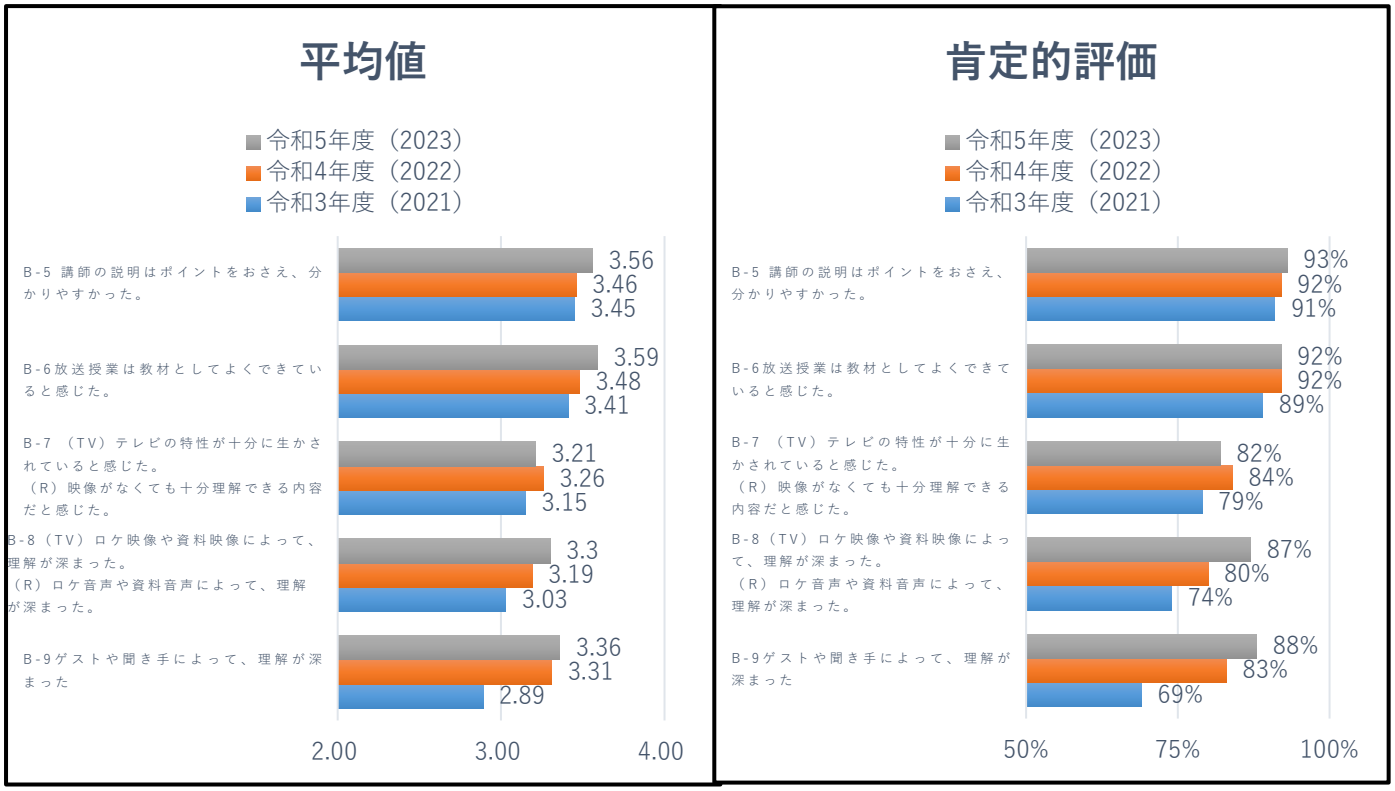
(B-8)と(B-9) の評価は、他の項目と比べて相対的に低くなっていた。

図２－７４【大学院】回答者全体の放送授業の評価



放送授業の評価を時系列で見ると（図２－７５）、B-7 以外の項目で、評価が年々上向いている傾向が見られた。中でも、昨年度に特に評価が低かった(B-8)「ロケ映像や資料映像によって、理解が深まった」では、プラス 7 pt に上昇していた。

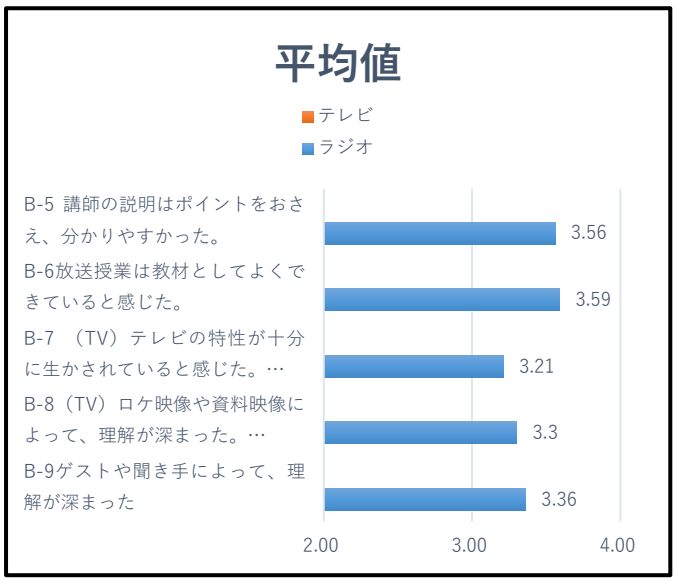
図２－７５【大学院】回答者全体の放送授業の評価（時系列）

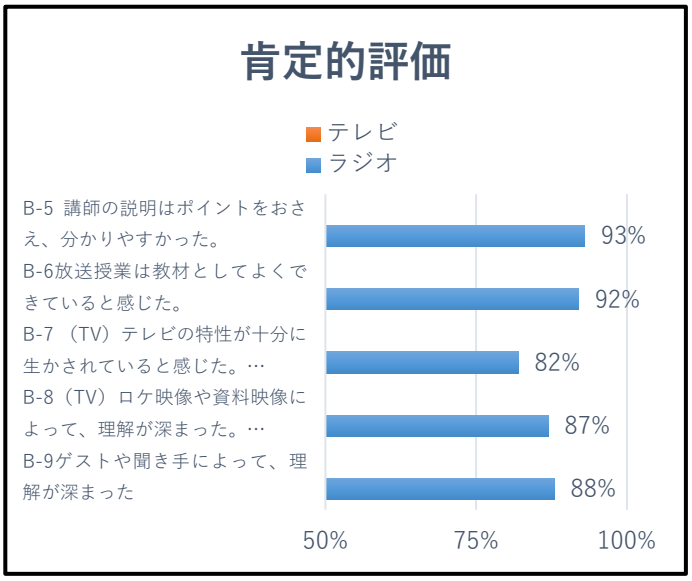


ラジオ科目の放送授業の肯定的評価を見ると（図２－７６）」、(B-7)「(TV）テレビの特性が十分に生かされていると感じた。（R）映像がなくても十分理解できる内容だと感じた。」以外の項目で評価が高く、特に(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった。」は、93%と、高い評価であった。

図２－７６【大学院】メディア別の放送授業の評価（時系列）

※本年度のメディア授業は、ラジオ授業のみとなっています。





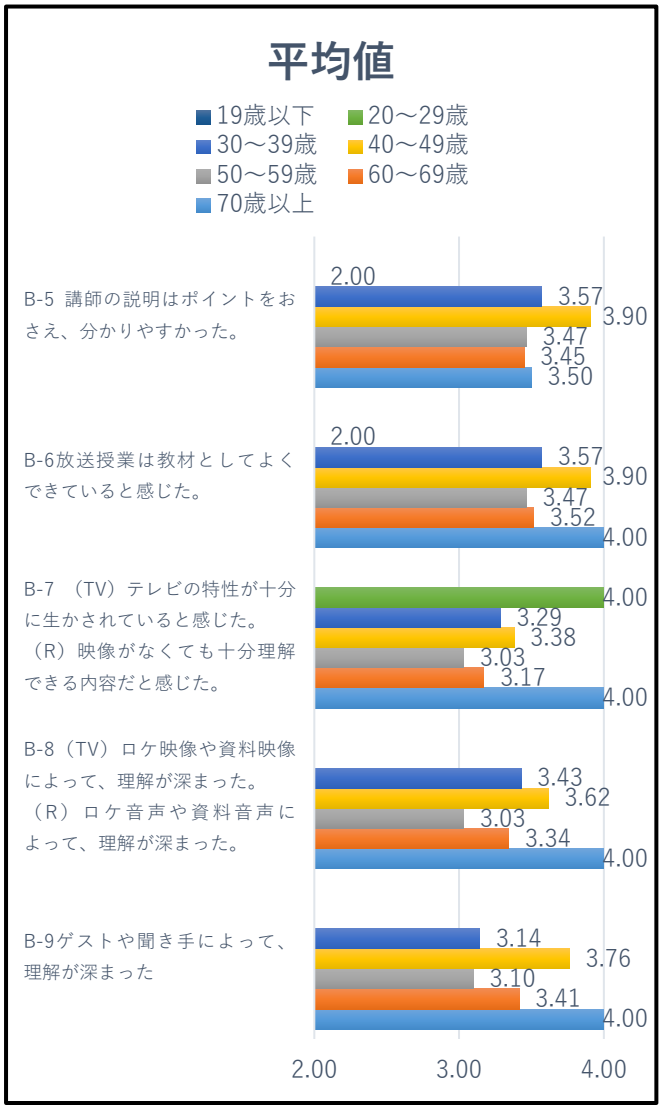
年齢階層別では（図２－７７）、(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」と(B-6)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」は、30 歳代、40 歳代、70 歳以上で 100%以上と高かった。

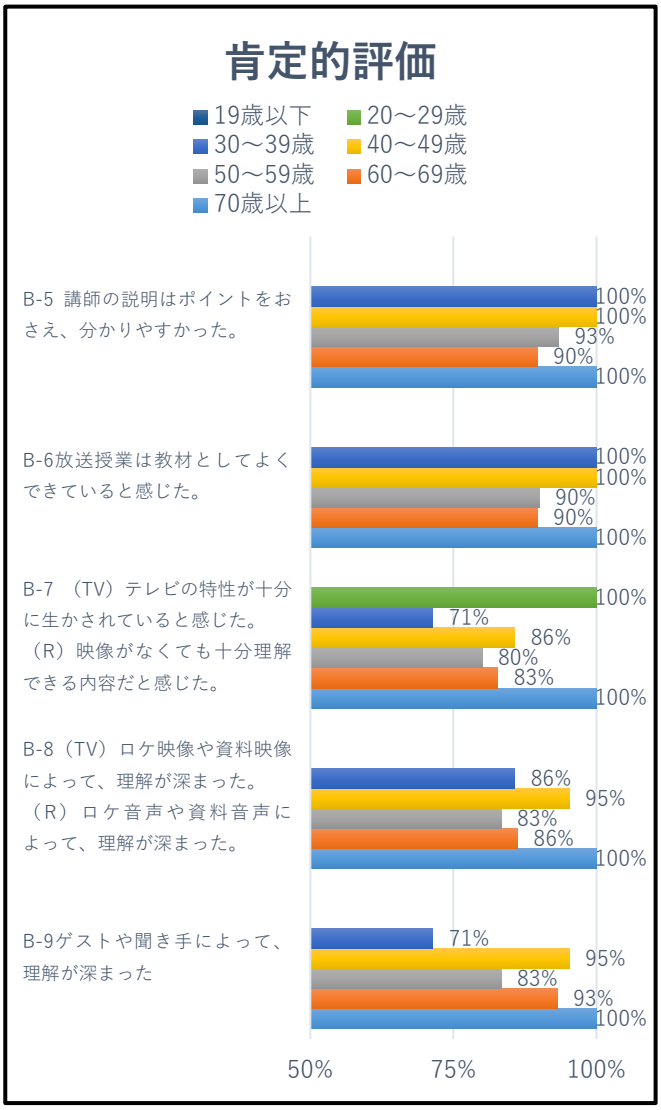
(B-7)「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた/【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」の評価は 30 歳代で 71%と最も低かった。

(B-8)「【TV】ロケ映像や資料映像によって、理解が深まった/【R】ロケ音声や資料音声によって、理解が深まった」は、50 歳代が 83%と最も低かった。

(B-9)「ゲストや聞き手によって、理解が深まった」は、30 歳代が 71%と低かった。

図２－７７【大学院】年齢階層別の放送授業の評価



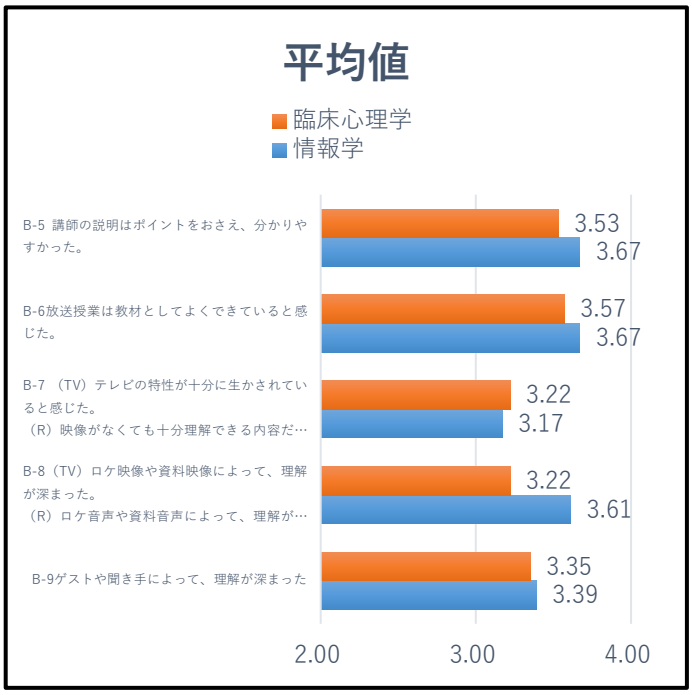


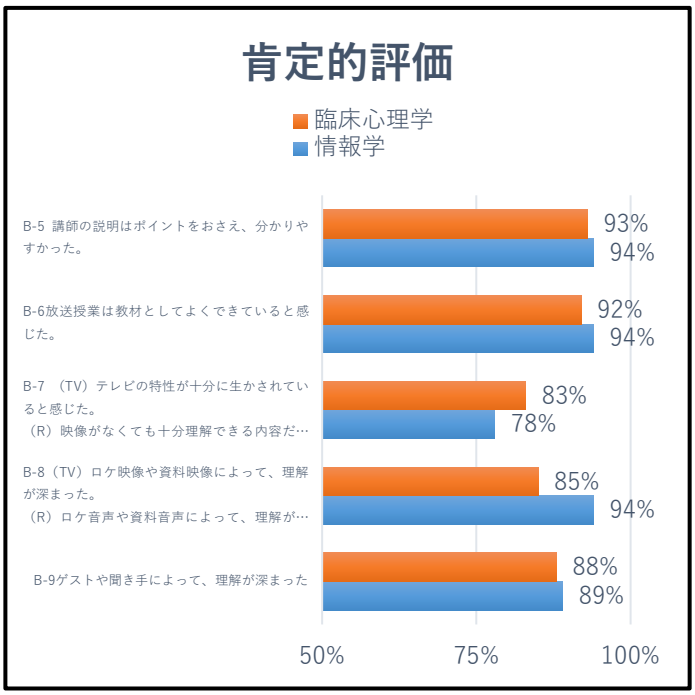
所属プログラム別では（図２－７８）、(B-7)「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた/【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」以外は、いずれも 85～94%と高い評価であった。

(B-8)「【TV】ロケ映像や資料映像によって、理解が深まった/【R】ロケ音声や資料音声によって、理解が深まった」では「情報学」が 94%と高く、臨床心理学より 9 pt も差がついた。

(B-9)「ゲストや聞き手によって、理解が深まった」は「情報学」「臨床心理学」で概ね同じ評価であった。

図２－７８【大学院】所属プログラム別の放送授業の評価



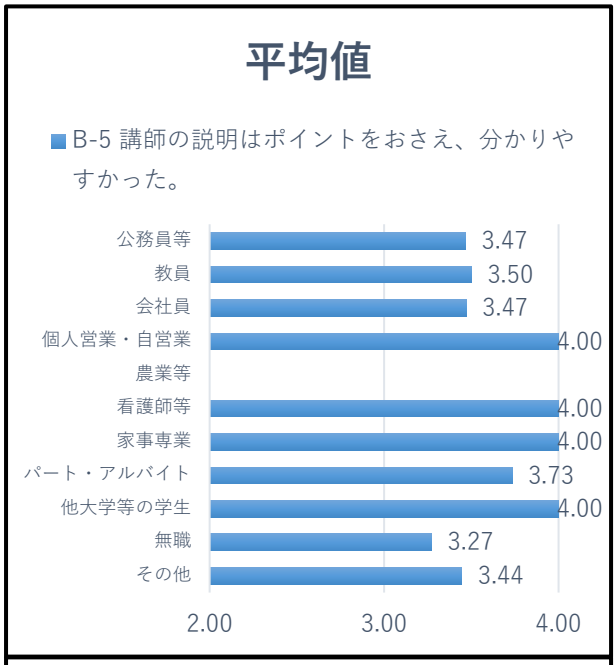


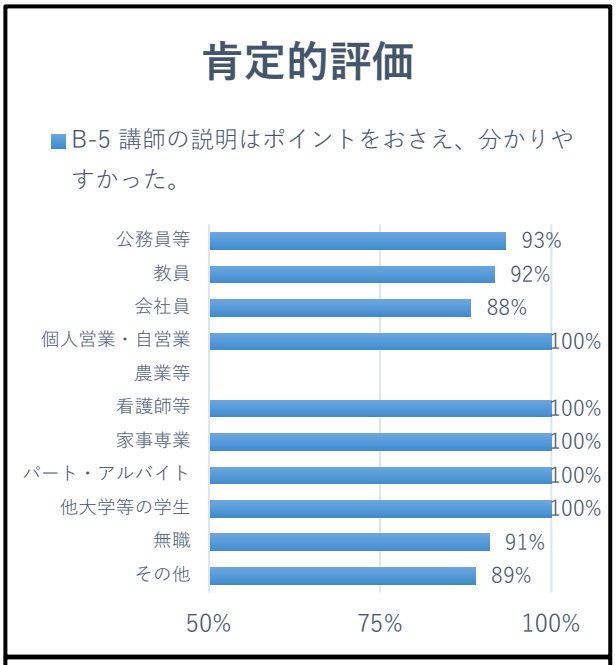
職業別では（次頁図２－７９）、(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、(B-6)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」では「個人営業・自営業」「看護師等」「家事専業」「パート・アルバイト」「他大学生等の学生」で 100％と評価は高かった。

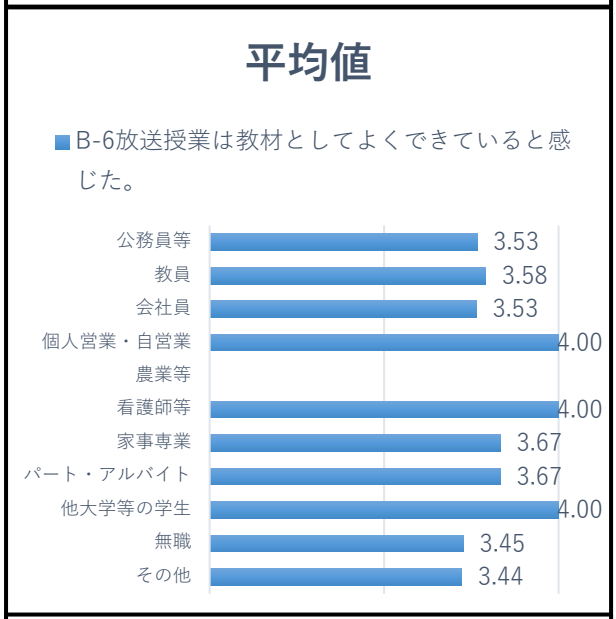
(B-7)「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた/【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」では、「個人営業・自営業」「家事専業」「他大学生等の学生」では評価が高かった。

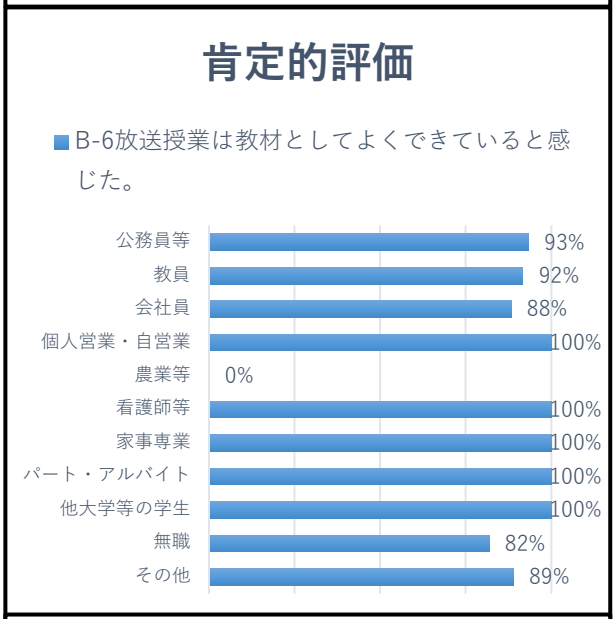
(B-8)「【TV】ロケ映像や資料映像によって、理解が深まった/【R】ロケ音声や資料音声によって、理解が深まった」では、「家事専業」が 67％と極端に低い評価であった。

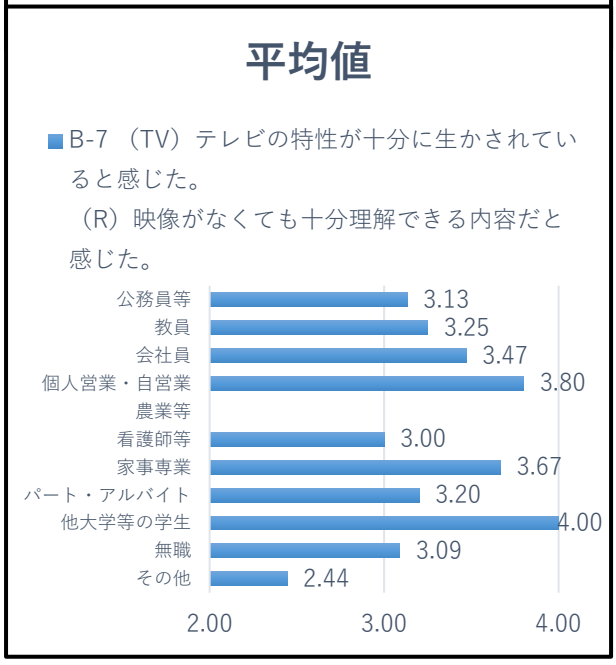
図２－７９【大学院】職業別の放送授業の評価

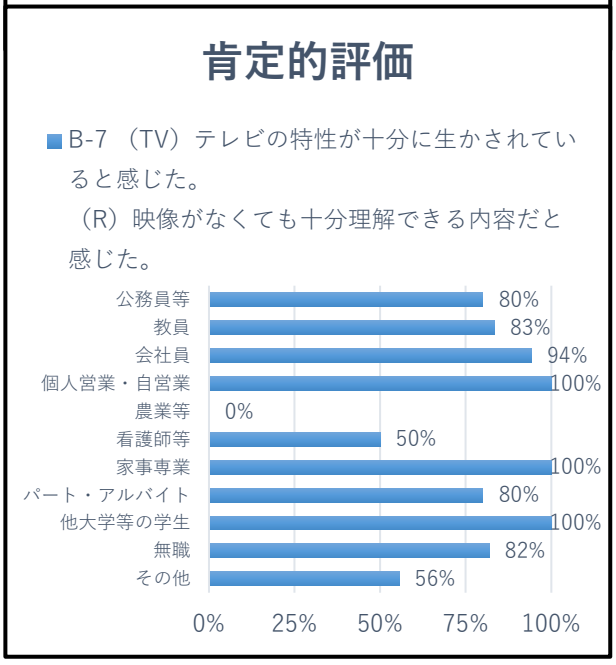


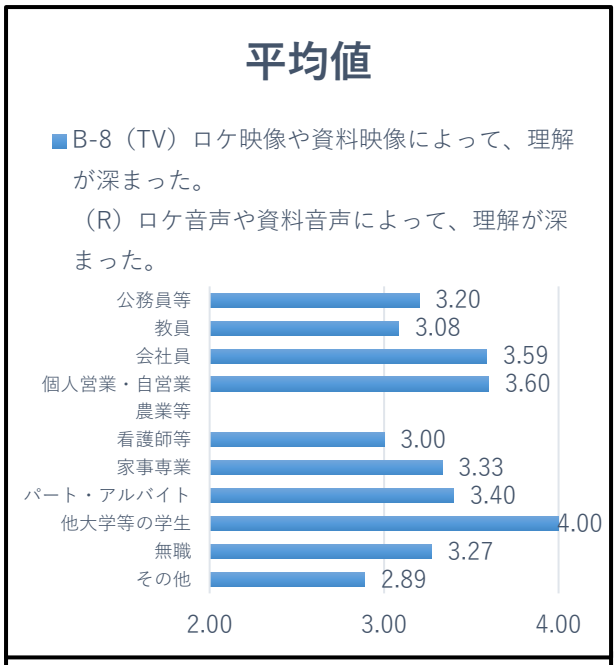


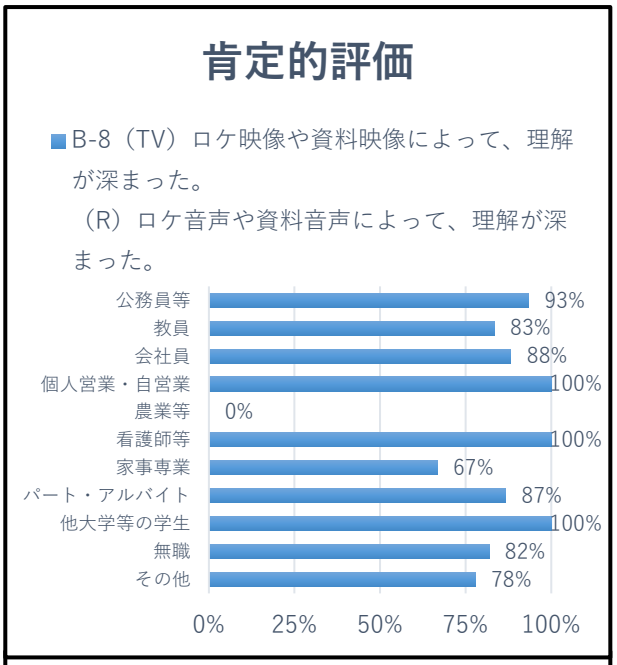


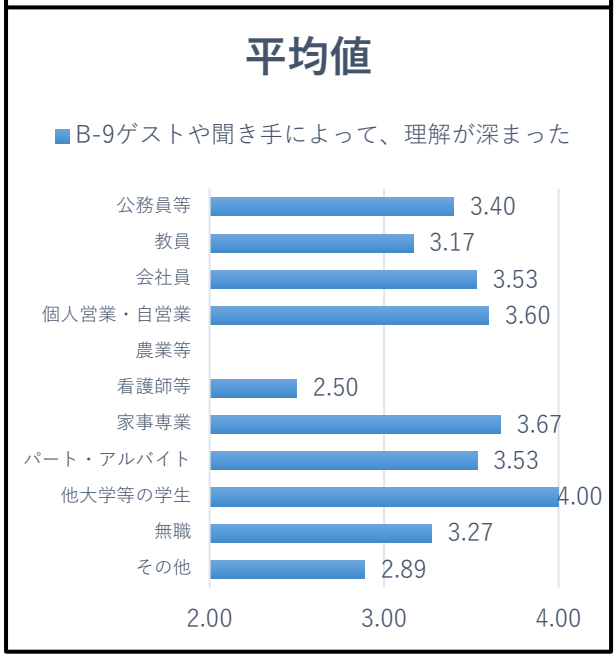


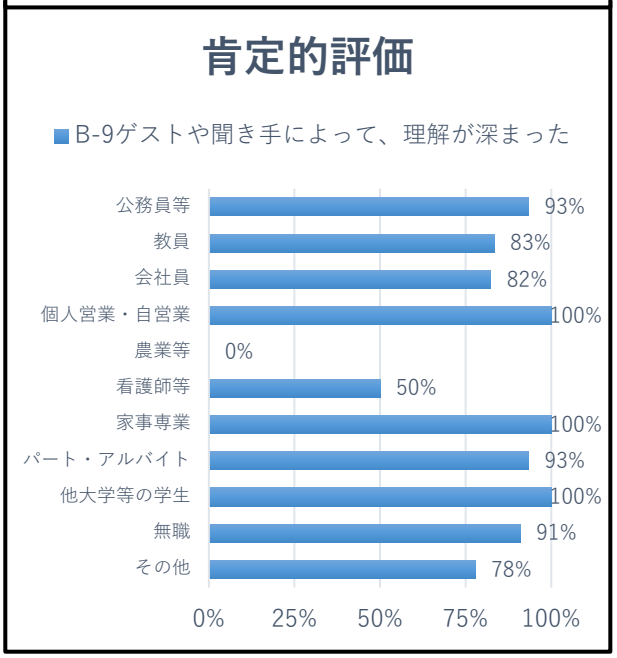





平均値
B-8（TV）ロケ映像や資料映像によって、理解が深まった。
（R）ロケ音声や資料音声によって、理解が深まった。
公務員等 3.20
教員 3.08
会社員 3.59
個人営業・自営業 3.60
農業等
看護師等 3.00
家事専業 3.33
パート・アルバイト 3.40
他大学等の学生 4.00
無職 3.27
その他 2.89
2.00
3.00
4.00


肯定的評価
B-8（TV）ロケ映像や資料映像によって、理解が深まった。
（R）ロケ音声や資料音声によって、理解が深まった。
公務員等 93%
教員 83%
会社員 88%
個人営業・自営業 100%
農業等 0%
看護師等 100%
家事専業 67%
パート・アルバイト 87%
他大学等の学生 100%
無職 82%
その他 78%
0%
25%
50%
75%
100%


平均値
B-9ゲストや聞き手によって、理解が深まった
公務員等 3.40
教員 3.17
会社員 3.53
個人営業・自営業 3.60
農業等
看護師等 2.50
家事専業 3.67
パート・アルバイト 3.53
他大学等の学生 4.00
無職 3.27
その他 2.89
2.00
3.00
4.00

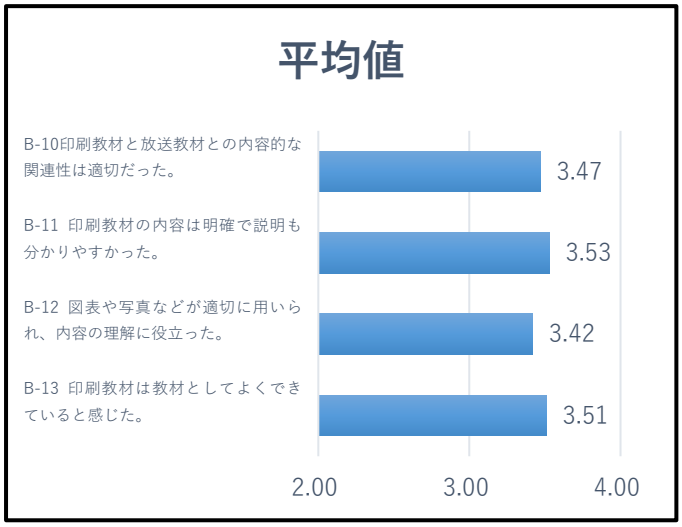

肯定的評価
B-9ゲストや聞き手によって、理解が深まった
公務員等 93%
教員 83%
会社員 82%
個人営業・自営業 100%
農業等 0%
看護師等 50%
家事専業 100%
パート・アルバイト 93%
他大学等の学生 100%
無職 91%
その他 78%
0%
25%
50%
75%
100%

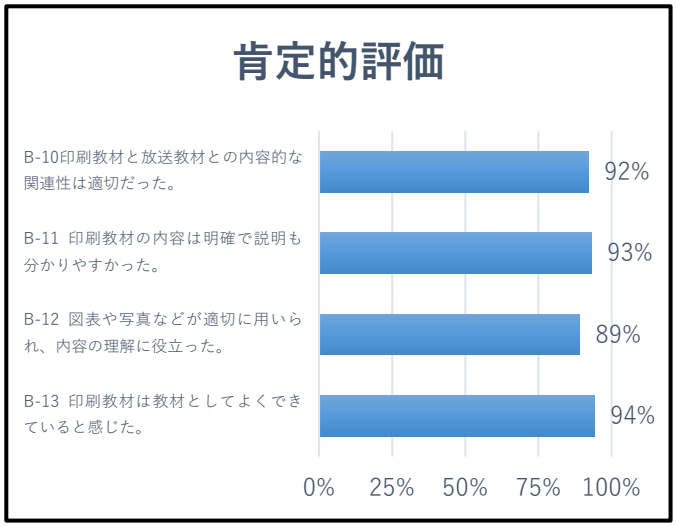
（４）印刷教材

ここからは印刷教材について、評価項目ごとに見ていく。

印刷教材の評価項目では（図２−８０）、(B-13)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」が94%と最も評価が高く、(B-12)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」が 89%と低い評価であった。

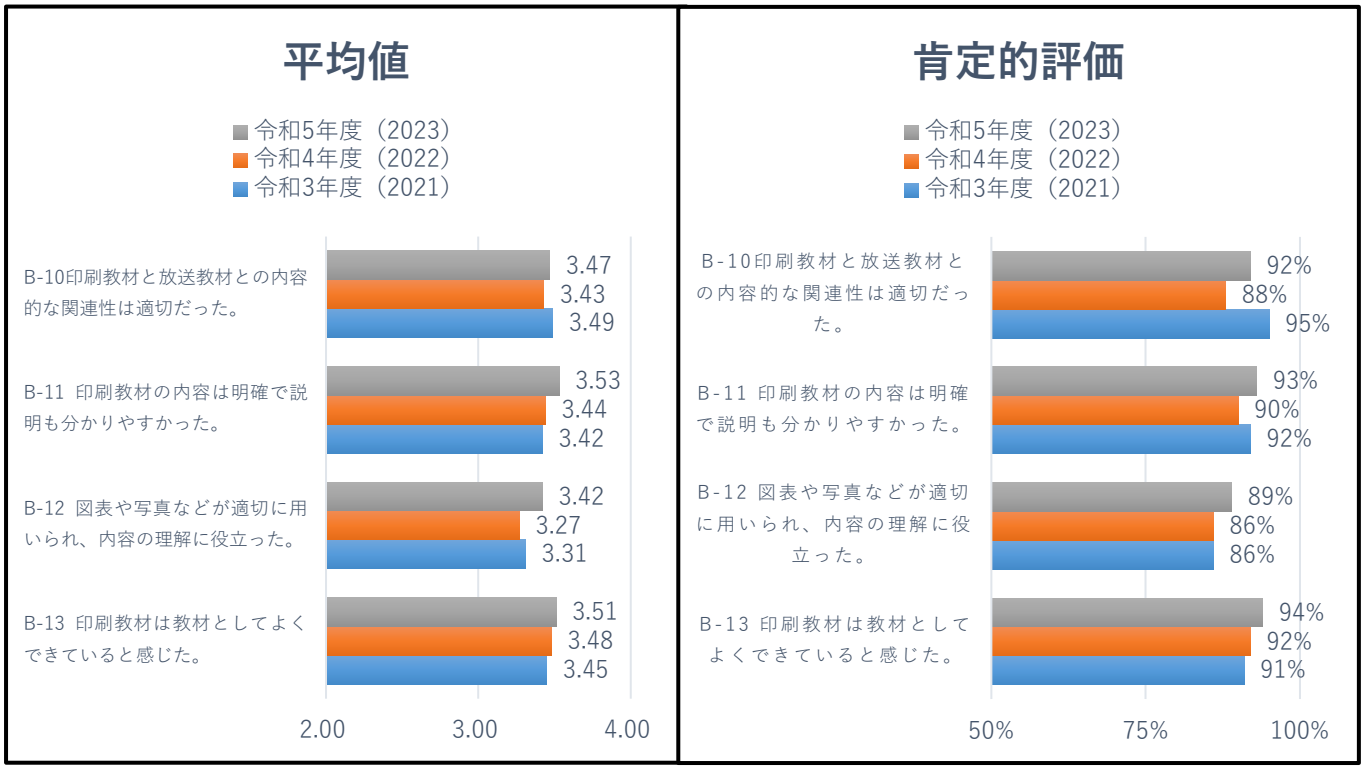
図２－８０【大学院】回答者全体の印刷教材の評価





印刷教材の評価を時系列で見ると（図２−８１）、本年度は昨年度と比べ、すべての項目で概ね評価が大きく上回った。

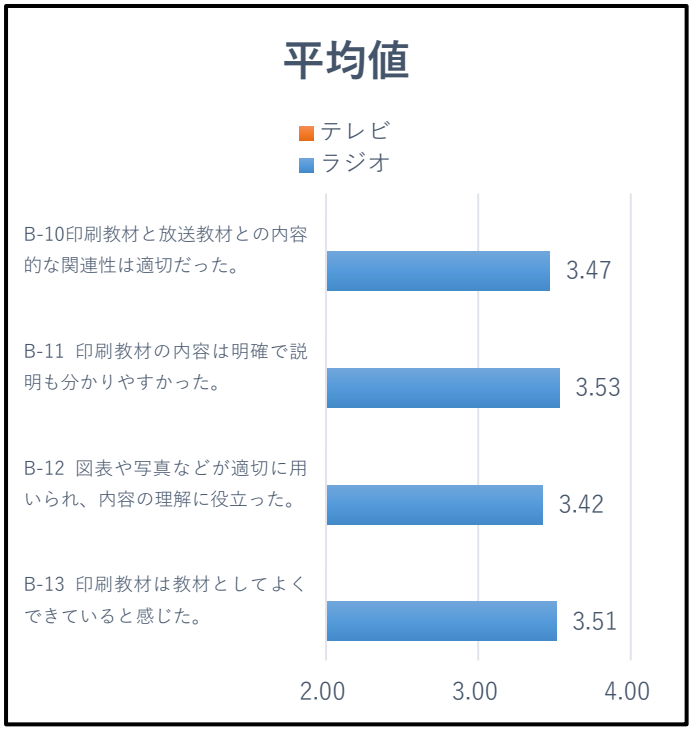
図２－８１【大学院】回答者全体の印刷教材の評価（時系列）

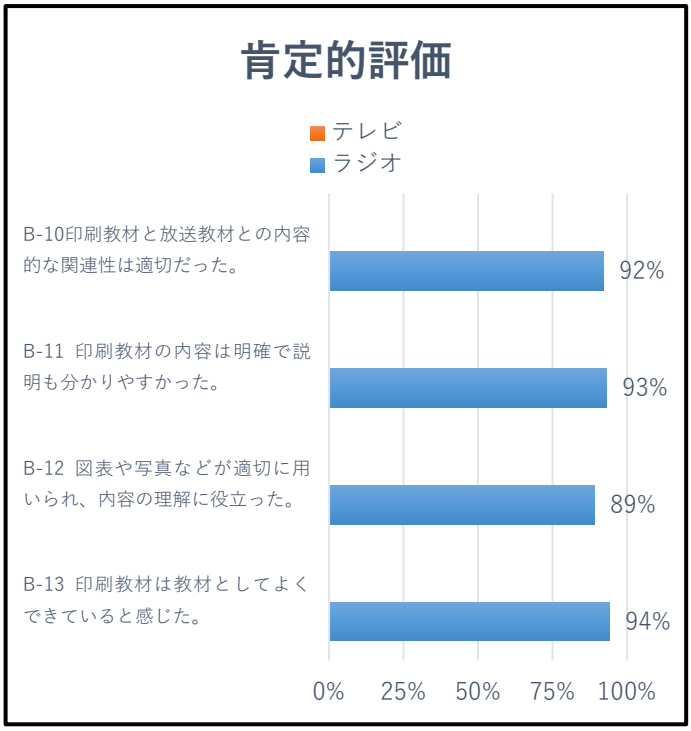


ラジオ科目では、印刷教材の評価を見ると（図２－８２）、(B-11)「印刷教材の内容は明確で説明も分りやすかった」、(B-13)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」は評価が高くなっていた。

図２－８２【大学院】メディア別の印刷教材の評価

※本年度のメディア授業は、ラジオ授業のみとなっています。





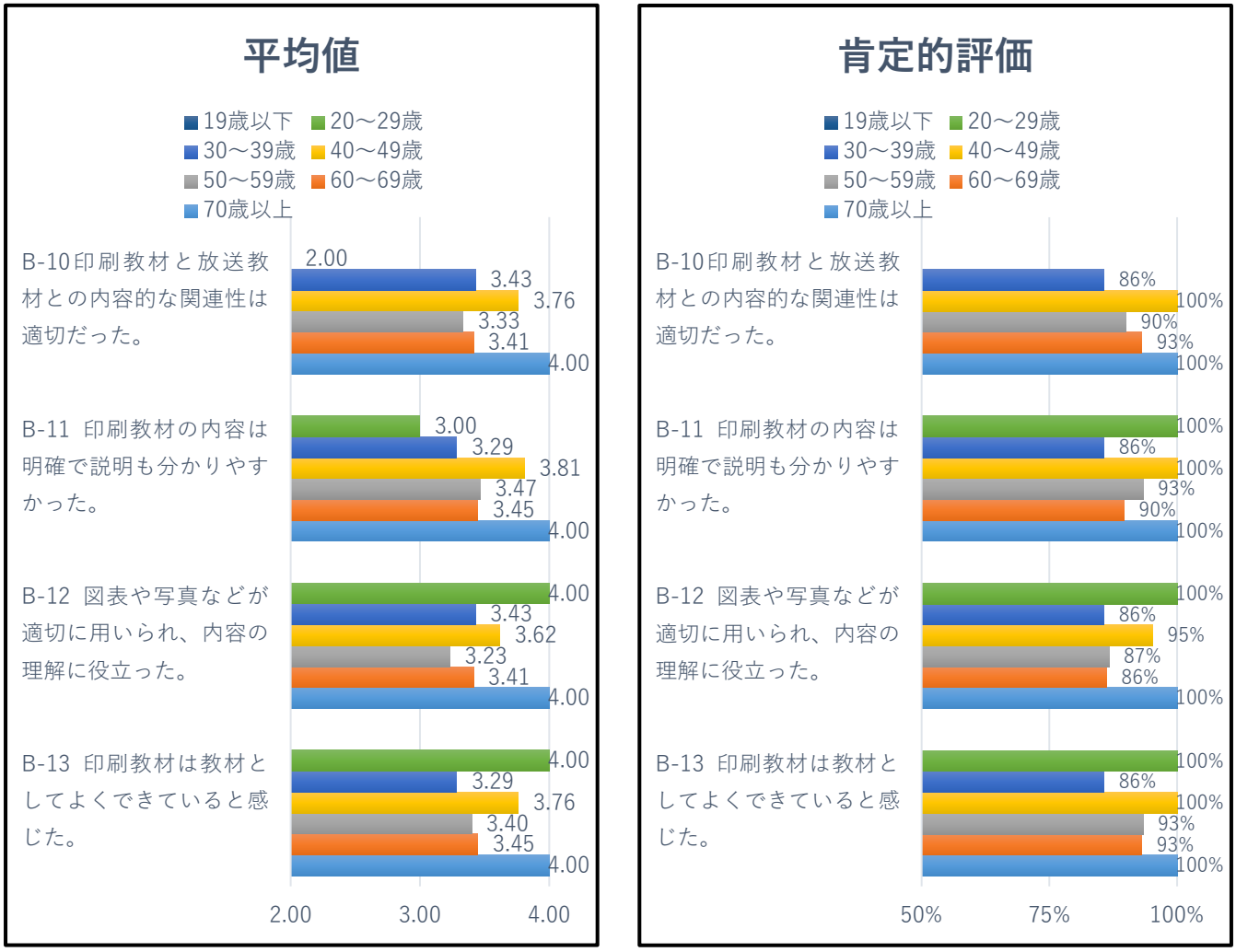
年齢階層別の評価（図２－８３）は、(B-10)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」は、40 歳代と 70 歳以上の評価が 100%と最も高くなっていた。反対に、30 歳代は 86%と評価が低かった。

(B-11)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」は、30 代は 86%と低かった。

(B-12)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」は、30 歳代と 50 歳代、60 歳代の評価が低かった。

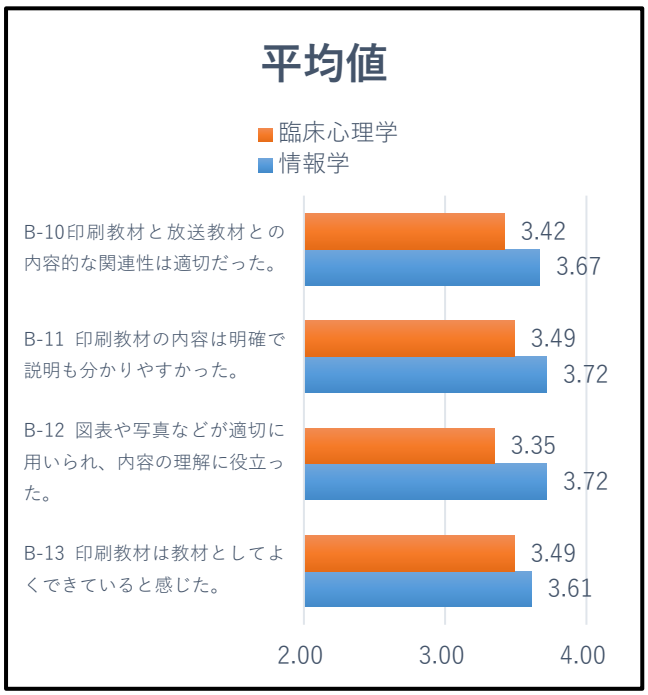
(B-13)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」は、30 歳代が 86%と低い評価であった。

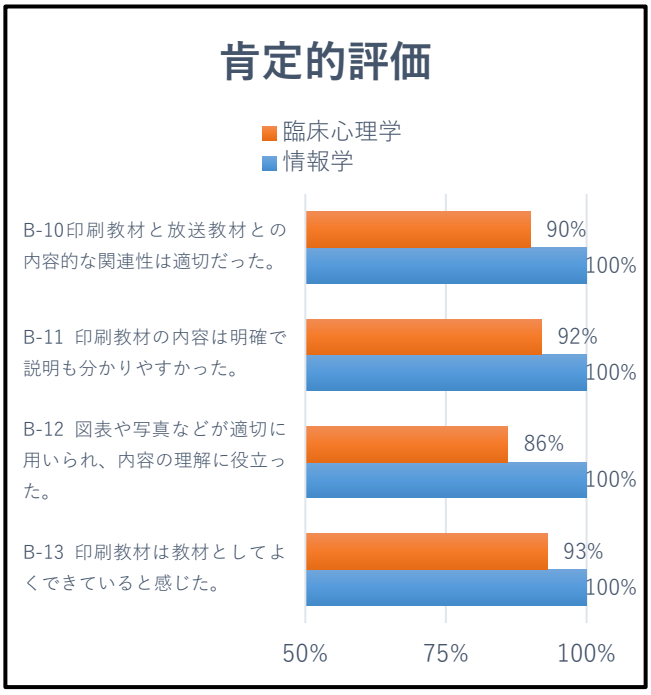
図２－８３【大学院】年齢階層別の印刷教材の評価



所属プログラム別の評価を見ると（図２−８４）、「情報学」は全項目で 100%と非常に高い評価であった、一方、「臨床心理学」はそれより 7〜14pt ほど低い評価で、中でも、(B-12)は最も低い評価であった。

図２－８４【大学院】所属プログラム別の印刷教材の評価



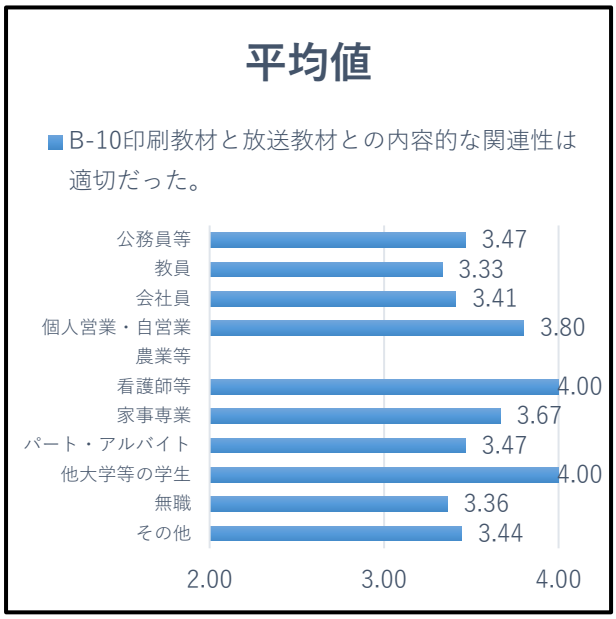


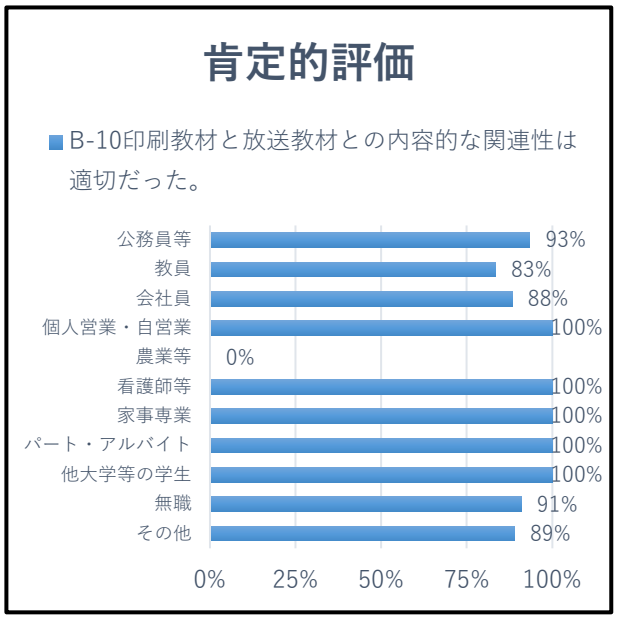
職業別では（次頁図２－８５）、全項目で「個人営業・自営業」「看護師等」「家事専業」「他大学生等の学生」の評価が 100％で評価が高くなっており、「パート・アルバイト」も(B-12)を除いて 100％の高い評価であった。

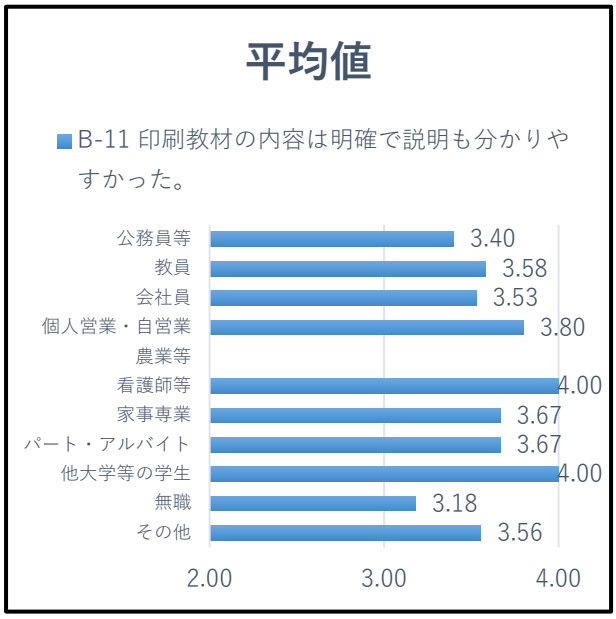
反対に評価が低かったのは、(B-10)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」と(B-12)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」では、「教員」、

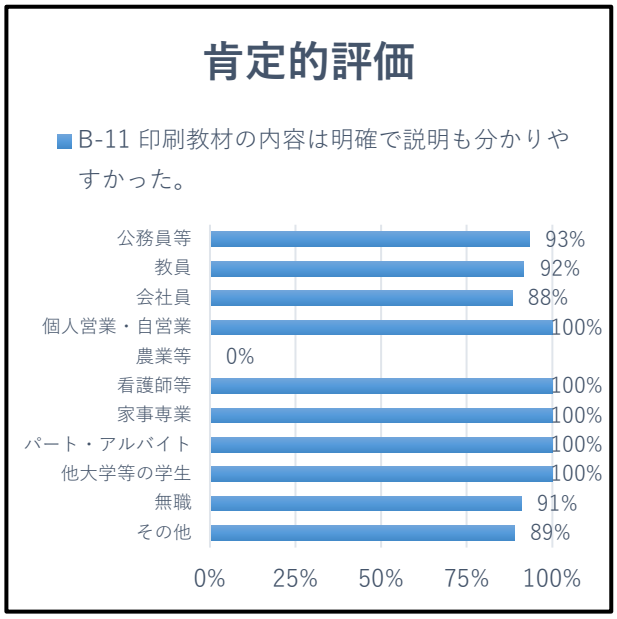
(B-11)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」と(B-13)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」では、「会社員」で、いずれも 80％代であった。

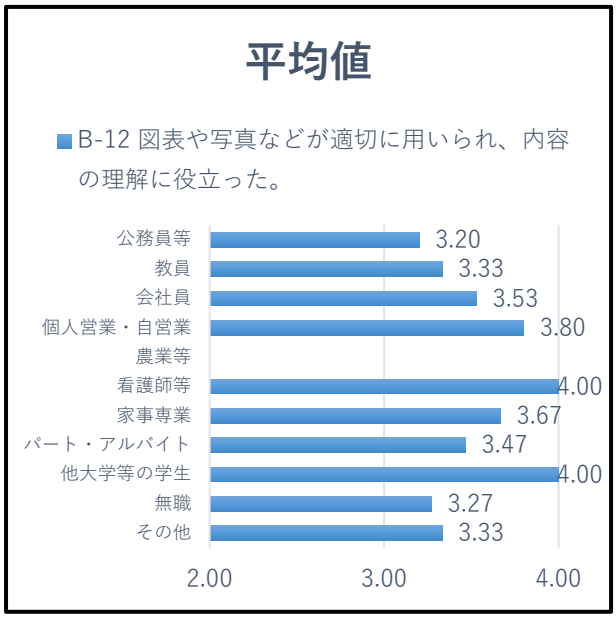
図２－８５【大学院】職業別の印刷教材の評価

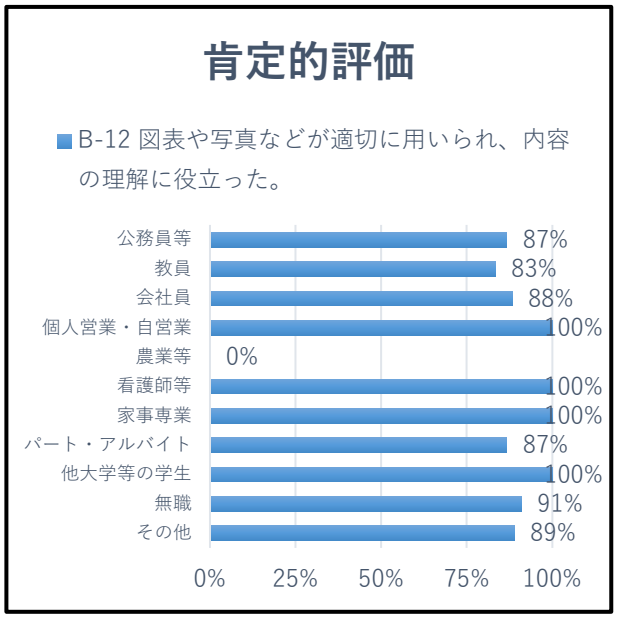


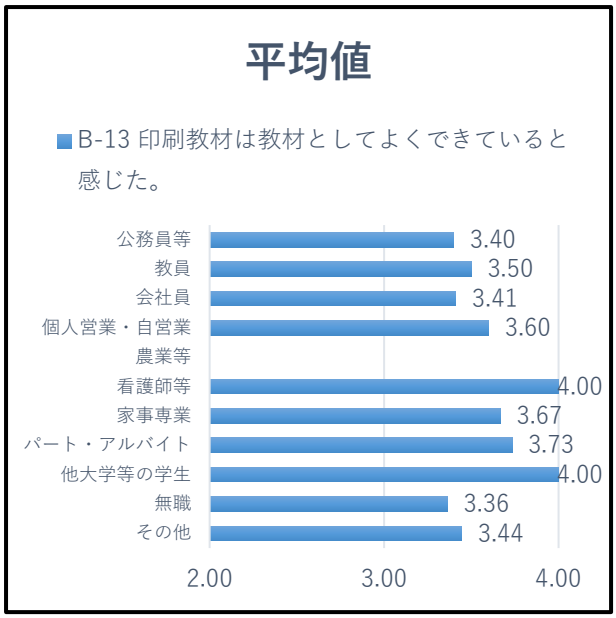


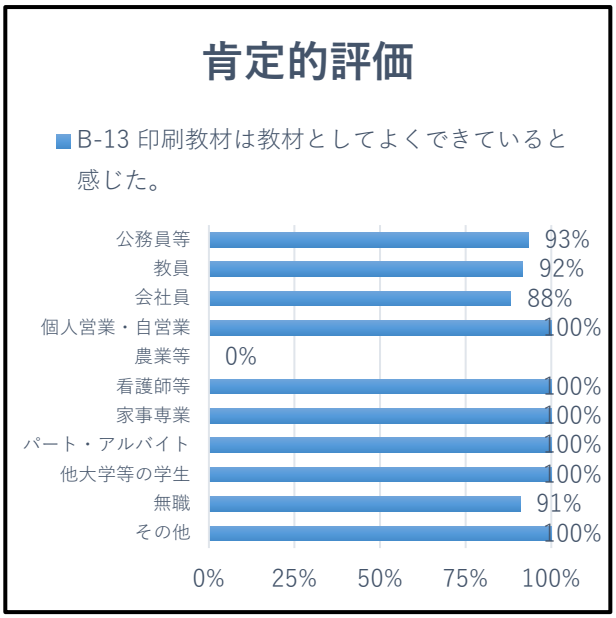









平均値
B-13 印刷教材は教材としてよくできていると感じた。
公務員等 3.40
教員 3.50
会社員 3.41
個人営業・自営業 3.60
農業等
看護師等 4.00
家事専業 3.67
パート・アルバイト 3.73
他大学等の学生 4.00
無職 3.36
その他 3.44
2.00
3.00
4.00

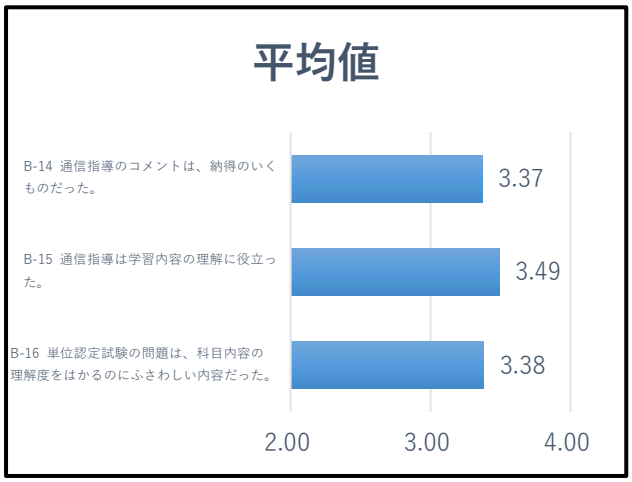

肯定的評価
B-13 印刷教材は教材としてよくできていると感じた。
公務員等 93%
教員 92%
会社員 88%
個人営業・自営業 100%
農業等 0%
看護師等 100%
家事専業 100%
パート・アルバイト 100%
他大学等の学生 100%
無職 91%
その他 100%
0%
25%
50%
75%
100%

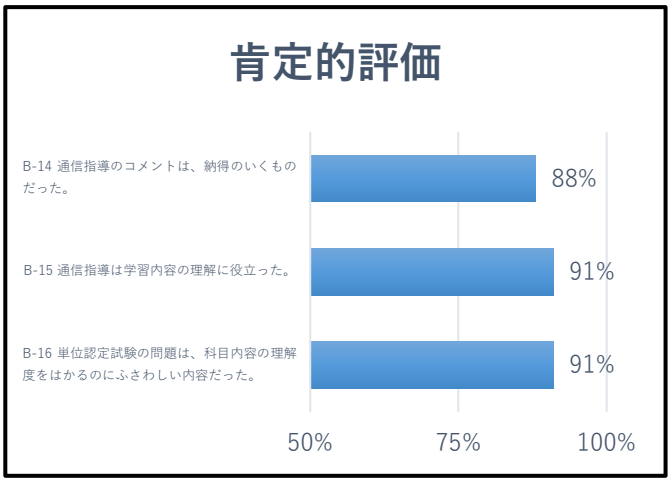
（５）通信指導・単位認定試験

最後に通信指導・単位認定試験の評価について項目ごとに見ていくことにする。

（図２－８６）の通信指導については、(B-16)「単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった」と(B-15)「通信指導は学習内容の理解に役立った」はそれぞれ 91%であった。(B-14)「通信指導のコメントは、納得のいくものだった」は、88%であった。

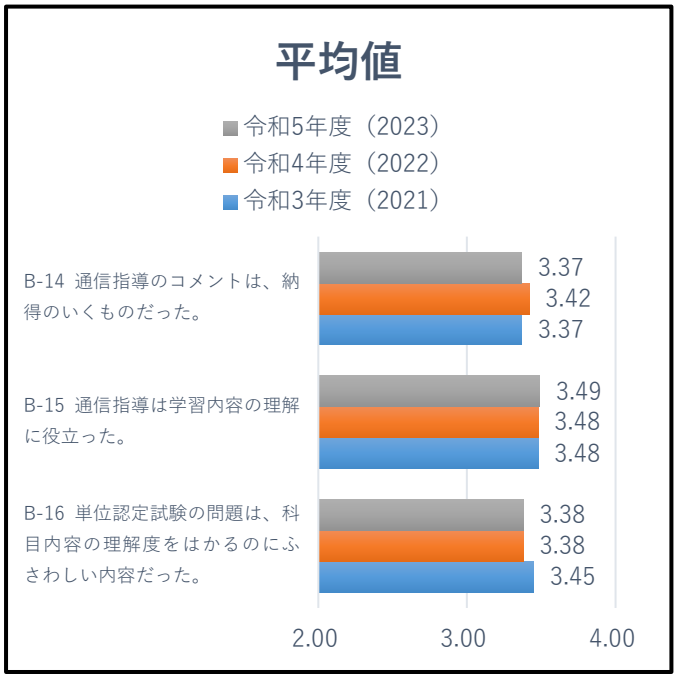
図２－８６【大学院】回答者全体の通信指導・単位認定試験の評価

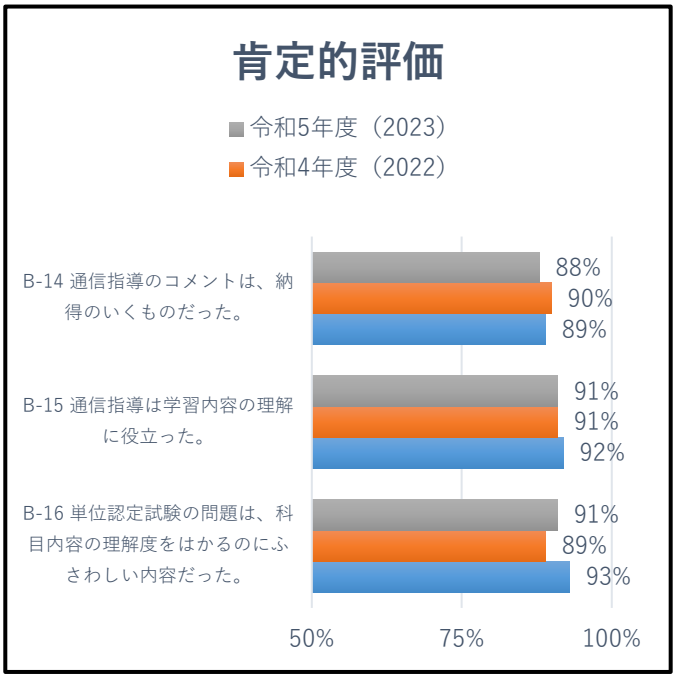




通信指導・単位認定試験の評価を時系列で見ると（図２－８７）、(B-15)「通信指導は学習内容の理解に役立った」、(B-16)「単位認定試験の問題は科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった」はそれぞれ 91%で、全体では概ね昨年と同評価であった。

図２－８７【大学院】回答者全体の通信指導・単位認定試験の評価（時系列）

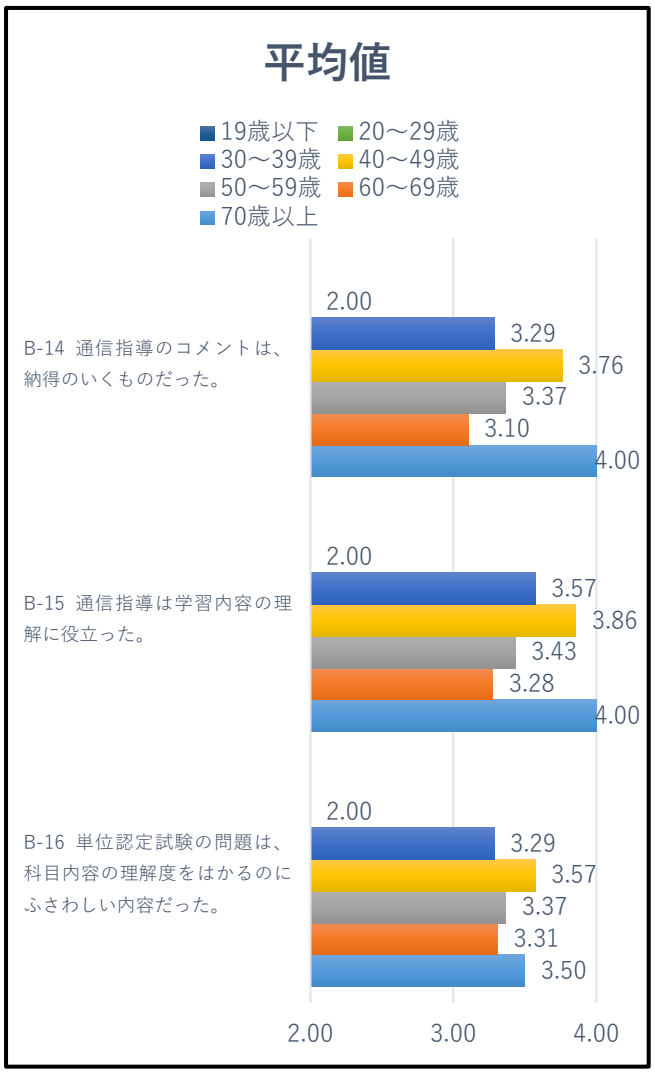


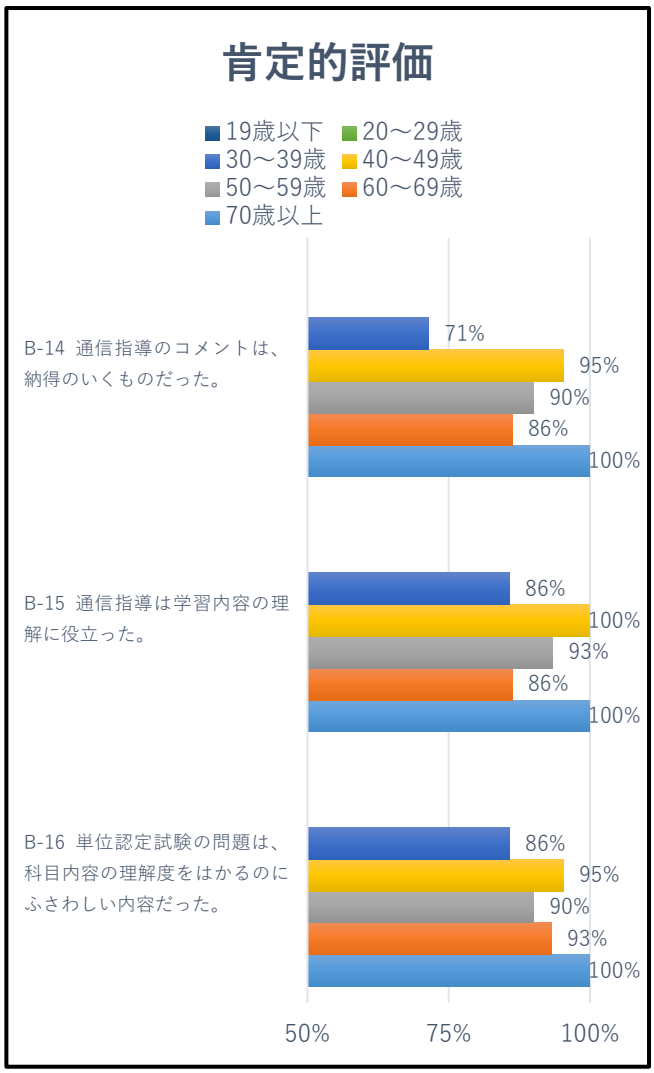


年齢階層別の評価（図２−８８）では、全項目で 70 歳以上の評価が最も高かった。反対に、すべての項目で最も低評価なのは、30 歳代であった。

（B-15）「通信指導は学習内容の理解に役立った」では、60 歳代の評価も 86%と低かった。

図２－８８【大学院】年齢階層別の通信指導・単位認定試験の評価

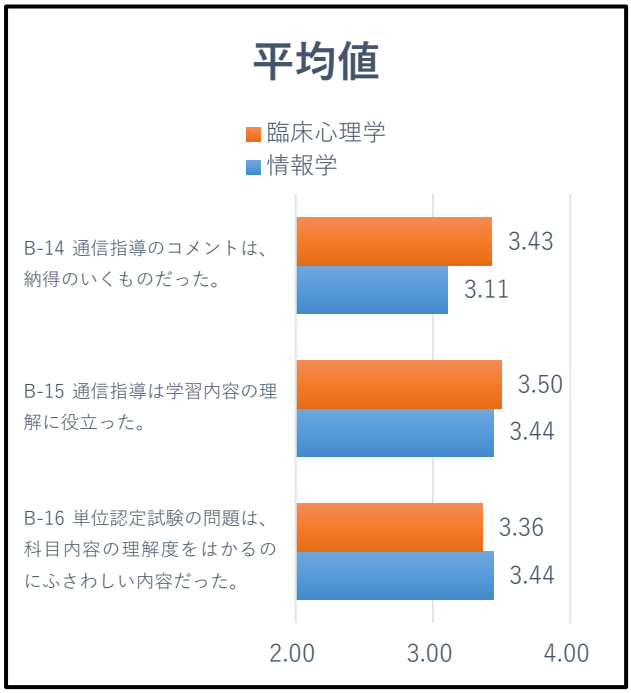


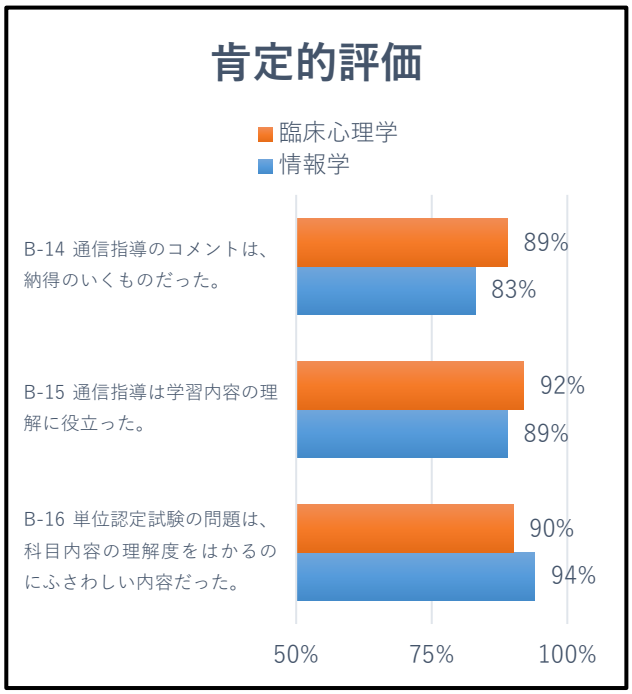


所属プログラム別では（図２−８９）、(B-14)「通信指導のコメントは、納得のいくものだった」と(B-15)「通信指導は学習内容の理解に役立った」は、「臨床心理学」の評価が 89〜92%と高く情報学を上回った。

(B-16)「単位認定試験の問題は科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった」は、「情報学」94%で高い評価であった。

図２－８９【大学院】所属プログラム別の通信指導・単位認定試験の評価

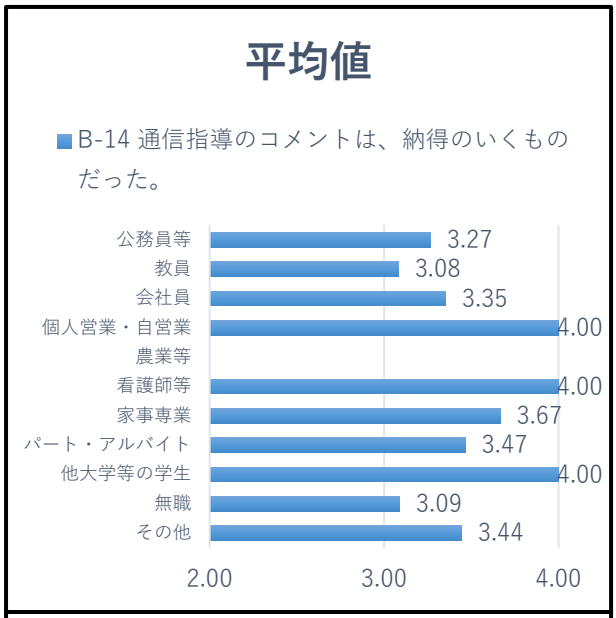


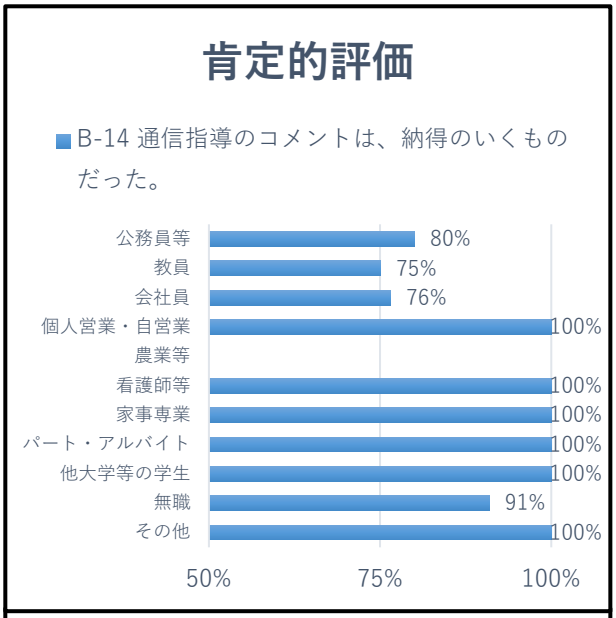


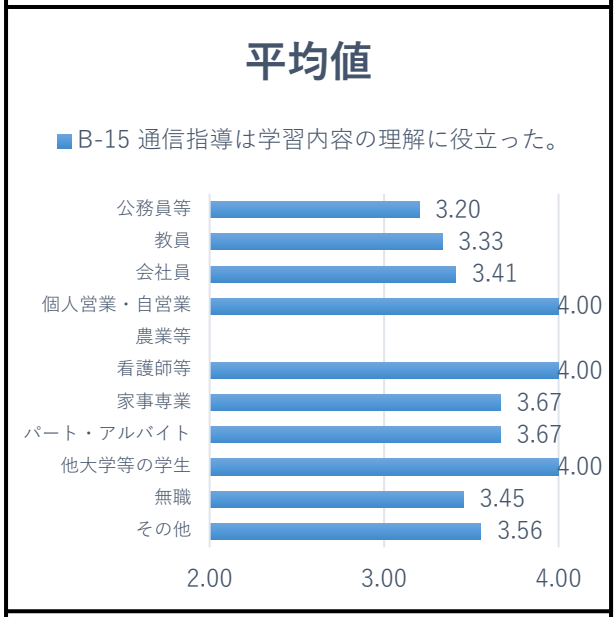
職業別では（次頁図２－９０）、全項目で「個人営業・自営業」「看護師等」「家事専業」「パート・アルバイト」「他大学生等の学生」「その他」の評価が 100％で高い評価になっていた。

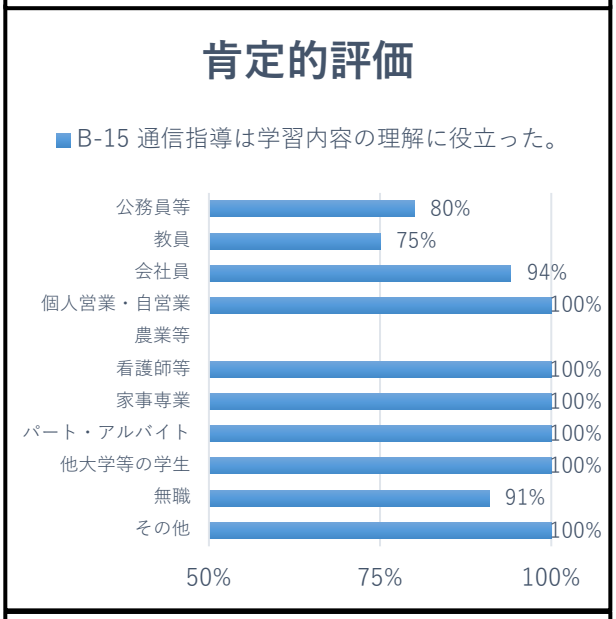
反対に評価が低かったのは、(B-14)で「教員」「会社員」が 75％～76％、(B-15)で「公務員等」（80％）、「教員」（75％）、(B-16)で、「会社員」（82％）と評価が低かった。

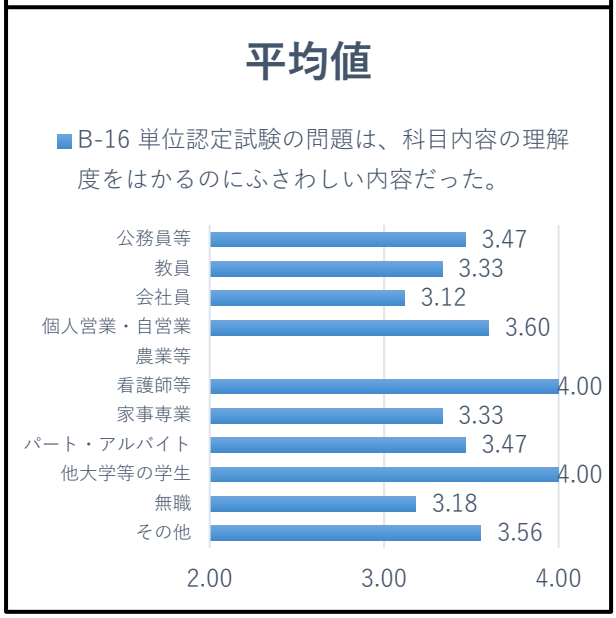
図２－９０【大学院】職業別の通信指導・単位認定試験の評価

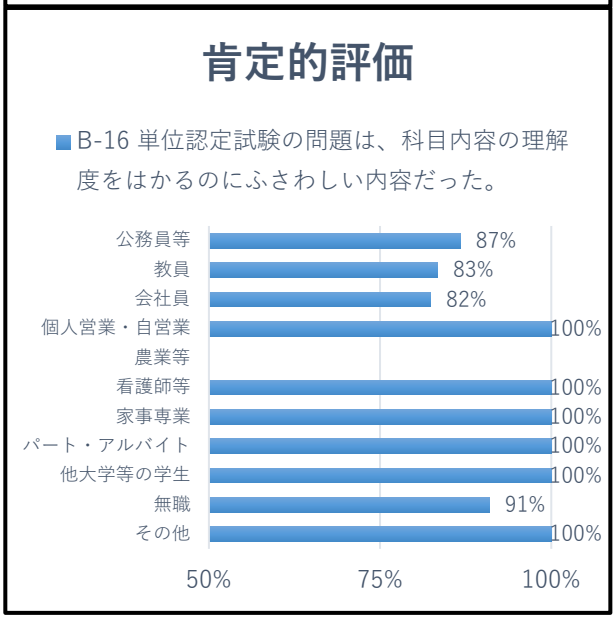












Ⅱ－2－4．大学院の重回帰分析

大学院でも学部同様、重回帰分析を試みた。

重回帰分析とは、数量データである目的変数と説明変数の関係を調べ、重回帰式（モデル式）を導き出す解析手法である。

今回も、全体の満足度（B-21）「この科目の内容には全体として満足している」を目的変数とし、調査票Ⅰ.A「授業への取り組み姿勢」を除く B-1～B-20 の各項目を説明変数として分析を試みる。

本調査の選択肢はカテゴリーデータであるが、平均値の算出と同様『あてはまる→４』のように数値をポイント化する事で数量として扱い、重回帰分析を適用する。

最終的には「全体の満足度」に寄与する項目を明らかにすると共に、その影響力の強さを知る事を目的としている

項目名	変数	対象
目的変数	y	全体の満足度：B-21
説明変数	x1x2、・・・	各項目B-1～B-20：全20問（項目）
係数	a1a2、・・・	重回帰分析によって得られる偏回帰係数

重回帰式 y =a0＋a1x1＋a2x2＋・・・＋a20x20（説明変数が全20問の場合）

サンプルサイズが十分でない場合や説明変数が多すぎると、全体の満足度を表すのに適した重回帰式を得られない事が経験的に分かっているため、重回帰分析の中で、説明

変数間で強い相関関係がある場合、その一方の項目を自動的に削除する「変数減少法」を用いて解析を行った。

使用したデータは質問項目Ⅰ.B の全設問を全て回答した 90 人のローデータを使用した。その結果は以下の通りとなった。

■　分析精度

自由度修正済み決定係数とは、得られた重回帰式が目的変数に対してどれだけ説明力(寄与度)があるかを示す指標で、「1」に近いほど良い結果で、この分析では 0.802 となった。

ダーヴィンワトソン比とは、残差同士の系列相関（自己相関）を示す指標で 0～4 までの値を示し、1 以下や 3 以上だと残差（誤差）に規則性があり、解析自体あるいはデータ自体に問題があり、「2」近辺の値ならよいとされるもので、その値は 2.096 となった。以上の結果から、問題のない結果が得られた事が示されている。

◆分析精度

決定係数	0.802
自由度修正済み決定係数	0.790
ダーヴィンワトソン比	2.096
誤差の標準偏差	0.282

今回の重回帰分析は、分散分析表が示すとおり、有意水準 0.01 の判定で、かなりの精度で式の当てはまりの良さが確認できた。（有意水準とは危険率と同義で 0.01 の場合、判定を誤る確率が 1%である事を表している。）

◆分散分析表

変動	偏差平方和	自由度	不偏分散	分散比	p値	判定
全体変動	33.956	90				
回帰による変動	28.014	13	2.15	27.925	0.000	[**]
回帰からの残差変動	5.942	77	0.0772			

凡例	有意水準	凡例	有意水準
[**]	0.01	[*]	0.05

下表にある標準偏回帰係数とは説明変数の相互比較を可能にするためのもので、

各説明変数の目的変数に対する影響力の度合いがこれで分かる。

その結果から「全体の満足度(B-21)」に寄与する項目で、その寄与度が最も高かったのは、B-11「印刷教材の内容は明確で説明もわかりやすかった」で 0.353、次いで B-18「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」（0.343)、他に B-13「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」（0.213）と続いていた。

説明変数の影響力の度合いを比較するために、表中の標準偏回帰係数の中で最も小さい B-4（-0.145）を基準に、他の項目がその何倍となるか算出してみた。（表中の右端の数値）その結果、高い順に B-11：2.43 倍、B-18：2.37 倍、B-13：1.47 倍となった。

この結果を踏まえ、今後、「全体の満足度」　　（本年度の肯定的評価　91%）を上げるためには、

上位 3 項目、「B-11 印刷教材の内容は明確で説明もわかりやすかった」、「B-18 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」、「B-13 印刷教材は教材としてよくできていると感じた」、この 3 項目の肯定的評価を上げる事が、効果的であると考えられる。

この 3 項目の肯定的評価について見ると、B-11：93%、B-18：93%、B-13：94%で、それぞれの肯定的評価を上げる余地は、まだ残っていると思われる。

目的変数	標準偏回帰係数	説明変数	判定	B-7との対比
B-21全体の満足度	0.353	B-11印刷教材の内容は明確で説明もわかりやすかった	[**]	2.43
	0.343	B-18学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった	[**]	2.37
	0.213	B-13印刷教材は教材としてよくできていると感じた	[**]	1.47
	0.148	B-2放送授業の内容は適切な分量であった	[**]	1.02
	-0.145	B-4印刷教材の内容は適切な分量であった	[**]	1.00
		定数項	[**]	